平北田遺跡

一般国道468号首都圈中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調查報告書

平成 23 年 3 月

国土交通省常総国道事務所財団法人茨城県教育財団

平北田遺跡

一般国道468号首都圈中央連絡自動車道新設事業地內埋蔵文化財調查報告書

平成23年3月

国土交通省常総国道事務所財団法人茨城県教育財団



遺跡全景(西側から)



第29号住居跡出土遺物

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性 を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基 盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めています。

その一環として国土交通省が整備する首都圏中央連絡自動車道は、 首都高中央環状線などと一体となって、首都圏の骨格となる3環状9 放射の道路ネットワークを形成し、東京都心部への交通の適切な分散 導入と首都圏全体の道路交通の円滑化、首都圏の機能の再編成を図る 上で極めて重要な役割を果たすものです。しかしながら、この事業予 定地内には平北田遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要がある ため、当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文 化財発掘調査の委託を受け、平成21年10月から平成22年3月まで の6か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、平北田遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者 である国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を 賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育 委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指 導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成23年3月

財団法人茨城県教育財団理事長稲葉節生

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成21年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市平字北田143番地ほかに所在する平北田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成 21 年10月 1 日~平成 22 年 3 月 31 日

整理 平成22年8月1日~平成23年3月31日

3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長 成島一也

主任調査員 市村俊英

主任調査員 齊藤和浩 平成22年2月1日~3月31日

主任調査員 舟橋 理

調 査 員 江原美奈子 平成22年2月1日~3月31日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長樫村宣行のもと、舟橋 理が担当した。

凡

1 当遺跡の地区設定は,日本平面直角座標第IX系座標に準拠し, X = + 6,360 m, Y = + 21,200 mの交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3… とし、「A1区」「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1 al 区」「B2 b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P-ピット PG-ピット群 SA-柵跡 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡SE-井戸跡 SF-道路跡 SI-竪穴住居跡 SK-土坑 SX-不明遺構

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 N - 自然遺物 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器 W - 木製品

土層 K-撹乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。
 - (1) 遺構全体図は600分の1,各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
 - (2) 遺物実測図は、原則として 3分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
 - (3)遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	黒 焼土・赤	ド彩・施釉		炉・火床面	
	電部材	・粘土範囲・黒色処	理	柱痕跡・柱あたり・泊	抽煙
●土器	○土製品	□石器・石製品	△金属製品	硬化面	

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式 会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。
- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。
 - (1) 現存値は () を, 推定値は [] を付して示した。計測値の単位はm, cm, kg, gで示した。
 - (2)遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
 - (3)遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。
- 6 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 $N-10^\circ-E$)。

目 次

序	
例 言	
凡例	
目 次	
平北田遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
第1節 遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
1 旧石器時代の遺構と遺物	
石器集中地点	
2 古墳時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(1) 竪穴住居跡	
(2) 鍛冶工房跡	123
(3) 柵跡	
(4) 土坑 ······	126
(5) 不明遺構	133
3 平安時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	137
竪穴住居跡	
4 中世の遺構と遺物	140
(1) 土坑 ·····	
(2) 溝跡	
5 その他の遺構と遺物	
(1) 掘立柱建物跡	
(2) 井戸跡	
(3) 道路跡	
(4) 柵跡	
(5) 土坑	
(6) 溝跡	
(7) ピット群	
(8) 埋没谷	
(9) 遺構外出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

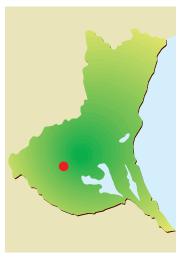
第4節	まとめ	164
写真図版		
抄 録		

平北田遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

平北田遺跡は、つくば市南西部(旧谷田部町域)の東谷田川と はまかま 蓮沼川が合流する地点の東側、標高約12~15 mの台地の緩やか な斜面部に位置しています。周辺には、茨城県を代表する遺跡で ある島名熊の山遺跡や島名前野東遺跡などが広がっています。

今回の調査は、新しい自動車道(圏央道)の建設事業予定地内に平北田遺跡が存在するので、工事の前に遺跡の内容を記録して保存するために、茨城県教育財団が平成21年10月から平成22年3月までの半年間にわたって行ったものです。





遺跡全景(南側から)

古墳時代の暮らし

今回の調査では、主に古墳時代後期 $(1,400 \sim 1,500$ 年前)の集落跡の調査を行いました。 当時の人々が使っていた大量の土器などが、当時の形のまま出土しました。また、出土した甕の中から炭化した米が出土しました。当時の人々が米を栽培し、食べていたことがわかります。

住居跡の中からは、マツリで使用したと思われる土玉や勾玉なども出土しました。現代のように科学が進歩していなかった時代に、様々な思いや願いを胸にして、人々はいろいろなマツリを行っていたのでしょう。



1辺が9m以上(約51畳)もある大形の住居跡です。室内を区切る間仕切り溝があったり、マツリの道具が出土するなど、集落の中心人物が住んでいたと推測できます。また、詳しい調査の結果、この住居跡は住居の規模を広げた痕も確認できました。

発掘調査のスタッフが、調査を進めているところです。竈のそばから、大形の甕や坏、甑などがほぼ当時の形のまま出土しました。さらに大量の炭化材が出土したことで、この住居跡は火災にあったことが分かりました。発掘調査を進めると、当時の人々の生活がよみがえってきます。





当時の人々は、土師器や須恵器などを生活の 道具として使用していました。これらの土器は、 その中でも手捏土器やミニチュア土器と呼ばれ ているもので、マツリの時に使用したものと考えら れています。当遺跡では、このようなマツリのた めの土器類や土製の勾玉などが数多く出土しまし た。

調査の成果

調査の結果,竪穴住居跡 29 軒,鍛冶工房跡1基などを確認し,古墳時代後期を中心に営まれた集落であることが分かりました。特に6世紀の終わり頃(1,450 年前)には一気に住居の数が増え,多くの人々が生活を営んでいたことが判明しました。また,銅製の鏡をまねて作った,まだ発見例の少ない貴重な土製模造鏡も出土しました。

今までの調査で、古墳時代のこの地域には数多くの集落があったことが分かっています。当時の人々は、周辺の集落と交流などを行いながら豊かな自然の中で生活していたのでしょう。

第1章 調 查 経 緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は、つくば市において一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業を進めている。

平成17年9月27日, 国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は, 茨城県教育委員会教育長に対して, 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は, 平成17年10月7日に現地踏査を, 平成20年2月28日, 6月6・25日, 7月2日, 10月10日に試掘調査を実施し, 平北田遺跡の所在を確認した。

平成20年10月21日, 茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに, 事業地内に平北田遺跡が所在すること, 及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成 21 年 1 月 29 日, 国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は, 茨城県教育委員会教育長に対して, 文化財保護法第 94 条の規定に基づき, 土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成 21 年 2 月 12 日, 茨城県教育委員会教育長は現況保存が困難であることから, 記録保存のための発掘調査が必要であると決定し, 国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに, 工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成21年3月4日,国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成21年3月16日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、平北田遺跡について発掘調査の範囲及び面積について回答し、あわせて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成21年10月1日から平成22年3月31日まで発掘調査を実施することになった。

第2節調 香 経 過

平北田遺跡の調査経過については、その概要を表で記載する。

月		平成21年			平成22年	
工程	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認						
遺構調査						
遺物洗浄 注 記 写真整理						
補足調査 撤 収						

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

平北田遺跡は、つくば市平字北田143番地ほかに所在している。

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、北部に八溝山系の筑波山とそれにつながる丘陵部が広がり、他の市域のほとんどは常総台地上にある。当遺跡が立地するつくば市谷田部地区は、常総台地の一部である平坦な標高約20~25mの筑波・稲敷台地に広がっている。筑波・稲敷台地は、東部が霞ヶ浦に流入している桜川、西部が利根川に合流している小貝川に区切られている。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川が南流しており、台地の縁辺部は樹枝状に開析され、谷津や低地が細長く形成されている。

台地の地質は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤とし、その上に斜交層理の顕著な砂層・砂礫層の竜ヶ崎層、さらに泥質粘土層である常総粘土層、関東ローム層、腐食土層の順に堆積している¹⁾²⁾。

当遺跡は、つくば市の南西部旧谷田部町域の、蓮沼川左岸の蓮沼川と東谷田川が合流する東岸の台地上に位置し、低地部から 4 mほど緩やかに立ち上がった標高約 $12\sim15$ mの緩斜面部に立地している。当遺跡が立地している台地は、東谷田川と小野川に挟まれた幅約 $2\sim4$ kmの南北に延びた台地で、当遺跡はその台地が蓮沼川によって開析された低地に面している。調査前の現況は、山林及び畑地である。

第2節 歷史的環境

ここでは、当遺跡が存在する筑波・稲敷台地や東谷田川とその支流の蓮沼川流域の、古墳時代から平安時代 にかけての遺跡を中心に記述する。

縄文時代には、東谷田川対岸の島名境松遺跡〈16〉では中期(阿玉台 I b 式期)から後期(加曽利 E I V 式期)の住居跡 37 軒,土器焼成遺構 1 基,フラスコ状土坑 5 基などが確認されている 3 。また,島名前野 東 遺跡〈19〉では中期の住居跡や陥し穴などが確認されており,西谷田川と東谷田川に挟まれた台地上に集落が確認されている。

弥生時代の遺跡は、当遺跡から南へ約 5.8kmに位置する 境 松貝塚などが挙げられるが、つくば市内での遺跡数は少ない。

古墳時代になると遺跡数が急増し、前期では島名熊の山遺跡〈22〉・島名前野遺跡〈8〉・島名一町田遺跡〈18〉・島名前野東遺跡などが挙げられる。これらの遺跡は台地の縁辺部に位置しており、東谷田川や蓮沼川の水利の恵みを受けて生活をしていたと考えられる。

中期になると、前記以外に島名八幡前遺跡〈20〉や島名関ノ台遺跡〈34〉、真瀬三度山遺跡〈48〉など遺跡数も増加し、集落規模も拡大している。これは、前期と比べ鉄器の普及による水田開発が進み、居住域が拡大した結果と考えられる。真瀬三度山遺跡からは、中期の住居跡7軒が確認されている。臼玉や勾玉などの遺物が多数出土していることから、何らかの祭祀行為が行われていた可能性がある⁴。島名八幡前遺跡でも同様の様相がみられる⁵。

後期になると、集落の盛衰が顕著になり、島名熊の山遺跡、島名前野東遺跡が継続しているのに対し、島名

前野遺跡では集落の規模が縮小している。また、島名八幡前遺跡では6世紀前半に集落が一度断絶し、6世紀後半になって居住が再開されている。この時期になり新たに集落が形成されるのは、当遺跡と島名境松遺跡である⁶⁾。島名熊の山遺跡では過去の調査によって、前期から中期にかけて台地縁辺部に集落が出現したあと、6世紀後半になると急速に台地全体に広がり、一挙に規模が拡大していることが分かった。これらのことから、島名熊の山遺跡は島名前野遺跡や島名前野東遺跡とともに、互いの増減を補完し合う形を取り合い、その過程のなかで6世紀後半には地域の拠点的な集落としての地位を確立したものと考えられる。当遺跡は、拠点的な集落であった島名熊の山遺跡との関連・交流の中で集落が形成されていったものと考えられる。

奈良時代になると、当地域は常陸国河内郡菅田郷に編入されることになる。河内郡は、菅田・島名・河内・大山・八部・眞幡・大村の七郷で構成されている。河内郡の郡衙と推定されているのは、当遺跡から北東へ約7㎞に位置する国指定史跡の釜田管衙遺跡である®。近年の発掘調査によって、この時代の当遺跡周辺は急速に集落の再編が進むことが明らかとなった。つまり、周辺の遺跡で集落の断絶または一時的な中断が見られる背景には、律令国家の成立と地方の国郡制度の整備が推し進められたことが理由として挙げられる。隣接する河内郡島名郷の中心的な集落である島名熊の山遺跡や島名八幡前遺跡では、大形住居とそれに伴う掘立柱建物が集落の中心となり、特に島名熊の山遺跡ではL字状に配置された掘立柱建物群も整備され、郷関連の官衙施設の可能性も示唆されている。島名前野遺跡と島名前野東遺跡では半世紀の間、空閑地となっていたが、律令制度の進展に伴い8世紀に入って集落が再び形成される。その一方で、これらの遺跡以外に当遺跡周辺の当該期の集落は見られなくなり、島名熊の山遺跡周辺にだけにこの時期の集落が集中するという現象が見られる。

平安時代になると、遺跡数はさらに減少し、集落跡として明確に捉えられるのは島名熊の山遺跡と島名八幡前遺跡だけとなる。当遺跡も、平安時代の竪穴住居跡は1軒しか確認されていない。島名熊の山遺跡と島名八幡前遺跡は、鍛冶生産などの手工業に積極的に関わっていた集落であるが、10世紀を迎えると新たな展開を示し、島名八幡前遺跡もまた集落としての終焉を迎えることになる。島名熊の山遺跡では11世紀まで継続的に集落が営まれているが、その後の集落の様相は不明瞭になっていく。そのような状況は、竪穴住居から平地住居への転換の時期と重なるためと思われる。なお、島名熊の山遺跡の墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面からも有力者層の存在をうかがうことができる。

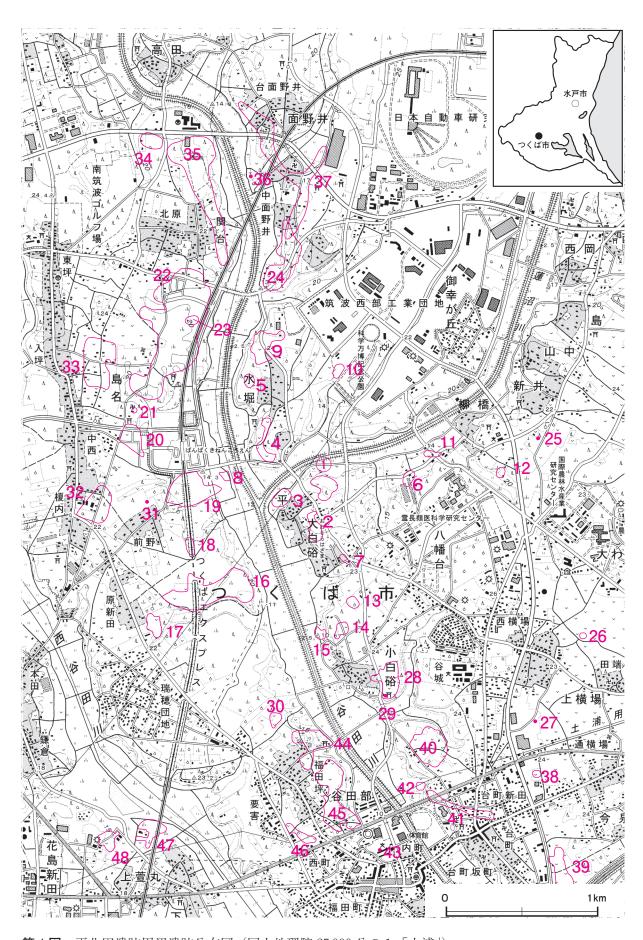
谷田部地区の集落変遷は、古墳時代から続く島名熊の山遺跡を中心として盛衰を繰り返しており、島名郷に接する当遺跡もその流れの中で存在した集落であると考えられる。

※ 文中の〈 〉の番号は、第1図及び表1中の該当遺跡番号と同じである。 なお、本章は『茨城県教育財団文化財調査報告』第328集を基にし、若干加筆したものである。 誩

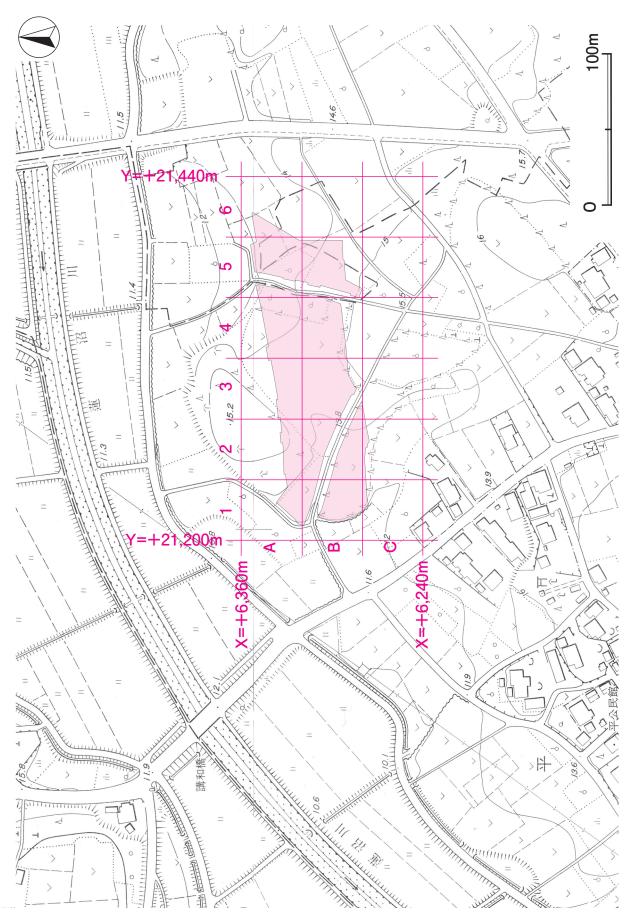
- 1) 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- 2) 茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 土浦』 茨城県 1983 年 12 月
- 3) a 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡 島名境松遺跡 谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業 地内埋蔵文化財調査報告書 III 表 191 集 2002年3月
 - b 飯泉達司「鳥名前野東遺跡 鳥名·福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告IX」 『茨城県教育財団文化財調査報告』第 215 集 2004 年 3 月
 - c 小松崎和治「島名境松遺跡 島名前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 X Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 281 集 2007 年 3 月
- 4) 白田正子「(仮称) 萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山・古屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第 132 集 1998 年 3 月
- 5) 菊池直哉「島名八幡前遺跡 都市計画道路島名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第 283 集 2007 年 3 月
- 6) 註3aに同
- 7) 註1に同
- 8) 白田正子「金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県 教育財団文化財調査報告』第 209 集 2003 年 3 月

表1 平北田遺跡周辺遺跡一覧表

				時		代							時		代		
番号	遺 跡 名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	番号	遺 跡 名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	平北田遺跡				0	0	0	0	25	新井萩塚山塚						0	0
2	大白硲西ノ裏遺跡				0				26	上横場一信塚遺跡		0				0	
3	平 後 遺 跡				0			0	27	上横場道心塚古墳群				0			
4	水堀道後前遺跡					0			28	小白硲海道端遺跡		0				0	0
5	水堀屋敷添遺跡		0		0			0	29	小白硲海道端塚群						0	0
6	柳 橋 遺 跡				0			0	30	谷田部陣馬遺跡		0		0			
7	大白硲桜下遺跡				0				31	島名前野古墳				0			
8	島名前野遺跡		0		0	0	0	0	32	島名榎内古墳群				0			
9	水堀下道遺跡				0				33	島名本田遺跡				0		0	0
10	水 堀 遺 跡				0				34	島名関ノ台遺跡				0			
11	柳橋仲畑遺跡				0				35	島名関ノ台古墳群				0			
12	柳橋谷津遺跡				0				36	面 野 井 城 跡						0	
13	大白硲民部山遺跡				0				37	面野井古墳群				0			
14	小白硲民部山遺跡				0				38	上横場善正遺跡		0				0	0
15	小白俗水表遺跡				0				39	谷田部中塚遺跡		0				0	0
16	島名境松遺跡		0		0				40	谷田部台成井遺跡		0					
17	島名タカドロ遺跡		0		0				41	谷田部台町古墳群				0			
18	島名一町田遺跡		0		0				42	谷田部下成井遺跡		0					0
19	島名前野東遺跡		0		0	0	0		43	谷 田 部 城 跡						0	0
20	島名八幡前遺跡				0	0	0		44	谷田部福田遺跡		0		0			
21	島名薬師遺跡				0				45	谷田部福田前遺跡		0		0	0		
22	島名熊の山遺跡		0		0	0	0	0	46	谷田部漆出口遺跡		0		0			0
23	島名熊の山古墳群				0				47	上萱丸古屋敷遺跡				0		0	0
24	面野井南遺跡				0	0		0	48	真瀬三度山遺跡		0		0			0



第1図 平北田遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院 25,000 分の 1 「土浦」)



第2図 平北田遺跡グリッド設定図(つくば市都市計画図 2,500 分の1)

第3章 調 査 の 成 果

第1節 遺跡の概要

平北田遺跡は、東谷田川支流の蓮沼川左岸の標高約 12 ~ 15 mの台地緩斜面部に立地している。調査面積は 11.259㎡で、調査前の現況は山林及び畑地である。

今回の調査では、竪穴住居跡 29 軒(古墳時代 28, 平安時代 1), 掘立柱建物跡 1 棟(時期不明), 鍛冶工房跡 1 基(古墳時代), 井戸跡 1 基(時期不明), 土坑 143 基(古墳時代, 中世, 時期不明) などを確認した。

遺物は,遺物収納コンテナ (60 × 40 × 20cm) に 81 箱出土している。主な出土遺物は,土師器 (坏・椀・高坏・甕・甑・ミニチュア), 須恵器 (坏・高坏), 土製品 (勾玉・土玉・管状土錘・支脚・紡錘車・模造鏡), 石器 (紡錘車・砥石), 石製品 (臼玉,棗玉), 金属製品 (刀子,鏃,煙管) などである。

第2節 基 本 層 序

A 4 e 3 区にテストピットを設定し、基本土層 (第 3 図) の堆積状況の観察を行った。地表面は標高 14.3 mで、約 2 m掘り下げた。第 $3 \sim 7$ 層は関東ローム層、第 8 層は常総粘土層である。土層の観察結果は以下の通りである。

第1・2層は、周辺の山林の樹木の木根とビニール片などを含む人為的な所作の加わった現表土である。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。赤色スコリアを微量、黒色粒子を極めて微量含み、粘性・

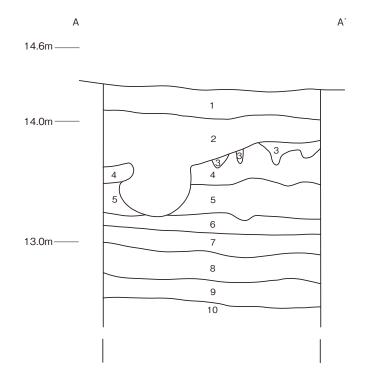
締まりともに普通である。層厚は $8\sim20$ cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。赤色スコリア・黒色粒子を極めて微量含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は14~30cmである。下層にあるガラス質粒子が微量に認められる層はAT層と考えられる。

第5層は、褐色を呈するハードローム層で第2黒色帯である。赤色スコリア・黒色粒子を極めて微量含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は44~64cmである。

第6層は、褐色を呈するソフトローム層である。赤色スコリア・黒色粒子・細礫を極めて微量含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は $10 \sim 16$ cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層



第3図 基本土層図

である。赤色粒子・黒色粒子を少量,白色砂粒・細礫を微量含み,粘性は強く,締まりは普通である。層厚は $14\sim16$ cmである。

第8層は、明褐色を呈する粘土層への漸移層である。赤色粒子・黒色粒子を中量、青灰色粘土粒子を少量含み、粘性は強く、締まりは普通である。層厚は20~26cmである。

第9層は、明黄褐色を呈する粘土層である。青灰色粘土を多量、赤茶色粒子・黒色粒子・細砂を中量含み、 粘性は強く、締まりは普通である。層厚は 16 ~ 24cmである。

第 10 層は,にぶい黄橙色を呈する細砂層である。赤茶色粒子・青灰色砂粒を多量,黒色粒子を中量含み,粘性は弱く,締まりは普通である。層厚は $2\sim10$ cmである。

また、第9・10層は、テストピットが調査区から蓮沼川付近の低地へ向かう緩斜面にあることから流路であると推定できる。なお、住居跡などの遺構は主に第4層の上面で確認した。



第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の石器集中地点と遺物

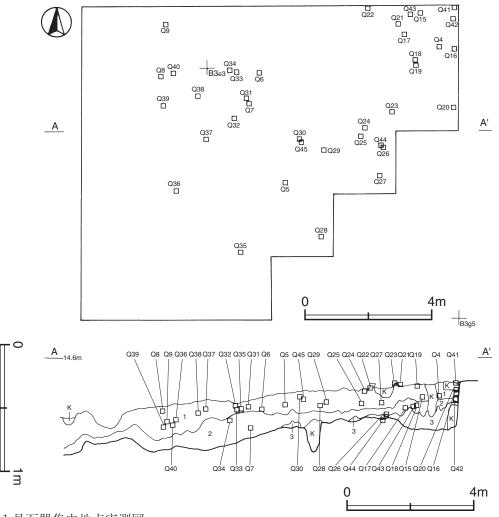
今回の調査では、石器集中地点1か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

石器集中地点

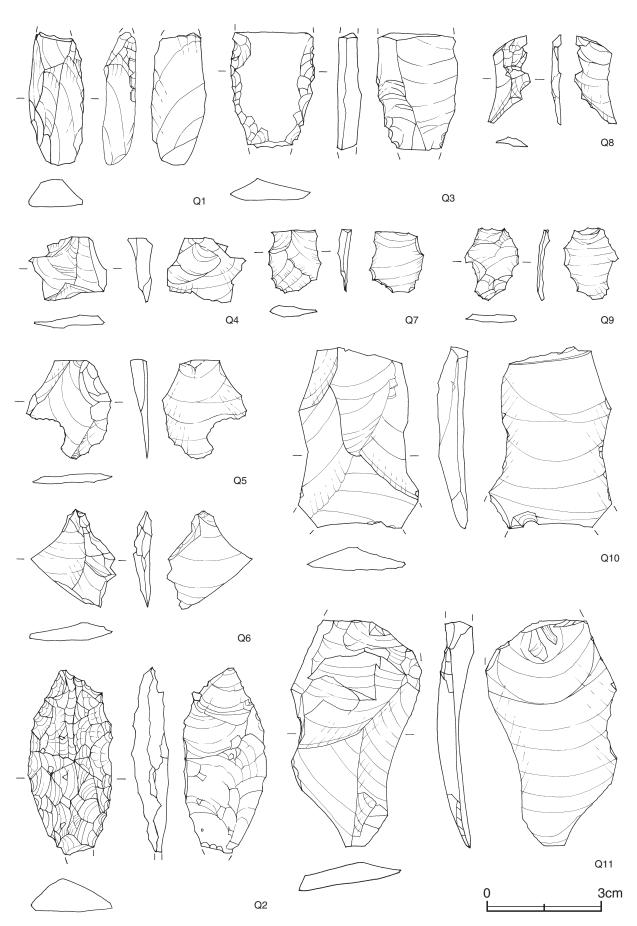
第1号石器集中地点 (第5 · 6 図)

位置 調査区中央部のB 3 d2 \sim d4, B 3 e2 \sim e4, B 3 f2·f3 \boxtimes , 標高 $13.9 \sim 14.4$ mの台地の西方向に緩やかに傾斜した部分上に位置している。

遺物出土状況 調査区からは剥片 37点(硬質頁岩 36, チャート1)を確認した。垂直分布は, 標高 14.04~14.40 mで, 第2層が基本土層の第3層(ソフトローム層), 第3層が基本土層の第4層(ハードローム層)に相当する。また, 周辺の表土や遺構の覆土中からも, 石核3点(チャート2, 珪質頁岩1), 剥片 17点(硬質頁岩6, 珪質頁岩2, チャート9), ナイフ形石器1点(黒色頁岩), 尖頭器2(硬質頁岩, 黒曜石)が出土している。そのうち, 第7号住居跡から3点, 第8号住居跡から6点出土している。いずれも, 住居の埋め戻しの際に混入したものと考えられる。



第5図 第1号石器集中地点実測図



第6図 旧石器時代出土遺物実測図

所見 出土遺物の時期は、出土層位と出土遺物から約 $16,000\sim13,000$ 年前(下総編年のIIc期)に比定でき、本跡はQ3などの槍先形尖頭器の調整加工に係わる石器制作の場と考えられる。Q1は群馬県利根川上流域の赤谷層を起源とする黒色頁岩が使用されており、時期は約 $20,000\sim16,000$ 年前(IIb期)に、Q2は高原山産と考えられる黒曜石製の片面調整槍先形尖頭器で、時期は約 $16,000\sim13,000$ 年前(IIc期)にそれぞれ比定できる。

旧石器時代出土遺物観察表(第6図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	—————————————————————————————————————	出土位置	備考
一 田 万		1x c	ΨĦ	序さ	里里	7/1 頁	村 似	四工业直	7用 - 6
Q1	ナイフ形 石器	(3.5)	1.4	0.9	(4.4)	黒色頁岩	縦長剥片を加工 端部欠損	表土	PL29
Q2	尖頭器	(4.9)	2.2	1.0	(8.6)	黒曜石	両面調整 木葉形 端部欠損	表土	PL28
Q3	尖頭器	(3.0)	(2.2)	(0.6)	(4.8)	硬質頁岩	腹面側縁に二次加工痕 両端欠損	表土	PL28
Q4	剥片	1.7	2.1	0.7	1.3	硬質頁岩	背面は多方向からの剥離 上面に礫面が残る	旧石器調査区	
Q5	剥片	2.6	2.2	0.5	1.2	硬質頁岩	背面は同一方向からの剥離	旧石器調査区	
Q6	剥片	2.6	2.3	0.5	1.4	硬質頁岩	腹面に二次加工痕 背面は同一方向からの剥離	旧石器調査区	
Q7	剥片	1.6	1.4	0.3	0.5	硬質頁岩	背面は同一方向からの剥離 上部切断	旧石器調査区	
Q8	剥片	2.4	1.1	0.3	0.3	硬質頁岩	縦長剥片 背面は多方向からの剥離	旧石器調査区	
Q9	剥片	1.9	1.4	0.3	0.4	硬質頁岩	背面は同一方向からの剥離	旧石器調査区	·
Q10	剥片	(4.7)	(3.1)	0.7	(9.2)	硬質頁岩	背面は同一方向からの剥離 一部欠損	表土	PL29
Q11	剥片	(6.0)	(3.4)	(1.0)	(12.6)	硬質頁岩	背面は同一方向からの剥離 端部欠損	表土	PL29

表2 その他の旧石器時代の出土遺物一覧表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	出土位置	番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	出土位置
Q12	石核	3.1	1.7	0.9	4.9	珪質頁岩	表土	Q37	剥片	1.7	1.2	0.4	0.8	硬質頁岩	旧石器調査区
Q13	石核	3.3	1.3	0.8	4.2	チャート	第8号住居跡 覆土中	Q38	剥片	0.7	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区
Q14	石核	3.0	2.2	1.1	7.2	チャート	表土	Q39	剥片	0.7	0.5	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区
Q15	剥片	1.9	1.1	0.1	0.3	硬質頁岩	旧石器調査区	Q40	剥片	1.3	0.7	0.2	0.2	硬質頁岩	旧石器調査区
Q16	剥片	1.1	0.9	0.2	0.2	硬質頁岩	旧石器調査区	Q41	剥片	1.2	0.7	0.2	0.2	硬質頁岩	旧石器調査区
Q17	剥片	0.9	0.7	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q42	剥片	0.6	0.6	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区
Q18	剥片	1.1	1.1	0.2	0.3	硬質頁岩	旧石器調査区	Q43	剥片	1.2	0.9	0.2	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区
Q19	剥片	0.6	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q44	剥片	1.1	0.8	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区
Q20	剥片	1.2	1.1	0.1	0.2	硬質頁岩	旧石器調査区	Q45	剥片	0.9	0.9	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区
Q21	剥片	2.7	1.6	0.4	0.9	硬質頁岩	旧石器調査区	Q46	剥片	2.3	2.2	0.4	2.0	硬質頁岩	表土
Q22	剥片	1.5	0.6	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q47	剥片	3.3	2.3	0.5	2.7	硬質頁岩	表土
Q23	剥片	1.5	0.9	0.2	0.5	硬質頁岩	旧石器調査区	Q48	剥片	1.8	1.6	0.5	1.0	チャート	表土
Q24	剥片	0.7	0.6	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q49	剥片	1.8	1.2	0.2	0.4	硬質頁岩	表土
Q25	剥片	1.2	0.7	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q50	剥片	2.8	1.3	0.4	1.5	珪質頁岩	表土
Q26	剥片	0.8	0.6	0.2	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q51	剥片	3.8	2.5	0.9	7.4	硬質頁岩	第10号土坑覆土中
Q27	剥片	1.1	0.6	0.1	0.2	硬質頁岩	旧石器調査区	Q52	剥片	2.1	1.4	0.4	0.9	チャート	表土
Q28	剥片	1.2	0.8	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q53	剥片	1.3	0.9	0.3	0.3	チャート	第8号住居跡覆土中
Q29	剥片	1.7	0.7	0.2	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q54	剥片	0.9	0.7	0.3	0.2	チャート	第8号住居跡竈覆土中
Q30	剥片	1.3	0.8	0.4	0.4	硬質頁岩	旧石器調査区	Q55	剥片	1.9	1.1	0.5	1.3	チャート	表採
Q31	剥片	1.3	1.2	0.1	0.2	硬質頁岩	旧石器調査区	Q56	剥片	1.0	0.9	0.2	0.2	チャート	第8号住居跡覆土中
Q32	剥片	1.4	0.7	0.1	0.2	硬質頁岩	旧石器調査区	Q57	剥片	1.3	0.8	0.3	0.4	チャート	第8号住居跡覆土中
Q33	剥片	0.9	0.6	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q58	剥片	5.1	2.5	1.0	10.7	珪質頁岩	第7号住居跡覆土中
Q34	剥片	0.7	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩	旧石器調査区	Q59	剥片	2.4	1.7	0.9	2.8	チャート	第2号住居跡覆土中
Q35	剥片	1.8	1.3	0.9	2.1	チャート	旧石器調査区	Q60	剥片	1.5	1.2	0.4	0.7	チャート	第7号住居跡覆土中
Q36	剥片	1.3	0.6	0.2	0.2	硬質頁岩	旧石器調査区								
		-	!			!								!	

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡 28 軒、鍛冶工房跡 1 基、柵跡 1 か所、土坑 12 基、不明遺構 2 基を確認した。 以下、遺構と遺物について記述する。

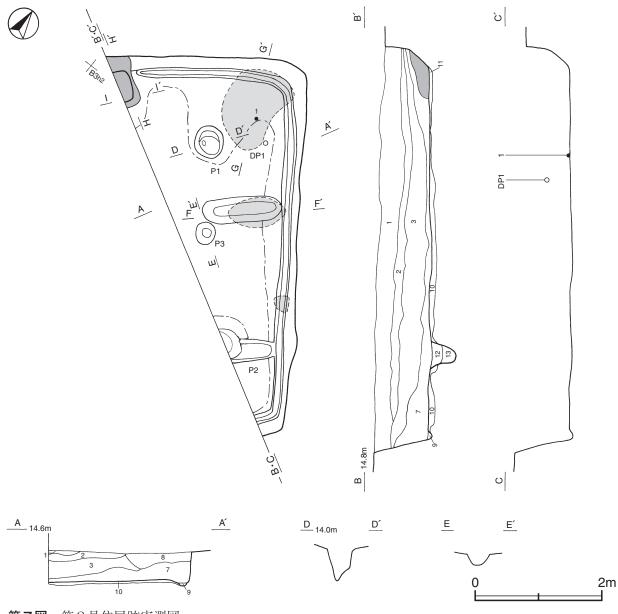
(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡(第7·8図)

位置 調査区中央部のB3h2区,標高14.2mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、北西・南東軸は $5.78~\mathrm{m}$ で、北東・南西軸は $2.64~\mathrm{m}$ しか 確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向は $N-38~\mathrm{e}$ Wである。壁高は $82\mathrm{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた範囲はほぼ平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。貼床はロームブロック主体の黒褐 色土とローム粒子主体の褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。北東



第7図 第2号住居跡実測図

壁から2条の中央部へ延びる間仕切り溝を確認した。北コーナー部と北東壁際では、覆土中から焼土を確認した。

電 北西壁に付設されている。竈のほとんどが調査区域外にあるため、右袖の一部しか確認できなかった。 確認できた袖部は、床面と同じ高さに砂粒を極めて多く含んだ第1層を積み上げて構築されている。

電土層解談

- 1 にぶい赤褐色 砂粒極多量、粘土粒子中量、焼土ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量

- 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 4 暗 褐 色 焼土ブロック・白色粒子微量

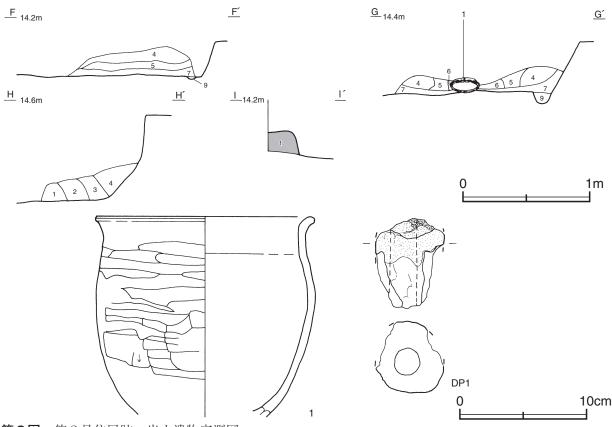
ピット 3か所。 $P1\cdot 2$ は深さ $56\cdot 38$ cmで,配置から主柱穴である。P3 は深さ 18cmで,性格不明である。 P3 はない。 P3 は深さ 18cmで,性格不明である。 P3 はない。 P3

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック極微量
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 6 黒 色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 褐 色 ロームブロック微量, 焼土粒子極微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック微量,炭化粒子極微量
- 9 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 10 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 13 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 75 点(坏 5 , 椀 1 , 高坏 3 , 甕類 37 , 甑 29) , 土製品 2 点(支脚 , 羽口)のほか , 炭化米 19 粒(0.1g)が出土している。また , 流れ込んだ陶器片 1 点(碗)や剥片 1 点(チャート)も出土している。 1 は北コーナー部の床面から横位の状態で , DP 1 は北コーナー付近の覆土中層から , N 1 は 1 の甕の中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第8図 第2号住居跡·出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第8図)

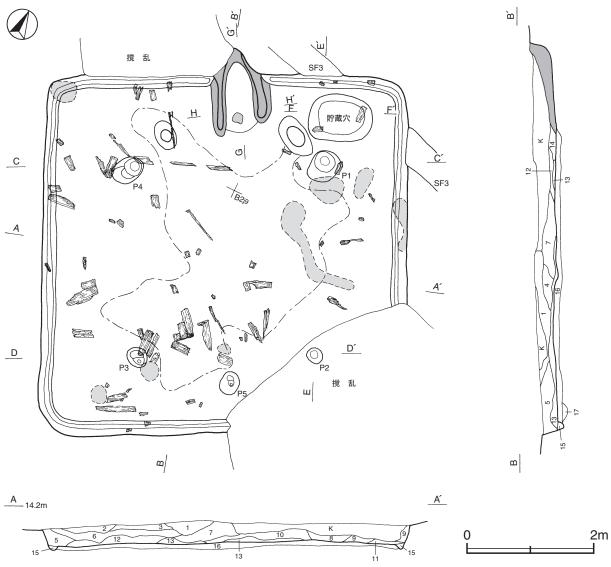
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	雞	16.9	(16.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	床面	90% PL23
番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材 質			特徵	出土位置	備考
DP1	羽口	(7.1)	5.4	2.1	(130.2)	土 (長石・石英)	黄灰色	ナデ	端部に鉄滓付着	覆土中層	PL28
番号	器種	平均長	平均幅	平均厚	総重量				特 徵	出土位置	備考
N 1	炭化米	3.5	2.2	1.6	0.13	総数 19 粒				1 覆土内	PL30

第3号住居跡 (第9 \sim 13 図)

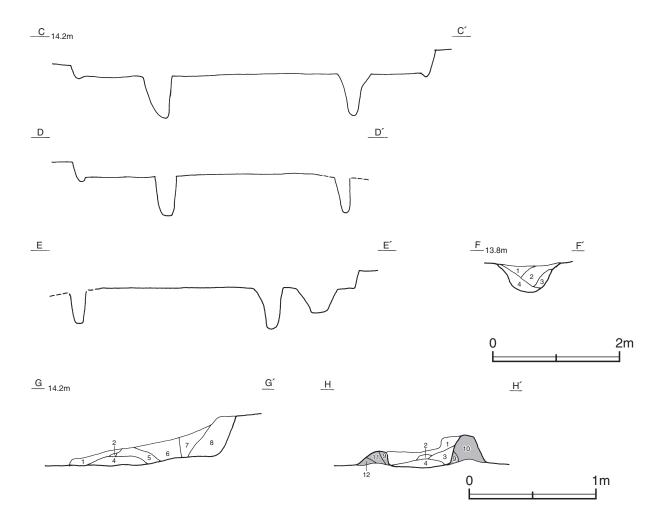
位置 調査区中央部のB2j8区,標高13.8mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号道路に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 $5.78~\mathrm{m}$, 短軸 $5.66~\mathrm{m}$ の方形で、主軸方向は N $-25~\mathrm{^\circ}$ - Wである。壁高は $24\mathrm{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。東コーナー部と竈付近の覆土上層が撹乱を受けている。



第9図 第3号住居跡実測図(1)



第10 図 第3号住居跡実測図(2)

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックなどを含んだ暗褐色土と黒褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。北壁際及び中央部南寄りには 炭化材が一面に出土しており、中央部の床面は焼けている。

電 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで135cmで、燃焼部幅は44cmである。袖部は、床面と同じ高さにロームブロックと砂質粘土を主体とした第 $9\sim12$ 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6 cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 灰 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,黄褐色粘土 ブロック・炭化物・白色砂粒微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子・白色 砂粒微量
- 4 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量, 白色砂粒微量
- 5 褐 色 ロームブロック微量, 焼土ブロック・炭化粒子極
- 6 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子極微量
- 7 灰 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量
- 8 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 10 にぶい黄褐色 ロームブロック中量,炭化粒子少量,焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 11 褐 色 ロームブロック多量, 白色砂粒少量, 炭化物微量
- 12 褐 色 ロームブロック・白色砂粒少量,炭化粒子微量

ピット 5 か所。 P 1 ~ P 4 は深さ 58 ~ 68cmで,配置から主柱穴である。 P 5 は深さ 49cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北コーナー部に位置している。長軸 104cm, 短軸 76cmの隅丸長方形である。深さは 44cmで, 底面は 平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

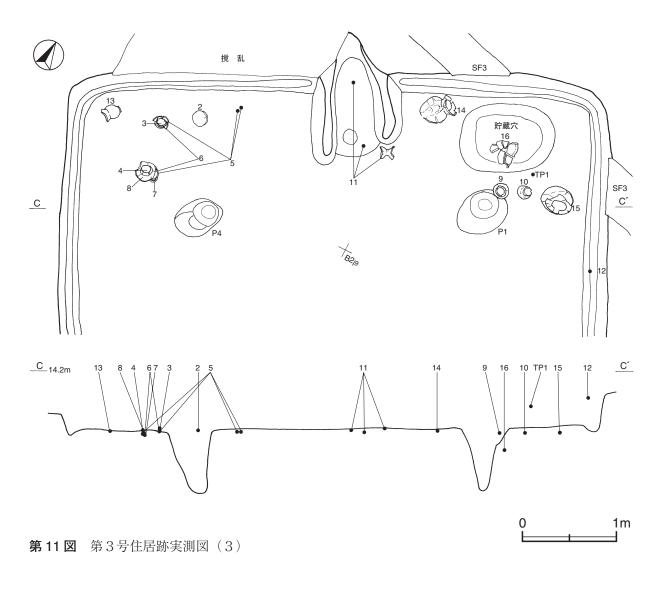
貯蔵穴土層解説

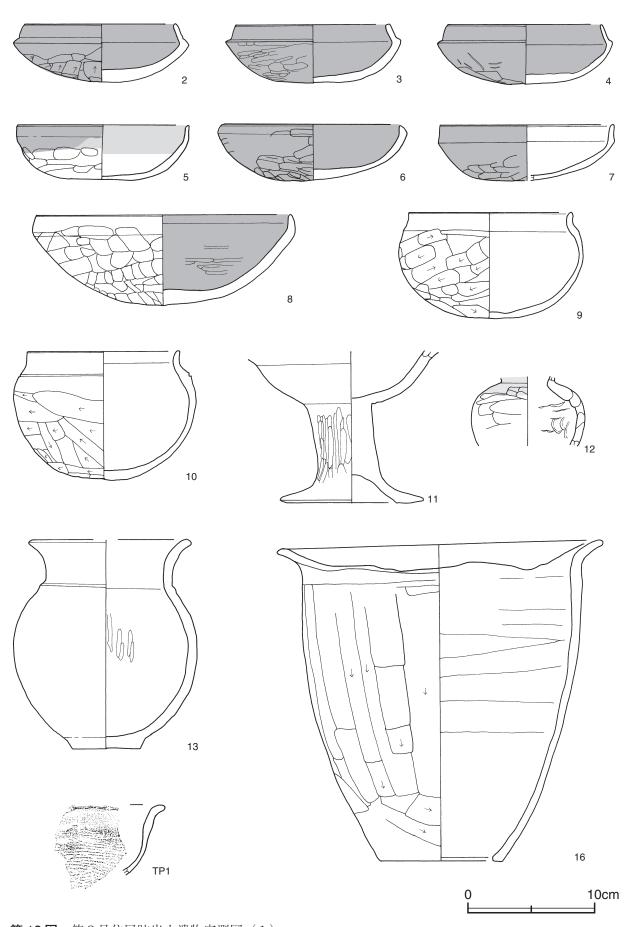
- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子微量 色 ロームブロック中量、炭化物極微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量,焼土ブロッ ク微量

覆土 15層に分層できる。焼土粒子や炭化粒子を含み、ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻 されている。第16・17層は貼床の構築土である。

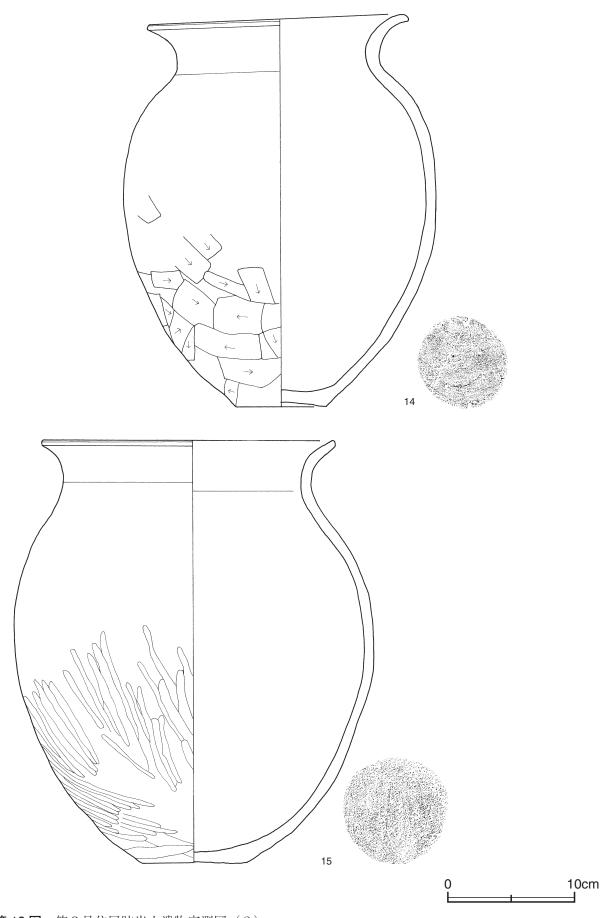
土層解説

- 色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 1 褐
- 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量,焼土粒子極 2 褐
 - 微量
- 3 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量,炭化物微量,焼土粒子極微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 黒 褐 色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 6
- 褐 色 炭化物少量、ロームブロック微量、焼土粒子極微量 7 暗 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 8 褐
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量
- 10 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量、炭化物 11 褐 極微量
 - 12 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化物微量
- 13 黒 褐 色 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
- 14 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量 色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量 15 褐
- 16 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 17 黒 褐 色 ロームブロック微量





第12図 第3号住居跡出土遺物実測図(1)



第13図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片 333 点(坏 80、椀 2、高坏 16、小形壺 1、甕類 70、甑 164),須恵器片 1 点(坏),粘土塊 1 点が,北部の覆土中層から床面にかけて多量に出土している。16 は貯蔵穴内の覆土中層から, $2 \sim 8 \cdot 13$ は西コーナー部の床面からまとまって出土しており, 2 は逆位, 5 の上に $3 \cdot 6$ が重なった状況でそれぞれ正位, $4 \cdot 5$ の破片や $6 \sim 8$ は床面から $7 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 8 \cdot 4$ の順に重なった状況で正位,13 は横位でそれぞれ出土している。 $9 \cdot 10 \cdot 15$ は北コーナー部,14 は北西壁際,11 は竈内と右袖付近の床面から,TP 1 は貯蔵穴付近の覆土中層からそれぞれ出土している。 12 は北東壁際の覆土上層から出土している。

所見 床面が焼け、炭化材が出土していることから焼失住居である。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第3号住居跡出土遺物観察表(第12·13図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	坏	11.8	4.6		長石・石英・雲母	赤	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ 口縁部外・内面横 ナデ 二次被熱痕	床面	100% PL16
3	土師器	坏	12.2	4.6	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	100% PL16
4	土師器	坏	12.3	4.7		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ 外・内面二次被熱痕	床面	90% PL16
5	土師器	坏	13.6	4.5	5.0	長石・石英	橙	普通	体部外面へう削り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	95%
6	土師器	坏	14.3	4.5		長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り上位ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	90% PL16
7	土師器	坏	13.6	4.5		長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へう削り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	60% PL16
8	土師器	坏	20.2	7.2	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ後一部へラ磨き 口 縁部外・内面横ナデ	床面	95% PL20
9	土師器	椀	13.0	8.5		長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナ デ 二次被熱痕	床面	100% PL21
10	土師器	椀	12.0	10.2	=-	長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナ デ 二次被熱痕	床面	95% PL21
11	土師器	高坏	-	(12.0)	11.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	坏部外面ナデ 内面横ナデ 脚部へラ磨き 裾部外 面横ナデ 内面ナデ 口縁部外面横ナデ	床面	70% PL21
12	土師器	小形壺	-	(5.5)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 指頭圧痕	覆土上層	70%
13	土師器	甕	[12.2]	16.6	5.3	長石・石英・雲母	橙	普通	外面二次被熱痕 体部内面一部ヘラナデ 口縁部内 面横ナデ	床面	90% PL22
14	土師器	甕	20.0	31.2	7.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後上位ナデ 口縁部外・内面ナデ 調整	床面	95% PL24
15	土師器	魙	22.9	33.6	8.2	長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部外面ナデ後下半縦位のヘラ磨き 内面ナデ 口 縁部外・内面横ナデ	床面	90% PL25
16	土師器	甑	25.4	25.4	9.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 下端斜方向へのヘラ削り 口縁部外・内面横ナデ 口縁部に切り込み	貯蔵穴 覆土中層	90% PL26

番号	種別	器種	胎土	色 調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	土師器	遊光	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	体部外面板状工具による横ナデ 内面ナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	覆土中層	5%

第4号住居跡 (第14~18 図)

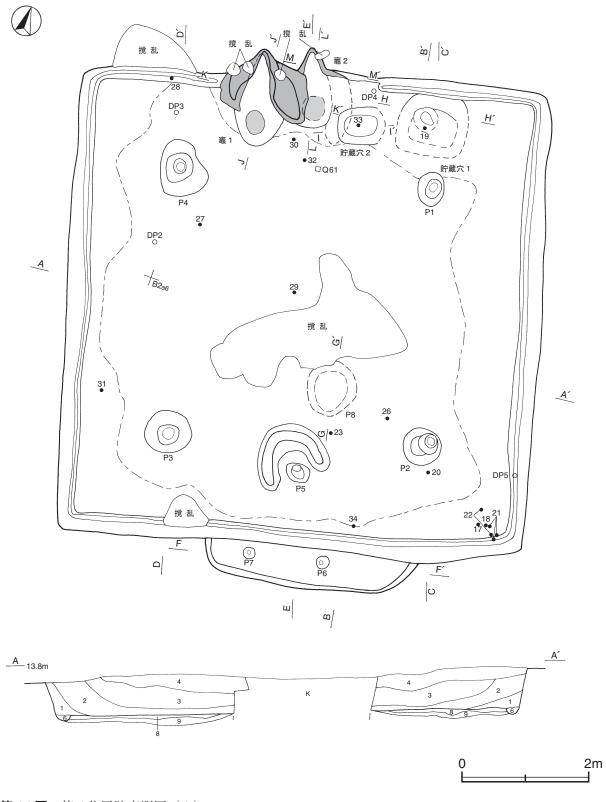
位置 調査区中央部のA 2j6 区,標高 13.6 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 7.64 m, 短軸 7.52 mの方形で、主軸方向はN - 19°- Wである。壁高は 50 \sim 65cmで、ほぼ直立している。南壁中央部には、幅 3.40 m、奥行 0.67 mほどの張り出し部がある。

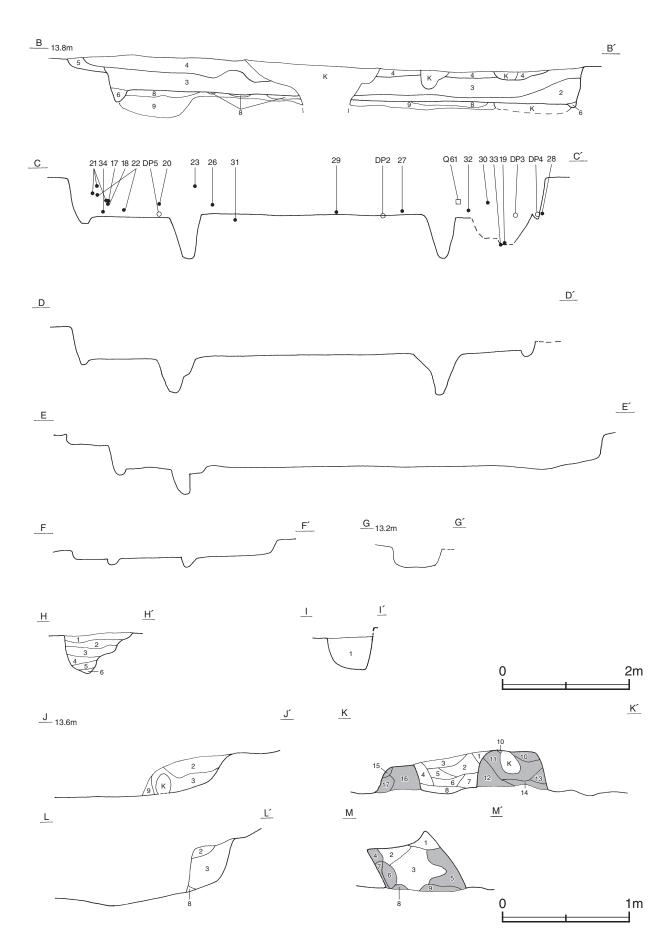
床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は全面を $10 \sim 44$ cmほど掘り込み、ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。 P5の周囲には、馬蹄状の高まりが見られる。

電 2か所。電1は北壁中央からやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで154cmで、燃焼部幅は52cmである。袖部は、床面と同じ高さにロームブロックを中心とした第 $10\sim17$ 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から4 cmくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に44 cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。竈2は北壁中央部に付設されている。左袖は竈1の右袖に再利

用されていると推測できるが、左袖はなく、壁外へ延びる煙道部のみを確認した。確認できた規模は、焚口から煙道部まで $130 \, \mathrm{cm}$ で、燃焼部幅は不明である。袖部は、床面と同じ高さにロームブロックと砂質粘土を中心とした第 $4 \sim 9$ 層を積み上げて構築されている。煙道部は壁外に $36 \, \mathrm{cm}$ 据り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。袖の遺存状況から竈 2 が古く、竈 1 が新しいと考えられる。



第14図 第4住居跡実測図(1)



第15図 第4号住居跡実測図(2)

竈 1 土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子・ 砂粒極微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ 砂粒微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子・ 粘土粒子極微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子中量,砂質粘土粒子・ 粘土粒子少量,炭化粒子極微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子極微量
- 6 暗赤 褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 暗赤 褐色 焼土粒子中量,ロームブロック・炭化粒子少量,砂粒極微量
- 8 極暗赤褐色 焼土粒子多量,炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 6 にねず褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化 粒子少量

17 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微

色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量,

色 砂質粘土粒子中量,ロームブロック少量,焼土ブ

色 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブ

色 ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子微量

11 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・黄

14 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量,焼土粒子・粘土

ロック少量, 炭化粒子微量

量。砂質粘土粒子極微量

粘土粒子極微量

粘土粒子微量

粘土粒子微量

粒子極微量

ロック・炭化物微量 13 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量。

- 7 褐 色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量,炭化粒子微量,焼土粒子極微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・ 炭化粒子少量
- 9 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子極 微量

竈2土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子・砂質 粘土粒子微量
- 2 褐 色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子・砂質 粘土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子・ 砂質粘土粒子少量
- 4 褐 色 焼土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子・ 砂質粘土粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質 粘土粒子微量

ピット 8か所。P1~P4は深さ57~68cmで,配置から主柱穴である。P5は深さ40cmで,位置や硬化面の広がりと周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。また,P6・7は深さ10・16cmで,これらも出入り口施設と思われる張り出し部にあることから,P5と同じ性格のピットと考えられる。P8は深さ32cmで,床下からの確認であることや,出土遺物がないことから性格は不明である。 貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は長軸110cm,短軸96cmの隅丸長方形で,北東コーナーからやや西寄りの部分に位置している。深さは62cm,底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。覆土第1層は粘土を多量に含んでおり,貯蔵穴1が使用されなくなった後,床として構築された可能性がある。貯蔵穴2は,長軸76cm,短軸60cmの隅丸長方形で,竈2の右袖部と推定される所に位置している。深さは52cm,底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2と竈2の重複関係から,竈2に貯蔵穴1が,竈1に貯蔵穴2が共伴するものと考えられる。

10 裾

12 褐

15 裾

16 裾

貯蔵穴 1 土層解説

- 1 褐 色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量, 焼土粒 子微量, 炭化粒子極微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量,炭化物微量,粘土ブロック・ 焼土粒子極少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・ 粘土粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
- 5 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, ロームブロック中量
- 6 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

貯蔵穴2土層解説

1 灰 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

覆土 7層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であることから自然堆積である。第8・9層は貼床の 構築土である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量 4 里 色 ローム粒子微量
- 4 黒
 色
 ローム粒子微量

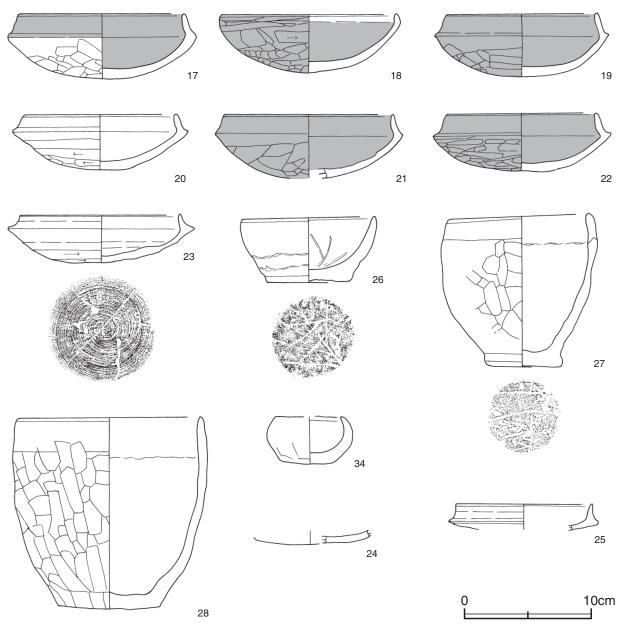
 5 褐
 色
 ローム粒子少量

- 6 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 7 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 8 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子極微量
- 9 褐 色 ロームブロック中量

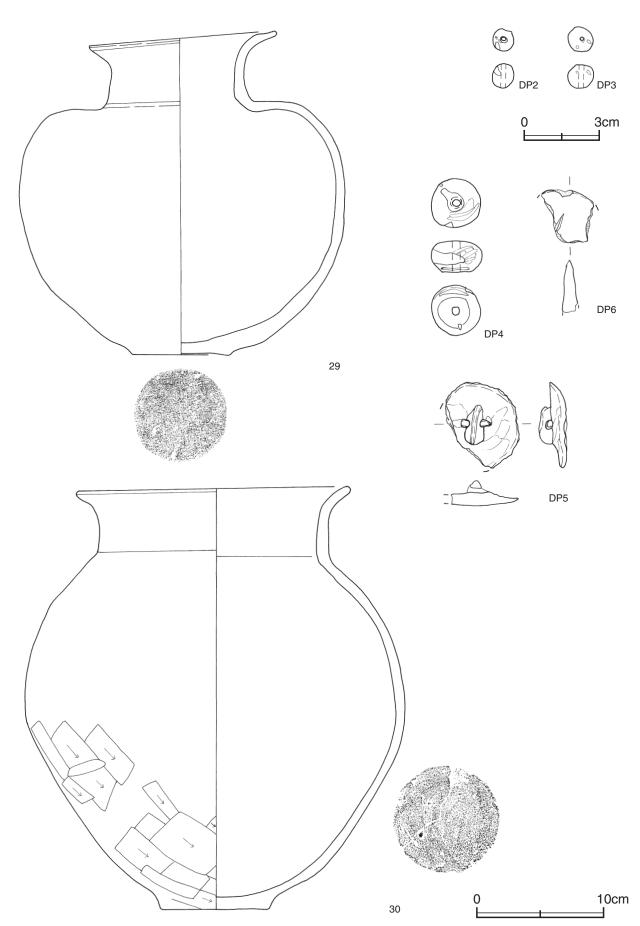
遺物出土状況 土師器片 1009 点 (坏 398, 械 8, 高坏 3, 鉢 2, 壺 1, 甕類 524, 甑 71, 手捏土器 2), 須恵

器片3点(坏),石製品2点(砥石),土製品8点(土玉3,管状土錘1,支脚1,紡錘車1,模造鏡2)が竈前の床上や南部の覆土上層から下層にかけて多量に出土している。また,流れ込んだ縄文土器片2点(深鉢)のほか,混入した須恵器片1点(坏),土師質土器片2点(擂鉢,内耳鍋),陶器片1点(碗)も出土している。19は貯蔵穴1の覆土下層から、33は貯蔵穴2の覆土中からそれぞれ出土している。34は南壁際、31は西壁際、29は中央、32は竈前、27・DP2・DP3はP4付近、DP4は北壁際の床面からそれぞれ出土している。28は北壁、DP5は東壁溝から出土している。26はP2付近の覆土下層から、20はP2付近、30・Q61は竈前の覆土中層から、23は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。24・25・DP6・Q62は覆土中からそれぞれ出土している。17・18・21・22は南東コーナーから流れ込むような状態でそれぞれ出土している。

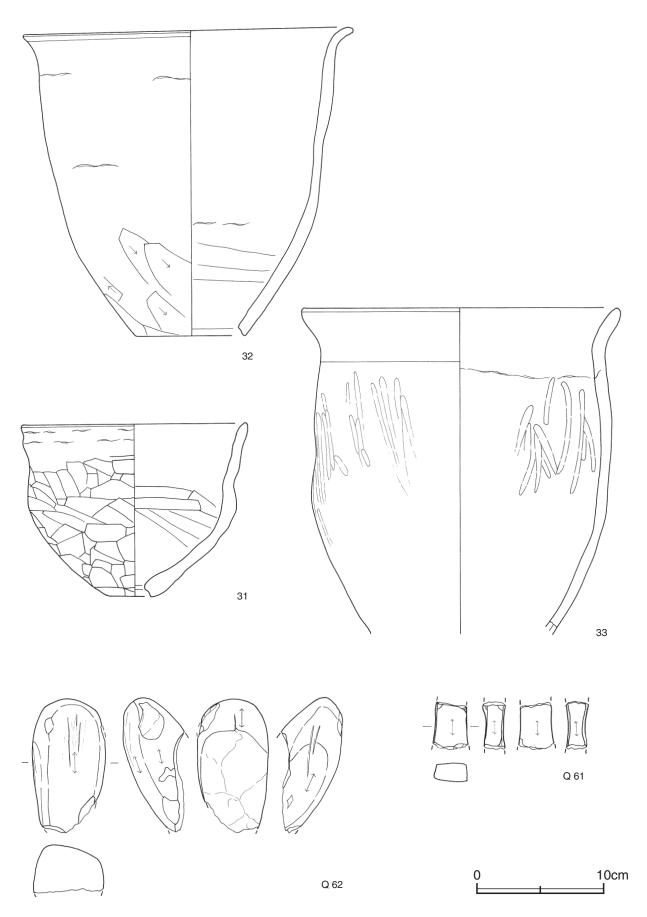
所見 23 は TK209 式期に比定でき、第5号住居跡の覆土中層から出土した須恵器片と接合関係にあり、本跡と第5号住居跡が廃絶され、窪地状になったところへ投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第16図 第4号住居跡出土遺物実測図(1)



第17図 第4号住居跡出土遺物実測図(2)



第18図 第4号住居跡出土遺物実測図(3)

第4号住居跡出土遺物観察表(第16~18図)

											,	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	土師器	坏	13.2	5.1	-	長石·石	英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 上位横ナデ 内面横ナデ 口縁 部外・内面横ナデ	南東コーナー	95% PL16
18	土師器	坏	13.9	4.6	-	長石·石	英・雲母	黒褐	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ	南東コーナー	98% PL16
19	土師器	坏	11.9	4.9	-	長石·石 黒色粒子	英・雲母・	灰黄褐	普通	体部外面へラ削り 上位横ナデ 口縁部外・内面横 ナデ	貯蔵穴1 覆土下層	100% PL16
20	土師器	坏	12.0	4.4	-	長石・石	英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後一部ナデ 口縁部外・内面横ナ デ	覆土中層	98% PL16
21	土師器	坏	13.4	(5.0)	-	長石・石 黒色粒子	英・雲母・	にぶい黄褐	普通	体部外面へラ削り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ	南東コーナー	90% PL16
22	土師器	坏	12.0	4.6	-		母・黒色	褐灰	普通	体部外面へラ削り上位へラナデ 口縁部外・内面横 ナデ	南東コーナー	80%
23	須恵器	坏	12.6	3.8	-	長石·石	英・雲母	灰オリーブ	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面ロクロナデ	覆土上層	70% PL16
24	須恵器	坏	-	(1.1)	-	長石·石	英	灰黄褐	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
25	須恵器	坏	[10.8]	(2.0)	-	長石·石	英	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
26	土師器	椀	10.6	5.3	6.6	長石·石	英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	80% PL21
27	土師器	鉢	10.8	12.2	5.7	長石·石 細礫	英・雲母・	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	床面	75% PL21
28	土師器	鉢	14.4	15.2	[8.0]	長石·石 細礫	英・雲母・	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ後縦位のナ デ調整 口縁部外・内面横ナデ 二次被熱痕	壁溝内	70% PL23
29	土師器	甕	14.8	25.8	7.3	長石·石	英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	床面	70% PL24
30	土師器	魙	21.2	33.6	8.5	長石·石	英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 下位へラ削り 内面ナデ 口縁部外内面横ナデ 底部へラ削り	覆土中層	90% PL24
31	土師器	甑	17.8	13.7	3.3	長石·石 細礫	英・雲母・	橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ 口縁部外・内面 横ナデ	床面	95% PL26
32	土師器	甑	25.7	24.8	9.0	長石·石 赤色粒子	英·雲母· ・細礫	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 下位へラ削り 内面へラ ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	85% PL26
33	土師器	甑	[24.8]	(25.9)	-	長石·石 赤色粒子	英・雲母・	橙	普通	体部外面へラ削り後上半縦位のヘラ磨き 内面横ナ デ後一部ヘラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	貯蔵穴2 覆土中	70%
34	土師器	手捏土器	[5.0]	3.8	-	長石・石	英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	80% PL20
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材	質			特	出土位置	備考
DP2	土玉	0.8	0.9	0.2	(0.6)	土(雲母	:)	黒褐色 一	方向から	らの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL27
DP3	土玉	1.0	0.9	0.1	0.9	土(長石	・雲母)	黒褐色 一	方向から	らの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP4	紡錘車	4.0	2.5	0.6	37.9	土(長石	・石英)	橙色 一方	句からの	り穿孔 ナデ 一部へラ磨き	床面	PL28
	1	1		1	•	1		1			1	1
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量		材質		特 徴	出土位置	備考
DP5	模造鏡	6.8	5.9	2.0	0.3	(36.6)	土(長石	石英・雲母	<u>+</u>)	橙色 鏡部をナデ後鈕を鏡背に貼り付け 二方向 からの穿孔 一部欠損	壁溝内	PL28
DP6	模造鏡	(4.3)	(4.1)	1.2	-	(15.8)	土(長石	・石英・赤色	粒子)	橙色 表裏ナデ 一部欠損	覆土中	PL28
				-								
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特	出土位置	備考
Q61	砥石	(3.8)	(2.8)	1.8	(25.0)	凝灰岩		砥面4面 1	面 両端欠損		覆土中層	
Q62	砥石	(10.6)	5.6	4.9	(354.0)	安山岩		砥面4面の	うち21	面に溝状の研磨痕 一部欠損	覆土中	PL29
	L											

第5号住居跡 (第19·20図)

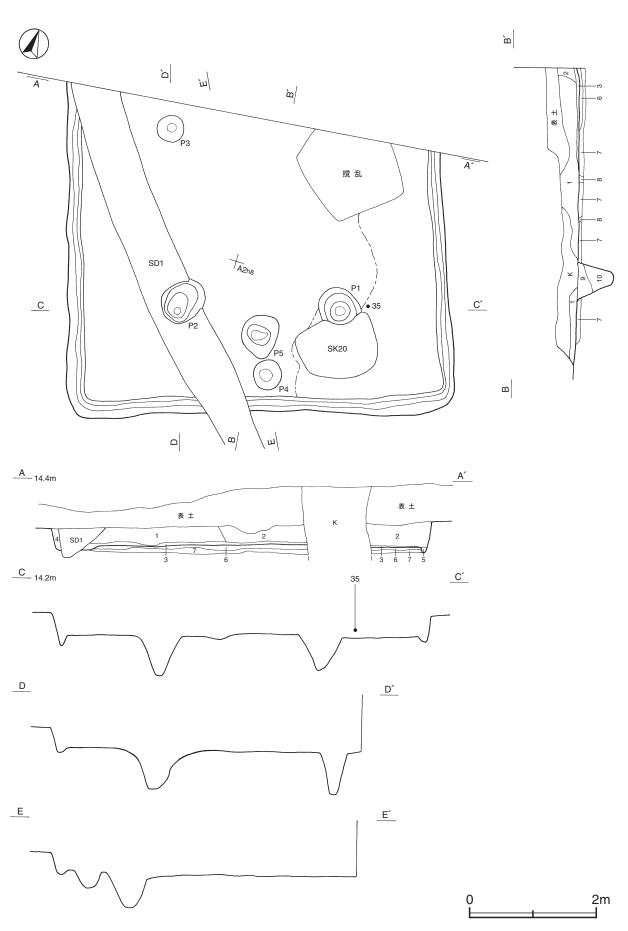
位置 調査区中央部北端のA2g7区,標高13.6mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第20号土坑, 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、東西軸は $6.08\,\mathrm{m}$ で、南北軸は $5.30\,\mathrm{m}$ しか確認できなかった。 方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向は $\mathrm{N}-81\,^\circ-\mathrm{E}$ である。壁高は $28\sim34\mathrm{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、北東壁際を除いた全面が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土を 埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。

ピット 5か所。P1~P3は深さ56~66cmで、配置から主柱穴である。P4・5は深さ30・46cmで、位置



第19図 第5号住居跡実測図

や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれている堆積状況であるが、周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積であると判断した。第6~8層は貼床の構築土である。

土層解説

1 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 6 褐 色 ロームブロック微量,炭化粒子極微量

2 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化 7 褐 色 ロームブロック多量

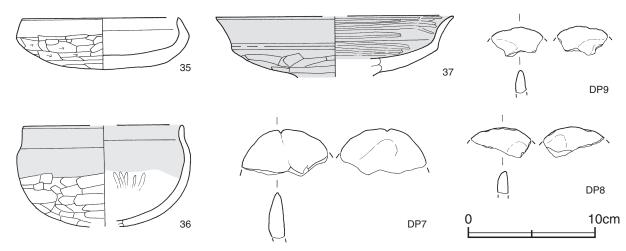
粒子微量 8 褐 色 ロームブロック少量

3 褐 色 ローム粒子中量,焼土粒子・黒色粒子極微量 9 暗 褐 色 ロームブロック微量,炭化粒子極微量

5 褐 色 ローム粒子多量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 420 点 (坏 116, 椀 4, 高坏 2, 甕類 262, 甑 35, 手捏土器 1), 石製品 1点 (砥石), 土製品 6点 (支脚, 模造鏡)が、南部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。35 は P 1 付近の覆土下層から、36・37・DP 7~9 は覆土中からそれぞれ出土している。覆土中から、第4号住居跡出土の23と接合関係にある須恵器坏片が出土している。

所見 DP $7 \sim 9$ は接合関係にはないが,形状や材質などから同一個体の可能性がある。第4号住居跡と接合関係にある出土遺物があることから,第4号住居跡とほぼ同じ時期に遺物が一括投棄されたと判断したが,時期は出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第20図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表(第20図)

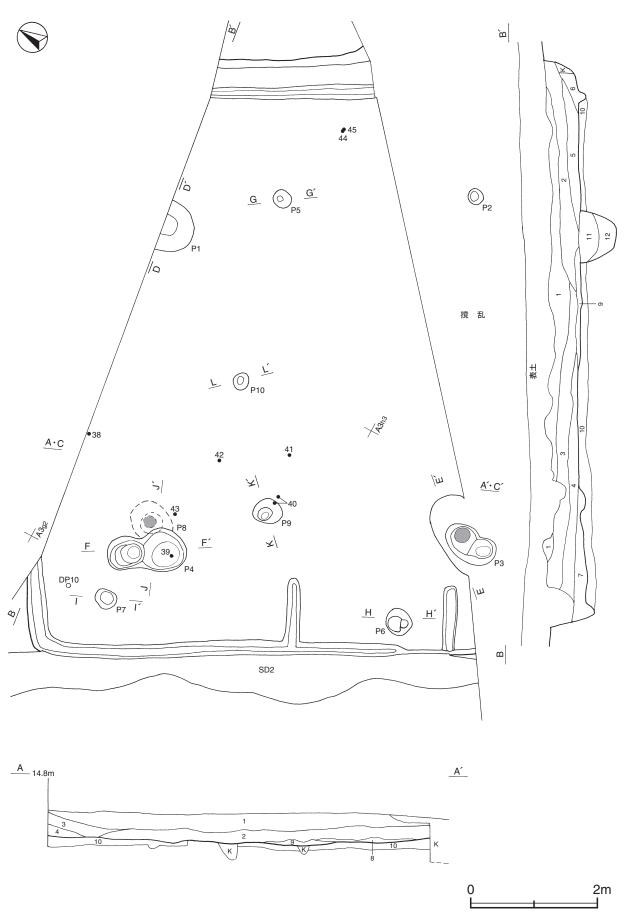
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	土師器	坏	12.2	4.0	-	長石·石英·雲母· 黒色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	98% PL16
36	土師器	椀	[12.4]	(7.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラ磨き 口縁部外・内面横 ナデ	覆土中	50%
37	土師器	高坏	[18.8]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	赤	普通	「坏部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外面 横ナデ	覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特 徵	出土位置	備考
DP7	模造鏡	(3.8)	(6.8)	0.7	-	(23.6)	土 (長石・石英)	にぶい黄橙 両面ナデ 一部指頭痕	覆土中	PL28
DP8	模造鏡	(2.4)	(4.8)	0.9	-	(7.0)	土 (長石・石英)	にぶい黄橙 両面ナデ	覆土中	PL28
DP9	模造鏡	(2.4)	(4.1)	0.9	-	(6.0)	土(長石・石英・赤 色粒子)	にぶい黄橙 両面ナデ	覆土中	PL28

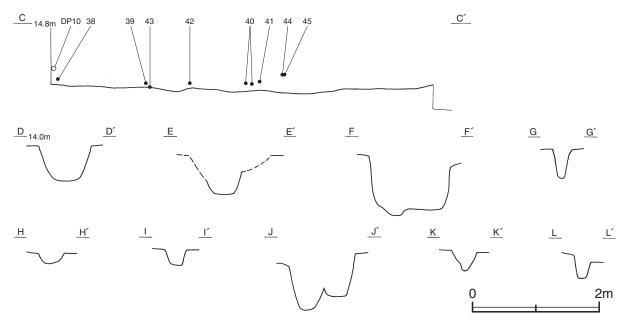
第6号住居跡 (第21~23図)

位置 調査区中央部北端のA3g2区,標高143mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。



第21図 第6号住居跡実測図(1)



第22図 第6号住居跡実測図(2)

規模と形状 北部が調査区域外に延び、南部が撹乱を受けているため、北東・南西軸は $9.64\,\mathrm{m}$ で、北西・南東軸は $7.02\,\mathrm{m}$ しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向は $\mathrm{N}-56\,^\circ$ – E である。壁高は $36\sim57\,\mathrm{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で,硬化面は確認できなかった。貼床は,ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には,壁溝が巡っている。南西壁から中央に向かい,2条の間仕切り溝が延びている。ピット 10 か所。 $P1 \sim P4$ は深さ $44 \sim 58$ cmで,配置から主柱穴である。P8 は深さ 53cmで,貼床を剥がした段階で確認できた。柱の当たりが確認できたことから,古い柱穴と考えられ,本跡は立て替えられた可能性がある。従って,P3 の内側の柱の当たりは立て替え前の柱穴の痕跡と推測できる。 $P5 \sim 7 \cdot 9 \cdot 10$ は深さ $24 \sim 45$ cmで,性格不明である。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子を含み、ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第 10 層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量,焼土粒子極微量

3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・礫少量

4 褐 色 ロームブロック中量,焼土ブロック・炭化粒子・ 礫少量

5 暗 褐 色 ローム粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子・礫微量

6 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子・礫微量,焼土粒

7 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子・礫微量,焼土粒 子極微量

8 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子極微量

9 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

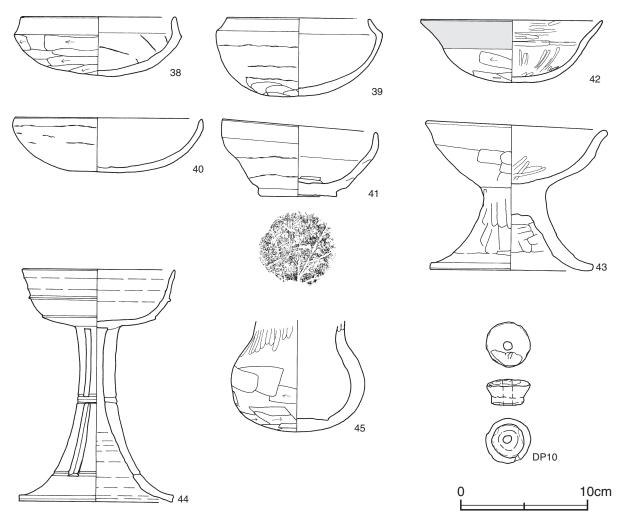
10 褐 色 ロームブロック多量

11 褐 色 ロームブロック中量,細礫・炭化粒子微量

12 褐 色 ロームブロック多量, 細礫微量, 炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片 633 点 (坏 166, 椀 9, 高坏 59, 壺 1, 甕類 347, 甑 51), 須恵器 1 点 (高坏), 粘土塊 1 点が西部を中心に, 覆土中層から下層にかけて出土している。また, 混入した縄文土器片 1 点, 鉄滓 1 点 (17.5 g), 不明鉄製品 1 点も出土している。43 は P 8 付近の床面から, 39 は P 4 の確認面上から, 38 は北部, 40 は P 9 付近, 42 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。41 は中央部の覆土中層から, 44・45 は東壁際, DP10 は北西コーナー付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 44 は TK209 式期に比定でき、覆土上層から出土しており、埋め戻しの際に一括投棄されたものと判断した。時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第23回 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表 (第23図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
38	土師器	坏	12.2	4.7	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	100% PL17
39	土師器	坏	11.3	6.2	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	100% PL17
40	土師器	坏	14.8	4.3	4.4	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ヘラナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	90%
41	土師器	坏	12.1	6.1	6.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面横ナデ 内面一部へラ削り 口縁部外・ 内面横ナデ 木葉痕	覆土中層	95% PL17
42	土師器	坏	14.6	4.9	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外面横 ナデ 内面へラ磨き	覆土下層	70%
43	土師器	高坏	14.1	11.8	[13.0]	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	「坏部外面へラ削り後ナデ調整 内面へラ磨き 脚部外面 ヘラ磨き 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	50% PL21
44	須恵器	高坏	12.2	18.4	12.2	長石	灰	良好	外・内面ロクロナデ 坏部外面下半ヘラ状工具による沈 線 脚部沈線3本 2段透かし3孔	覆土上層	90% PL21
45	土師器	小形壺	-	(8.8)	-	長石・石英・雲母	赤	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 頸部外面縦位のへ ラ磨き 内面ナデ	覆土上層	70% PL22
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材 質			特	出土位置	備考
DP10	紡錘車	3.5	2.0	0.7	(23.2)	土 (長石・石英)	明黄褐色	一方向	句からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土上層	PL28

第7号住居跡 (第 $24 \sim 26$ 図)

位置 調査区中央部のB2c0区,標高14.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.24 m, 短軸 6.11 mの方形で、主軸方向はN $-52 \degree - \text{W}$ である。壁高は $53 \sim 62 \text{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。南東壁中央部には、幅 4.08 m、奥行 0.46 mほどの張り出し部がある。

床 平坦な貼床で、中央部と壁際が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。北東壁と南西壁から各2条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P5付近には、約6cm程の高まりがある。

電 北西壁の中央部に付設されている。撹乱により屋外への掘り込みは確認できなかった。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで 100cmで、燃焼部幅は 46cmである。袖部は床面から 7 cmほど皿状に掘りくぼめた部分に第 $12 \cdot 13$ 層を埋土して、砂粒と礫を含む第 $8 \sim 11$ 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 4 cmほどくぼんでおり、赤変硬化とも弱い。撹乱のため壁外に延びる煙道部は、確認できなかった。

竈土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・細礫・細砂少量
- 2 暗 褐 色 砂質粘土粒子中量,ローム粒子・細礫・細砂少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量, 細礫・細砂少量, ローム粒子・ 炭化粒子微量
- 4 褐 色 焼土粒子中量,炭化粒子・砂質粘土粒子・細礫・ 細砂少量、ローム粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子極微量
- 6 褐 色 ローム粒子・黄褐色砂粒子・細礫少量
- 7 褐 色 黄褐色砂粒中量, ローム粒子少量

- 8 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・細礫少量, 細礫・黄褐色 砂粒微量
- 9 褐 色 黄褐色砂粒中量、細礫少量、微量、炭化粒子極微量
- 10 黄 褐 色 黄褐色砂粒多量, 細礫中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 11 黒 褐 色 細礫中量,ローム粒子少量,焼土粒子微量,炭化 粒子・黄褐色砂粒子極微量
- 12 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子・黄褐 色砂粒子極微量
- 13 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒 子微量, 黄褐色砂粒極微量

ピット 8か所。 $P1\sim P4$ は深さ $60\sim 64$ cmで,配置から主柱穴である。P5は深さ 22cmで,位置や硬化面の広がりと周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。 $P6\cdot 7$ は深さ $30\cdot 26$ cmで,これらも出入り口施設と思われる張り出し部にあることから,出入り口施設に伴うピットと考えられる。P8は深さ 10cmで,床下から確認しており,性格は不明である。

貯蔵穴 西コーナー部に位置している。長軸 98cm, 短軸 76cmの隅丸長方形である。深さは 34cmで,底面は平坦で,壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックを含んでいるが,覆土下層と含有物が類似していることから,自然堆積と判断した。

貯蔵穴土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量、炭化物微量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量 炭化粒子微量

覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。第8・9層は貼床の構築土である。

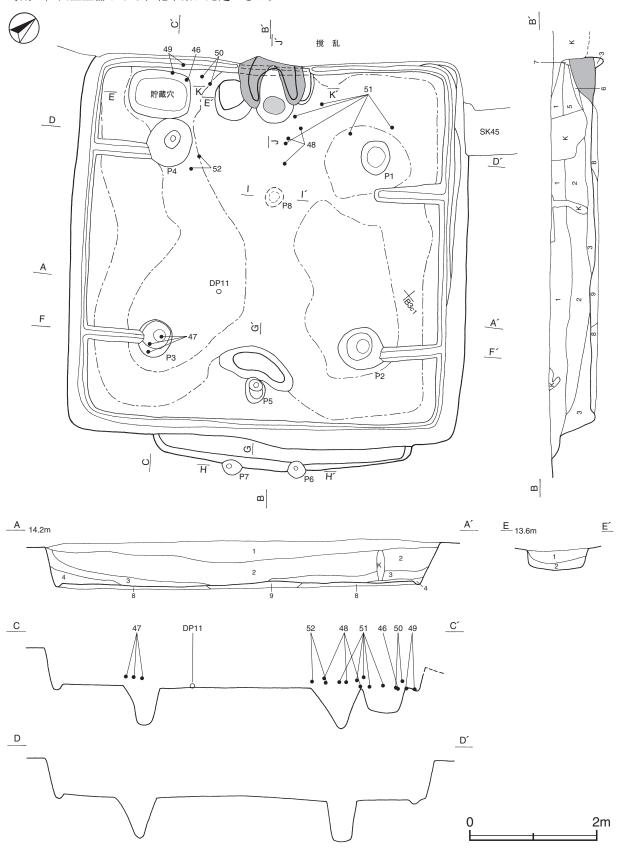
土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子・細礫少量、焼土粒子 9 褐
- 6 暗 褐 色 細礫中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 黒 褐 色 炭化粒子少量
- 8 褐 色 細礫中量, ローム粒子・黄褐色砂粒子少量, 焼土
 - ブロック微量
 - 色 ロームブロック中量, 粘土粒子微量

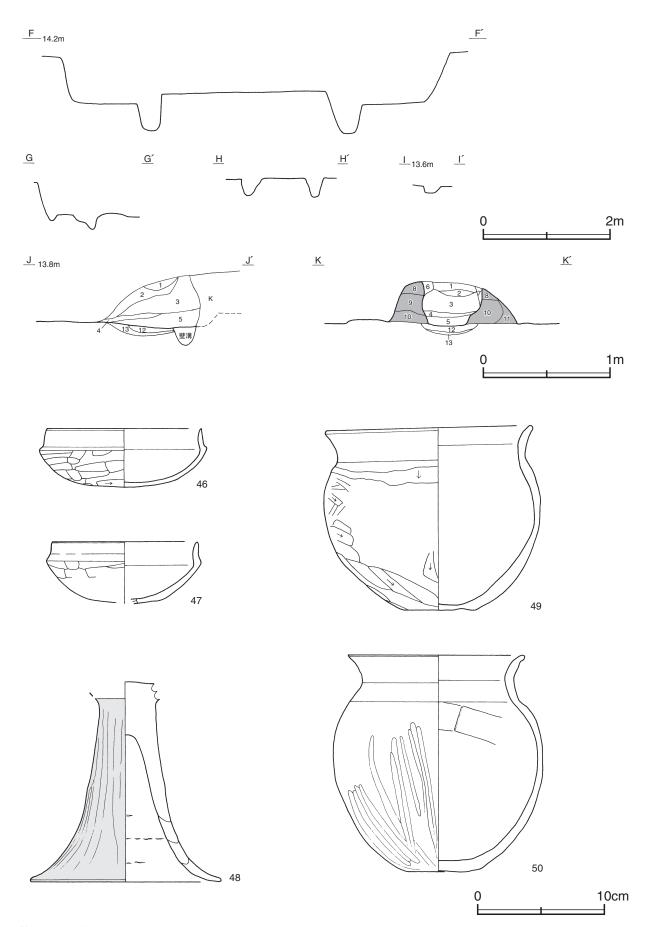
遺物出土状況 土師器片 1322 点 (坏 274, 椀 1, 高坏 24, 甕類 1011, 甑 12), 須恵器片 2点 (坏), 石製品 1点 (臼 玉), 土製品 3点 (支脚 2, 紡錘車 1), 鉄製品 1点 (小札ヵ)が、南東部の覆土中層から下層にかけて細かい破片の状態で出土している。また、流れ込んだ剥片 2点 (珪質頁岩、チャート)も出土している。46 は貯蔵穴の覆土上層から、48 は竈前、50 は北西壁際、DP11 は中央部の床面からそれぞれ出土している。49 は北西壁際の壁溝中及び床上から出土している。47 は P 3 の確認面上、51 は北部、52 は P 4 付近の覆土下層から、TP 2・M 1 は覆土中から、Q 63 は貼床の構築土中からそれぞれ出土している。

所見 大量の遺物が覆土中層から覆土下層にかけて出土していることから、一括投棄されたものと思われる。

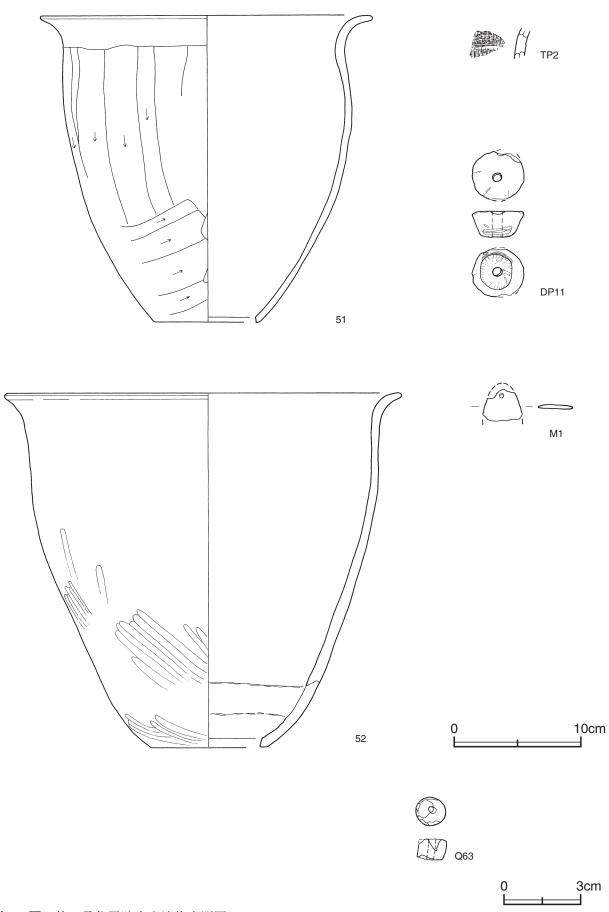
時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第24図 第7号住居跡実測図(1)



第25図 第7号住居跡·出土遺物実測図



第26図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第25・26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	土師器	坏	12.3	4.6	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	明赤褐	普通	外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	貯蔵穴 覆土上層	80% PL17
47	土師器	坏	11.6	(5.0)	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横 ナデ	覆土下層	60% PL17
48	土師器	高坏	-	(15.9)	15.0	長石・石英・雲母	赤褐	普通	脚部外面へラ削り 内面横ナデ 裾部外・内面横ナデ	床面	40%
49	土師器	差	16.1	14.6	6.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ後一部ナデ調整 口縁部外・内面横ナデ	壁溝・床面	80% PL22
50	土師器	差	[13.9]	17.2	4.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 下半へラ磨き 内面へラナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次被熱痕	床面	80% PL23
51	土師器	甑	26.3	24.5	[8.1]	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	70%
52	土師器	甑	31.2	28.2	9.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ下位へラ磨き 内面ナデ下位剥離 口縁部 外・内面横ナデ	覆土下層	70%
			1		1		1			1	
番号	種 別	器種		胎土		色調			手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP2	須恵器	甑	長石・石	5英・雲台		灰	体部平行吗	叩き		覆土中	5%
			1			1	1			1	
番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質			特	出土位置	備考
DP11	紡錘車	4.2	2.1	0.7	(31.6)	土 (長石・石英)	黄灰色 - 欠損	一方向7	からの穿孔 側面一部ヘラ磨き 底面放射状の沈線 一部	床面	PL28
						•	1			1	
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材 質			特 徵	出土位置	備考
Q63	白玉	1.2	0.8	0.3	(1.5)	滑石	二方向から	うの穿孔	凡 全面研磨 一部欠損	貼床構築土	PL29
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特 徵	出土位置	備考
M1	小札ヵ	(2.5)	3.2	0.2	(3.3)	鉄	径 0.3cmの	穿孔	両端欠損	覆土中	PL30

第8号住居跡 (第27~31 図)

位置 調査区中央部のB3a5区,標高14.5mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30号住居跡を拡張し、第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 $9.18\,\mathrm{m}$, 短軸 $9.05\,\mathrm{m}$ の方形で、主軸方向は $\mathrm{N}-36\,^\circ-\mathrm{W}$ である。壁高は $21\sim46\mathrm{cm}$ で、ほぼ直立している。南東壁中央には、幅 $1.96\,\mathrm{m}$ 、奥行 $0.38\,\mathrm{m}$ ほどの張り出し部がある。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、壁溝が巡っている。北東壁から4条、南東壁から1条の間仕切り溝、南西壁から5条の根太跡、北西壁から竈を区切るような2条の間仕切り溝が中央へ延びているのを確認した。P4・8と貯蔵穴の周りには、馬蹄状の高まりが見られる。北東壁及び南東壁の壁溝上から焼土塊を確認した。

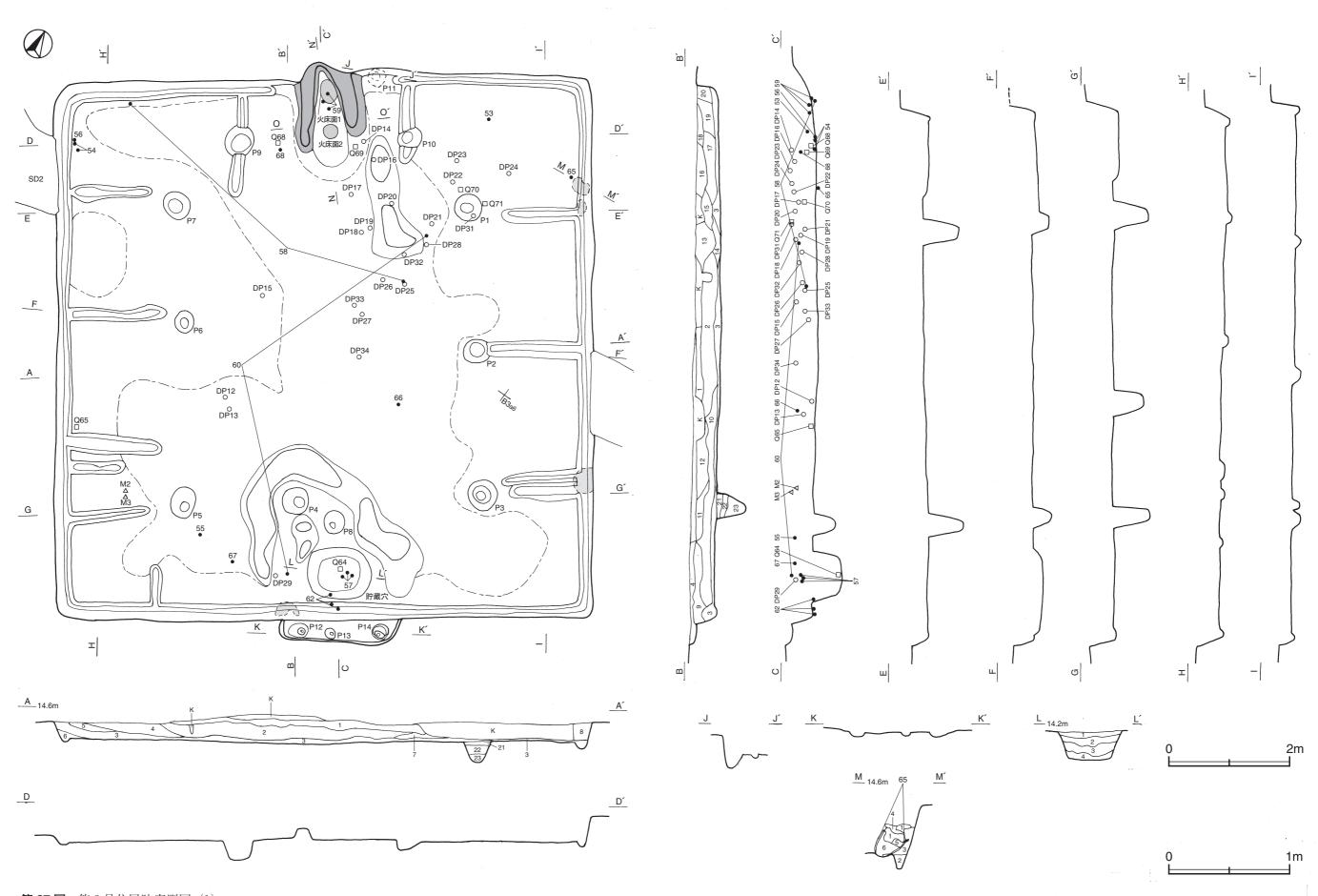
焼土土層解説

1 明赤褐色 焼土粒子極多量,炭化粒子極微量 4 赤褐色 焼土粒子中量

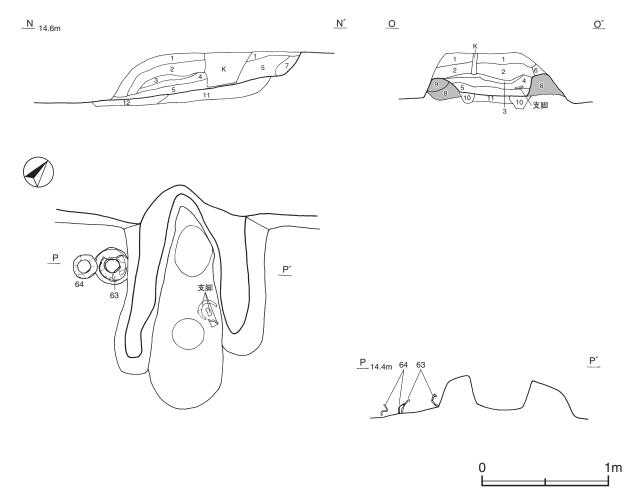
2 褐 色 ローム粒子少量・焼土ブロック極微量 5 褐 色 焼土粒子微量,炭化粒子極微量

3 暗 褐 色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 6 赤 褐 色 焼土粒子多量、炭化粒子微量

電 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで178cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部は、床面から10cmほど掘りくぼめた部分に第10~12層を埋土して、砂質粘土を含む第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は、床面とほぼ同じ高さである。火床面は2か所あり、火床面1は焚口から105cm奥に、火床面2は焚口から48cm奥にあり、どちらも赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。袖の長さや火床面の状況から、縦並びの二掛竈と考えられる。火床面2の右側には支脚に転用したと思われる甕が逆位で出土しており、被熱のため極めて遺存状況が悪かった。



第27図 第8号住居跡実測図(1)



第28 図 第8号住居跡実測図(2)

竈土層解説

- 1 褐 色 焼土ブロック微量, ロームブロック・炭化粒子・ 7 褐 色 ロームブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 砂粒極微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量, 焼土ブロック極微量
- 3 暗 褐 色 焼土ブロック少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子少量,炭化粒子極微量
- 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量
- 色 焼土ブロック微量、ロームブロック・砂質粘土粒 6 褐
- 子極微量
- 8 にぶい褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量
- 9 にぶい褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量, ロームブロック・ 炭化粒子極微量
- 色 焼土粒子少量, ロームブロック微量 10 裾
- 11 褐 色 焼土粒子中量、粘土ブロック・ローム粒子微量
- 12 赤 褐 色 焼土粒子極多量

ピット 14 か所。 P 1 ~ P 7 は深さ 32 ~ 65cmで、配置から主柱穴である。 P 8 は深さ 38cmで、位置や硬化 面の広がりと周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。 P9・10 は深さ 34・18cmで竈を覆う構築物に関わるピットと考えられる。 P 12 ~ P 14 は深さ6~8センチで、これらも出 入り口施設と思われる張り出しにあることから、P8と同じ性格のピットと考えられる。P11は深さ25cmで、 床下から確認したが、性格は不明である。

貯蔵穴 南西壁中央の出入り口ピットの内側に位置している。長軸 109cm、短軸 85cmの隅丸長方形である。 深さは50cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。周囲には、馬蹄状の高まりが見られる。

貯蔵穴土層解説

- 1 灰 褐 色 ローム粒子中量,炭化物少量
- 2 褐 色 ローム粒子微量

- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

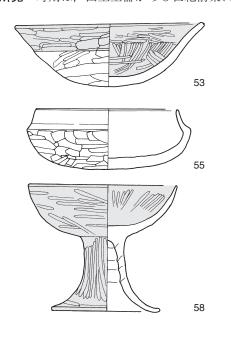
覆土 23層に分層できる。各層がローム粒子や焼土粒子を主体にした覆土であることから,埋め戻されている。

土層解説

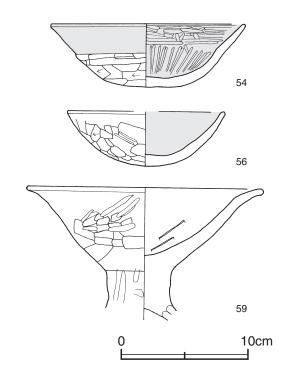
1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量 12 暗 褐 色 ローム粒子微量 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量 13 褐 色 ローム粒子微量,炭化粒子極微量 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量 14 黒 褐 色 ローム粒子少量 4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 15 極暗褐色 焼土ブロック中量,炭化物極微量 5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物極微量 16 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物極微量 色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子極微量 17 褐 色 焼土粒子少量, ロームブロック微量, 炭化粒子極 6 褐 焼土粒子少量, ローム粒子微量, 炭化粒子極微量 7 暗褐色 微量 色 ローム粒子・焼土粒子極微量 8 暗褐色 炭化物・焼土粒子微量, ローム粒子極微量 18 裾 褐 色 ローム粒子中量 ローム粒子中量、焼土ブロック微量、炭化粒子極 19 色 ローム粒子多量、焼土粒子極微量 微量 20 裾 10 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量,炭化粒子極 21 裾 色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 微量 22 暗 褐 色 ロームブロック微量, 焼土粒子極微量 11 灰 褐 色 ローム粒子中量,炭化材・焼土粒子極微量 23 褐 色 ロームブロック微量

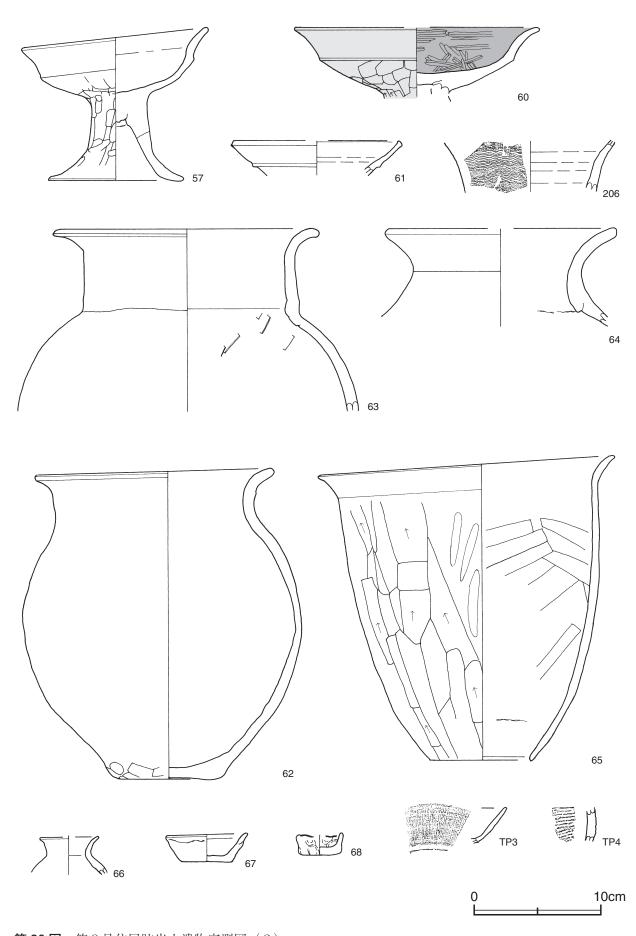
遺物出土状況 土師器片 3717 点(坏 1613、椀 1、高坏 196、壺 5、甕類 1899、甑 1、ミニチュア土器 2)、須恵器片 3 点(坏 1、腿 2)、土製品 23 点(支脚 1、勾玉 3、土玉 16、臼玉 3)、石器 5 点(砥石 4、金床石 1)、石製品 3 点(臼玉 2、棗玉 1)、鉄器 2 点(刀子)、炭化種子 3 点が、出入口部や P 1 付近を中心に覆土上層から下層にかけて細かい破片の状態で出土している。また、混入した須恵器片 2 点(瓶)、石核 1 点(チャート)剥片 4 点(チャート)も出土している。Q 64 は貯蔵穴の覆土下層から、54・56・Q 65 は南西壁際、63・64・Q 68 は竈左袖、DP12 は中央部、65 は北東壁から焼土が中に詰まった立位の状態で、それぞれ床面から出土している。63・64 は口縁部から体部上端までしか残存しておらず、器台として床上に据えられていたと考えられる。53 は北コーナー、58 は北西壁と中央部、59 は竈内、62 は出入口付近の壁下、68 は竈左袖付近、Q 69 は竈右袖付近、DP13 は中央部の覆土下層から、55・67・M 2・M 3 は南部、57・DP29 は出入口付近、60 は P 1 付近と出入口、66 は中央部、Q 70・Q 71 は P 1 付近の覆土中層からそれぞれ出土している。61・TP 3・TP 4・Q 66・Q 67 は覆土中から、DP30 は竈内の覆土中からそれぞれ出土している。DP14~28・DP31~34 は、竈前から北コーナー部の広い範囲にかけて投げ込まれたように覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。

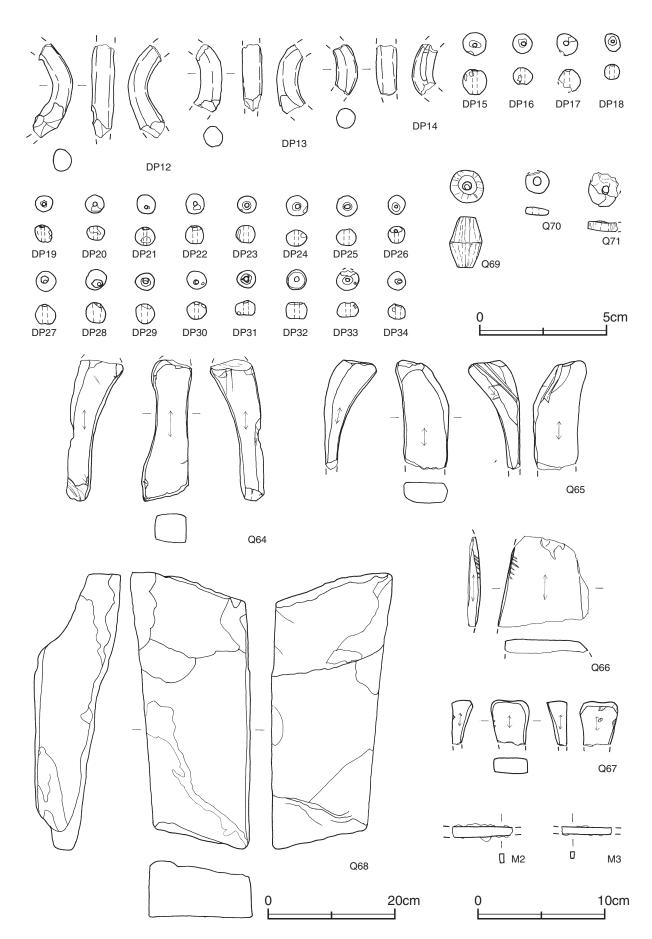


第29図 第8号住居跡出土遺物実測図(1)





第30図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)



第31図 第8号住居跡出土遺物実測図(3)

第8号住居跡出土遺物観察表(第29~31図)

NA O	'J LL./E	1 11/11. 口口		12.7 世儿为	12	(/ J / L L	, 01	四)					
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備	考
53	土師器	坏	14.9	5.2	-	長石・石	万英・雲母	にぶい黄	橙普通	体部外面へラ削り 上位へラ磨き 内面へラ磨き 口 縁部外面へラ磨き	覆土下層	95%	PL17
54	土師器	坏	15.4	5.1	-	長石・石 赤色粒	「英・雲母・ 子	橙	普通	体部外面へラ削り 内面縦位のヘラ磨き 口縁部外面 横ナデ 内面横位のヘラ磨き	床面	95%	PL17
55	土師器	坏	11.2	4.8	-	長石・石	万英・雲母	にぶい黄	橙 普通	体部外面へラ削り 口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	60%	PL17
56	土師器	坏	[12.4]	4.3	-	長石・石	万英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後一部ナデ 内面摩耗 口縁部外面 横ナデ	床面	85%	PL17
57	土師器	高坏	14.5	12.1	[10.8]	長石・石	5英・雲母	にぶい木	登 普通	坏部下位へラ削り後ナデ 脚部外面へラ削り 内面へ ラナデ 口縁部外面横ナデ	覆土中層	85%	PL21
58	土師器	高坏	11.6	10.1	8.6	長石・石	万英	にぶい黄	橙普通	坏部外面横位のヘラ磨き 内面一部不鮮明 脚部外面 縦位のヘラ磨き 内面ナデ	覆土下層	70%	PL21
59	土師器	高坏	18.8	(10.5)	-	長石・石 細礫	5英・雲母・	橙	普通	坏部外面へラ削り後一部へラ磨き 内面一部ヘラナデ 脚部外面へラ削り後一部ヘラ磨き 二次被熱痕	竈内覆土 下層	40%	
60	土師器	高坏	[19.2]	(5.2)	-	長石・石	万英・雲母	橙	普通	坏部外面へラ削り 内面へラ磨き 口縁部外面横ナデ 内面へラ磨き	覆土中層	45%	
61	須恵器	應	[13.2]	(2.8)	-	長石・石	万英・雲母	灰色	普通	外・内面ロクロナデ 自然釉	覆土中	5%	
62	土師器	漉	18.6	24.6	8.0	赤色粒		橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	覆土下層	70%	PL23
63	土師器	進	20.4	(14.5)	-	長石・石 赤色粒	「英・雲母・ 子・細礫	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 頸部外面へ ラナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	20%	PL24
64	土師器	甕	17.9	(7.8)	-	長石・石	万英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	床面	20%	PL24
65	土師器	甑	23.3	24.1	8.0	長石・石 赤色粒	「英・雲母・ 子	橙	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き 内面へラナデ	床面	95%	PL26
66	土師器	ミニチュア 土器	[4.6]	(2.9)	-	長石・石	万英・雲母	橙	普通	体部外面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	30%	
67	土師器	ミニチュア 土器	6.3	2.3	4.0	長石・石	万英・雲母	橙	普通	体部外・内面横ナデ	覆土中層	80%	PL20
68	土師器	手捏土器	[3.3]	1.7	2.8	長石・石	5英・雲母	にぶい木	登 普通	指頭圧痕	覆土下層	50%	
206	須恵器	應	-	(4.1)	-	長石・石	万英	灰	良好	頸部外面に櫛歯状工具による波状文	覆土中	5%	
番号	種 別	器種		胎 土		ť	五調			手法の特徴ほか	出土位置	備	考
TP3	須恵器	璲	長石・	雲母			灰	口縁部外	面縦位の		覆土中	5%	
TP4	土師器	甑	長石・石	石英・雲+			橙	体部平行	叩き		覆土中	5%	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材	質		特 徵	出土位置	備	考
DP12	勾玉	(3.7)	(0.9)	0.9	-	(0.6)	土 (石英)		にぶい褐	色 ナデ 両端欠損	床面	PL27	
DP13	勾玉	(2.7)	(0.8)	0.8	-	(0.5)	土(石英	・雲母)	黒色 ナ	デ 両端欠損	覆土下層	PL27	
DP14	勾玉	(2.0)	(0.8)	0.8	-	(0.4)	土(長石	・石英)	褐灰色	ナデ 両端欠損	覆土中層	PL27	
		1		1		^		·			1	•	
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材	質			特	出土位置	備	考
DP15	土玉	1.0	0.9	0.2	1.0	土(雲		黒褐色	一方向か	らの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27	—
DP16	土玉	0.8	0.7	0.2	0.5	土(石	英)	黒色 一	·方向から	の穿孔 ナデ	覆土中層	PL27	
DP17	土玉	0.9	0.8	0.2	(0.6)	 	万・石英)	黒色 一	·方向から	の穿孔 ナデ 一部欠損	覆土中層	PL27	
DP18	土玉	0.7	0.6	0.2	0.4	土(石芸	英)	黒色 一	方向から	の穿孔 ナデ	覆土中層	PL27	—
DP19	土玉	0.7	0.7	0.2	0.3	土(長石	万)	黒色 一	方向から	の穿孔 ナデ	覆土下層	PL27	—
DP20	土玉	0.7	0.7	0.2	0.4	土(石	英)	灰褐色	一方向か	らの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27	—
DP21	土玉	0.8	0.8	0.1	0.6	土(石	英)	橙色 一	·方向から	の穿孔 ナデ	覆土下層	PL27	
DP22	土玉	0.7	0.7	0.2	0.5	土(長石	万)	黒色 一	·方向から	の穿孔 ナデ	覆土中層	PL27	
DP23	土玉	0.7	0.7	0.2	0.4	土(長石	万)	黒色 一	・方向からの	の穿孔 ナデ	覆土下層	PL27	—
DP24	土玉	0.9	0.6	0.2	0.5	土(長石	万)	黒色 一	・方向からの	の穿孔 ナデ	覆土中層	PL27	
			ļ		ļ								

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徵	出土位置	備考
DP25	土玉	0.8	0.6	0.2	0.5	土(長石·赤色粒子)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP26	土玉	0.7	0.7	0.1	0.4	土 (石英)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP27	土玉	0.8	0.8	0.3	0.5	土 (石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP28	土玉	0.8	0.8	0.4	0.6	土 (石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP29	土玉	0.8	0.8	0.2	(0.4)	土 (長石)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土中層	PL27
DP30	土玉	0.8	0.7	0.2	0.4	土 (石英)	にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	竈内覆土中	PL27
DP31	白玉	0.7	0.5	0.2	0.3	土 (石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP32	白玉	0.8	0.6	0.2	0.6	土 (石英)	明褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP33	白玉	0.9	0.6	0.2	(0.4)	土 (長石)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土下層	PL27
DP34	白玉	0.8	0.6	0.3	0.3	土 (石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
Q64	砥石	(11.2)	4.0	4.3	(148.0)	凝灰岩	低面 3 面	貯蔵穴 覆土下層	PL29
Q65	砥石	(8.6)	4.3	4.2	(98.7)	凝灰岩	砥面4面のうち1面に溝状の研磨痕	床面	PL29
Q66	砥石	(7.2)	7.2	1.1	(56.6)	粘板岩	砥面2面のうち1面に溝状の研磨痕 裏面全面に渡り剥離	覆土中	
Q67	砥石	(3.6)	3.0	1.6	(22.3)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	
Q68	金床石	43.9	19.2	13.8	11600	砂岩	全面被熱痕	床面	PL29
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特	出土位置	備考
Q69	泰玉	1.3	2.0	0.4	4.6	黒色頁岩	二方向からの穿孔 全面研磨	覆土下層	PL29
Q70	白玉	0.9	0.9	0.3	(0.4)	滑石	一方向からの穿孔 全面研磨 一部欠損	覆土中層	PL29
Q71	白玉	1.2	1.4	0.3	(0.7)	滑石	一方向からの穿孔 全面研磨 一部欠損	覆土中層	PL29
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	出土位置	備考
M2	刀子	(4.8)	0.9	0.3	(4.8)	鉄	茎部の一部 両端欠損	覆土中層	
М3	刀子ヵ	(3.9)	0.6	0.3	(2.9)	鉄	茎部の一部 両端欠損	覆土中層	

第9号住居跡 (第32·33 図)

位置 調査区中央部のB3g4区,標高14.4mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 47・81 号土坑に掘り込まれている。

ピット 4か所。 $P1\cdot 2$ は深さ $91\cdot 86$ cmで,配置から主柱穴である。P3 は深さ 35cmで,位置や硬化面の広がりや周囲に馬蹄状の高まりが見られることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P4 は深さ 23cmで,P3 に付随するピットと考えられる。

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロック等を含み、不自然な堆積状況であることから人為堆積である。 第8・9層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 2 褐

色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・

炭化粒子極微量

4 暗 褐 色 ローム粒子少量

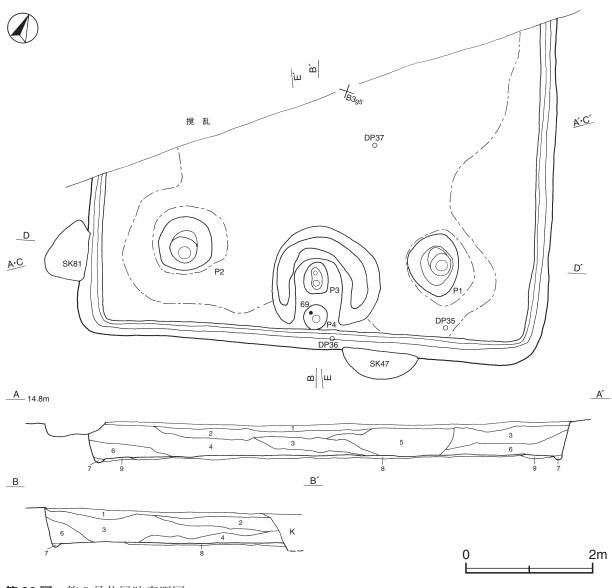
5 極暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・ 炭化粒子極微量

6 暗 褐 色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量

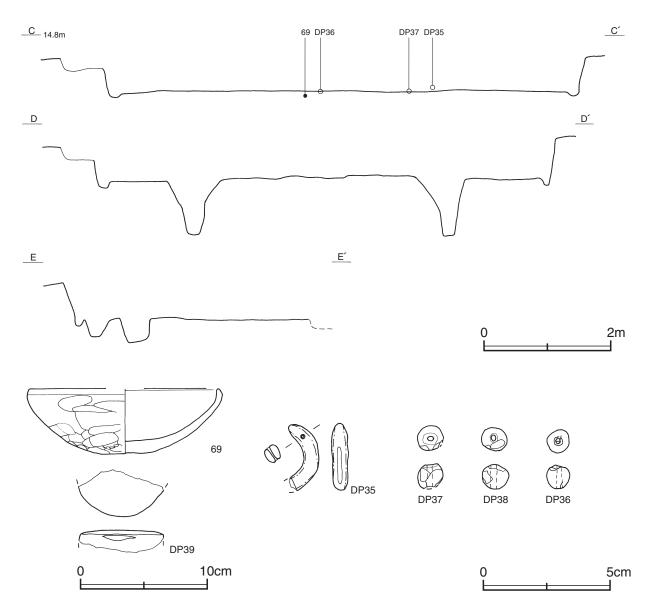
7 裾 色 ローム粒子中量 8 暗 褐 色 ロームブロック中量

色 ロームブロック中量 9 褐

遺物出土状況 土師器片 560 点 (坏 84, 椀 1, 高坏 18, 甕類 450, 甑 7), 土製品 5 点 (勾玉 1, 土玉 3, 支脚 1), 鉄滓6点(53.8g)が南部の覆土上層から中層を中心に出土している。また,混入した縄文土器片2点(深鉢) も出土している。DP37 は中央部の床面から、69 は P 4 の覆土上層、DP38 は P 3 の覆土中、DP36 は南壁溝 の覆土中からそれぞれ出土している。DP35 は南壁際の覆土下層、DP39 は覆土中からそれぞれ出土している 所見 大量の遺物が覆土上層から覆土中層にかけて出土していることから、埋め戻しの際に一括投棄された ものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第32図 第9号住居跡実測図



第33図 第9号住居跡・出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表(第33図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備	考
69	土師器	坏	[15.0]	5.2	-	長石・雲	長母	褐灰	普通	体部外面へラ削り後一部ヘラナデ 内面横ナデ 口縁部 外・内面横ナデ 底部ヘラ削り後ナデ	P 4 覆土上層	40%	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材	質		特 徵	出土位置	備	考
DP35	勾玉	(2.6)	(1.3)	0.6	0.1	(1.8)	土(長石 雲母・黒6	· 石英 · 色粒子)	にぶい	・黄橙色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土下層	PL27	
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材	質			特 徵	出土位置	備	考
DP36	土玉	0.9	0.9	0.2	0.7	土(長石	「・石英)	にぶいす	黄褐色	一方向からの穿孔 ナデ	壁溝内	PL27	
DP37	土玉	1.0	1.0	0.2	(0.9)	土 (長石	「・石英)	褐色 -	一方向力	いらの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL27	
DP38	土玉	1.0	1.0	0.3	0.8	土(石芽	英・砂粒)	にぶい神	曷色 -	- 方向からの穿孔 ナデ	P3覆土中	PL27	
						1					^		
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材	質			特	出土位置	備	考
DP39	紡錘車	(6.8)	1.8	-	(27.7)	土(長石	「・石英)	明黄褐色	色 ナラ	7	覆土中		

第 10 号住居跡 (第 34·35 図)

位置 調査区中央部南端のB3i5区,標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

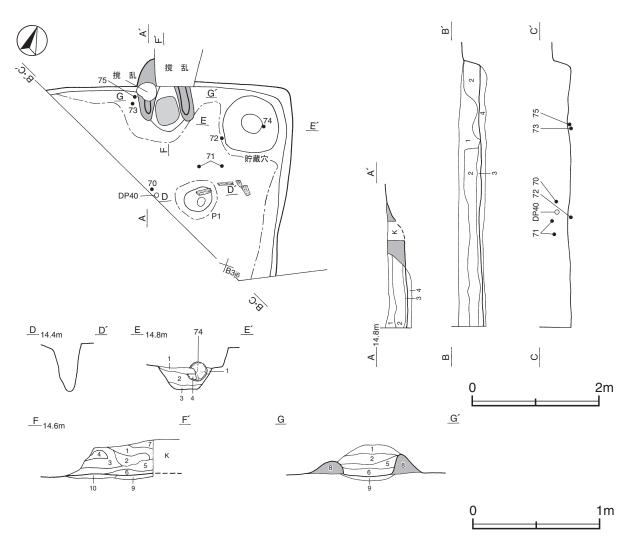
規模と形状 北東コーナー部以外のほとんどが調査区域外に延びているため、長軸 3.84~m、短軸 3.00~mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-26~e Wである。壁高は 30~e 36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、全面が踏み固められている。貼床は、ローム粒子主体の暗褐色土を埋土して構築されている。床面には、柱状の炭化材が出土した。

電 確認できた北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部までは撹乱のため 64cmしか確認できなかった。燃焼部幅は 48cmである。袖部は、床面と同じ高さに砂粒を含む第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 4 cm くぼんでおり、火床面は赤変硬化している。壁外に延びる煙道部は、撹乱のため確認できなかった。第4層は、天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量,砂質粘土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量
- 3 黒 褐 色 焼土粒子微量, ローム粒子・白色粒子極微量
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子多量
- 5 褐 色 焼土ブロック微量, ロームブロック極微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子微量
- 7 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 8 褐 色 砂粒子多量
- 9 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量



第34図 第10号住居跡実測図

ピット 深さ76cmで,配置から主柱穴である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 92cm, 短径 88cmの円形である。深さは 48cmで, 底面は平坦である。壁は, 外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐 色 ロームブロック微量 2 暗 褐 色 炭化物・焼土粒子極微量 4 暗 褐 色 ロームブロック極微量

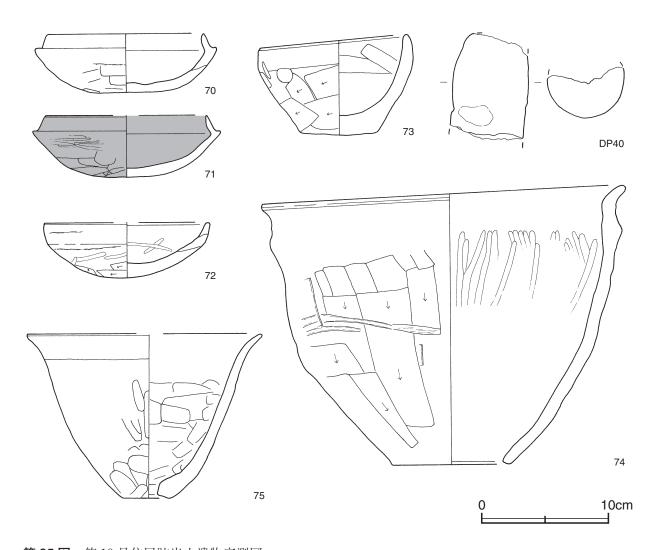
覆土 3層に分層できる。各層にローム粒子やブロックが含まれていることから、人為堆積である。第4層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック微量, 炭化粒子極微量 3 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 172 点(坏 60, 椀 8, 鉢 1, 甕類 94, 甑 9), 土製品 6 点(支脚)が出土している。また、混入した土師質土器片 1 点(擂鉢)も出土している。74 は貯蔵穴内、72 は貯蔵穴付近の床面からそれぞれ出土している。73・75 は竈左袖付近の床上から 73 の上に 75 が据えられた状態で出土している。70 は中央部、71 は北部、DP40 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 床は焼けていないが、炭化材の出土状況から焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第35図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表(第35図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
70	土師器	坏	12.4	4.7	-	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後上位を中心に横ナデ 口縁部外・内 面横ナデ	覆土上層	70%
71	土師器	坏	[12.8]	4.9	-	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部外面へラ削り 上位へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	覆土上層	30%
72	土師器	坏	[13.0]	4.4	-	長石·石英·雲母· 細礫	橙	普通	体部外面へラ削り 上位へラナデ 内面横ナデ後一部へ ラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	50%
73	土師器	鉢	11.5	8.0	6.2	長石·石英·雲母· 細礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデー部ヘラナデ	床面	80% PL21
74	土師器	甑	28.6	22.1	9.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 一部へラ当て痕 内面へラナデ後上 位縦方向のヘラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	貯蔵穴 覆土中	100%
75	土師器	甑	[18.5]	13.1	3.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下位へラ削り 上位ナデ 内面ナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	床面	40%

番号	器種	高さ	最大径			材	質	特 徵	出土位置	備考
DP40	支脚	(8.5)	(6.1)	(5.5)	(171.4)	土(長石· 赤色粒子)	石英・	橙色 ナデ 一部欠損	覆土上層	

第 11 号住居跡 (第 36 · 37 図)

位置 調査区中央部のB3e6区,標高14.7mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部は撹乱を受けているため、北東・南西軸は $5.70~\rm m$ で、北西・南東軸は $4.26~\rm m$ しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向は $N-45~\rm e^{-}E$ である。壁高は $40~\rm e^{-}57cm$ で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、北東壁際の一部を除いて踏み固められている。貼床は、ロームブロック等を主体とする 褐色土と極暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。南西壁から1条 の中央部へ延びる間仕切り溝が確認できた。

ピット 6か所。 $P1\sim P4$ は深さ $88\sim 98$ cmで,配置から主柱穴である。P5は深さ 37cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ 14cmで,床下から確認されており,性格は不明である。

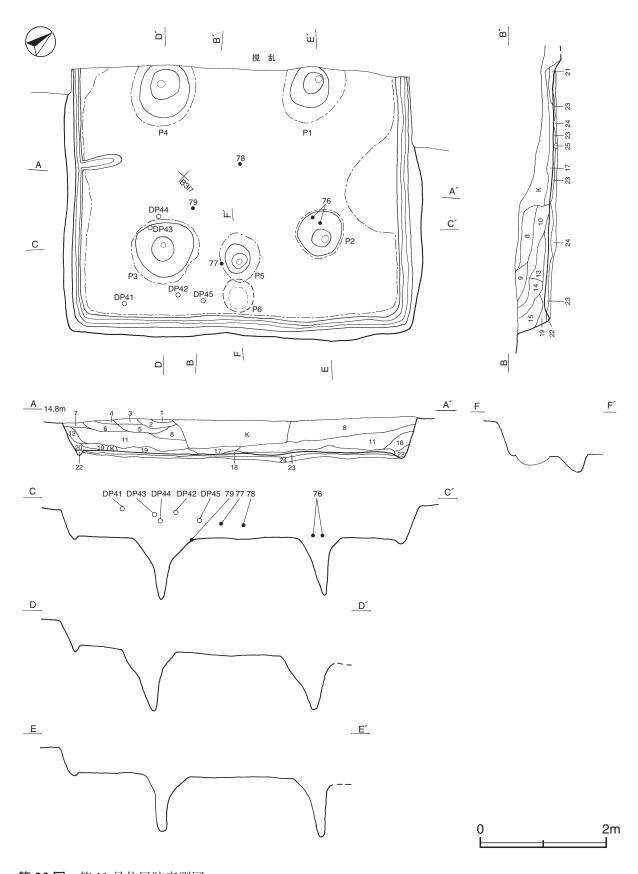
覆土 22 層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第23~25 層は、貼床の構築土である。

土層解説

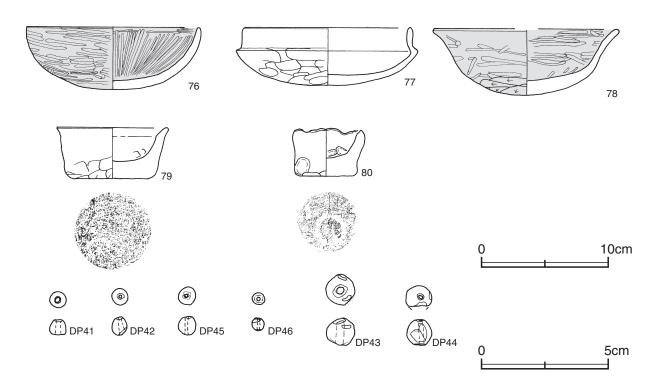
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 14 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 15 暗 褐 色 ロームブロック中量 (締まり弱い) 16 暗 褐 色 ロームブロック中量 (締まり普通) 3 暗 褐 色 ロームブロック少量 褐 色 ローム粒子中量 (締まり弱い) 17 暗 褐 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 4 色 18 褐 5 黒 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 色 ロームブロック中量 (締まり普诵) 6 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 19 暗 褐 色 ロームブロック多量 7 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 20 褐 色 ローム粒子少量 21 褐 8 暗 褐 色 ローム粒子中量 (締まり普通) 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 22 裾 色 ロームブロック中量 (締まり弱い) 9 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 10 暗 褐 色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 23 褐 色 ロームブロック少量 11 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 24 褐 色 ロームブロック多量 12 暗 褐 色 ロームブロック少量 25 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 13 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片 419 点 (坏 210, 椀 1, 高坏 5, 甕類 176, 甑 27), 須恵器片 1 点 (高坏), 土製品 8 点 (支脚 2, 土玉 6), 鉄澤 5 点 (13.8 g) が, 南東壁付近の覆土上層から中層にかけて出土している。また, 混入した縄文土器片 2 点 (深鉢), 須恵器片 1 点 (蓋) も出土している。76 は P 2 の覆土上層, 79 は P 3 付近の床面から出土している。77 は P 5 付近, 78 は中央部, DP42・DP45 は南東壁際, DP43・DP44 は P 3 付近の覆土中層から, DP41 は南東壁際の覆土上層から, 80・DP46 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 大量の遺物が覆土上層から覆土中層にかけて出土していることから、埋め戻しの際に一括投棄された ものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第36図 第11号住居跡実測図



第37図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表(第37図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
76	土師器	坏	13.8	5.0	-	長石・雲母・赤色 粒子	赤	普通	体部外面横位のヘラ磨き 内面縦位のヘラ磨き	P 2 覆土上層	95% PL17
77	土師器	坏	13.2	4.8	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り 口縁部外内面横ナデ	覆土中層	40%
78	土師器	坏	[14.6]	5.0	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ磨き 下位へラ削り 内面へラ磨き 口 縁部内面へラ磨き	覆土中層	30%
79	土師器	ミニチュア 土器	8.8	4.1	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面上半横ナデ 下半ナデ 内面へラナデ後ナデ 調整	床面	95% PL20
80	土師器	手捏土器	5.3	3.8	4.8	長石·石英·雲母· 細礫	橙	普通	体部外内面ナデ 指頭圧痕	覆土中	80% PL20

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材 質	特 徵	出土位置	備考
DP41	土玉	0.7	0.6	0.2	0.3	土 (細砂)	にぶい褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土上層	PL27
DP42	土玉	0.7	0.7	0.3	0.3	土 (細砂)	にぶい褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP43	土玉	1.2	1.1	0.4	1.4	土 (雲母)	灰褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP44	土玉	(1.0)	1.0	0.1	(0.8)	土 (雲母)	にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土中層	PL27
DP45	土玉	0.7	0.7	0.1	0.4	土 (細砂)	にぶい橙色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP46	土玉	0.5	0.5	0.1	0.1	土 (細砂)	にぶい黄橙色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中	PL27

第 12 号住居跡 (第 38 ~ 42 図)

位置 調査区中央部のB3f9区,標高14.7mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第122号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南東コーナー部の上層が撹乱を受けていたが、長軸 8.05 m、短軸 7.95 mの方形である。主軸方向はN -4 $^{\circ}$ - E である。壁高は $17 \sim 42$ cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。貼床は、ローム粒子主体の褐色土を埋土して構築されて いる。壁下には、壁溝が巡っている。東・南壁から2条ずつ、西壁から3条の中央へ延びる間仕切り溝が確 認できた。P5と貯蔵穴2の周りには、馬蹄状の高まりが確認できた。

電 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで172cmで、燃焼部幅は47cmである。袖部は、 床面から深さ12cmの皿状に掘りくぼめ、ロームブロックや砂質粒子等を含む第19~23層を埋土して、砂質 粒子を多く含む第14~18層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmくぼんでおり、火床面は 赤変硬化している。煙道部は壁外に 48cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

1 にぶい褐色 砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 12 にぶい赤褐色 焼土粒子中量,砂質粘土ブロック微量 色 砂粒微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 13 明 赤 褐 色 焼土ブロック中量 色 燒土粒子少量,砂質粘土粒子微量 14 褐 色 砂粒多量, 燒土粒子極微量 4 暗 褐 色 ローム粒子微量, 焼土粒子・砂粒極微量 15 赤 褐 色 焼土粒子極多量,砂粒微量 5 にぶい赤褐色 焼土粒子中量,砂質粘土ブロック微量 16 褐 色 焼土粒子・砂粒・小礫微量, ローム粒子極微量 6 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量, 砂粒極微量 17 灰 褐 色 粘土粒子中量,小礫・焼土粒子・炭化粒子微量 7 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ロームブロッ 18 褐 色 粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量, ク極微量 19 暗赤褐色 焼土ブロック極多量,砂粒微量 8 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・砂粒極微量 20 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量、小礫微量 9 明 褐 色 ローム粒子多量 21 赤 褐 色 焼土粒子少量, ロームブロック微量, 砂粒極微量 10 暗赤褐色 焼土粒子多量,砂質粘土粒子中量,ローム粒子微量 22 裾 色 ローム粒子多量 11 明 赤 褐 色 焼土粒子多量 23 褐 色 焼土粒子・砂粒中量、ロームブロック極微量

ピット 8か所。P1~P4は深さ78~94cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ38cmで、位置や硬化 面の広がりや周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。床下から確認し たP6~P8は深さ42~48cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に位置し、長軸114cm、短軸82cmの隅丸長方形である。深さは 54cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南壁中央部に位置し、長軸74cm、短軸 64cmの隅丸長方形である。底面は平坦で,壁は外傾して立ち上がっている。周囲には,馬蹄状の高まりがある。 両貯蔵穴は同時に機能していたものと思われる。

色 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子極微量 3 暗 褐 色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロッ 1 裾 色 砂質粘土粒子少量,ローム粒子・焼土粒子・炭化 ク・炭化粒子微量 粒子極微量

貯蔵穴2土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 3 褐 色 ローム粒子微量 色 砂質粘土粒子微量,燒土粒子極微量

覆土 16 層に分層できる。各層にロームブロックが混じり、不自然な堆積状況であることから埋め戻されて いる。第17・18層は、貼床の構築土である。

1 暗 褐 色 ロームブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 11 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 3 褐 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量

色 ローム粒子・砂粒少量,炭化粒子微量,焼土粒子 5 褐 極微量

6 灰 褐 色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化物微量、焼土粒子極微量 7

8 暗 褐 色 ロームブロック少量

色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量 9 裾

10 灰 褐 色 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量, 焼土ブロッ ク・ローム粒子極微量

色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 12 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子・赤色粒子微量

13 裾 色 ローム粒子中量, 焼土粒子極微量

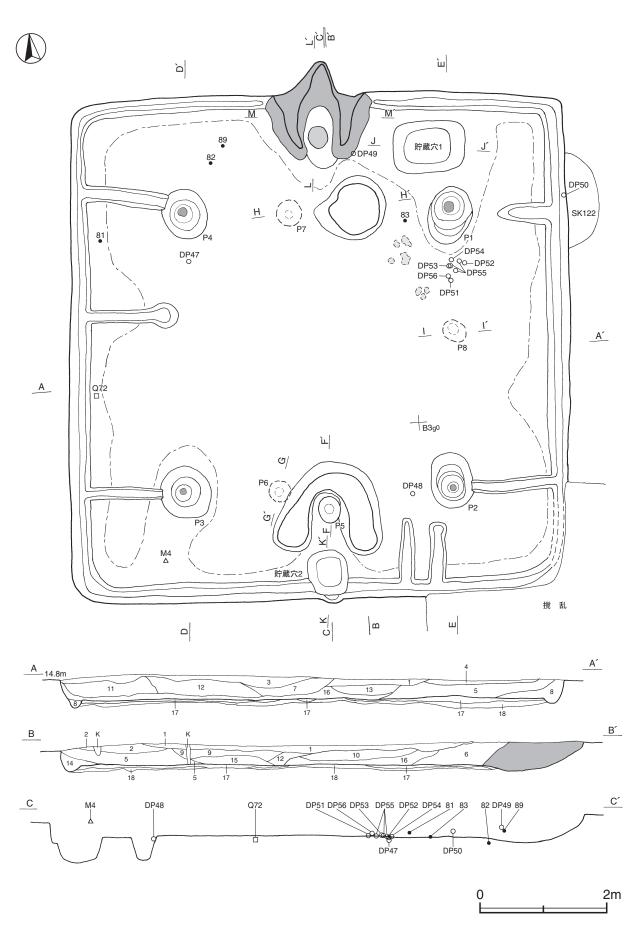
14 褐 色 ローム粒子中量

色 ロームブロック少量 15 褐

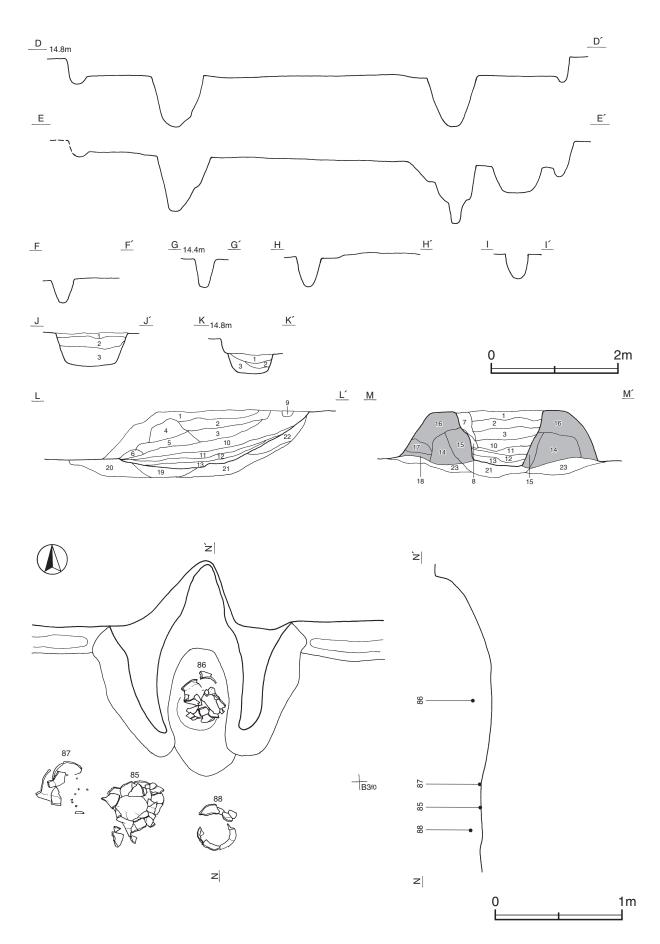
16 にぶい褐色 ロームブロック微量,砂質粘土ブロック・焼土粒 子極微量

17 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子極微量

18 裾 色 ローム粒子多量



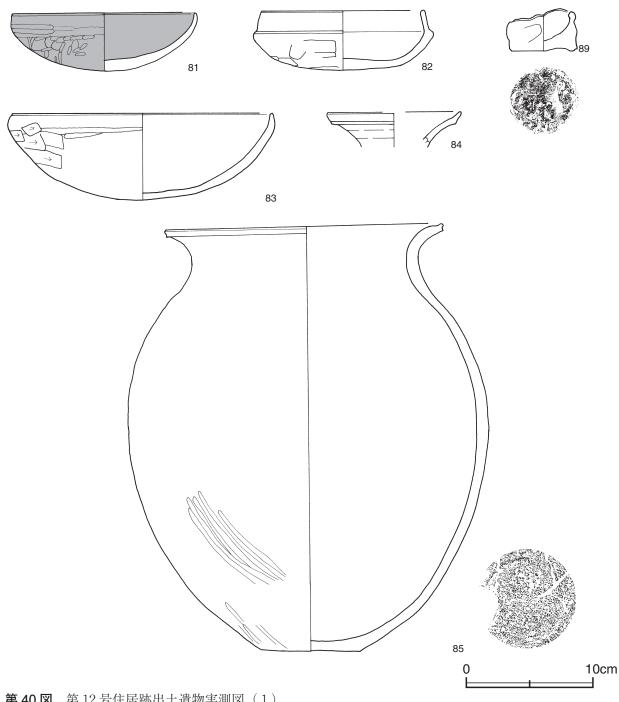
第38図 第12号住居跡実測図(1)



第39図 第12号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片 647 点 (坏 66, 椀 1, 高坏 5, 甕類 553, 甑 18, ミニチュア土器 2, 手捏土器 2), 土製品13点(支脚3,土玉10),石製品1点(臼玉),鉄器1点(鉄鏃)が竈前を中心とした北部の覆土中層 から下層にかけて多く出土している。DP47 はP4付近,83 はP1付近,85·87·88 は竈前,Q72 は西壁際, DP48 は P 2 付近の床面から、86 は竈内からそれぞれ出土している。DP51 ~ 56 は P 1 付近の床上からまと まって出土している。81 は西壁際, DP50 は東壁際の覆土下層から, 89 は北部, DP49 は竈付近の覆土中層か ら、M4は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。84は、覆土中から出土している。

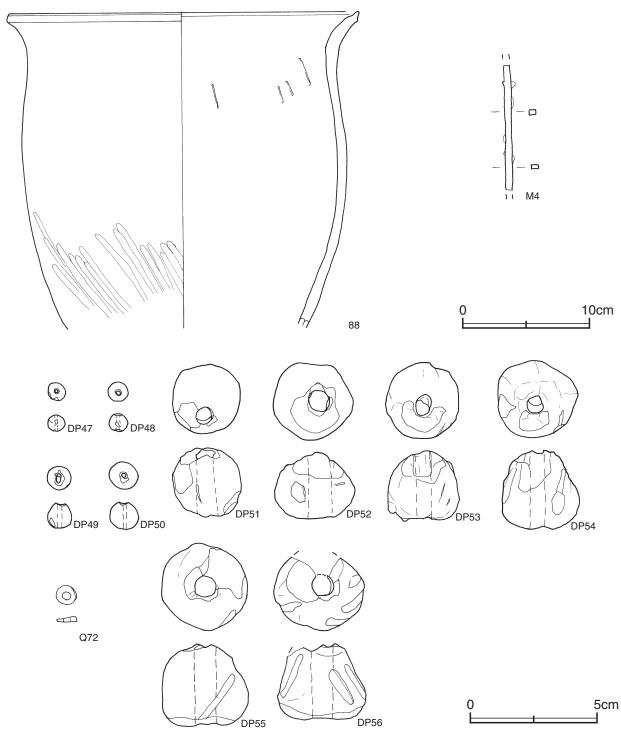
所見 大量の遺物が覆土上層から覆土中層にかけて出土していることから、埋め戻しの際に一括投棄された ものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第40図 第12号住居跡出土遺物実測図(1)



第41 図 第12号住居跡出土遺物実測図(2)



第42図 第12号住居跡出土遺物実測図(3)

第 12 号住居跡出土遺物観察表(第 40 \sim 42 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
81	土師器	坏	14.6	4.6	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 上位へラ磨き 口縁部外・内面横ナ デ	覆土下層	95% PL17
82	土師器	坏	13.0	4.7	-	長石	浅黄橙	普通	体部外面へラ削り 口縁部外・内面横ナデ	床面	95% PL17
83	土師器	坏	20.6	6.9	-	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい褐	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・内 面横ナデ	床面	80% PL20
84	須恵器	瓱	[10.6]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	暗オリープ灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
85	土師器	甕	21.8	33.9	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ下位へラ磨き 内面ナデ 口縁部外・内面 横ナデ 二次被熱痕	床面	90% PL25

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	土師器	進	19.0	(31.6)		長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・内 面横ナデ	竈内	50%
87	土師器	甑	28.0	31.6	9.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り下半ヘラ磨き 内面へラナデ後下位へ ラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	95%
88	土師器	甑	27.8	(25.2)		長石·石英·雲母· 赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ナデ下位縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 口縁 部外・内面横ナデ	床面	70%
89	土師器	手捏土器	5.1	3.3	5.3	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ナデ	覆土中層	100%
番号	器 種	径	長さ	孔径	重量	材 質			出土位置	備考	
DP47	土玉	0.7	0.7	0.1	0.3	土 (雲母・砂粒)	にぶい橙色	鱼 一;	床面	PL27	
DP48	土玉	0.8	0.7	0.2	0.4	土 (砂粒)	褐灰色 -	一方向7	床面	PL27	
DP49	土玉	1.0	1.0	0.2	0.9	土 (長石・石英)	橙色 一	方向かり	覆土中層	PL27	
DP50	土玉	1.2	1.1	0.1	1.4	土 (砂粒)	橙色 一	方向かり	覆土下層	PL27	
DP51	土玉	2.7	(2.7)	0.7	(16.8)	土 (石英・雲母・ 細砂)	にぶい橙色	<u> </u>	床面	PL28	
DP52	土玉	3.2	2.6	0.9	(18.2)	土 (石英)	にぶい橙色	鱼 一;	方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL28
DP53	土玉	3.0	2.8	0.6	17.8	土 (石英・細砂)	橙色 一	方向かり	床面	PL28	
DP54	土玉	3.2	3.2	0.6	22.5	土 (長石・石英)	にぶい黄木	登色 -	床面	PL28	
DP55	土玉	3.4	3.3	0.8	(30.1)	土 (長石・細砂)	橙色 一	方向かり	床面	PL28	
DP56	土玉	3.6	(3.0)	0.8	(20.1)	土 (石英)	にぶい黄木	登色 -	床面	PL28	
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材 質			出土位置	備考	
Q72	白玉	0.8	0.2	0.3	0.1	滑石	一方向からの穿孔 全面研磨				PL29
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特				備考
M4	鏃	(9.9)	0.6	0.4	(5.9)	鉄	茎部の一部	祁	覆土上層	PL30	

第 13 号住居跡 (第 $43 \sim 46 \, \odot$)

位置 調査区中央部のB4f1区,標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第14号住居、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 $6.23~\mathrm{m}$, 短軸 $6.05~\mathrm{m}$ の方形で、主軸方向はN $-55~\mathrm{^{\circ}}$ - Wである。壁高は $15~\mathrm{^{\circ}}$ - 27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロック主体のにぶい褐色土や褐色土、暗 褐色土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。

電 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 156cmで,燃焼部幅は 84cmである。袖部は床面から深さ 15cmの皿状に掘りくぼめ,ロームブロックやローム粒子を含む第 $18 \sim 21$ 層を埋土して,粘土ブロックを含む第 $15 \sim 17$ 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで,火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 35cm掘り込まれ,火床部から外傾して立ち上がっている。

電十層解説 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 9 褐 色 ロームブロック少量 1 裾 2 裾 色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・灰白 10 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量, 灰白色粘土ブロッ 色砂粒微量 ク・炭化粒子微量 3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 11 褐 色 ロームブロック・灰白色砂粒少量,炭化粒子微量 4 暗 褐 色 焼土ブロック中量,炭化物・ローム粒子少量 12 褐 色 ロームブロック・灰白色砂粒中量,炭化粒子微量 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量 13 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化粒子微量 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック極多量、炭化物・ローム粒子少量 14 褐 色 ローム粒子中量 7 赤 褐 色 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量 15 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒 8 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子少量 子・炭化粒子微量

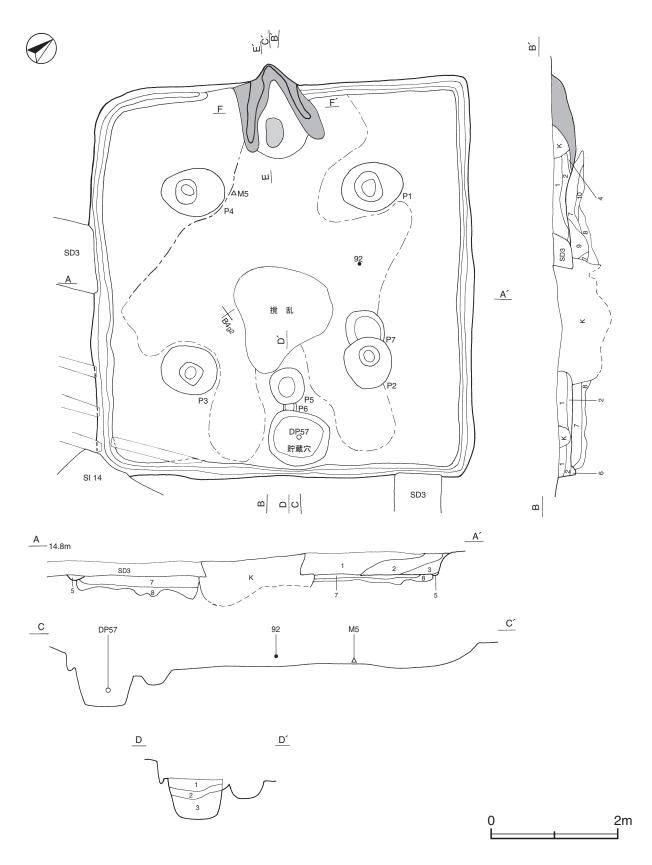
16 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 17 にぶい褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

18 暗 褐 色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量

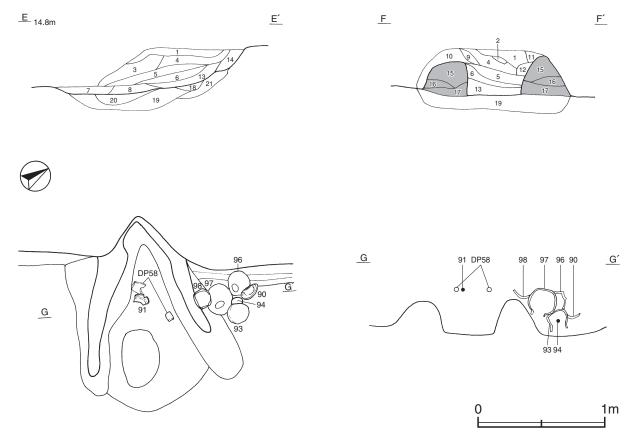
19 褐

20 赤 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量 21 褐 色 ローム粒子微量

色 ロームブロック少量



第43 図 第13 号住居跡実測図(1)



第 44 図 第 13 号住居跡実測図(2)

ピット 7 か所。 P 1 ~ P 4 は深さ 70 ~ 85cmで、配置から主柱穴である。 P 5 は深さ 30cmで、位置や硬化 面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ16cmで、P5に付随するピットであると 考えられる。P7は深さ12cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南東壁中央部に位置している。長軸 97cm, 短軸 91cmの不整円形である。深さは 62cmで, 底面は平坦 で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

色 ロームブロック微量 1 裾

3 暗 褐 色 ローム粒子少量 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積である。第7~10層は,貼 床の構築土である。

十層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量,砂粒微量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量

色 ロームブロック中量 (締まり普通)

色 ロームブロック中量, 青灰色粘土粒子微量

7 にぶい褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

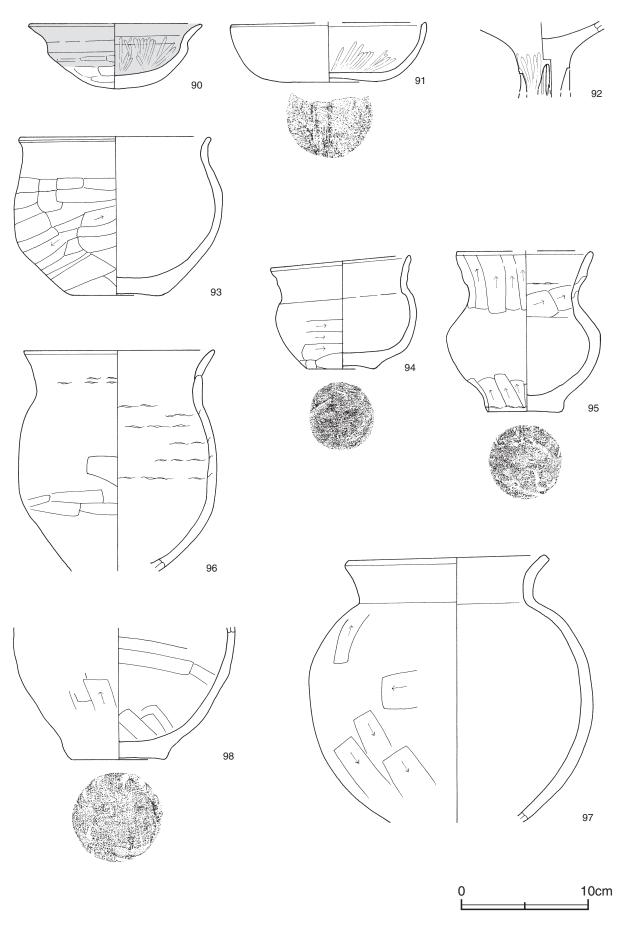
色 ロームブロック中量(締まり強い) 8 裾

暗 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック中量,炭化物少量,

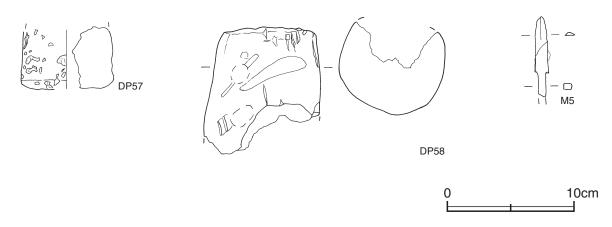
ロームブロック微量

10 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 428 点(坏 54, 椀 7, 高坏 7, 甕類 347, 甑 13), 土製品 9 点(支脚 8, 管状土錘 1), 鉄製品1点(鏃)が、北コーナー部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。また、流れ込んだ縄文 土器片1点(深鉢)も出土している。90・94は横位、93・96・97は逆位、98は正位の状態で、竈右袖付近か ら流れ込んだようにまとまって出土している。DP57 は貯蔵穴の覆土中層から、91・DP58 は竈内から、M5 はP4付近の床面からそれぞれ出土している。92は中央部の覆土下層、95は覆土中からそれぞれ出土している。 **所見** 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第45図 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第46図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

第13号住居跡出土遺物観察表(第45・46図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	土師器	坏	13.5	5.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ後へラ磨き 口縁部 外・内面横ナデ	覆土中層	100% PL18
91	土師器	坏	[15.2]	4.7	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ナデ 内面へラ磨き 口縁部内面横ナデ 底部ヘラ 削り 二次被熱痕	竈内	45%
92	土師器	高坏	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部外・内面ナデ 脚部外面へラ磨き 未整形の透かし 4孔	覆土下層	30%
93	土師器	差	15.2	12.6	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	100% PL22
94	土師器	進	11.1	9.0	5.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横 ナデ	覆土下層	90% PL22
95	土師器	進	[10.5]	12.7	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端へラ削り 頸部外面から口縁部にかけてヘラ削 り 頸部内面ヘラ削り 底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土中	80% PL22
96	土師器	進	15.4	(17.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面二次被熱痕 口縁部外・ 内面横ナデ	覆土中層	80% PL23
97	土師器	進	15.7	(21.2)	-	長石·石英·雲母· 白色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横 ナデ後頸部内面縦位のナデ	覆土中層	80% PL23
98	土師器	遊	-	(10.5)	7.2	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	覆土上層	40%
番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特				備考
DP57	支脚	(4.9)	[7.4]	[6.8]	(86.4)	土 (長石・石英・ 赤色粒子)	橙色 ナデ 若干の剥離有り 一部欠損				
DP58	支脚	(10.1)	(9.1)	7.7	(332.0)	土 (長石・石英)	橙色ナ	デ 指頭	竈内		
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特	出土位置	備考
M5	鏃	(6.3)	1.1	0.5	(5.9)	鉄	茎部の一部欠損 若干の鎬あり 柳葉			床面	

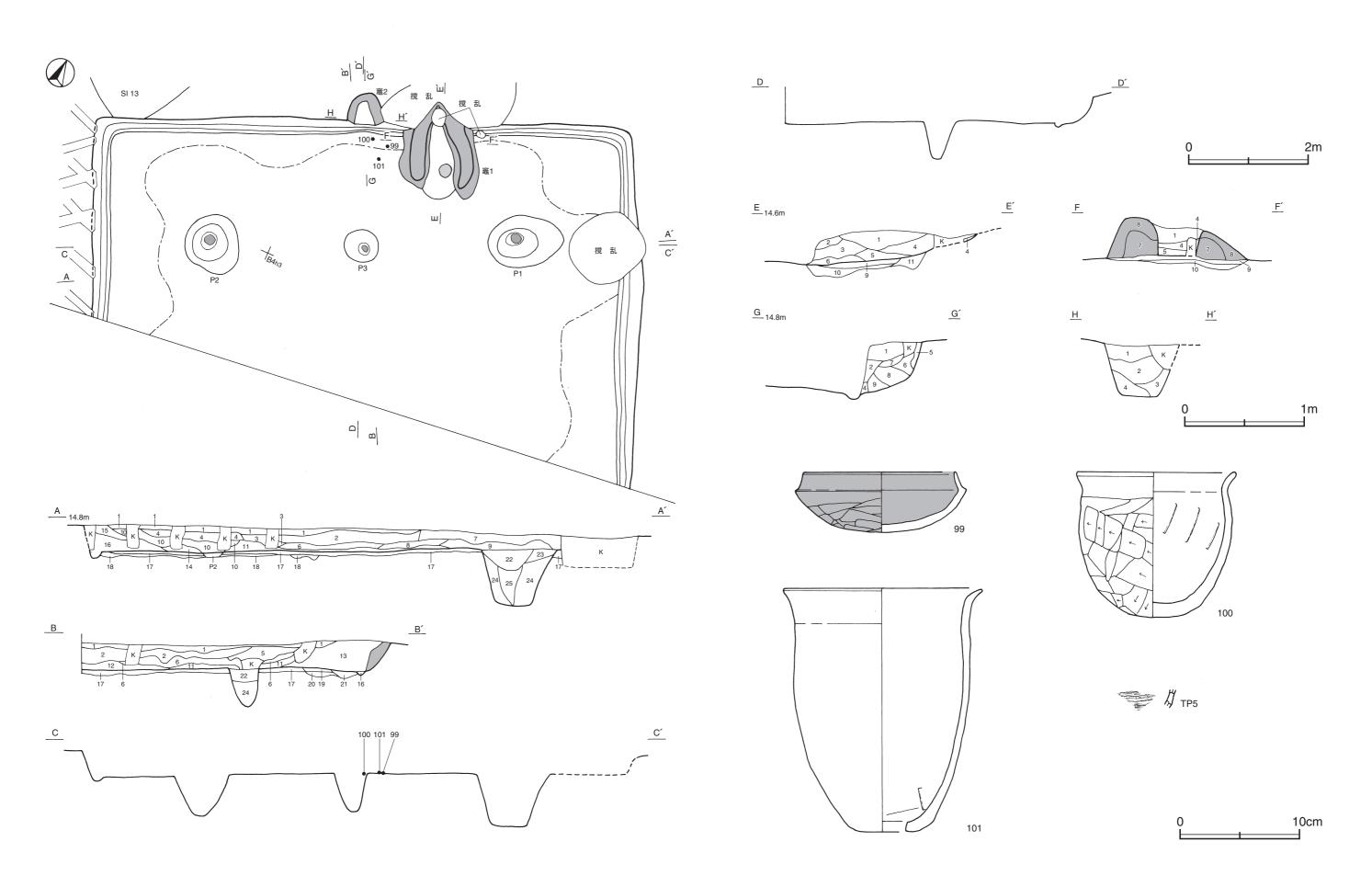
第 14 号住居跡 (第 47 図)

位置 調査区中央部南端のB4g2区,標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第13号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区外に延びているため、東西軸は $9.35\,\mathrm{m}$ で、南北軸は $5.90\,\mathrm{m}$ しか確認できなかった。 方形もしくは長方形と推測でき、主軸方向は $N-20\,^\circ-W$ である。壁高は $28\sim42\mathrm{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土ブロック主体のにぶい 褐色土や褐色土、暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。



第47図 第14号住居跡・出土遺物実測図

竈 2ヵ所。竈1は、北壁のやや東寄りに付設されている。撹乱を受けているため、確認できた規模は焚口 部から煙道部まで168cmで、燃焼部幅は64cmである。袖部は床面から皿状に16cmほど掘りくぼめた部分に、 ロームブロックなどを含む第9~11層を埋土して、粘土粒子を含む第7・8層を積み上げて構築されている。 火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 44cm掘り込まれ、火床部から 外傾して立ち上がっている。竈2は、北壁中央部に付設されている。屋外に延びる煙道部のみ確認できた。 煙道部は壁外に 44cm掘り込まれている。竈の遺存状況から、竈 2 が古く、竈 1 が新しいと考えられる。

- 色 ローム粒子・炭化粒子・細礫少量、焼土粒子微量 1 褐
- 2 に込み 「病性」 焼土ブロック・ローム粒子・細礫少量、炭化粒子 微量
- 3 赤 褐 色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・細礫少量, 炭化粒子 微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子・細礫少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量,炭化粒子中量,ローム粒子少量, 細礫微量
- 7 灰 黄 褐 色 粘土粒子多量、細礫少量、ローム粒子・焼土粒子・ 炭化粒子微量
- 8 にぶい褐色 ロームブロック・粘土粒子・細礫少量, 焼土粒子 微量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量
- 10 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 11 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

竈2土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量
- 2. 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 7 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 3か所。P1・2は深さ90・66cmで、配置から主柱穴である。P3は深さ64cmで、P1・2の中間 に位置していることから、竈1に作り替えた時に掘られた補助柱穴と考えられる。

覆土 20層に分層できる。ロームブロックが混じり、ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。 第17~21層は、貼床の構築土である。

土層解説

14 裾

- 1 灰 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 灰 褐 色 ロームブロック少量 焼土粒子微量
- 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量 5 暗
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量 (締まり弱い)
- 7 褐 色 ロームブロック中量(粘性普通・締まり強い) 色 ロームブロック少量(粘性弱い) 8 褐
- 9 灰 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 10 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 11 褐 色 ローム粒子少量
- 12 暗 褐 色 ロームブロック少量(締まり普通)
- 13 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 色 ロームブロック少量(粘性普通)

- 15 褐 色 ローム粒子中量
- 色 ロームブロック中量 (粘性普通・締まり普通) 16 裾
- 17 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 18 褐 色 ロームブロック中量(粘性強い)
- 19 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量, ローム粒 子微量
- 20 にぶい褐色 焼土ブロック中量,炭化粒子・粘土粒子少量
- 色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土 21 褐 粒子微量
- 22 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 23 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 24 褐 色 ロームブロック少量 (締まり強い)
- 25 暗 褐 色 ロームブロック少量 (締まり強い)

遺物出土状況 土師器片 199 点 (坏 99, 椀 1, 高坏 3, 甕類 94, 甑 2), 須恵器片 1 点 (<u>酿</u>), 土製品 7 点 (支脚), 滑石片1点が出土している。また、混入した須恵器片3点(蓋1、長頸瓶2)も出土している。99~101は 竈左袖付近の床上から、TP 5は貼床の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第14号住居跡出土遺物観察表(第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
99	土師器	坏	12.7	5.1	-	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横 ナデ	床面	90% PL18
100	土師器	進	13.2	12.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ヘラナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	90% PL22
101	土師器	甑	16.8	20.5	7.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のナデ 内面ナデー部へラナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	床面	100% PL26

番号	種 別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	須恵器	瓱	長石・雲母	灰	頸部4条の櫛歯状工具による波状文	貼床構築土	5%

第 15 号住居跡 (第 48 · 49 図)

位置 調査区中央部のB4f7区. 標高14.5 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.61 m, 短軸 5.44 mの方形で、主軸方向はN-46°-Wである。壁高は $9\sim22cm$ で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて全面が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体で炭化粒子が混じった暗褐色土を埋土して構築されている。南北コーナー部を除いて、壁下には壁溝が巡っている。北東・南西壁から各1条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P5と貯蔵穴の周りには馬蹄状の高まりが確認できた。

電 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで $120 \, \mathrm{cm}$ で、燃焼部幅は $42 \, \mathrm{cm}$ である。袖部は床面を深さ $21 \, \mathrm{cm}$ の皿状に掘りくぼめ、ロームブロック主体の第 $14 \sim 16$ 層を埋土して、粘土粒子を主体とした第 $12 \cdot 13$ 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に $10 \, \mathrm{cm}$ 据り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。火床部の奥側左寄りの部分で土製の支脚を確認しており、横並びの二掛け竈になる可能性がある。

電十層解説

- 1 灰 褐 色 砂・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 灰 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・砂少量 (締まり極強)
- 3 灰 褐 色 焼土粒子中量, ローム粒子砂少量
- 4 灰 褐 色 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂少量
- 5 にぶい赤褐色 ロームブロック多量, ローム粒子・砂少量
- 6 灰 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・砂少量 (締まり普通)
- 7 にぶい褐色 砂中量, ロームブロック少量
- 8 にぶい褐色 砂中量,ローム粒子・粘土粒子少量,焼土粒子微量
- 9 にぶい褐色 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂少量
- 10 灰 褐 色 ローム粒子・粘土粒子・砂少量、焼土ブロック微量
- 11 灰 褐 色 ローム粒子・粘土粒子・砂少量
- 12 灰 黄 褐 色 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 13 にぶい褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 14 にぶい褐色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 赤 褐 色 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 16 褐 色 ローム粒子少量

ピット 6 か所。 P 1 ~ P 4 は深さ 49 ~ 70cmで,配置から主柱穴である。 P 5 は深さ 48cmで,位置や硬化面の広がりと周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。 P 6 は深さ 38cmで,床下から確認した。性格は,不明である。

貯蔵穴 南西壁際の中央部に位置している。長軸 86cm, 短軸 76cmの隅丸長方形である。深さは 52cmで, 底面 は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量,焼土粒子極微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子極微量

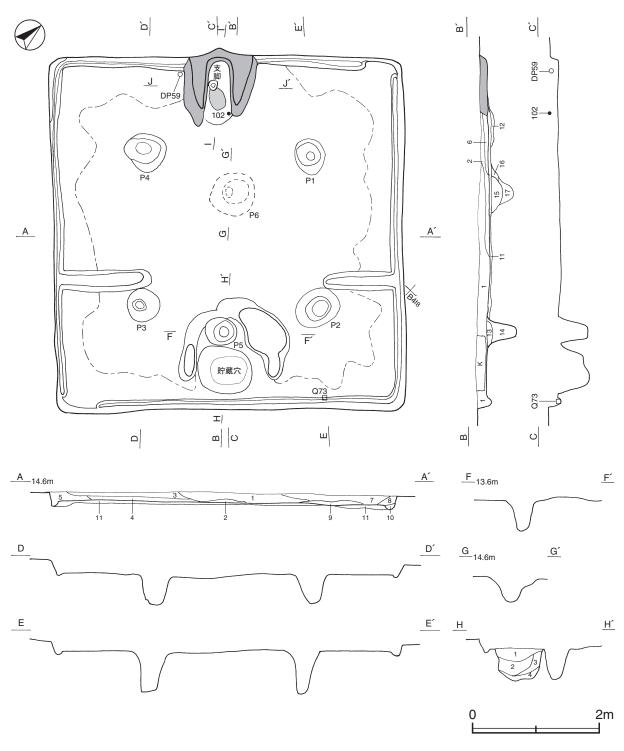
覆土 15 層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第 11・12 層は貼床の構築土である。

十層解説

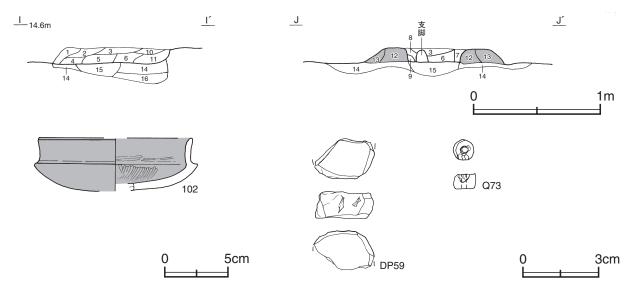
- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, 細礫極微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子極微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子極微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 6 暗 褐 色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 8 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 10 褐 色 ローム粒子中量
- 11 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 12 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 13 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量,焼土ブロック極 微量
- 14 褐 色 ロームブロック中量
- 15 灰 黄 褐 色 焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子少量
- 16 灰黄褐色 灰白色粘土ブロック多量,炭化物少量
- 17 暗 褐 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片 132 点 (坏 19, 高坏 1, 甕類 111, 甑 1), 土製品 1 点 (紡錘車), 石製品 1 点 (臼玉) が出土している。102 は竈火床部から, Q 73 は南西壁下の壁溝の覆土中から,DP59 は北東壁際の覆土上層 からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第48図 第15号住居跡実測図



第49図 第15号住居跡·出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表(第49図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調 焼	手法の特徴ほか	出土位置	備考
102	土師器	坏	[12.0]	(4.2)	-	石英·雲母	にぶい黄橙 普	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き	竈火床部	20%
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材 質		特	出土位置	備考
DP59	紡錘車ヵ	(4.7)	2.2	-	(29.9)	土 (石英・雲母)	橙色 ナデ 3	二次被熱痕	覆土上層	
								-		
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質		特 徵	出土位置	備考
Q73	白玉	0.8	0.5	0.3	(0.6)	滑石	一方向からの	平孔 全面研磨 一部欠損	壁溝	PL29

第 16 号住居跡 (第 50·51 図)

位置 調査区中央部のB4c3区. 標高14.5 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 7.61 m, 短軸 7.48 mの方形で、主軸方向はN $-30\degree$ – Wである。壁高は $21\sim45$ cmで、ほぼ直立している。中央部から北部にかけて、撹乱を受けている。

床 確認できた部分は平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土とにぶい褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。北東壁から1条、南西壁から3条の中央部へ延びる根太跡や貯蔵穴を仕切るように配置された間仕切り溝が確認できた。P4・貯蔵穴の周りには馬蹄状の高まりが確認できた。壁際には、焼土塊が遺存している。

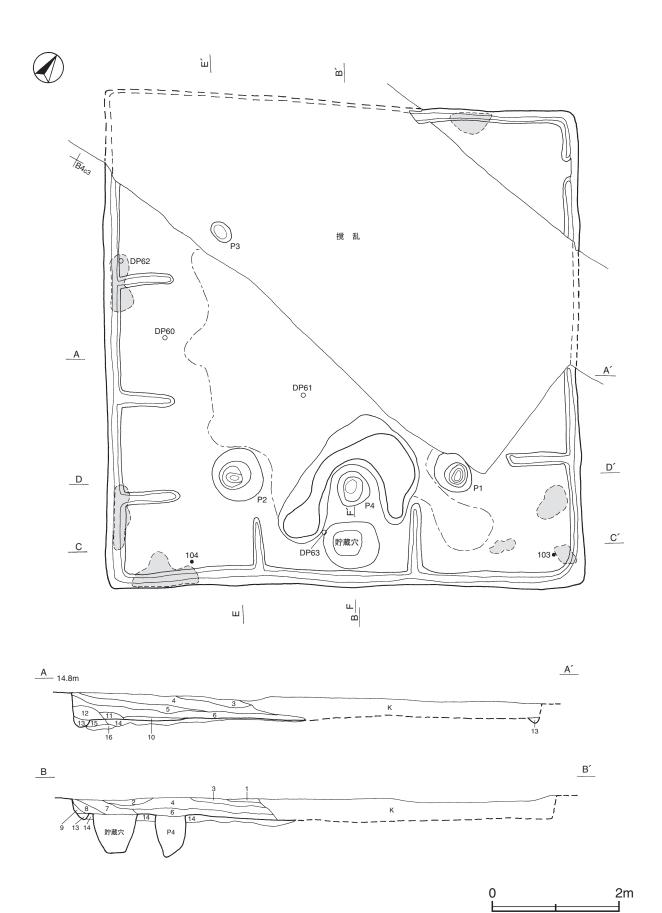
ピット 4か所。 $P1\sim P3$ は深さ $25\sim 88$ cmで,配置から主柱穴である。P3は撹乱の下から確認できた。P4は深さ 68cmで,位置や硬化面の広がりと周囲に馬蹄形の高まりがあることから,出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南壁中央部に位置している。長軸 94cm, 短軸 75cmの不整楕円形である。深さは 64cmで,底面は平坦で,壁は外傾して立ち上がっている。

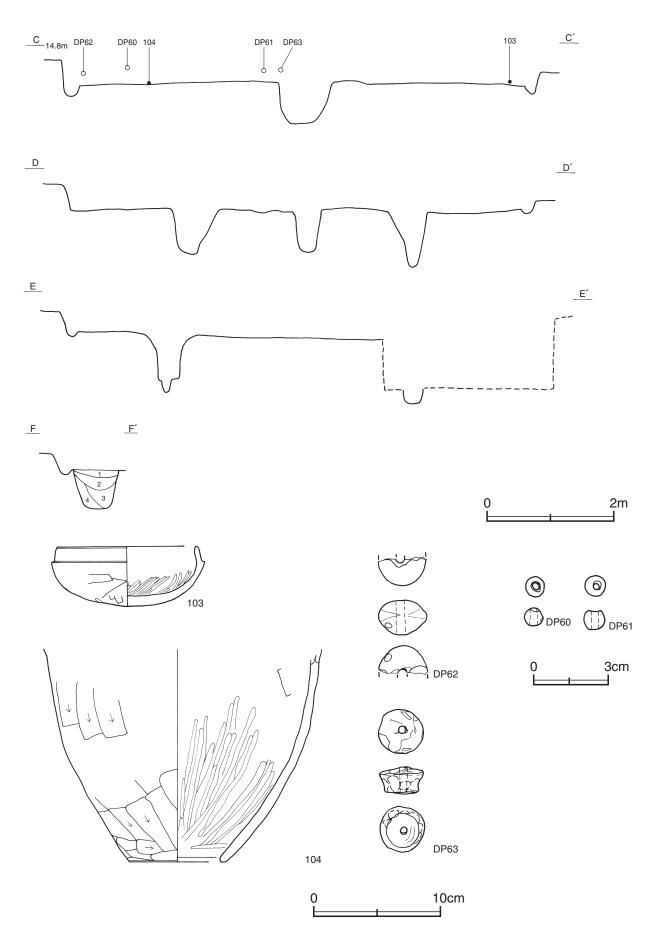
貯蔵穴土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量 4 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量



第50図 第16号住居跡実測図



第51 図 第16号住居跡・出土遺物実測図

覆土 13層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であるが、ローム粒子やロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第 $14\sim 16$ 層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 礫・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物極微量

4 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子中量,炭化粒子微量

5 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

5 極 暗 褐 色 ローム粒子中重、焼土ブロック少重、灰化粒子倒量 6 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

8 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

9 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

10 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

 11 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量,焼土粒子微量

 12 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量

13 褐 色 ロームブロック多量

14 にぶい褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量(締まり強)

15 褐 色 ロームブロック中量

16 にぶい褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量(締まり普通)

遺物出土状況 土師器片 644 点 (坏 124, 椀 3, 高台付坏 3, 高坏 2, 甕類 506, 甑 6), 須恵器片 2 点 (甕), 土製品 9 点 (土玉 4, 紡錘車 2, 支脚 3), 鉄滓 1 点 (17.9 g) が, 南部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。また, 混入した磁器片 1 点 (碗), 陶器片 1 点 (碗) も出土している。103 は東コーナー, 104 は南東壁際の床面から, DP60 は南西部, DP61 は中央部, DP62 は南西壁際, DP63 は貯蔵穴付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 撹乱を受けていたため、南部しか遺物が遺存していなかったが、遺物は埋め戻しの際に一括投棄されたものと判断した。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第16号住居跡出土遺物観察表(第51図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	土師器	坏	11.2	4.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 下位へラ磨き 内面へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	80%
104	土師器	甑	1	(16.9)	7.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ヘラナデ後縦位のヘラ磨	床面	50%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
DP60	土玉	0.7	0.7	0.2	0.4	土 (砂粒)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP61	土玉	0.8	0.7	0.3	0.5	土 (砂粒)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特	出土位置	備考
DP62	紡錘車	(3.9)	(2.7)	(0.7)	(16.3)	土 (長石)	橙色 二方向からの穿孔 ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中層	
DP63	紡錘車	3.5	3.5	0.6	24.1	土 (長石・石英)	にぶい黄橙色 一方向からの穿孔 ナデ 指頭圧痕	覆土中層	PL28

第 18 号住居跡 (第 52 ~ 55 図)

位置 調査区中央部のA4g3区. 標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 8.57 m, 短軸 8.18 mの方形で、主軸方向はN - 2 $^{\circ}$ - E である。壁高は 38 \sim 63cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、全面が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体のにぶい黄褐色土と褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。東壁から3条、南壁から2条、西壁から3条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P9の周辺では、6cmほどの高まりが馬蹄状に確認できた。壁際から中央に倒れ込むように炭化材が出土している。

電 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 147cmで、燃焼部幅は 68cmである。袖部は 床面から深さ 20cmの皿状に掘りくぼめた部分にローム粒子や粘土粒子等を含む第 12 ~ 15 層を埋土して、粘 土粒子を主体とした第 10・11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤 変硬化している。煙道部は壁外に 43cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗 褐 色 粘土粒子中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 焼土ブロック少量, 粘土粒子微量
- 4 赤 褐 色 焼土ブロック多量,炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 暗 褐 色 焼土ブロック中量,ローム粒子・粘土粒子少量
- 6 にぶい褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 7 灰黄褐色 粘土粒子中量,焼土粒子微量
- 8 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子少量,炭化粒子微量
- 9 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 10 灰 黄 褐 色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量
- 11 灰 黄 褐 色 粘土粒子多量, 焼土ブロック中量, 礫少量, 炭 化粒子微量
- 12 赤 褐 色 焼土ブロック中量, 粘土粒子微量
- 13 にぶい褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
 - 14 褐 色 燒土粒子少量,炭化粒子微量
 - 15 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

ピット 15 か所。P 1 ~ P 9 は深さ 30 ~ 91cmで,配置から主柱穴である。P 10・11 は深さ 62・64cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P 12・13 は深さ 23・28cmで,竈を仕切る構築物に関わるピットと考えられる。P 14・15 は,深さ 23・26cmで床下で確認したが,性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸 123cm, 短軸 100cmの長方形である。深さは 58cmで, 底面は平 坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量

3 暗 褐 色 ロームブロック微量

4 褐 色 ロームブロック少量

5 褐 色 ローム粒子少量

6 褐 色 ロームブロック微量

覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であるが、覆土上層から覆土下層にかけて同時期の 遺物が一括して出土していることから埋め戻されている。第8・9層は貼床の構築土である。

土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量

3 黒 褐 色 ロームブロック少量

4 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

5 暗 褐 色 炭化材多量, 焼土粒子微量

6 褐 色 焼土粒子多量 炭化物微量

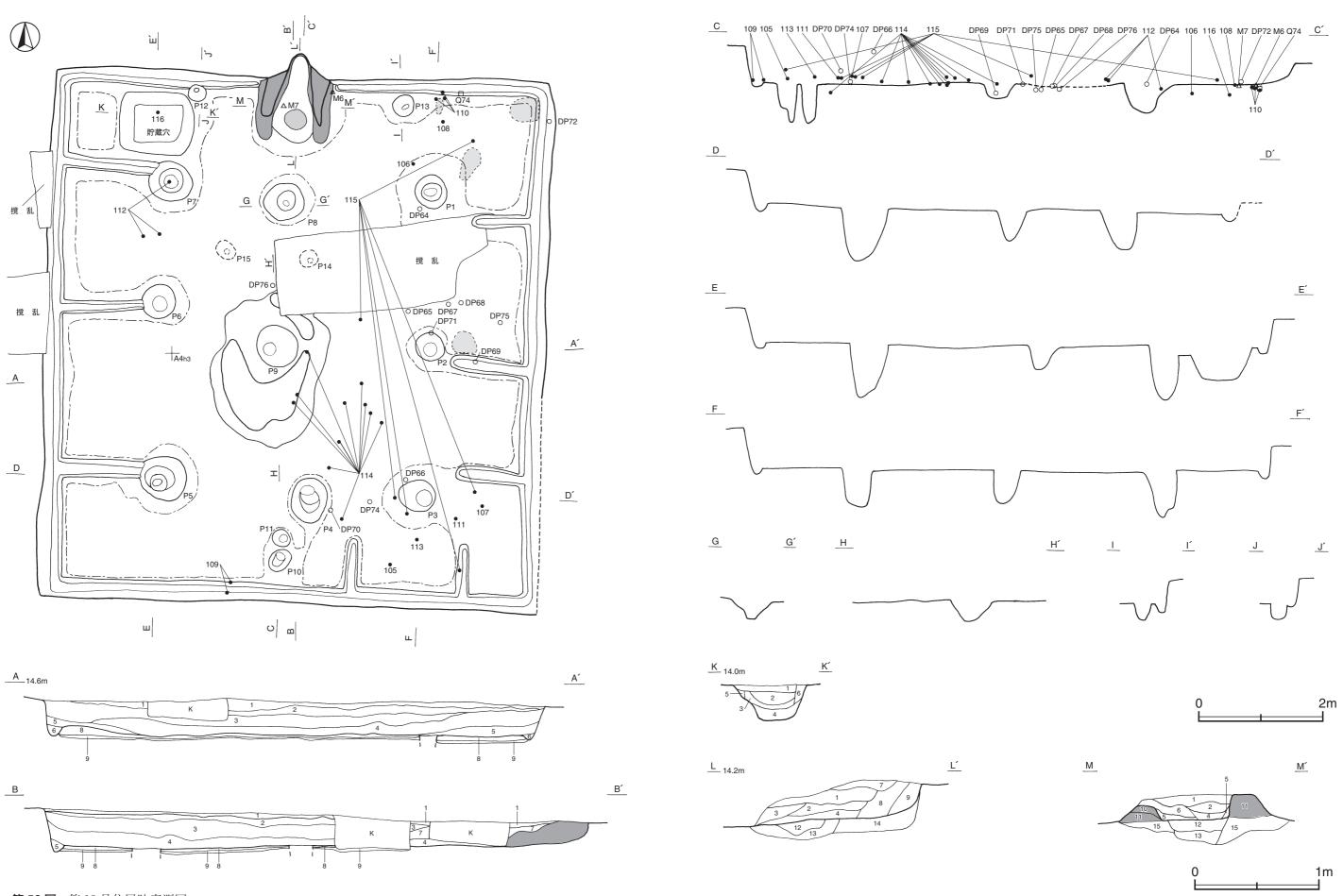
7 黒 褐 色 ローム粒子・砂質粒子・粘土粒子少量、小礫・焼 + 粒子微量

8 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

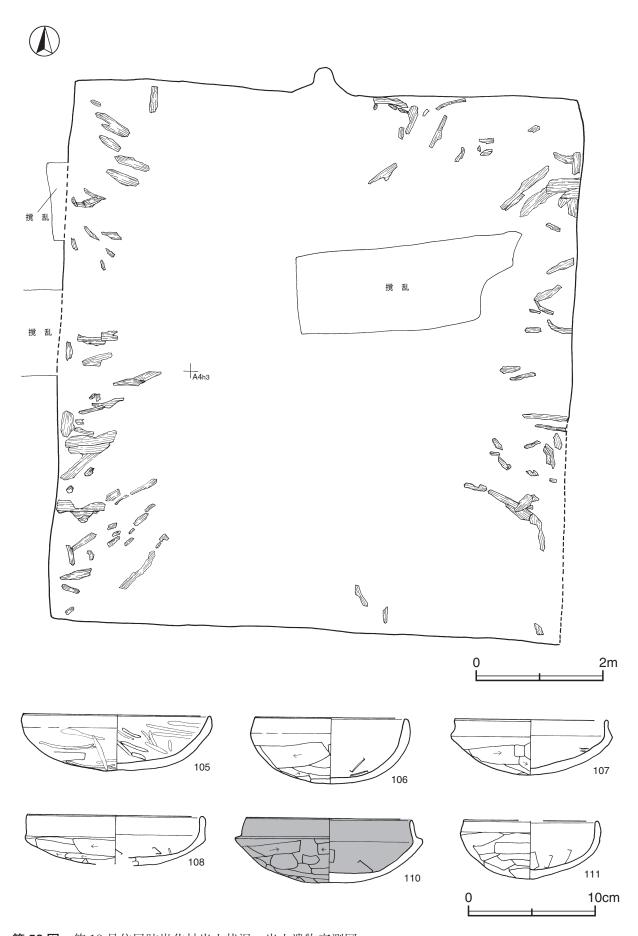
9 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 1395 点 (坏 282, 椀 6, 高坏 11, 甕類 1057, 甑 37, 手捏土器 2), 須恵器片 4点 (坏 3, 甕 1), 土製品 27 点 (支脚 14, 勾玉 10, 土玉 3), 石器 1点 (金床石), 石製品 1点 (臼玉), 鉄器 2点 (鏃), 炭化種子 2点 (桃ヵ)が, 覆土上層から下層にかけての全面から出土している。また,流れ込んだ縄文土器片 2点 (深鉢 2), 須恵器片 1点 (高台付椀)も出土している。116 は貯蔵穴の覆土上層から, 105・109 は南壁際, 110・Q 74 は北壁際, 106・DP64 は P 1 付近, DP74 は P 3 付近, 108 は北東コーナー, DP76 は中央部, M 6 は竈右袖の外の床面から, M 7 は竈の火床部からそれぞれ出土している。また, 114 は南東部の床面から散らばって出土した破片が接合したもので, DP65・DP67~69・DP71・DP75 は P 2 付近の床面からまとまって出土している。112 は P 7 付近の覆土下層から床面にかけて, 107 は東壁際, 111・113 は P 3 付近, 115 は東部一帯, DP72 は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP70 は P 4 付近の覆土中層から, DP66 は P 3 付近の覆土上層からそれぞれ出土している。DP70 は P 4 付近の覆土中層から, DP66 は P 3 付近の覆土上層からそれぞれ出土している。DP73 は覆土中から出土している。

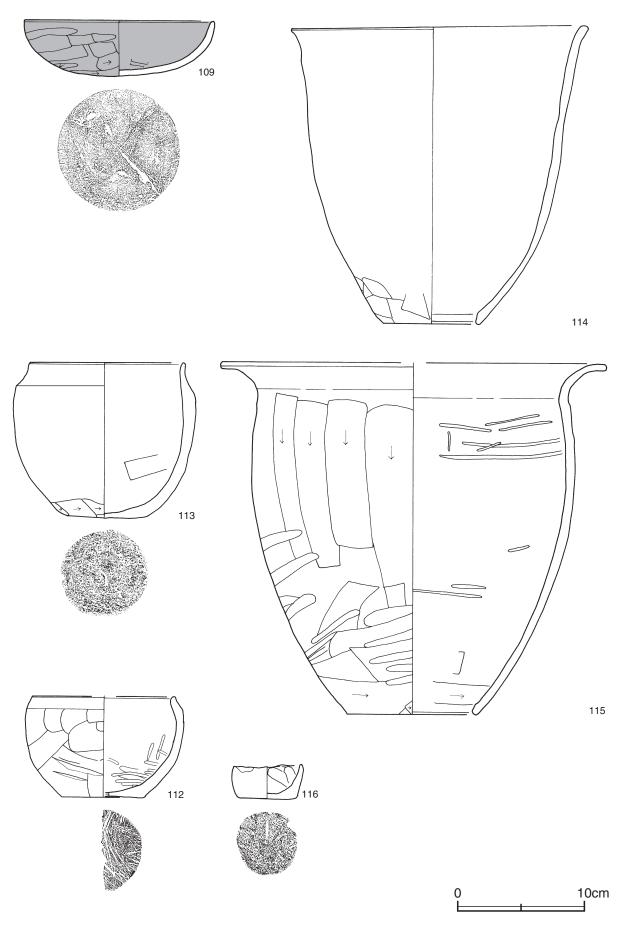
所見 床面は焼けてないが、炭化材の出土状況から焼失住居と考えられ、遺物は埋め戻しの際に一括投棄されたと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



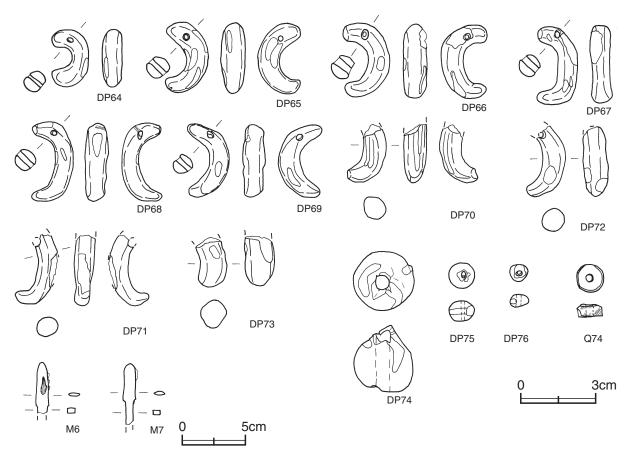
第52図 第18号住居跡実測図



第53図 第18号住居跡炭化材出土状況·出土遺物実測図



第54図 第18号住居跡出土遺物実測図(1)



第55図 第18号住居跡出土遺物実測図(2)

第 18 号住居跡出土遺物観察表(第 53 ~ 55 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
105	土師器	坏	14.8	4.4	_	長石・石	5英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデー部へラ磨き 内面へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	100% PL18
106	土師器	坏	12.1	5.2		長石・石	英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・内 面横ナデ	床面	95%
107	土師器	坏	12.1	4.4	-	長石·石 赤色粒子	英・雲母・	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 工具当て痕	覆土下層	80%
108	土師器	坏	13.9	(3.9)	-	長石・石	「英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ 工具当て痕	床面	80% PL18
109	土師器	坏	15.0	4.4	-	長石・石	「英・雲母	黒褐色	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内面 横ナデ 工具当て痕	床面	75%
110	土師器	坏	13.1	5.1	-	長石・石	ī英	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ後横ナデ 口縁 部外・内面横ナデ	床面	70%
111	土師器	坏	[10.6]	4.7	-	長石・石	5英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・内 面横ナデ	覆土下層	60%
112	土師器	椀	[11.0]	8.0	[6.4]	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 下位 V 字状工具による沈線多数 内面へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	65%
113	土師器	進	12.1	12.4	7.0	長石·石 赤色粒子	ĭ英・雲母・ F	英・雲母・ にぶい黄橙		体部外面ナデ 下位へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口 縁部外・内面ナデ	覆土下層	70%
114	土師器	甑	23.3	23.8	7.6	長石・石	「英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下位へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内 面横ナデ	床面	75% PL26
115	土師器	甑	[29.6]	28.0	[10.2]	長石·石 赤色粒子	ĭ英・雲母・ 子・細礫	橙	普通	体部外面へラ削り一部へラ磨き 内面ナデー部へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	50%
116	土師器	手捏土器	5.4	2.7	4.9	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ	貯蔵穴 覆土上層	100%
												-
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材	質		特	出土位置	備考
DP64	勾玉	2.3	1.5	0.8	2.0	2.3	土 (石英)		明赤衫	曷色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP65	勾玉	2.8	1.7	0.9	2.5	3.4	土 (石英)		橙 -	一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP66	勾玉	2.9	1.8	1.0	0.3	(3.9)	土 (長石・石英)		にぶい	い黄橙色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土上層	PL27
DP67	勾玉	3.1	1.6	0.9	0.3	(3.3)	土 (長石・石英)		黒褐色	色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL27
DP68	勾玉	3.1	1.6	0.9	3.0	3.4	土 (石英)		黒褐色	色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材	質	特	出土位置	備考
DP69	勾玉	2.9	1.7	0.9	3.0	3.2	土 (石英)		にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP70	勾玉	(2.3)	(1.5)	0.9	-	(2.3)	土 (石英)		橙色 ナデ 一部欠損	覆土中層	PL27
DP71	勾玉	(2.7)	(1.6)	0.8	-	(2.0)	土 (石英)		黒褐色 ナデ 一部剥離 一部欠損	床面	PL27
DP72	勾玉	(2.8)	(1.6)	1.0	-	(2.3)	土 (長石)	1	橙色 ナデ 二次被熱痕 一部欠損	覆土下層	PL27
DP73	勾玉	(2.0)	1.3	1.2	-	(2.7)	土 (石英)		褐色 ナデ 一部剥離	覆土中	
				1	1	1					1
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材	質		特	出土位置	備考
DP74	土玉	2.4	2.7	0.5	(11.9)	土 (石芸	英)	にぶいす	責橙色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL28
DP75	土玉	1.0	0.8	0.3	0.8	土(長石	5・石英)	にぶいす	責褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP76	土玉	0.7	0.5	0.2	(0.3)	土(石芸	英)	黒褐色	一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL27
番号	器 種	径	長さ	孔径	重量	材	質		特	出土位置	備考
Q74	白玉	1.0	0.5	0.3	(1.0)	滑石		一方向;	からの穿孔 全面研磨 一部欠損	床面	PL29
				1	f	0		1			Α
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質		特	出土位置	備考

茎部の一部欠損

木痕有り 何本か重ねてあった可能性有り 柳葉

一部欠損

床面

竈火床部

第 19 号住居跡 (第 $56 \sim 59$ 図)

位置 調査区中央部のA4g0区、標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第31号住居跡を拡張している。

規模と形状 長軸 9.38 m, 短軸 9.22 mの方形で、主軸方向はN - 21 $^{\circ}$ - W である。壁高は 20 \sim 37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、第31号住居跡を埋め戻した、ロームブロックを 少量含むにぶい褐色土で構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。南西コーナー部を中心に、南壁際 に長さ6.45 m、最大幅1.43 m、西壁際に長さ5.72 m、最大幅0.88 mで高さ約10cmのベッド状の高まりが確 認できた。壁際からは、中央に倒れ込むように炭化材が出土している。

電 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで162cmで、燃焼部幅は48cmである。袖部は、 床面から深さ16cmの皿状に掘りくぼめた部分にローム粒子や粘土粒子を含む第10~12層を埋土して、粘土 粒子と礫を主体とした第8層および9層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火 床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

М6

Μ7

鏃

鏃

(4.6)

(4.9)

11

1.0

0.4

0.3

(3.2) 鉄

(3.5) 鉄

1 にぶい褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・ 炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量

3 赤 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

4 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量

5 暗 褐 色 焼土ブロック少量,炭化粒子微量

6 にぶい褐色 焼土粒子・粘土粒子少量

7 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

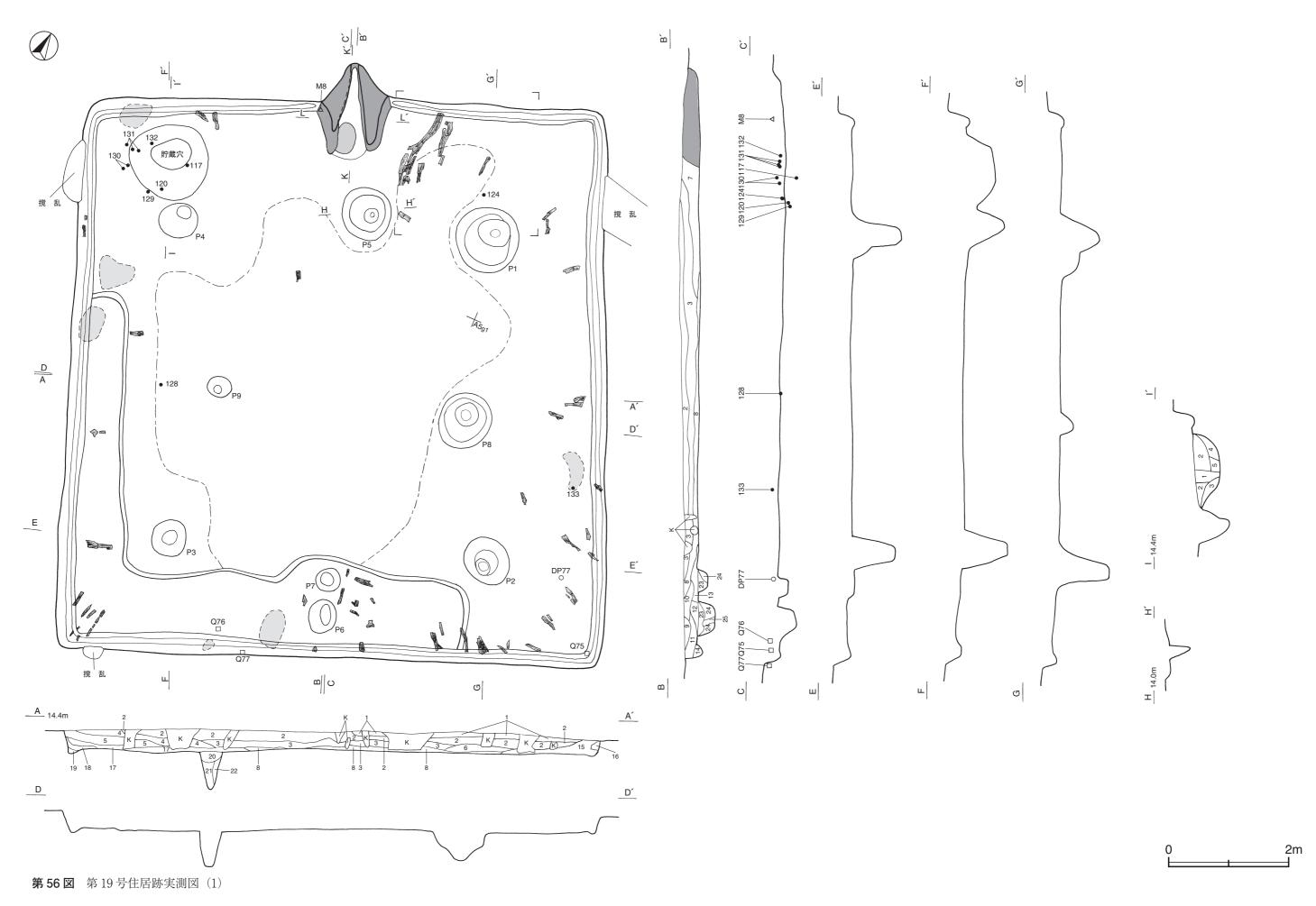
8 灰 黄 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子中量, 細礫少量, ローム 粒子微量

9 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

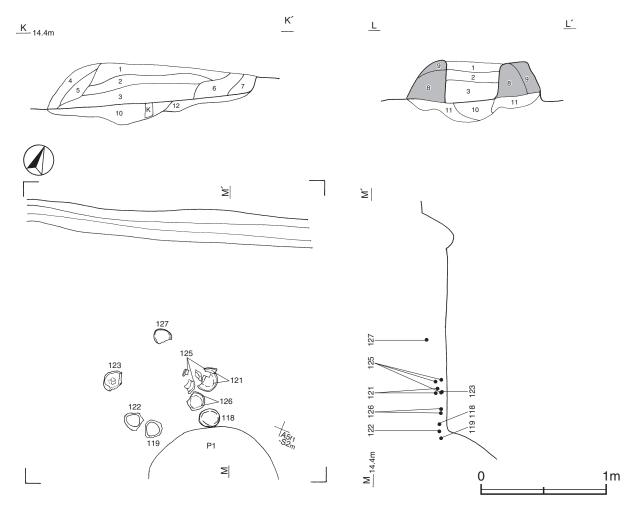
10 にぶい褐色 焼土ブロック・炭化物少量, 粘土粒子微量

11 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量

12 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量



 $-83 \cdot 84 -$



第57 図 第19号住居跡実測図(2)

ピット 9か所。 $P1\sim P5$ は深さ $43\sim 88$ cmで,配置から主柱穴である。 $P6\cdot 7$ は深さ $29\cdot 15$ cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。 $P8\cdot 9$ は深さ $50\cdot 62$ cmで,それぞれP1と P2. P3と P4 の中間にあることから補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸 132cm, 短軸 124cmの不整円形である。深さは 43cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

覆土 25 層に分層できる。第 $1 \sim 3$ 層は周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積で,第 $4 \sim 19$ 層は各層にロームブロックやローム粒子を含み,ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化材微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量,炭化材微量 4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
- 6 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子中量、細礫少量、炭化材微量
- 8 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極 微量
- 9 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 10 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量
- 11 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 12 黒 色 炭化材・焼土ブロック中量, ローム粒子微量
- 13 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 14 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子極微量
- 15 暗 褐 色 ロームブロック中量,焼土粒子少量,炭化粒子極
 - 微量
- 16 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 17 黒 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子少量,焼土ブロック微量

18 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量 19 褐 色 ロームブロック中量 (締まり普通)

20 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

21 にぶい褐色 ローム粒子少量

22 褐 色 ロームブロック中量 (締まり強)

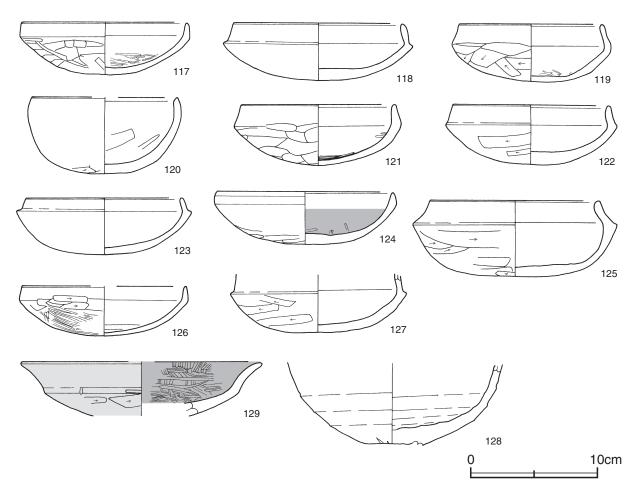
23 黒 褐 色 炭化物中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量

24 にぶい褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

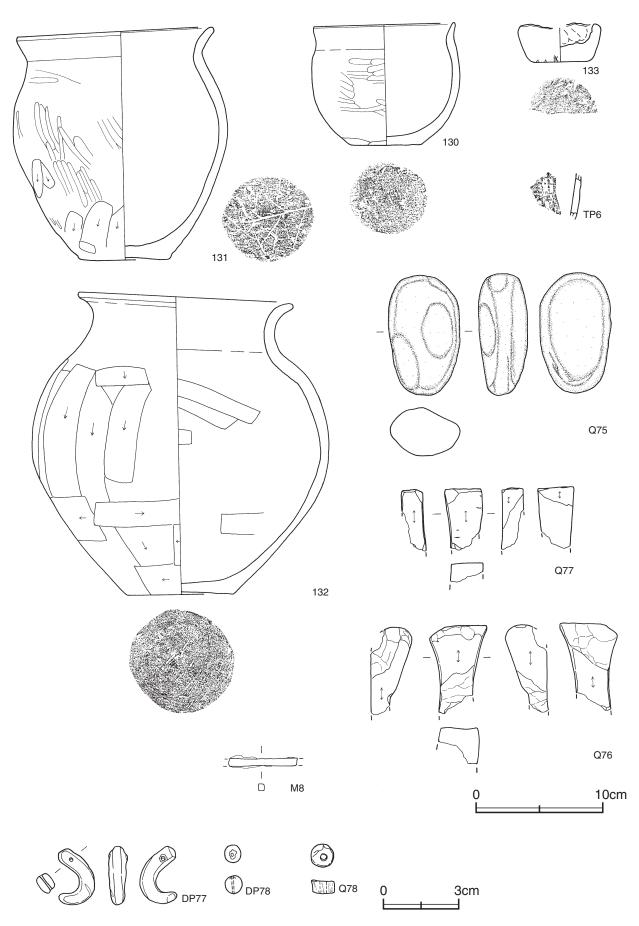
25 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 1486 点(坏 360, 高坏 10, 甕類 1106, 甑 9, 手捏土器 1), 須恵器片 1点(高坏), 土製品 3点(支脚, 勾玉, 土玉), 石器 3点(磨石 1, 砥石 2), 石製品 1点(臼玉), 鉄製品 1点(刀子), 炭化種子 1点が, 竈付近や出入口付近を中心とした全面の覆土中層から下層にかけて出土している。また, 混入した縄文土器片 2点(深鉢), 須恵器片 1点(甑)も出土している。117 は貯蔵穴内の覆土中層, 120 は貯蔵穴内の覆土上層から出土している。DP77 は P 2 付近, 128 は P 9 付近, 129 は貯蔵穴付近の床面から出土している。124 は P 1 付近, 118・119・121~123・125~126 は北東コーナー部の覆土下層から, 118・119・121~123 は正位の状態でまとまって出土している。130~132 は北西コーナー部, 133 は東壁際, Q 75 は南東コーナー部, Q 76・Q 77 は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。127 は北東コーナー部, M 8 は北壁際の覆土上層から, DP78・TP 6 は覆土中から, Q 78 は貼床の構築土内から出土している。

所見 第31号住居跡と主軸方向がほぼ同じで、各壁が平行に拡張された様相から、第31号住居跡を拡張した住居である。床面は焼けていないが炭化材の出土状況から焼失住居と考えられる。北東コーナー部の覆土下層から出土した遺物は、炭化材と同じ層位から出土しているので、焼失と同時期に一括投棄されたものと考えられる。他の遺物も、埋め戻しの際に一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第58図 第19号住居跡出土遺物実測図(1)



第59図 第19号住居跡出土遺物実測図(2)

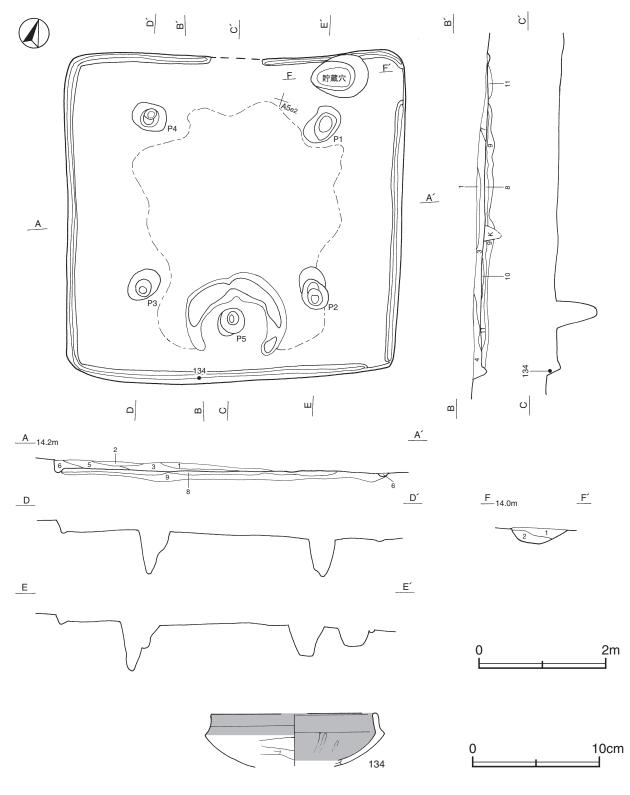
第19号住居跡出土遺物観察表(第58・59図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備	考
117	土師器	坏	13.0	4.2	-	長石・石	石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外・内 面横ナデ	貯蔵穴 覆土中層	98%	PL18
118	土師器	坏	13.4	4.6	-	長石・7 粒子	石英・赤色	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内面 横ナデ	覆土下層	99%	PL18
119	土師器	坏	11.4	4.6	-	長石・石	石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデー部へラ磨き 口縁 部外・内面横ナデ	覆土下層	95%	PL18
120	土師器	坏	[11.4]	6.1	-	長石・石	石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 下位へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部 外面ナデ	貯蔵穴 覆土上層	50%	
121	土師器	坏	12.1	4.8	-	長石・石	石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデー部へラ磨き 口縁 部外・内面横ナデ	覆土下層	80%	PL18
122	土師器	坏	12.3	4.7	-	石英・割	雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内面 横ナデ	覆土下層	80%	
123	土師器	坏	12.4	4.4	-	長石·石 赤色粒	5英・雲母・ 子	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	70%	
124	土師器	坏	14.0	4.2	-	長石・赤	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデー部へラ磨き 口縁 部外・内面横ナデ	覆土下層	80%	
125	土師器	坏	13.6	6.0	-	長石・石	石英	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデー部剥離 口縁部外・ 内面横ナデ	覆土下層	70%	PL18
126	土師器	坏	[13.0]	4.0	-	長石・領	雲母	橙	普通	体部外面上位へラ削り後下位へラ磨き 内面横ナデ 口 縁部外・内面横ナデ	覆土下層	50%	PL18
127	土師器	坏	-	(4.6)	-	石英·第 粒子	雲母・赤色	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土上層	60%	
128	土師器	高坏	-	(6.4)	-	長石・石	石英・雲母	黄灰	普通	「坏部外・内面ロクロナデー脚部透かし作成痕3ヵ所 坏部整形後脚部貼り付け	床面	30%	
129	土師器	高坏	[18.8]	(4.3)	-	長石		橙	普通	体部外面へラ削り後ナデー部へラ磨き 内面へラ磨き 口縁部外面横ナデ	床面	5%	
130	土師器	甕	11.1	9.7	5.6	長石・石	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデー部へラ磨き 内面ナデ 口縁 部外・内面横ナデ	覆土中層	95%	PL22
131	土師器	甕	15.5	18.4	7.4	長石・石 細礫	5英・雲母・	にぶい褐	普通	体部外面へラ磨き 下位へラ削り 内面ナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	覆土中層	70%	
132	土師器	甕	16.8	24.1	8.4	長石·石	石英・雲母	橙	普通	体部外面二方向のヘラ削り 内面ヘラナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	覆土中層	60%	PL23
133	土師器	手捏土器	[5.6]	3.1	4.6	長石・石	石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ 下端に沈線	覆土中層	40%	PL20
番号	種 別	器種		胎土		É	 色調	手法の特徴ほか			出土位置	備	考
TP6	須恵器	甑	長石・石 粒子	石英・雲 l	母・赤色		橙	体部外面标	各子叩。	4	覆土中	5%	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材	質		特	出土位置	備	考
DP77	勾玉	2.3	1.5	0.8	0.1	1.9	土 (細砂)		橙色	一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27	
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材	質			特	出土位置	備	考
DP78	土玉	0.7	0.7	0.1	0.4	土(細码	沙)	にぶい黄木	登色 -	一方向からの穿孔 ナデ	覆土中	PL27	
				1								1	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特 徵	出土位置	備	考
Q75	磨石	9.6	5.6	3.9	289.0	雲母片岩	岩	片面に使用	月痕 3 7	か所	覆土中層		
Q76	砥石	(7.0)	4.6	3.3	(68.0)	凝灰岩		砥面4面	一部	次損	覆土中層		
Q77	砥石	(4.9)	3.0	1.9	(25.8)	凝灰岩		砥面4面	一部	大損	覆土中層		
		1		1		,		1					
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材	質			特	出土位置	備	考
Q78	白玉	0.9	0.6	0.3	(0.8)	滑石		一方向から	うの穿孔	几 全面研磨 一部欠損	貼床構築土	PL29	
								万国からの先に 王田			1	-	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質				出土位置	備	考
M8	刀子ヵ	(5.4)	0.7	0.4	(4.5)	鉄		茎部の一部	邪 両対		覆土上層	<u> </u>	_

第 20 号住居跡 (第 60 図)

位置 調査区中央のA5el区,標高13.8mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.30 m,短軸 5.12 mの方形で,主軸方向はN - 19° - Wである。壁高は $3\sim$ 19cmで,外傾して立ち上がっている。



第60図 第20号住居跡・出土遺物実測図

床 北東部は床面が削平されているが、平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体のにぶい褐色土と、ロームブロックやローム粒子を含む褐色土を埋土して構築されている。北東コーナー部の一部と南東コーナー部の一部以外には、壁溝が巡っている。P5の周辺では、馬蹄状の高まりが見られる。

ピット 5 か所。 P 1 ~ P 4 は深さ 48 ~ 78cmで,配置から主柱穴である。 P 5 は深さ 61cmで,位置や硬化面の広がりと周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 92cm, 短径 72cmの楕円形である。深さは 44cmで, 底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量

2 褐 色 ローム粒子中量

覆土 7層に分層できる。各層にローム粒子などが含まれ、不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。第 $8\sim11$ 層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒 褐 色 ローム粒子少量

3 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量

4 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物微量

5 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

6 暗 褐 色 ロームブロック少量

7 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

8 にぶい褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

9 褐 色 ロームブロック少量

10 にぶい褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒

子微量

11 褐 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片 59 点(坏 12, 甕類 43, 甑 4)が出土している。134 は, 南壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と推定できる。

第20号住居跡出土遺物観察表(第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
134	土師器	坏	[13.0]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ後へラ磨き 口縁部 外・内面横ナデ	覆土中層	10%

第 21 号住居跡 (第 61 · 62 図)

位置 調査区東部のA5h2区,標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第89・90 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため、南北軸は 6.06 m、東西軸は 2.98 m しか確認できなかった。 方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN - 22°-Wである。壁高は 32cmで、外傾して立ち上がっている。 床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土とローム粒子

を含む暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。

電 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで $142 \, \mathrm{cm}$ で、燃焼部幅は $50 \, \mathrm{cm}$ である。袖部は、床面から深さ $30 \, \mathrm{cm}$ の皿状に掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第 $8 \sim 10$ 層を埋土して、粘土粒子とロームブロックを主体とした第 $5 \sim 7$ 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に $33 \, \mathrm{cm}$ 掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子微量

2 褐 色 砂粒中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, ロームブロック・炭化粒子微量

4 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化粒子微量

5 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子極微量

6 灰 黄 褐 色 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

7 灰 黄 褐 色 粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量

- 8 暗 褐 色 焼土ブロック中量,炭化粒子少量
- 9 褐 色 ローム粒子微量

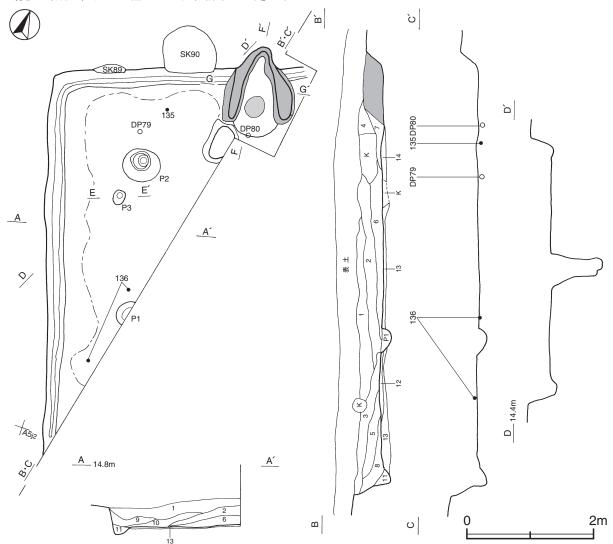
ピット 3か所。 $P1 \cdot 2$ は深さ $18 \cdot 80$ cmで,配置から主柱穴である。P3 は深さ 32cmで,性格不明である。 **覆土** 11 層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子,炭化粒子などの含有物を多く含むことから埋め戻されている。第 $12 \sim 14$ 層は貼床の構築土である。

土層解説

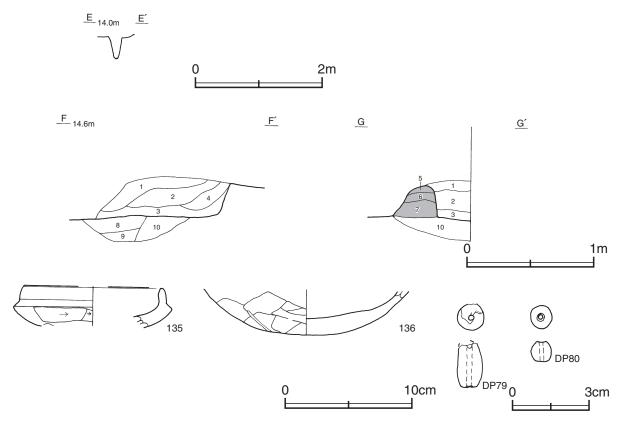
- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 5 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化材・灰白色 粘土ブロック微量
- 7 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・黄褐 色粘土粒子微量
- 8 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
- 9 褐 色 ローム粒子少量
- 10 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 11 褐 色 ロームブロック中量
- 12 にぶい褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 13 褐 色 ロームブロック少量
- 14 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 133 点 (坏 19, 甕類 113, 甑 1), 土製品 2 点 (管玉, 土玉) が出土している。また, 混入した土師質土器片 1 点 (内耳鍋) も出土している。135 は北部西寄り, 136 は P 1 付近, DP79 は P 2 付近, DP80 は竈前の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第61 図 第21 号住居跡実測図



第62図 第21号住居跡・出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表(第62図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
135	土師器	坏	[11.0]	(3.2)	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	20%
136	土師器	坏	-	(3.7)	-	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデー部へラ磨き 内面ナデ	床面	40%
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材 質			特 徵	出土位置	備考
DP79	管玉	1.0	(1.7)	0.2	(1.8)	土 (石英)	黒褐色 -	一方向7	からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	
DP80	土玉	0.8	0.7	0.2	0.5	土 (長石)	黒色 一		らの穿孔 ナデ	床面	PL27

第 22 号住居跡 (第 63 · 64 図)

位置 調査区東部南端のB5i1区,標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、南北軸は $5.33~\rm m$ で、東西軸は $3.85~\rm m$ しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向は $N-25~\rm e^{-1}W$ である。壁高は $20\rm cm$ で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認された部分の中央部北半分が踏み固められている。貼床はロームブロック主体の褐色土と黒褐色土、ローム粒子主体の暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。

ピット 2か所。P1は深さ 88cmで,配置から主柱穴である。P2は深さ 50cmで,補助柱穴と考えられる。P1の下層からは,粘土塊が出土している。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸 105cm, 短軸 90cmの隅丸長方形である。深さは 31cmで, 底面 は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック中量

2 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積である。第 $7 \sim 9$ 層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームゼーツ重, 灰化粒子微量

4 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

5 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

6 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

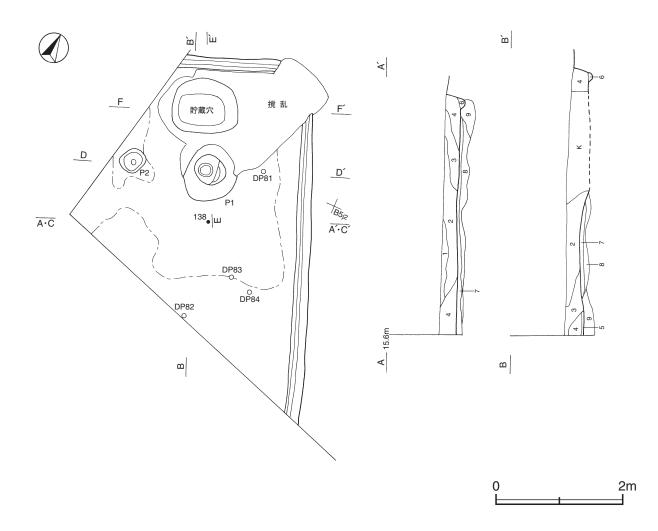
7 黒 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

8 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

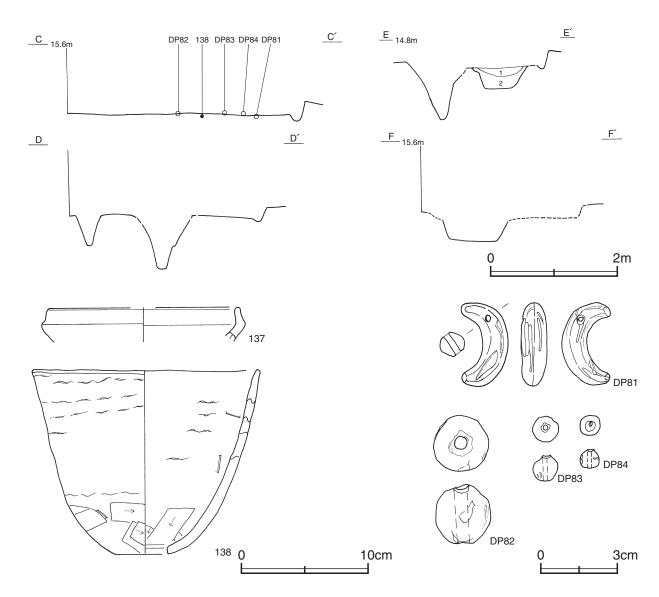
9 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 109 点 (坏 21, 高坏 4, 甕類 78, 甑 4, 手捏土器 2), 土製品 4点 (勾玉 1, 土玉 3) が出土している。138・DP81 は P 1 付近, DP82 ~ 84 は東部のやや中央寄りの床面からそれぞれ出土している。137 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第63 図 第22 号住居跡実測図



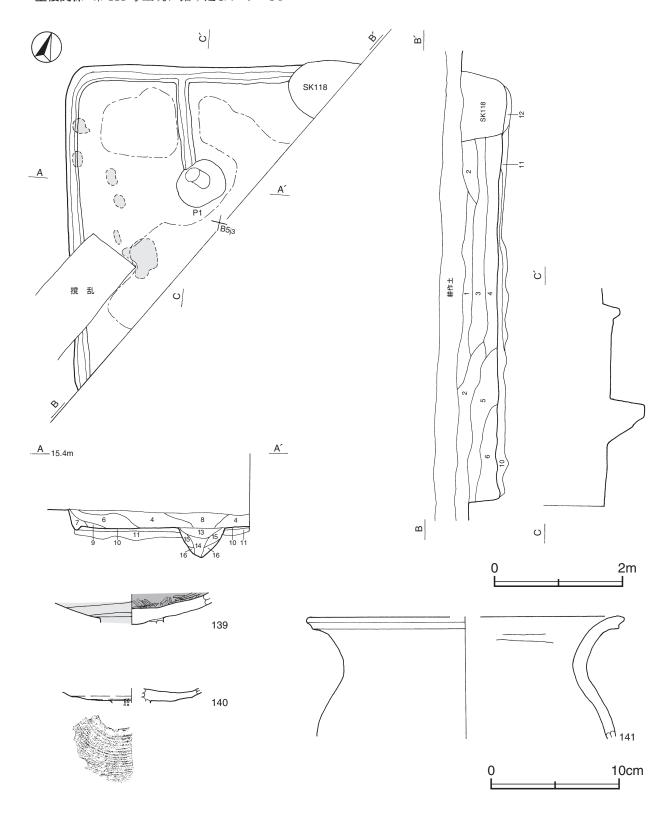
第64図 第22号住居跡・出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表(第64図)

										$\overline{}$			
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備	考
137	土師器	坏	[15.0]	(2.7)	-	長石・石	び英・雲母	橙	普通	体部外面下位へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外・ 内面横ナデ	覆土中	5%	
138	土師器	甑	17.7	14.6	4.2	長石·石 赤色粒子	英·雲母·	橙	普通	体部外面下位へラ削り後一部ナデ 内面下端へラ削り	床面	70% I	PL26
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量			質 特 徵			備	考
DP81	勾玉	3.3	1.9	1.0	0.2	4.9	4.9 土 (長石・7		にぶり	い黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27	
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材	質			特	出土位置	備:	考
DP82	土玉	2.2	2.3	0.6	10.4	土(長石	ī)	にぶい黄	曷色 -	- 方向からの穿孔 ナデ	床面	PL28	
DP83	土玉	1.0	1.0	0.2	1.0	土 (細砂)		橙色 一	方向かり	らの穿孔 ナデ	床面	PL27	
DP84	土玉	0.8	0.7	0.1	0.5	土(雲母	土 (雲母)		一方向7	からの穿孔 ナデ	床面	PL27	

第 23 号住居跡 (第 65 図)

位置 調査区東部北端のB 5 i2 区,標高 14.9 mの平坦な台地上に位置している。 重複関係 第 118 号土坑に掘り込まれている。



第65図 第23号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため、南北軸は 5.00 m、東西軸は 3.87 mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できる。壁高は 27 ~ 30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際をのぞいた中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の暗褐色土 と褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。北壁から1条の中央部へ延 びる間仕切り溝、西壁付近では焼土塊を確認した。

ピット 深さ60cmで、配置から主柱穴である。

覆土 13層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第 $10 \sim 12$ 層は貼床の 構築土である。

土層解説

9 裾 色 ロームブロック中量 (締まり普诵) 色 ロームブロック中量(締まり強い) 2 暗 褐 色 ロームブロック少量 (締まり強い) 10 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 11 褐 色 ロームブロック多量 4 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 12 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 5 にぶい褐色 ロームブロック・炭化物中量, 焼土粒子少量 13 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 6 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量 14 黒 褐 色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 7 にぶい褐色 ロームブロック中量(粘性普通) 15 暗 褐 色 ロームブロック少量 (締まり普通) 8 黒 褐 色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 16 にぶい褐色 ロームブロック中量(粘性強い)

遺物出土状況 土師器片 27 点 (坏5, 高坏2, 甕類 16, 甑 4), 須恵器片 1 点 (高坏) が出土している。139 ~ 141 は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から6世紀中葉に比定できる。

第23号住居跡出土遺物観察表(第65図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
139	土師器	高坏	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	「坏部外面へラ削り後ナデー内面へラ磨き 「坏部整形後脚」 部取り付け	覆土中	10%
140	須恵器	高坏	-	(1.1)	-	長石・石英・赤色 粒子・細礫	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ 透かし孔痕あり	覆土中	20%
141	土師器	進	[24.0]	(9.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土中	10%

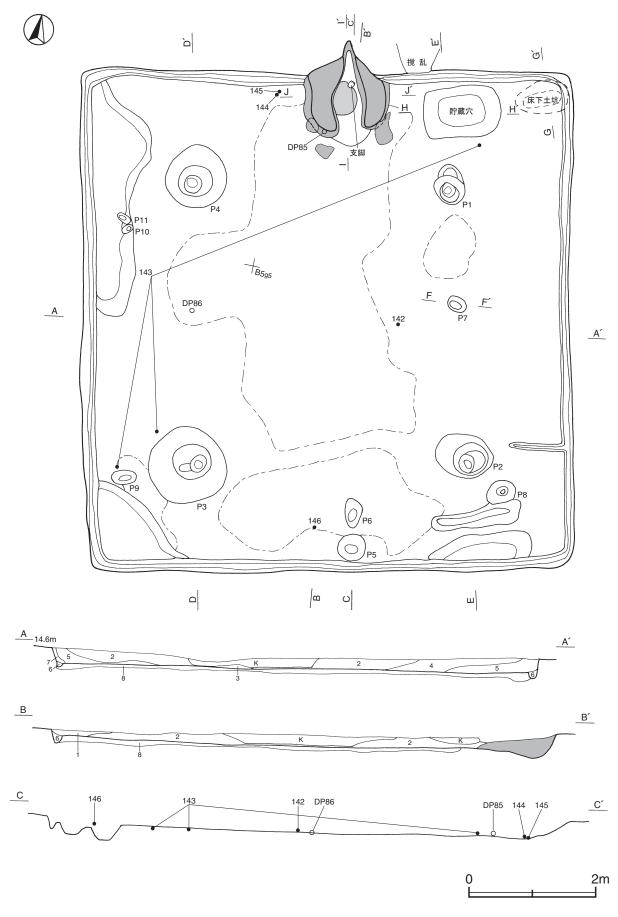
第 25 号住居跡 (第 $66 \sim 68 \, \odot$)

位置 調査区東部のB 5 f 5 区,標高 14.5 mの平坦な台地上に位置している。

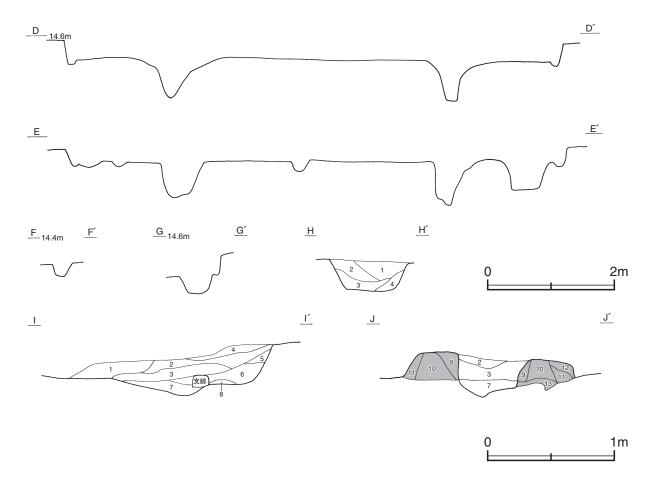
規模と形状 長軸 7.88 m, 短軸 7.72 mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は $8\sim 24$ cmで、ほぼ直立している。撹乱が覆土下層まで達していたが、床面は撹乱を受けていなかった。

床 平坦な貼床で、南壁から竈に向かう中央部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子主体の暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。東壁から1条の中央部へ延びる間仕切り溝が確認できた。南東コーナー部・南西コーナー部および西壁の一部付近では10cmほど周囲よりも落ち込んでいる。北東コーナー部からは長径88cm、短径52cmの楕円形で、深さ28cmの床下土坑が確認できた。竈の両袖付近から硬化した粘土が出土した。

電 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 172cmで、燃焼部幅は 58cmである。袖部は、 貼床構築土上に、主に粘土ブロックを主体とした第 9 ~ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面と ほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 58cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上 がっている。袖の延長部の床面に硬化した粘土が認められることから、竈の作り替えを行った可能性がある。



第66図 第25号住居跡実測図(1)



第67図 第25号住居跡実測図(2)

竈土層解説

1 にぶい褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・ローム粒子・ 炭化粒子微量

2 にぶい橙色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

3 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量,粘土粒子少量,炭化物・ローム粒 子微量

4 黒 褐 色 粘土粒子少量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子 微量

5 極暗赤褐色 焼土粒子中量,ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子 微量

6 極暗褐色 焼土ブロック中量, 粘土粒子少量, ローム粒子微量

7 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 8 にぶい褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒

子微量

9 灰 褐 色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量

10 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

11 にぶい褐色 粘土粒子中量,焼土ブロック・ローム粒子・炭化 粒子微量

12 灰 褐 色 粘土粒子中量, ローム粒子微量

13 灰 黄 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量

ピット 11 か所。 $P1 \sim P4$ は深さ $52 \sim 68$ cmで,配置から主柱穴である。 $P5 \cdot 6$ は深さ $14 \cdot 21$ cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P7 は深さ 15cmで, $P1 \cdot 2$ を結ぶ軸線上にあることから補助柱穴と考えられる。 $P8 \sim P1$ 1 は深さ $15 \sim 47$ cmで,性格不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸 136cm, 短軸 82cmの隅丸長方形である。深さは 46cmで, 底面は平坦で,壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

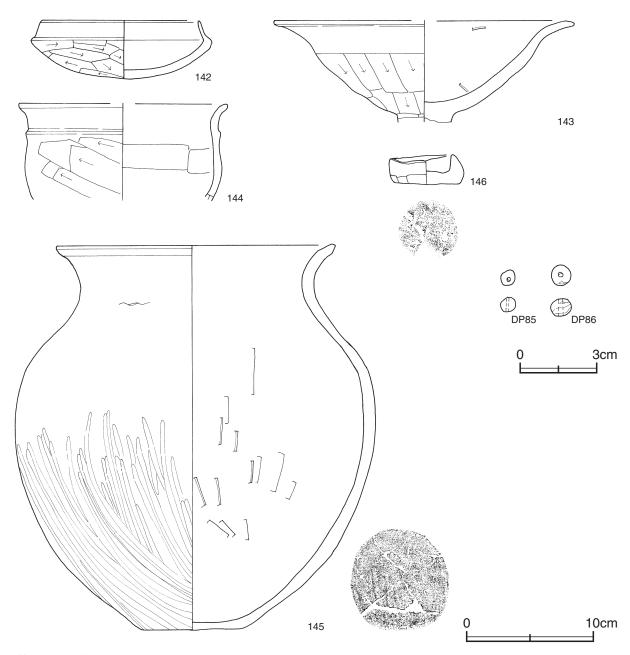
1 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 神

3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

2 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

4 暗 褐 色 ロームブロック少量

覆土 7層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であるが、ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。



第68図 第25号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 7 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 8 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 625 点 (坏 113, 椀 1, 高坏 2, 鉢 1, 甕類 502, 甑 5, 手捏土器 1) 土製品 13 点 (支脚 11, 土玉 2) が西部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。また流れ込んだ須恵器片 2 点 (坏,鉢) も出土している。142 は中央部, 144・145 は竈左袖付近の北壁際, DP85 は竈前, DP86 は P 3・4 間の床面からそれぞれ出土している。143 は、北東コーナー部付近と南西コーナー部付近の床面から出土した破片が接合したものである。146 は、出入口付近の覆土下層から出土した。竈内や床面から支脚片が出土したがいずれも細片で図化できなかった。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第25号住居跡出土遺物観察表(第68図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	土師器	坏	12.3	4.6	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	80% PL18
143	土師器	高坏	[24.0]	(8.2)	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	明黄褐	普通	坏部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 工具当て痕	床面	40%
144	土師器	進	[16.2]	7.7	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ削り後ナデ 面へラナデ 口縁部外・内面 横ナデ	床面	45%
145	土師器	進	21.8	30.6	8.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き 内面ヘラナデ 口縁部外・内面横ナ デ 工具当て痕	床面	90% PL24
146	土師器	手捏土器	4.8	2.3	4.9	長石・石英	橙	普通	体部外面上半横ナデ 内面横ナデ	覆土下層	80% PL20

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特	出土位置	備考
DP85	土玉	0.6	0.6	0.1	0.2	土 (石英・長石)	にぶい黄橙色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP86	土玉	0.8	0.7	0.2	0.4	土 (長石)	暗褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27

第 26 号住居跡 (第 69 · 70 図)

位置 調査区東部のB 5 d3 区、標高 14.4 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.50 m. 短軸 5.33 mの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は36~47cmで、外 傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロック主体の褐色土と黒褐色土、暗褐色 土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。

電 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 112cmで、燃焼部幅は 43cmである。袖部は、 貼床構築土を8cmほど掘り込み、ロームブロック主体の第10·11層を埋土して、ローム粒子や粘土粒子を主 体とした第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化して いる。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

電十層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化物微量

2 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量

3 暗赤 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量,炭化粒子 8 灰 褐 色 粘土粒子中量,焼土ブロック少量,ローム粒子・ 微量

4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化 粒子微量

5 極暗赤褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量

6 暗赤褐色 ロームブロック中量,炭化粒子少量

7 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量

炭化粒子微量

9 灰 褐 色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

10 暗赤褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

11 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 61 ~ 80cmで,配置から主柱穴である。P 5 は深さ 24cmで,位置や硬化 面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸 82cm,短軸 62cmの隅丸長方形である。深さは 51cmで,底面は 平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴十層解説

1 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 8層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積である。第9~ 11 層は貼床 の構築土である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック極微量

色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量

3 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

4 暗 褐 色 ロームブロック微量, 焼土粒子極微量

5 暗 褐 色 ロームブロック少量

6 暗 褐 色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量

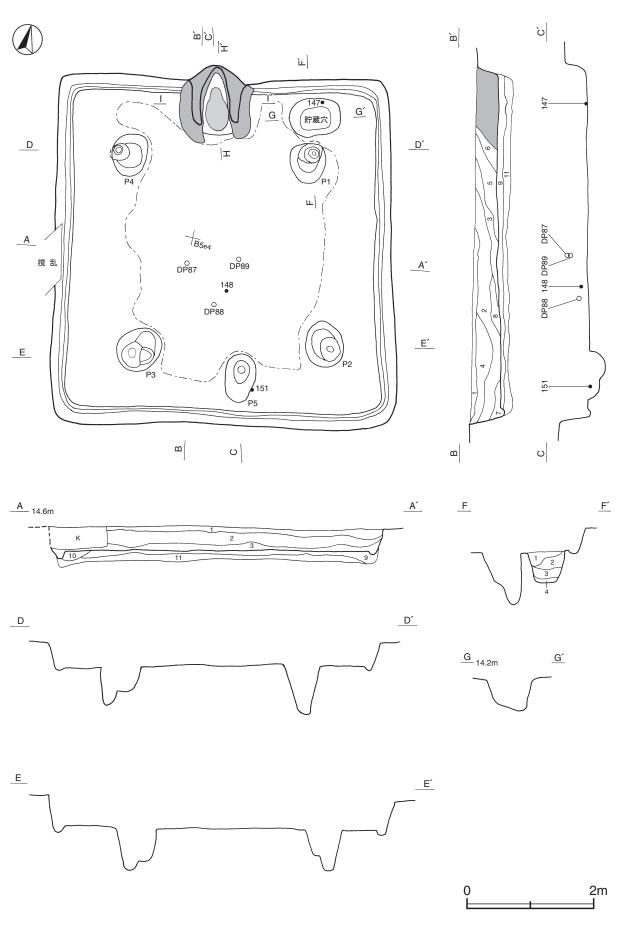
7 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量,焼土ブロッ ク極微量

8 裾 色 ロームブロック多量

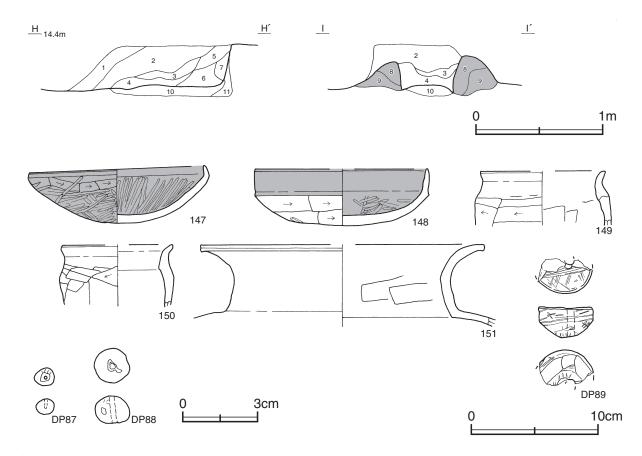
9 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

10 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

11 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第69図 第26号住居跡実測図



第70図 第26号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 111 点 (坏 22, 甕類 82, 甑 7), 土製品 4 点 (土玉 2, 紡錘車 1, 支脚 1) が出土している。151 は出入口付近の床面から,147 は貯蔵穴確認面から,148 は中央部の覆土下層から出土している。DP88 は中央部やや南寄りの覆土中層から,DP87・DP89 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。149 は貼床の構築土内,150 は竈の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第26号住居跡出土遺物観察表(第70図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
147	土師器	坏	13.9	4.6	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面上位へラ削り後へラ磨き 内面へラ磨き 口縁 部外・内面横ナデ	覆土下層	98% PL18
148	土師器	坏	[13.2]	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデー部へラ磨き 内面へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	30%
149	土師器	進	[9.8]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へラ削り 内面ヘラナデ 口縁部外・内面横ナデ	貼床構築土	20%
150	土師器	差	[8.6]	(5.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ	竈覆土中	20%
151	土師器	差	[22.6]	(6.5)	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	頸部外・内面横ナデ	床面	5%
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質			特 徴	出土位置	備考
番号 DP87	器 種 土玉	径 0.8	長さ 0.6	孔径 0.1	重量	材 質 土 (長石)	灰黄褐色	穿孔(特	出土位置	備 考 PL27
										-	
DP87	土玉	0.8	0.6	0.1	0.14	土 (長石)			0.4cmの未製品 一方向からの穿孔 ナデ	覆土上層	PL27
DP87	土玉	0.8	0.6	0.1	0.14	土 (長石)			0.4cmの未製品 一方向からの穿孔 ナデ	覆土上層	PL27
DP87	土玉	0.8	0.6	0.1	0.14	土 (長石) 土 (石英)	にぶい黄木	登色 -	0.4cmの未製品 一方向からの穿孔 ナデ 一方向からの穿孔 ナデ	覆土上層 覆土中層	PL27 PL27

第 27 号住居跡 (第 71 · 72 図)

位置 調査区東部のB5c3区,標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 6.33 m, 短軸 6.11 mの方形で、主軸方向はN $-76\degree$ - E である。壁高は $27\sim32 \text{cm}$ で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。壁溝が巡っている。西壁から1条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。壁際には、炭化材が中央に倒れ込むように出土している。

電 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで $125 \, \mathrm{cm}$ で、燃焼部幅は $40 \, \mathrm{cm}$ である。袖部は床面から深さ $29 \, \mathrm{cm}$ の皿状に掘りくぼめた部分に粘土主体の第 $9 \sim 11$ 層を埋土して、焼土ブロックと粘土粒子を主体とした第 $12 \cdot 13$ 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に $48 \, \mathrm{cm}$ 掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 4 にぶい褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量
- 5 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量 11 褐
- 6 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 灰 黄 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量

- 8 灰黄褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 褐 色 焼土粒子・粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子 微量
- 10 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 11 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 12 暗 褐 色 焼土ブロック中量,炭化粒子少量
- 13 灰黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子微量

ピット 5 か所。 P 1 ~ P 4 は深さ 56 ~ 66cmで,配置から主柱穴である。 P 5 は深さ 56cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸 128cm, 短軸 78cmの隅丸長方形である。深さは 52cmで, 底面 は中央部が凹んでおり, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック少量,炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子少量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

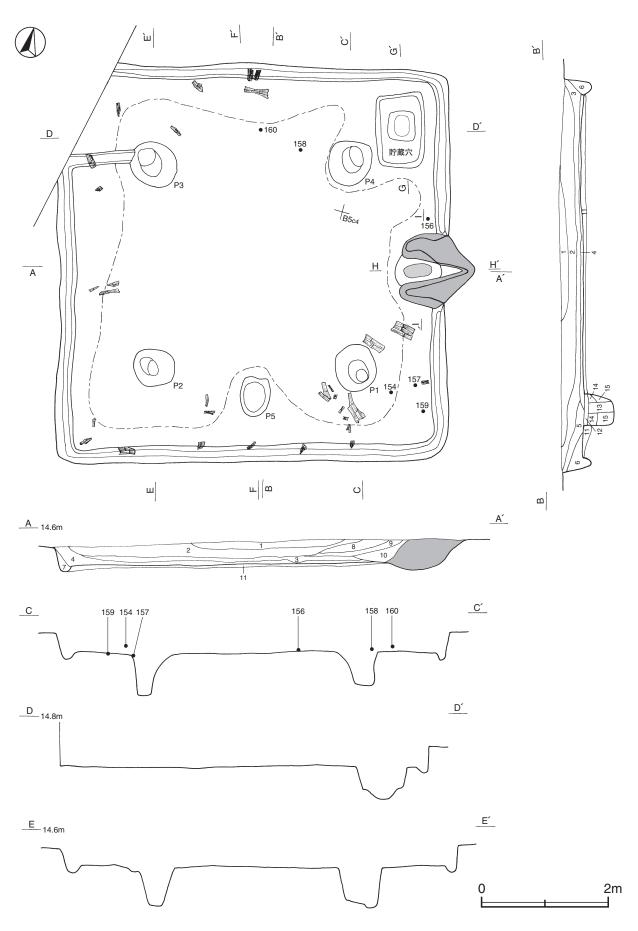
覆土 14 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であるが、ロームブロックが多く含まれることから埋め戻されている。第 11 層は貼床の構築土である。

土層解説

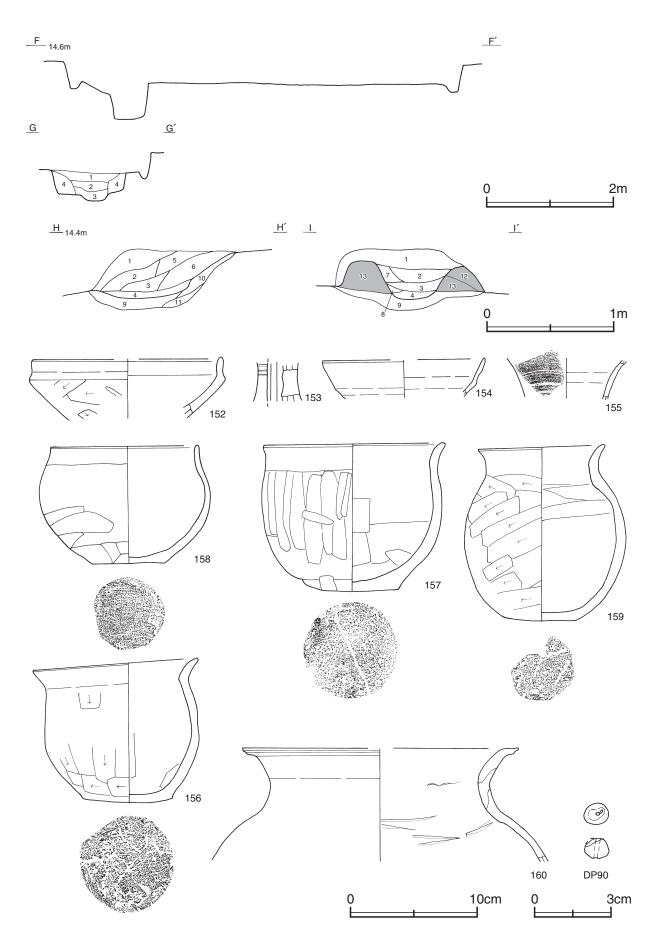
- 1 黒 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 7 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 8 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、細礫微量
- 9 極暗褐色 細礫少量, ローム粒子・粘土粒子微量
- 10 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量, 細礫・砂質粒子微量
- 11 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 12 にぶい褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 14 にぶい褐色 ロームブロック中量, 白色粒子微量
- 15 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 473 点 (坏 115, 椀 2, 高坏 4, 甕類 344, 甑 8), 須恵器片 3 点 (高坏 1, 腿 2), 土製品 1 点 (土玉), 鉄滓 1 点 (11.5 g) が, 西壁際の覆土上層から中層にかけてと, 東壁際の覆土中層から 床面にかけて出土している。また, 混入した縄文土器片 1 点 (深鉢) も出土している。152 は P 1 の覆土中から, 155 は壁溝の覆土中から, 157・159 は南東コーナー部, 158 は北部中央, 156 は竈左袖付近の床面からそれぞれ出土している。154 は南東コーナー部, 160 は北部中央の覆土下層から出土している。153 は覆土中から, DP90 は貼床の構築土内から出土している。

所見 床面は焼けていないが、炭化材の出土状況から焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から6世紀 後葉に比定できる。



第71図 第27号住居跡実測図



第72回 第27号住居跡・出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表(第72図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
152	土師器	坏	[15.0]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう削り後ナデー部へう磨き 内面ナデ 口縁 部外・内面横ナデ	P 1 覆土中	5%
153	須恵器	高坏	-	(3.1)	-	長石・雲母	灰	良好	外面ロクロナデ 櫛状工具による沈線3条	覆土中	5%
154	須恵器	腿	[12.8]	(3.1)	-	長石・雲母	灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土下層	5%
155	須恵器	應	-	(3.3)	-	長石・石英	灰	良好	外・内面ロクロナデ	壁溝覆土中	5%
156	土師器	進	12.5	11.6	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・内 面横ナデ 二次被熱痕	床面	95% PL22
157	土師器	差	14.1	11.9	7.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・内 面横ナデ 二次被熱痕	床面	95% PL22
158	土師器	進	11.7	9.3	5.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	90% PL22
159	土師器	差	10.0	14.1	5.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ上位へラナデ 口縁 部外・内面横ナデ	床面	80% PL22
160	土師器	雞	[22.0]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材 質	特	出土位置	備考
DP90	土玉	1.0	0.8	0.2	(0.7)	土 (長石)	橙色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	貼床構築土	PL27

第 28 号住居跡 (第 73 · 74 図)

位置 調査区東部のA5h4区,標高14.0mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部が調査区外に延びているが、東西軸は $5.84~\mathrm{m}$ である。また、北壁の立ち上がりが確認できなかったが、南北軸は $5.90~\mathrm{m}$ で、方形と推測でき、主軸方向は $N-17~\mathrm{m}$ Wである。壁高は $5\sim32\mathrm{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、一部が踏み固められている。南壁下には、壁溝が巡っている。

炉 中央部からやや北寄りに付設されている。長径 36cm, 短径 34cmの円形で、床面から5cm掘りくぼめた地床炉で、炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1 赤 褐 色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量

ピット 6 か所。 P $1 \sim$ P 3 は深さ $34 \sim$ 78cmで,配置から主柱穴である。 P 4 は深さ 64cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。 P $5 \cdot 6$ は深さ $50 \cdot 28$ cmで,性格不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸 100cm, 短軸 72cmの隅丸長方形である。深さは 42cmで, 底面 は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

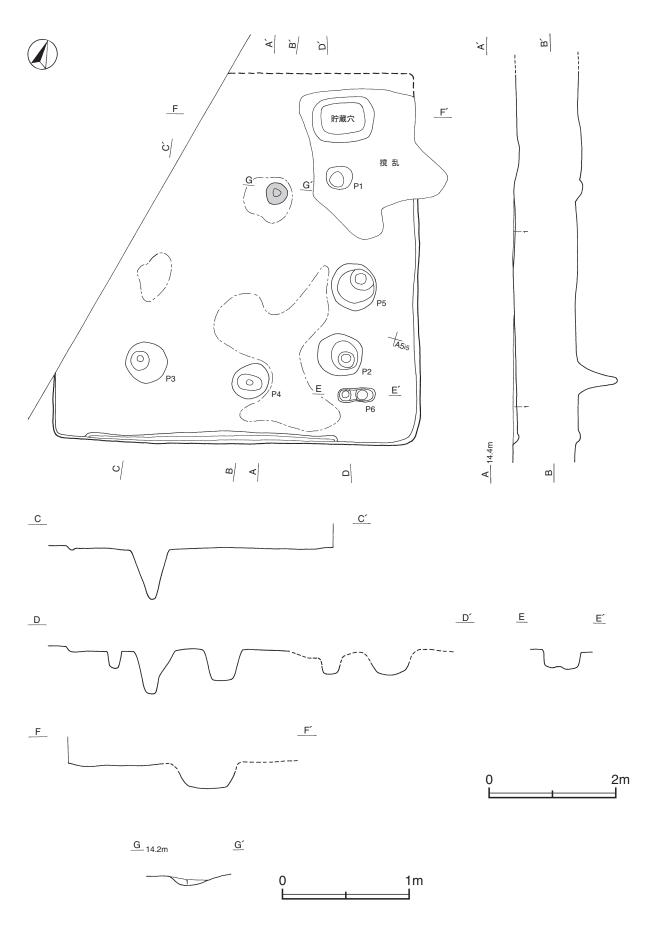
覆土 単一層である。覆土が5cmほどしか堆積していないため堆積状況は不明である。

土層解説

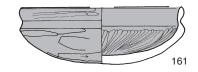
1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

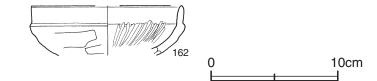
遺物出土状況 土師器片 13 点 (坏 11, 甕類 2), 須恵器片 3 点 (高坏 1, 腿 2) が出土している。161・162 は貯蔵穴内の覆土中から出土した。

所見 北壁の立ち上がりが確認できなかったため、竈が付設されていたかは不明であるが、小形の炉が付設されていたことから、住居ではなく工房として使用された可能性がある。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第73図 第28号住居跡実測図





第74 図 第28 号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表(第74図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
161	土師器	坏	[12.8]	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい橙		体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外面へ ラ磨き 内面横ナデ	貯蔵穴内	60%
162	土師器	坏	[12.0]	(4.0)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外・内 面横ナデ	貯蔵穴内	10%

第 29 号住居跡 (第 75 ~ 81 図)

位置 調査区西部のA 1 j9 区,標高 13.0 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 7.26 m, 短軸 7.04 mの方形で、主軸方向は $N-24^\circ-W$ である。壁高は $41\sim60$ cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部及び南コーナー部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子主体の暗褐色土、 粘土ブロックやロームブロック主体の褐色土、粘土粒子やロームブロック主体の明褐色土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。北東壁から2条、南東壁から2条、南西壁から3条、の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P5の西側に若干の高まりが確認できた。

電 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 160cmで,燃焼部幅は 50cmである。袖部は床面から深さ 8cmの皿状に掘りくぼめた部分に粘土粒子やロームブロックなどを含む第 $11 \sim 13$ 層を埋土して,粘土粒子と細礫を主体とした第 $8 \sim 10$ 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで,火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 48cm掘り込まれ,火床部から外傾して立ち上がっている。

電土層解説

1 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量, 粘土粒子 極微量

2 にぶい褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 にぶい橙色 砂粒中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量

4 赤 褐 色 焼土粒子·砂質粒子多量

5 にぶい褐色 砂粒極多量、細礫少量、焼土ブロック極微量

6 褐 色 砂粒中量, 焼土粒子極微量

7 赤 褐 色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック微量

8 にぶい褐色 細礫・粘土粒子少量, 焼土粒子極微量

9 にぶい褐色 焼土粒子・粘土粒子中量

10 褐 色 焼土粒子・粘土粒子少量

11 暗 褐 色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

12 暗 褐 色 砂粒中量, ローム粒子極微量 13 にぶい褐色 ロームブロック中量

ピット 11 か所。 P 1 ~ P 4 は深さ 67 ~ 70cmで,配置から主柱穴である。 P 5 · 6 は深さ 29 · 14cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。 P 5 の覆土中からは,焼土塊が出土している。 P 7 ~ P 11 は深さ 12 ~ 54cmで,性格不明である。

貯蔵穴 北コーナー部に位置している。長軸 99cm, 短軸 90cmの隅丸長方形である。深さは 38cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

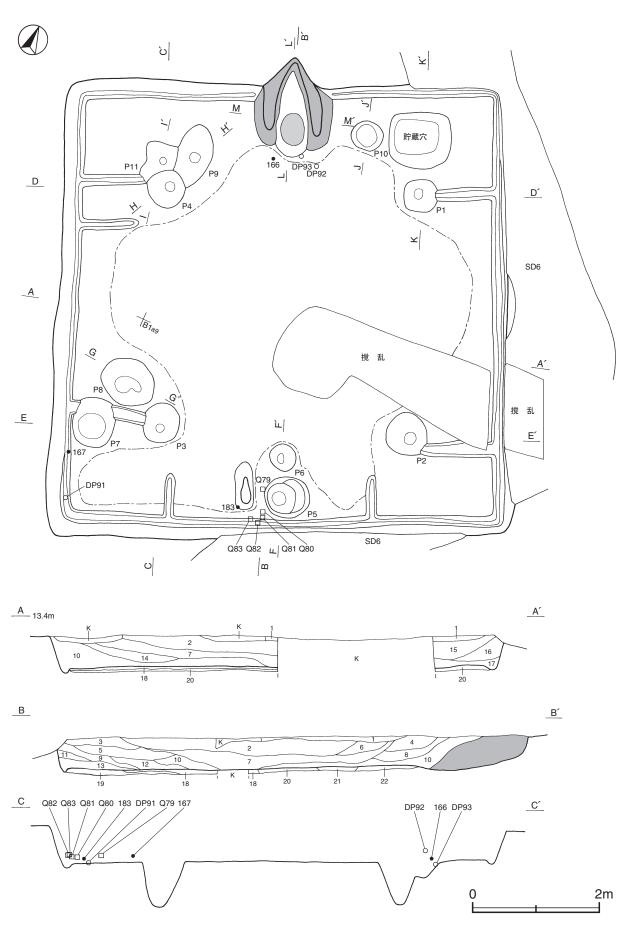
貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック微量, 焼土粒子極微量

2 褐 色 ローム粒子微量,炭化粒子極微量

3 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量、焼土ブロッ

覆土 17層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。第 $18 \sim 22$ 層は、 貼床の構築土である。



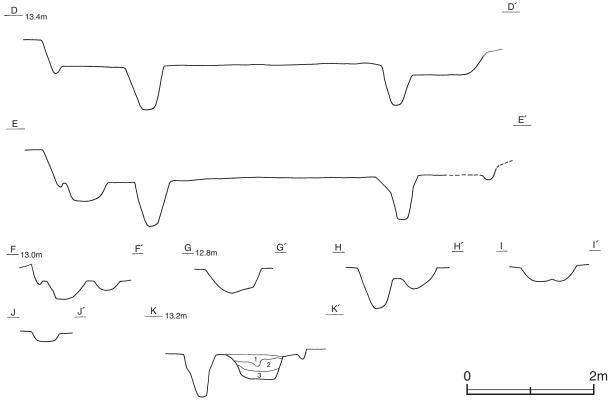
第75 図 第29 号住居跡実測図(1)

土層解説

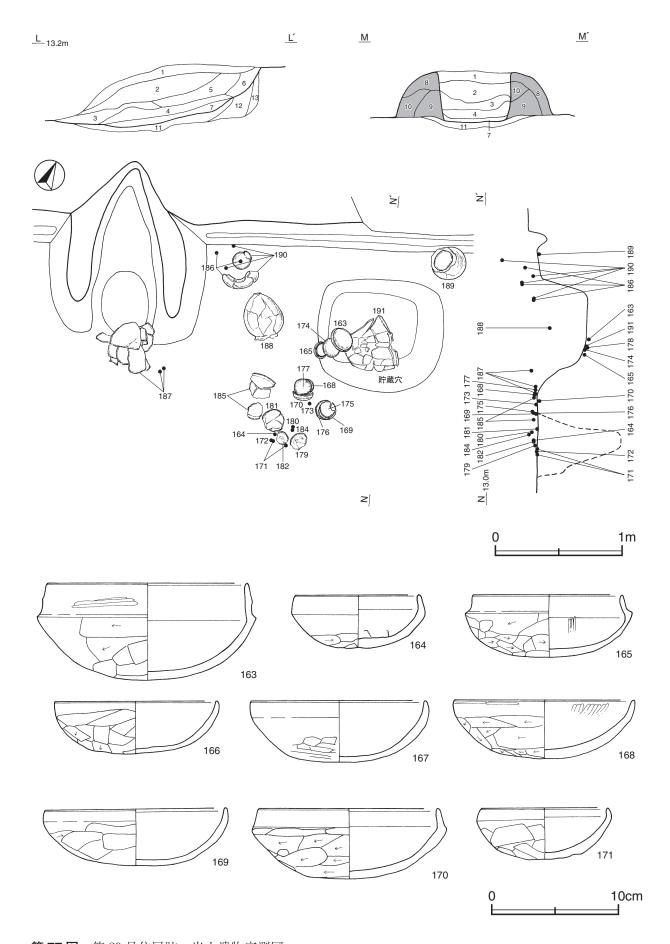
色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 1 里 裼 11 裾 色 ローム粒子中量 2 里 色 ローム粒子極微量 12 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量 3 黒 色 ロームブロック極微量 13 暗 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子 14 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 4 黒 褐 極微量 15 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量 5 暗 裾 色 ロームブロック・炭化粒子微量 16 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子極微量 6 黒 17 暗 褐 色 粘土ブロック少量 ローム粒子・焼土粒子微量 暗 裾 色 ローム粒子中量 18 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 色 粘土ブロック中量 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量, 細 19 裾 8 暗 裾 礫極微量 20 明 褐 色 粘土粒子多量, 黑色粒子少量 9 里 褐 色 ロームブロック・炭化粒子極微量 21 裾 色 ロームブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量 褐 色 ローム粒子・炭化粒子極微量 22 明 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 10 黒

遺物出土状況 土師器片 704 点 (坏 259, 椀 2, 高坏 4, 甕類 437, 甑 2), 土製品 3 点 (勾玉 2, 支脚 1) が、北部を中心とした覆土下層から床面にかけて出土している。また、混入した須恵器片 1 点 (蓋) も出土している。163・165・174・178・191 は貯蔵穴の底面で、178 は 191 の下から、南壁から 165・174・163 の順で斜位の状態でそれぞれ出土している。DP91 は南西コーナー付近の壁溝の覆土中から、167 は南西コーナー付近の壁溝の確認面上から、166 は竈左袖前、183、Q79 は出入り口付近、188 は貯蔵穴と竈の中間、187・DP93 は竈前の床面から、189 は貯蔵穴付近で立位の状態で床面からそれぞれ出土している。186 は竈右袖付近の覆土下層から床面にかけて、DP92 は竈前の覆土中層から、190 は竈右袖付近の覆土上層から床面にかけて破片の状態で出土している。164・168~173・175~177・179~182・184・185 は、P 1 から竈にかけての広い範囲の床面で出土している。重なった状態で出土したものもあり、床面から 176・169・175 の順でそれぞれ正位の状態で、床面から 170・168・177 の順で斜位の状態で、床面から 171・172・164 (完形)・182・180 の順で出土している。Q 80~83 の自然石が出入口付近の壁際から円を描くように並んで出土したが、その性格は不明である。

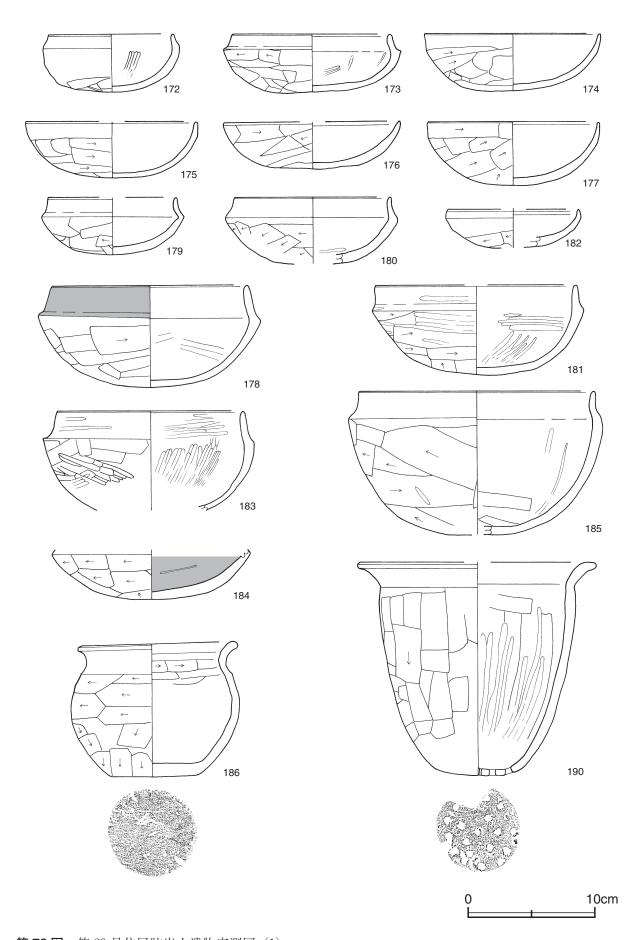
所見 床面から完形の土器が多く出土し、一部はまとまっていることから、床面に置いた状態で埋め戻しが 行われ、同時に他の遺物が投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



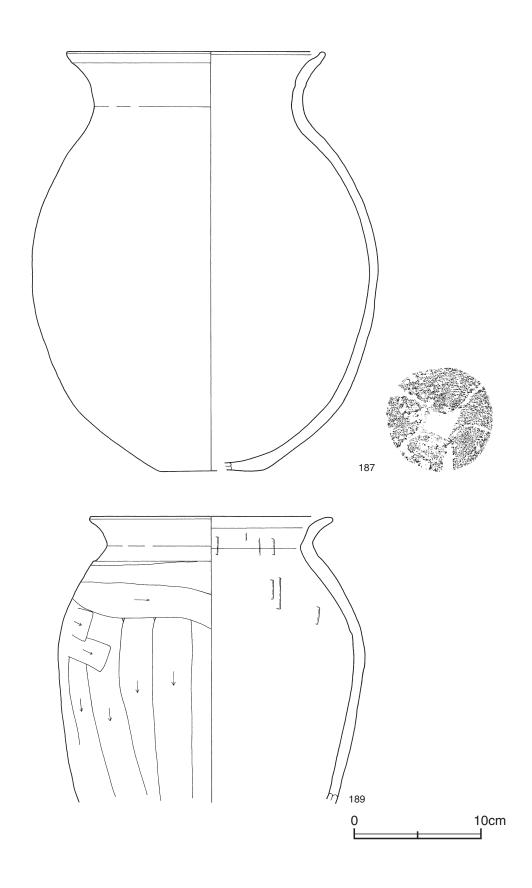
第76図 第29号住居跡実測図(2)



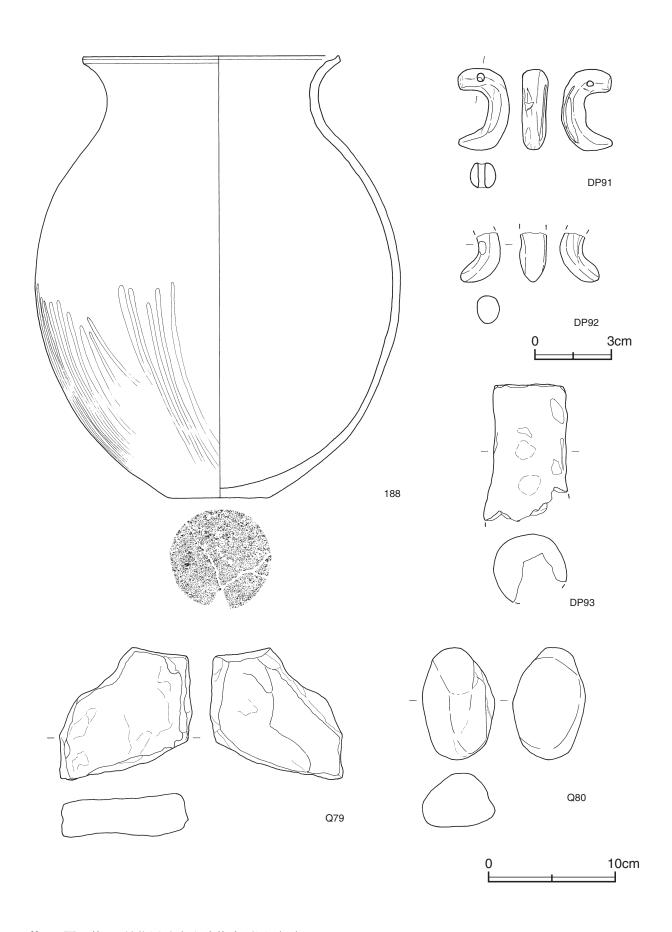
第77回 第29号住居跡・出土遺物実測図



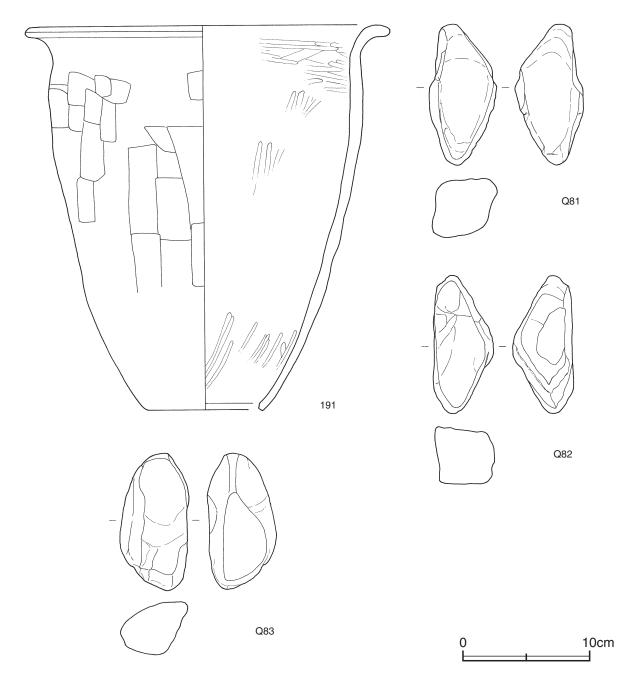
第78図 第29号住居跡出土遺物実測図(1)



第79回 第29号住居跡出土遺物実測図(2)



第80図 第29号住居跡出土遺物実測図(3)



第81図 第29号住居跡出土遺物実測図(4)

第 29 号住居跡出土遺物観察表(第 77 \sim 81 図)

						1					
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
163	土師器	坏	16.0	7.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外面横ナデ 一部へラ磨き 内面横ナデ	貯蔵穴底面	100% PL19
164	土師器	坏	10.0	4.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 口縁部外・内 面横ナデ	床面	100% PL19
165	土師器	坏	11.9	5.0	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横 ナデ	貯蔵穴底面	100% PL19
166	土師器	坏	12.8	4.2	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横 ナデ	床面	95% PL19
167	土師器	坏	13.8	4.9	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横 ナデ 二次被熱痕	壁溝確認面	95% PL19
168	土師器	坏	14.2	4.7	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデー部へラ磨き 口縁 部外面横ナデ 二次被熱痕	床面	95% PL19
169	土師器	坏	14.5	4.5	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内面 横ナデ 二次被熱痕	床面	98% PL19
170	土師器	坏	14.3	5.6	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	90% PL19

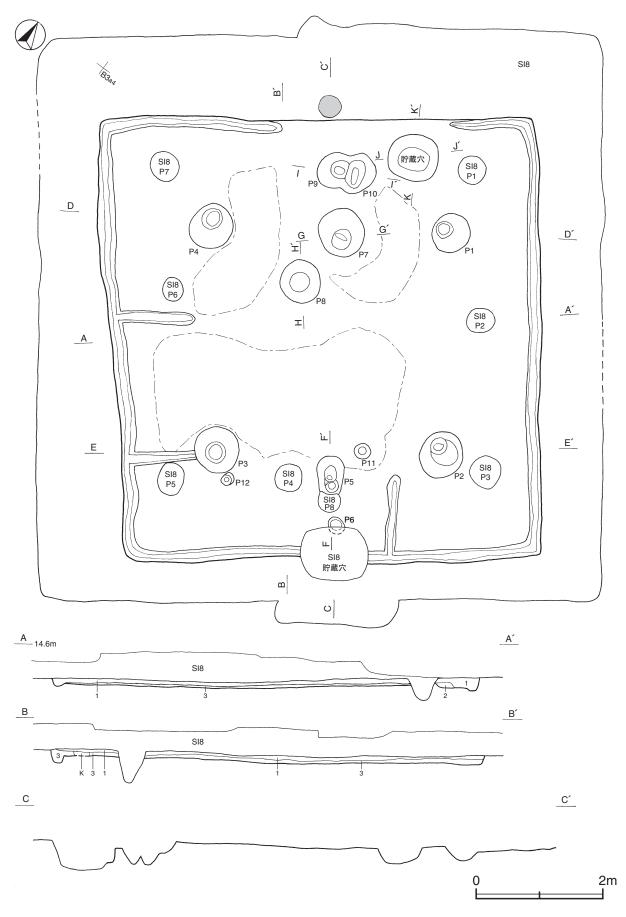
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備	考
171	土師器	坏	10.0	4.1	-	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ上位横ナデ 口縁部 外・内面横ナデ	床面	90%	PL19
172	土師器	坏	10.0	4.6	-	長石·石 赤色粒-	「英・雲母・ 子	黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外・ 内面横ナデ	床面	90%	
173	土師器	坏	12.6	4.7	-	長石·石 赤色粒-	「英・雲母・ 子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデー部へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	90%	PL19
174	土師器	坏	14.0	4.6	-	長石·石 赤色粒-	5英・雲母・ 子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内 面横ナデ	貯蔵穴底面	90%	PL19
175	土師器	坏	[13.6]	4.5	-	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ 二 次被熱痕	床面	90%	
176	土師器	坏	[14.0]	3.8	-	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 口縁部内面横ナデ 二次被 熱痕	床面	90%	
177	土師器	坏	13.6	5.1	-	長石・石	5英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデ 口縁部内面横 ナデ 二次被熱痕	床面	85%	
178	土師器	坏	15.4	8.1	-	長石・石	5英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデー部へラ磨き 口 緑部外・内面横ナデ	貯蔵穴底面	90%	PL19
179	土師器	坏	[10.2]	4.6	-	長石·石 赤色粒-	5英・雲母・ 子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内 面横ナデ 二次被熱痕	床面	80%	
180	土師器	坏	12.4	(5.3)	-	長石·石 赤色粒-	5英・雲母・ 子	橙	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデー部へラ磨き 口縁部 外・内面横ナデ	床面	70%	PL20
181	土師器	坏	[15.8]	7.2	-	長石・石	5英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面へラ削り後上位へラ磨き 内面横ナデー部へ ラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	70%	PL20
182	土師器	坏	[10.4]	(3.0)	-	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面下位へラ削り 上位横ナデ 内面横ナデ	床面	40%	
183	土師器	椀	14.8	(8.0)	-	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデー部へラ磨き 内面へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ後一部へラ磨き	床面	60%	
184	土師器	坏	-	(3.8)	-	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデー部へラ磨き 二次被熱 痕	床面	60%	
185	土師器	椀	18.6	11.4	-	長石·石 赤色粒-	「英・雲母・ 子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り一部へラ磨き 内面へラナデー部へ ラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	50%	PL20
186	土師器	差	12.2	10.7	7.0	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外面横ナデ 内面へラ削り	覆土下層~床面	80%	PL22
187	土師器	進	20.3	33.4	8.0	長石・石	5英・雲母	黄橙	普通	体部外・内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次被熱 痕	床面	95%	PL25
188	土師器	漉	20.2	35.2	8.0	長石・石	5英・雲母	黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き 口縁部外面横ナデ 二次被熱痕	床面	90%	
189	土師器	甕	18.8	(22.7)	1	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラ削り 内面ヘラ ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	80%	PL23
190	土師器	甑	[18.6]	17.1	6.6	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ヘラナデ後ヘラ磨き 内から外への穿孔 19 孔のうち未貫通 1 孔 穿孔後ナデ	覆土上層~床面	60%	PL25
191	土師器	甑	27.5	30.7	9.2	長石・石	5英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外・ 内面横ナデ	貯蔵穴底面	80%	
											,		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材	質		特	出土位置	備	考
DP91	勾玉	3.2	2.0	1.0	0.3	5.8	土(石英	· 雲母)	明黄衫	曷色 一方向からの穿孔 ナデ	壁溝覆土中	PL27	
DP92	勾玉	(2.0)	(1.6)	1.1	-	(2.7)	土 (石英)		橙色	ナデ 一部欠損	覆土中層	PL27	
				1							1		
番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材	質			特	出土位置	備	考
DP93	支脚	(10.9)	(6.7)	(5.0)	(266.0)	土 (長石 雲母)	5・石英・	にぶい橙色	色 ナラ	デ 指頭圧痕 一部欠損	床面		
			,	\									
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特	出土位置	備	考
Q79	自然石	10.5	10.5	3.4	507.0	雲母片岩	告	1面に若	トの研!	善養病有り 砥石として使用ヵ	床面	PL29	
Q80	自然石	9.0	5.8	4.3	269.0	雲母片岩	<u></u>	研磨痕な			床面	PL29	
Q81	自然石	10.2	5.4	4.7	341.0	雲母片岩	<u></u>	研磨痕な			床面	PL29	
Q82	自然石	10.9	4.8	4.5	314.0	雲母片岩		研磨痕な	,		床面	PL29	
Q83	自然石	10.8	5.5	4.2	352.0	雲母片岩		研磨痕な	,		床面	PL29	

第 30 号住居跡 (第 82 · 83 図)

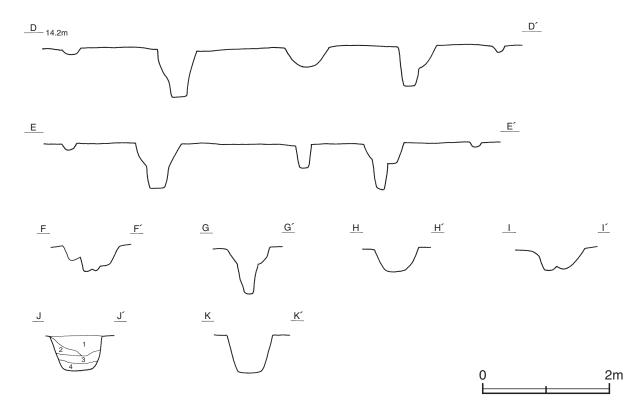
位置 調査区中央部のB3a5区,標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8号住居の拡張前の住居である。

規模と形状 長軸 7.12 m, 短軸 7.02 mの方形で、主軸方向はN $-38\degree$ – Wである。第8号住居跡の床下から確認できたため、柱穴や壁溝は確認できたが、壁の立ち上がりは確認できなかった。



第82 図 第30号住居跡実測図(1)



第83 図 第30 号住居跡実測図(2)

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。南東壁から1条、南西壁から2条の それぞれ中央部に延びる間仕切り溝を確認した。

竈 第8号住居の竈の火床部の掘方から火床面のみ確認できた。

ピット 12 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 65 ~ 76cmで,配置から主柱穴である。P 5 は深さ 40cmで,位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は第8号住居の貯蔵穴に掘りこまれているが,深さ 32cmと推定でき,P 5 に付随するピットと考えられる。P 7 は深さ 74cmでP 1 と P 4 の中央に位置していることから補助柱穴と考えられる。P 8 ~ P 12 は深さ 18 ~ 37cmで,性格不明である。

貯蔵穴 北西壁中央と北コーナー部の間に位置している。長径 82cm, 短径 73cmの不定円形である。深さは 55 cmで,底面は平坦で,壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化 粒子微量

覆土 3層に分層できる。ロームブロック主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐 色 ロームブロック中量 (締まり強)
- 2 褐 色 ロームブロック中量 (締まり普通)

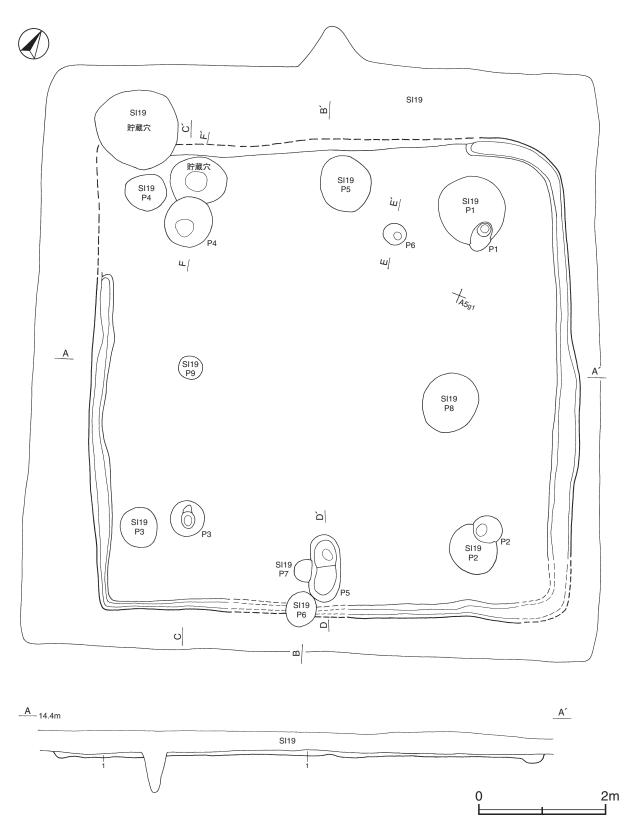
遺物出土状況 土師器片 11 点(坏4,甕類 6,甑 1)が,P 3 や貯蔵穴の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 第8号住居と主軸方向がほぼ同じで、各壁を平行に拡張した様相から、第8号住居の拡張前の住居と 考えられる。時期は、出土遺物と拡張関係から、6世紀前葉と推定できる。

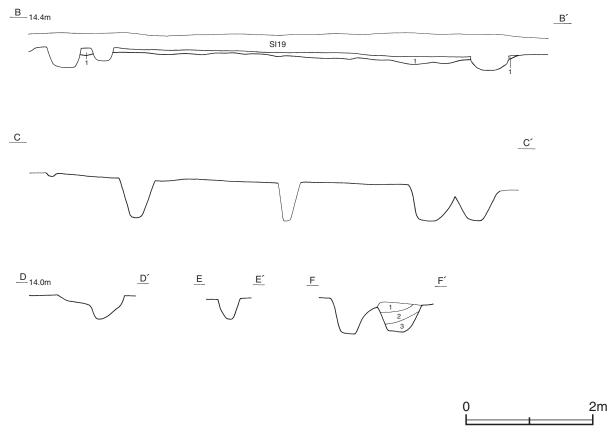
第 31 号住居跡 (第 84 · 85 図)

位置 調査区中央部のA4g0区、標高13.9mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第19号住居の拡張前の住居である。



第84 図 第31 号住居跡実測図(1)



第85 図 第31 号住居跡実測図 (2)

規模と形状 長軸 7.77 m, 短軸 7.67 mの方形で, 主軸方向はN-23°-Wである。

第 19 号住居の床下から確認できたため、柱穴や壁溝は確認できたが、壁の立ち上がりは確認できなかった。 **床** 平坦で、硬化面は確認できなかった。北西コーナー部・南東コーナー部以外では、壁溝が巡っている。 **ピット** 6 か所。 P 1 ~ P 4 は深さ 48 ~ 67cmで、配置から主柱穴である。 P 5 は深さ 42cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。 P 6 は深さ 34cmで、性格不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長径 92cmで、短径は P 4 と重複している部分があるため 72cmしか確認できなかった。形状は、楕円形と推測できる。深さは 46cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

3 暗 褐 色 ローム粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

覆土 単一層である。ロームブロック主体の堆積状況であることから、埋め戻されている。

土層解説

1 にぶい褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 6 点 (甕類) が P 1 · 2 · 5 の覆土中から出土している。いずれも細片のため、図化できない。

所見 第19号住居と主軸方向がほぼ同じで、各壁を平行に拡張した様相から、第19号住居の拡張前の住居と考えられる。時期は、出土遺物と拡張関係から、6世紀中葉以前と推定できる。

表 3 古墳時代竪穴住居跡一覧表

				規模(m)	壁高				内	部 施	設					備考
番号	位置	平面形	主軸方向	(長軸×短軸)	(cm)	床面	壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時 期	重複関係(古→新)
2	B 3 h2	[方 形] 長方形]	N - 38° - W	5.78 × (2.64)	82	平坦	(全周)	2	-	1	卷 1	-	自然 人為	土師器, 土製品, 炭化米	6世紀前葉	
3	В 2 ј8	方 形	N - 25° - W	5.78 × 5.66	24	平坦	(全周)	4	1	-	鑑1	1	人為	土師器	6世紀後葉	本跡→ SF3
4	A 2 j6	方 形	N - 19° - W	7.64 × 7.52	50 ~ 65	平坦	全周	4	3	1	篭 2	2	自然	土師器,須恵器, 土製品	6世紀中葉	
5	A 2 g7	[方 形] 長方形]	N - 81° - E	6.08 × (5.30)	28 ~ 34	平坦	(全周)	3	2	-	-	-	自然	土師器,須恵器, 土製品	6世紀前葉	本跡→ SK20, SD1
6	A 3 g2	[方 形] 長方形]	N - 56° - E	9.64 × (7.02)	36 ~ 57	平坦	(全周)	4	-	6	-	-	人為	土師器,須恵器, 土製品	6世紀前葉	本跡→ SD2
7	B 2 c0	方 形	N - 52° - W	6.24 × 6.06	53 ~ 62	平坦	全周	4	3	1		1	自然	土師器,土製品, 石製品	6世紀中葉	本跡→SK45
8	В 3 а5	方 形	N - 36° - W	9.18 × 9.05	21 ~ 46	平坦	全周	7	4	3	篭1	1	人為	土師器,須恵器, 土製品,石製品	6世紀前葉	SI30 →本跡→ SD2
9	B 3 g4	[方 形] 長方形]	N − 77° − E	7.34 × (5.35)	68 ~ 71	平坦	(全周)	2	2	-	-	-	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	本跡→ SK47·81
10	В 3 і5	[方 形] 長方形]	N - 26° - W	(3.84) × (3.00)	30 ~ 36	平坦	-	1	-	-	篭 1	1	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	
11	В 3 е6	[方 形] 長方形]	N - 45° - E	5.70 × (4.26)	32 ~ 57	平坦	(全周)	4	1	1	-	-	人為	土師器, 土製品	6世紀前葉	
12	B 3f9	方 形	N - 4° - E	8.05 × 7.95	17 ~ 42	平坦	全周	4	1	3	篭1	2	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石製品	6世紀後葉	SK122 →本跡
13	B 4 f1	方 形	N - 55° - W	6.23 × 6.05	15 ~ 27	平坦	全周	4	2	1	篭1	1	自然	土師器, 土製品	6世紀前葉	本跡→SI14, SD3
14	B 4 g2	[方 形] 長方形]	N - 20° - W	9.35 × (5.90)	28 ~ 42	平坦	(全周)	2	-	1	竈 2	-	人為	土師器	6世紀後葉	SI13→本跡
15	B 4 g7	方 形	N - 46° - W	5.61 × 5.44	9~22	平坦	全周	4	1	1	雀 1	1	人為	土師器,土製品, 石製品	6世紀中葉	
16	В 4 с3	方 形	N - 30° - W	7.61 × 7.48	21 ~ 32	平坦	(全周)	3	1	-	-	1	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	
18	F 4 g3	方 形	N - 2° - W	8.57 × 8.18	38 ~ 63	平坦	全周	9	2	4	篭1	1	人為	土師器,土製品, 石製品	6世紀後葉	
19	A 4 g0	方 形	N - 21° - E	9.38 × 9.22	20 ~ 37	平坦	全周	5	2	2	篭1	1	人為	土師器,土製品, 石製品	6世紀中葉	SI31 →本跡
20	A 5 el	方 形	N - 19° - W	5.30 × 5.12	3~19	平坦	一部	4	1	-	-	1	人為	土師器	6世紀後葉	
21	A 5 h2	[方 形] 長方形]	N - 22° - W	(6.06) × (2.98)	32	平坦	(全周)	2	-	1	雀 1	-	人為	土師器, 土製品	7世紀前葉	本跡→ SK89 · 90
22	B 5 i1	[方 形] 長方形]	N - 25° - W	(5.33) × (3.85)	20	平坦	(全周)	1	-	1	-	1	自然	土師器, 土製品	6世紀後葉	
23	B 5 i2	[方 形] 長方形]	-	(5.00) × (3.87)	27 ~ 30	平坦	(全周)	1	-	-	-	-	人為	土師器	6世紀中葉	本跡→ SK118
25	B 5 f5	方 形	N - 10° - W	7.88 × 7.72	8~24	平坦	全周	4	2	5	篭1	1	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	
26	B 5 d3	方 形	N - 16° - W	5.50 × 5.33	36 ~ 47	平坦	全周	4	1	-	雀1	1	自然	土師器, 土製品	6世紀中葉	
27	В 5 с3	方 形	N - 76° - E	6.33 × 6.11	27 ~ 32	平坦	全周	4	1	-	雀 1	1	人為	土師器,須恵器, 土製品	6世紀後葉	
28	A 5 h4	[方 形]	N - 17° - W	(5.90) × 5.84	5 ~ 32	平坦	一部	3	1	2	炉1	1	不明	土師器	6世紀後葉	
29	А 1 ј 9	方 形	N - 24° - W	7.26 × 7.04	41 ~ 60	平坦	全周	4	2	5	雀1	1	人為	土師器, 土製品	7世紀前葉	本跡→ SD6
30	В 3 а5	方 形	N - 38° - W	7.12 × 7.02	-	平坦	全周	4	2	6	-	1	人為	土師器	6世紀前葉	本跡→ SI8
31	A 4 g0	方 形	N - 23° - W	7.77 × 7.67	-	平坦	一部	4	1	1	-	1	人為	土師器	6世紀中葉	本跡→ SI19

(2) 鍛冶工房跡

第1号鍛冶工房跡 (第86~88 図)

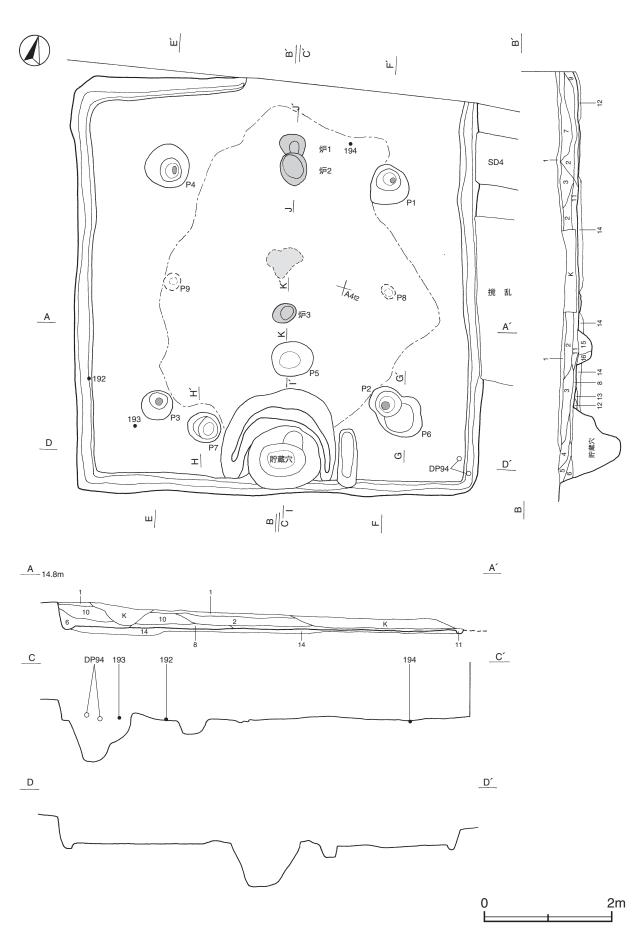
位置 調査区中央部のA4el区,標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

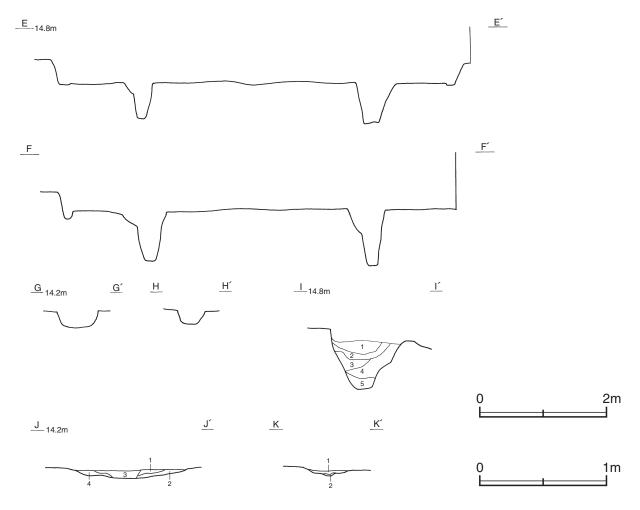
規模と形状 北東コーナー部が調査区域外に延びているが、長軸 $6.52~\mathrm{m}$ 、短軸 $6.37~\mathrm{m}$ の方形で、長軸方向は N $-15~\mathrm{e}$ Wである。壁高は $30~\mathrm{e}$ 40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロック主体のにぶい黄褐色土と暗褐色土、ローム粒子を微量に含む暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。貯蔵穴の周りには約14cmの馬蹄形状の高まりが確認できた。

炉 3か所。炉1は,P1とP4のほぼ中間に付設された地床炉である。規模は,長径は42cmで,短径は炉2に掘り込まれているため30cmしか確認できなかった。炉床部は床面とほぼ同じ高さで,炉床面は赤変硬化している。炉2は,P1とP4のほぼ中間に付設され,炉1を掘り込んで付設された地床炉である。規模は長径53cm,短径43cmである。炉床部は床面とほぼ同じ高さで,炉床面は赤変硬化している。



第86図 第1号鍛冶工房跡実測図(1)



第87図 第1号鍛冶工房跡実測図(2)

炉3は、中央部やや南寄りに付設された地床炉である。規模は長径38cm、短径30cmである。炉床部は床面か ら6cmくぼんでおり、炉床面は赤変硬化している。炉2と炉3の新旧関係は不明である。

炉1・2土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 3 にぶい褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

炉3土層解説

1 灰 褐 色 焼土粒子·炭化粒子少量

2 灰黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 9 か所。 P 1 ~ P 4 は深さ 67 ~ 90cmで,配置から主柱穴である。 P 5 は深さ 24cmで,位置や硬化 面の広がりと、周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・7は深 さ 25・24cmで、性格不明である。 P 8 ・ 9 は深さ 57・21cmで、床下で確認したが、性格不明である。

貯蔵穴 南壁中央部に位置している。長径 115cm, 短径 100cmの楕円形である。深さは 70cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 色 ローム粒子中量 1 褐
- 2 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子・砂粒微量
- 色 ロームブロック中量, 炭化粒子極微量 3 褐
- 4 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子極微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

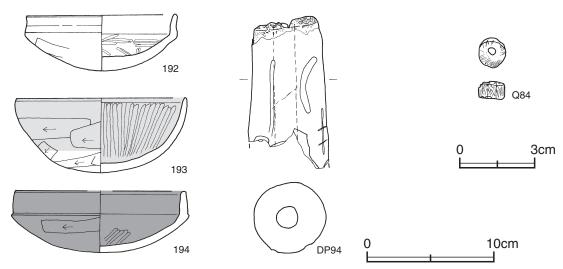
覆土 13 層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第 $12 \sim 14$ 層は貼床の構築土である。

土層解説

色 ロームブロック少量 1 褐 9 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量 2 褐 10 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量 11 褐 色 ロームブロック中量 4 暗 褐 色 ロームブロック中量 12 暗 褐 色 ロームブロック少量 5 極暗褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子極微量 13 褐 褐 色 ローム粒子微量 6 褐 色 ローム粒子中量 14 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 15 褐 7 暗 褐 色 ローム粒子微量 色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量 色 ロームブロック微量 16 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 311 点 (坏 90, 高坏 3, 甕類 217, 甑 1), 土製品 7点 (羽口 7), 石製品 1点 (臼玉), 粘土塊 6点, 鉄滓 3点 (計 17.5 g), 粒状滓 (5 g) が覆土上層から中層にかけて出土している。また, 混入した縄文土器片 1点 (深鉢) も出土している。194 は北部, DP94 は南東コーナー部の床面から, 192 は西壁際, 193 は南西コーナー付近の覆土下層から、Q 84 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 多量の遺物は、埋め戻す際に一括投棄されたものと判断した。時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。また、当該する時期の住居には竈が付設されていることが通常であるが、竈はなく、炉を3か所有していることと、羽口が出土していることから鍛冶工房跡の可能性が高い。



第88 図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表(第88図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
192	土師器	坏	11.8	4.6	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ磨き 口縁部外・内 面横ナデ	覆土下層	98% PL20
193	土師器	坏	13.3	6.0	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き	覆土下層	95% PL20
194	土師器	坏	[13.3]	4.9	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデー部へラ磨き 口縁 部外・内面横ナデ	床面	50%
番号	器 種	径	長さ	孔径	重量	材 質			特	出土位置	備考
DP94	羽口	5.7	(12.0)	1.7	(356.0)	土 (石英・雲母・ 砂粒)	明赤褐色	表面ナ	デ 端部に鉄付着	床面	PL28
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質			特	出土位置	備考
Q84	白玉	1.1	0.7	0.3	1.2	滑石	一方向から	の穿孔	覆土中	PL29	

(3) 柵跡

第2号柵跡 (第89図)

位置 調査区中央部のA4f4区,標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北方向に柱穴 5 か所が並び、軸方向は N-7° -E である。柱間寸法は $1.1\sim1.6$ mと一定していないが、柱筋は整っている。

柱穴 平面形は円形または楕円形で,長径 $37\sim50$ cm,短径 $35\sim50$ cmである。掘方の断面形は逆台形または U字形である。第1層は柱痕,第 $2\sim4$ 層は埋土である。

十屆解彰

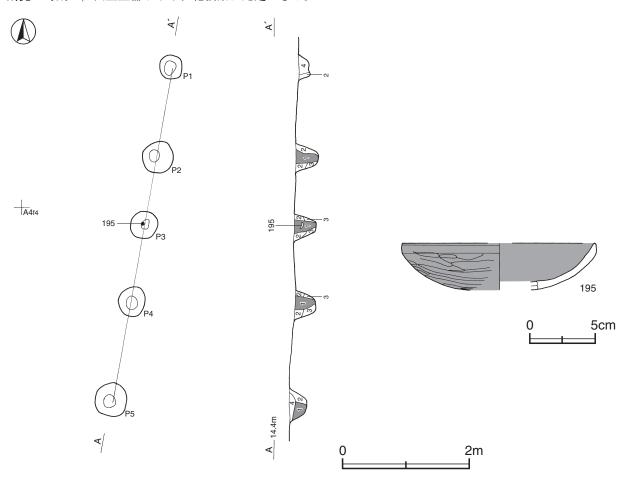
1 黒 褐 色 ロームブロック微量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 3 点(坏 2 , 甕類 1) が出土している。195 は, P 3 の覆土中層から出土している。 所見 時期は, 出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第89 図 第2号柵跡·出土遺物実測図

第2号柵跡出土遺物観察表(第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
195	土師器	坏	[15.2]	(3.7)	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内 面横ナデ	P 3 覆土中層	5%

(4) 土坑

第3号土坑 (第90図)

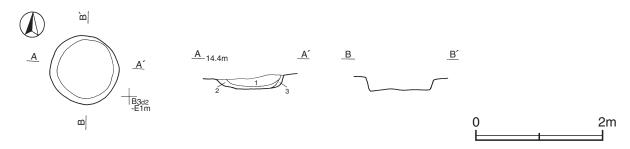
位置 調査区中央部のB3c2区,標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 径 1.04 mの円形である。深さは 20cmで,底面は平坦である。壁は,外傾して立ち上がっている。 **覆土** 3層に分層できる。ロームブロック主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子極微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 21 点(坏 4 , 甕類 16 , 甑 1) が出土している。いずれも細片のため図化できない。 **所見** 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第90図 第3号土坑実測図

第7号土坑 (第91図)

位置 調査区中央部のB3gl区,標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.87 m, 短径 0.68 m の楕円形で,長径方向はN-20°-Wである。深さは 20 cmで,底面は平坦である。壁は,緩やかに傾斜して立ち上がっている。

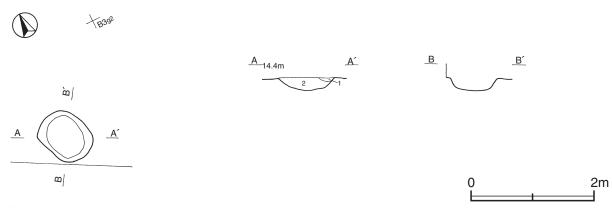
覆土 2層に分層できる。ロームブロック等が主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量

2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片 15 点(坏 6 , 甕類 8 , 甑 1) が出土している。いずれも細片のため図化できない。 **所見** 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第91図 第7号土坑実測図

第9号土坑 (第92図)

位置 調査区中央部のB3d4区,標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8・10号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 短径は $0.95\,\mathrm{m}$ であるが,第 $10\,\mathrm{号}$ 土坑に掘り込まれているため,長径は $1.12\,\mathrm{m}$ しか確認できなかった。楕円形と推測でき,長径方向は $\mathrm{N}-75\,^\circ-\mathrm{W}$ である。深さは $40\mathrm{cm}$ で,底面は皿状である。壁は,緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックやローム粒子主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

十層解影

1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

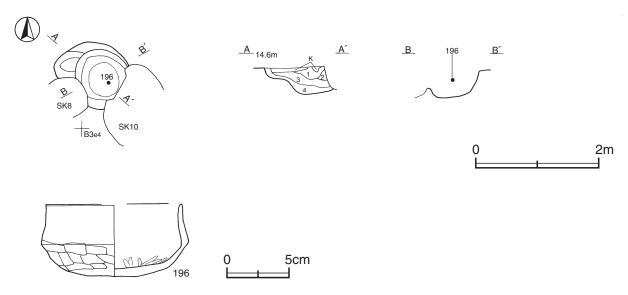
3 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子極微量

2 黒 褐 色 ローム粒子少量

4 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 39点(坏2,高坏1,甕類 36)が出土している。また,混入した縄文土器片 2(深鉢)も出土している。196 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第92図 第9号土坑·出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表(第92図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
196	土師器	坏	[10.8]	5.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ヘラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	20%

第 10 号土坑 (第 93 図)

位置 調査区中央部のB3d4区,標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

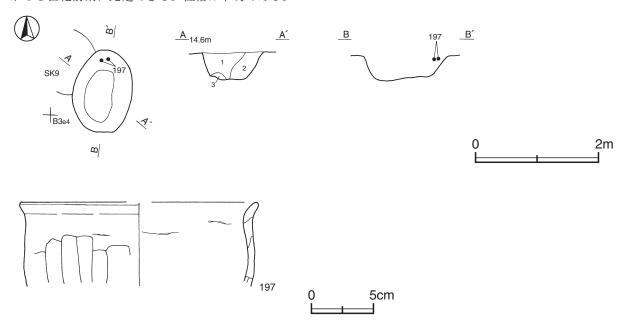
重複関係 第9号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 $1.32\,\mathrm{m}$, 短径 $0.94\,\mathrm{m}$ の楕円形で,長径方向は $\mathrm{N}-8\,^\circ$ – E である。深さは $38\,\mathrm{cm}$ で,底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含みブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

遺物出土状況 土師器片 41 点(坏 6, 甕類 34, 甑 1)が出土している。197 は,覆土上層から出土している。 所見 第9号土坑と重複しているが,出土遺物から時期差はほとんどないと考えられる。時期は,出土土器 から6世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第93 図 第10号土坑·出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表(第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
197	土師器	甑	[18.8]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・ 内面横ナデ	覆土上層	5%

第29号土坑 (第94図)

位置 調査区中央部のB2a9区. 標高13.9mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30号土坑を掘り込んでいる。

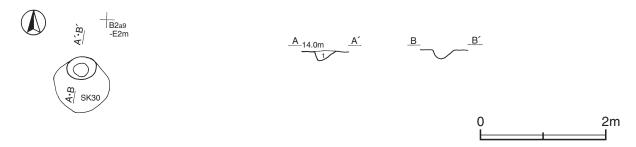
規模と形状 長径 $0.48~\mathrm{m}$, 短径 $0.35~\mathrm{m}$ の楕円形で,長径方向は $\mathrm{N}-88~\mathrm{e}$ - E である。深さは $12\mathrm{cm}$ で,底面は平坦である。壁は,緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 単一層である。微量のローム粒子が混入しているが、自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量

遺物出土状況 土師器片 4 点(坏 2 ,高坏 1 ,甕類 1)が出土している。いずれも細片のため図化できない。 所見 時期は,出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第94図 第29号土坑実測図

第 45 号土坑 (第 95 図)

位置 調査区中央部のB2b0区、標高14.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7号住居跡・第44号土坑を掘り込んでいる。

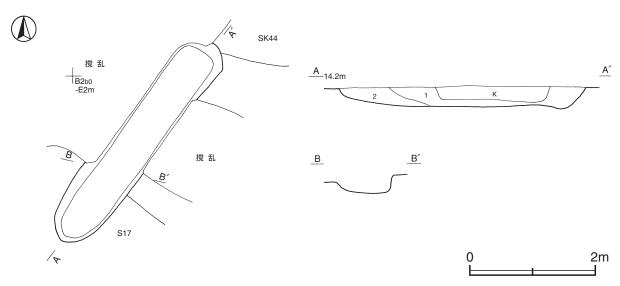
規模と形状 長径 3.94 m, 短径 0.84 mの長楕円形で,長径方向は $N-37\degree-E$ である。深さは 27cmで,底面は平坦である。壁は,緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土上層から覆土中層にかけて撹乱を受けている。**覆土** 2 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子微量 2 黒

2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量

遺物出土状況 土師器片 38 点(坏7,高坏2,甕類 29)が出土している。いずれも細片のため図化できない。 所見 時期は、出土土器の様相と重複関係から6世紀中葉以降の古墳時代後期と推定できる。性格は不明で ある。



第95図 第45号土坑実測図

第72号土坑 (第96図)

位置 調査区中央部のB3b1区,標高14.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号柵跡と重複しているが,新旧関係は不明である。

規模と形状 北コーナー部が撹乱を受けているが、長軸 $2.33 \, \mathrm{m}$ 、短軸 $1.33 \, \mathrm{m}$ の隅丸長方形で、長軸方向は N -40° – Wである。深さは $34 \, \mathrm{cm}$ で、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。底面からは P $1 \, \mathrm{e}$ 確認した。

ピット 深さ 22cmで、北コーナーに位置している。性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

2 褐 色 炭化粒子極微量

覆土 3層に分層できる。ロームブロック主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

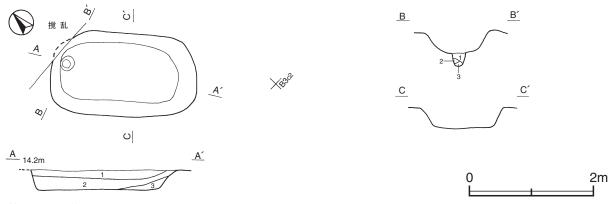
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック微量

3 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片 23 点(坏7, 甕類 16)が出土している。いずれも細片のため図化できない。 **所見** 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



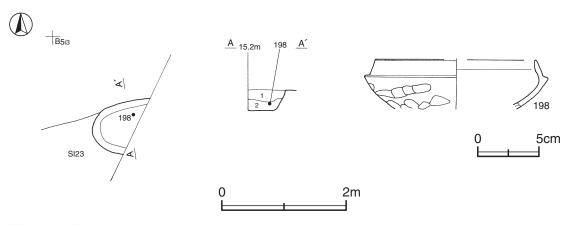
第96図 第72号土坑実測図

第 118 号土坑 (第 97 図)

位置 調査区東部のB 5 i3 区,標高 14.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第23号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 短径は $0.80~\rm{m}$ であるが、南東部が調査エリア外に延びているため、長径は $0.90~\rm{m}$ しか確認できなかった。形状は楕円形で、長径方向は $N-78~\rm{c}$ E である。深さは $34\rm{cm}$ で、底面は平坦である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。



第97図 第118号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化粒子微量 2 にぶい褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片2点(坏,甕類)が出土している。198は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。性格は不明である。

第118号土坑出土遺物観察表(第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
198	土師器	坏	[13.7]	(4.4)	-	長石	浅黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横 ナデ	覆土下層	10%

第 132 号土坑 (第 98 図)

位置 調査区東部のB5d8区,標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 2.34 m, 短軸 0.82 mの隅丸長方形で,長軸方向はN - 54°-Wである。深さは 22cmで,底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

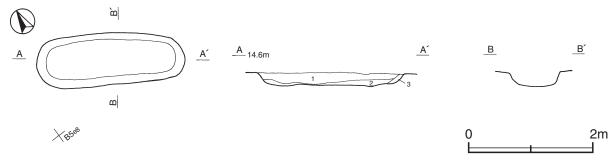
覆土 3層に分層できる。炭化物や焼土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量
- 2 黒 色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片7点(坏1,甕類6)が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第98 図 第132 号土坑実測図

第 133 号土坑 (第 99 図)

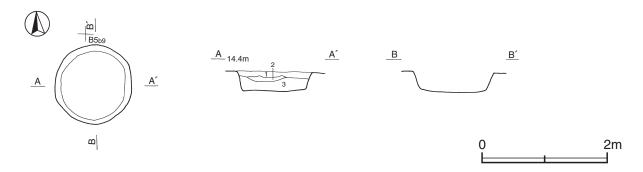
位置 調査区東部のB5b9区,標高14.2mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.28 m, 短径 1.22 mの円形である。深さは 30cmで,底面は平坦である。壁は,外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 遺物出土状況 土師器片 95 点(坏 23, 甕類 72)が出土している。いずれも細片のため図化できない。 **所見** 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第99図 第133号土坑実測図

第 143 号土坑 (第 100 図)

位置 調査区中央部のA4i8区、標高14.2mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 $0.58\,\mathrm{m}$, 短径 $0.52\,\mathrm{m}$ の楕円形で長径方向は $\mathrm{N}-2\,^\circ$ – E である。深さは $46\mathrm{cm}$ で,底面は凹凸がある。壁は,外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。

十層解説

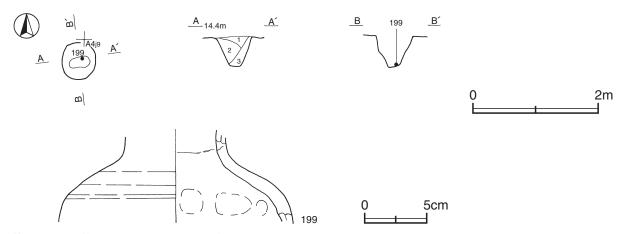
1 黒 褐 色 ローム粒子微量

3 にぶい褐色 ロームブロック中量

2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 5 点 (坏1, 椀1, 甕類2, 甑1), 須恵器片 1 点 (長頸壺) が出土している。199 は, 底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第100 図 第143 号土坑・出土遺物実測図

第143号土坑出土遺物観察表(第100図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
199	須恵器	長頸壺	-	(7.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ	底面	10%

第 154 号土坑 (第 101 図)

位置 調査区中央部のB2c8区,標高13.7mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.78 m, 短径 0.76 mの円形である。深さは 32cmで,底面は平坦である。壁は,外傾して立ち上がっている。

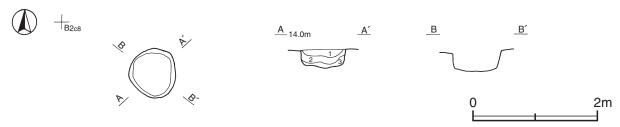
覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であることから自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量 3 にぶい褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量

2 褐 色 ローム粒子微量,炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片 5 点(坏 1, 椀 1, 甕類 2, 甑 1)が出土している。いずれも細片のため図化できない。 **所見** 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第101 図 第154 号土坑実測図

表 4 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	巨谷士向	717 FFF 3174	規	模	覆土	底面	壁面	ナル は 上 連動	備 考 新旧関係(古→新)
留 万	拉匣	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	復工.		生田	主な出土遺物	新旧関係(古→新)
3	В 3 с2	-	円形	1.04×1.04	20	人為	平坦	外傾	土師器	
7	B3gl	N − 20° − W	楕円形	0.87 × 0.68	20	人為	平坦	緩斜	土師器	
9	B 3 d4	N – 75° – W	[楕円形]	(1.12) × 0.95	40	人為	皿状	緩斜	土師器	本跡→SK8·10
10	B 3 d4	N-8°-E	楕円形	1.32×0.94	38	人為	皿状	緩斜	土師器	SK9→本跡
29	B 2 a9	N – 88° – E	楕円形	0.48 × 0.35	12	自然	平坦	緩斜	土師器	SK30→本跡
45	B 2 b0	N − 37° − E	長楕円形	3.94 × 0.84	27	人為	平坦	緩斜	土師器	SI7, SK44→本跡
72	B 3 b1	N − 40° − W	隅丸長方形	2.33×1.33	34	人為	平坦	外傾	土師器	SA3との新旧不明
118	В 5 і 3	N – 78° – E	[楕円形]	(0.90) × 0.80	34	人為	平坦	緩斜	土師器	SI23→本跡
132	B 5 d8	N − 54° − W	隅丸長方形	2.34×0.82	22	人為	平坦	外傾 緩斜	土師器	
133	B 5 b9	-	円形	1.28×1.22	30	人為	平坦	外傾	土師器	
143	A 4 j 8	N-2°-E	楕円形	0.58 × 0.52	46	人為	凹凸	外傾	土師器, 須恵器	
154	B 2 c8	-	円形	0.78×0.76	32	自然	平坦	外傾	土師器	

(5) 不明遺構

第1号不明遺構(第102·103図)

位置 調査区中央部のB3a1区,標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第32・33号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が撹乱を受けているため、北西・南東軸 $3.65~\mathrm{m}$ 、北東・南西軸 $2.75~\mathrm{m}$ しか確認できなかった。隅丸長方形と推定できる。主軸方向は $\mathrm{N}-43~\mathrm{e}^{-}$ Wである。壁高は $\mathrm{2}\sim22\mathrm{cm}$ で、緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。東壁際には、壁溝状の掘り込みが確認できた。

炉 中央部やや南東寄りにに付設された地床炉である。規模は長径 60cm, 短径 42cmである。炉床部は床面から4cmくぼんでおり、炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗 褐 色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 4 にぶい褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

ピット 2か所。P1・2は深さ20・30cmで、配置から主柱穴である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は、西コーナー部に位置している。長径88cm、短径80cmの不整円形である。深さは72cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は、北コーナー部に位置している。長径100cm、短径98cmの不整円形である。深さは57cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴 1 土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子極微量 4 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 2 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 5 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子極微量

3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量 6 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

貯蔵穴2土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量 3 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

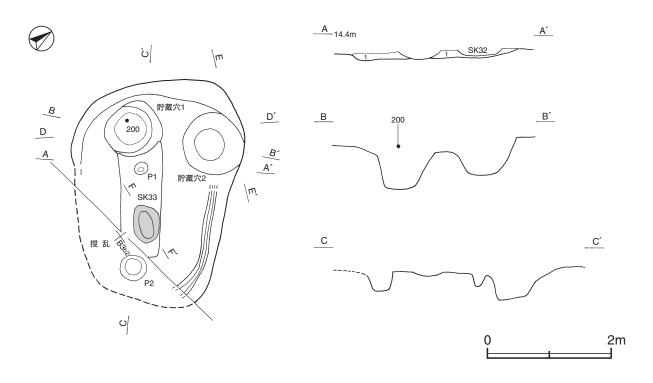
2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

覆土 単一層である。ロームブロック主体の層であることから、埋め戻されている。

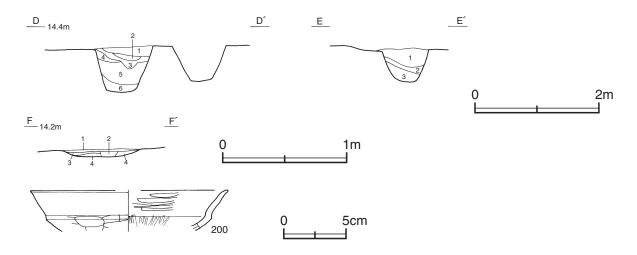
土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 47点(坏4,甕類 43)が出土している。200は,貯蔵穴1の覆土上層から出土している。 所見 本跡は狭い床面積に対し,貯蔵穴が2か所あり,炉も有していることから工房,あるいは倉庫の様な 用途の建物と思われる。類似した形状の遺構は,牛久市の馬場遺跡から確認されている。時期は,出土土器 から6世紀前葉に比定できる。



第102図 第1号不明遺構実測図



第103図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表(第103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
200	土師器	坏	[15.6]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へラ削り 内面へラ磨き 口縁部外面横ナデ 内面へラ磨き	貯蔵穴 覆土上層	5%

第2号不明遺構(第104図)

位置 調査区中央部のA3i6区、標高14.5mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 2.70 m, 短軸 2.32 mの長方形で,主軸方向はN – 42 $^{\circ}$ – Eである。壁高は $2\sim 10$ cmで,緩やかに立ち上がっている。

床 ほば平坦で、P1と炉を結ぶ範囲が踏み固められている。北西壁の中央部を除き壁溝が巡っている。

炉 南西壁際に付設された地床炉である。規模は長径 32cm, 短径 32cmである。炉床部は床面とほぼ同じ高さで、 炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1 にぶい褐色 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子微量 2 褐 色 ローム粒子中量

ピット 深さ 14cmで、中央部に位置していることから主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1は、北コーナー部に位置している。長径88cm、短径82cmの不整円形である。深さは42cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は、東コーナー部に位置している。長径84cm、短径84cmの円形である。深さは50cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴3は、北西壁際の中央部に位置している。長径78cm、短径68cmの楕円形である。深さは40cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子極微量 4 褐 色 ロームブロック中量

2 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子極微量 5 暗 褐 色 ロームブロック中量,焼土粒子極微量

3 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子極微量 6 褐 色 ロームブロック多量

貯蔵穴土2層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 2 褐 色 ローム粒子中量

貯蔵穴3土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 3 褐 色 ローム粒子中量

2 褐 色 ロームブロック中量

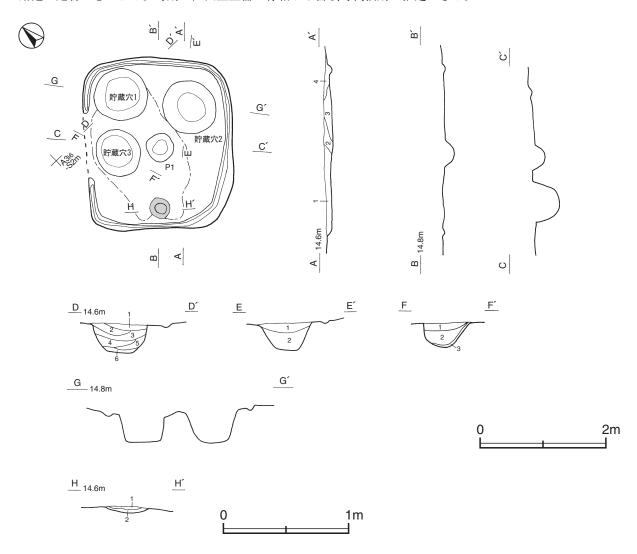
覆土 4層に分層できる。ブロック状堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子極微量 3 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子極微量 2 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子極微量 4 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片34点(甕類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は狭い床面積に対し、貯蔵穴が3か所あり、炉も有していることから工房、あるいは倉庫の様な 用途の建物と思われる。時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。



第104図 第2号不明遺構実測図

表 5 古墳時代不明遺構一覧表

番号	<i>比</i> 學	主軸方向	717 757 3114	規 模(m, 壁	壁面	底面	覆土	ナ ム 山 上 海 帰っ	備考		
留万	位置主軸力	土粬万円	平面形	長軸×短軸	壁高	壁 川		復工.	主な出土遺物	/佣-考	
1	B 3al	N – 43° – W	[隅丸長方形]	(3.65) × 2.75	2~22	緩斜	平坦	人為	土師器	本跡→SK32·33	
2	A 3 i6	N-42°-E	長方形	2.70×2.32	2~10	緩斜	平坦	人為	土師器		

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡1軒を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

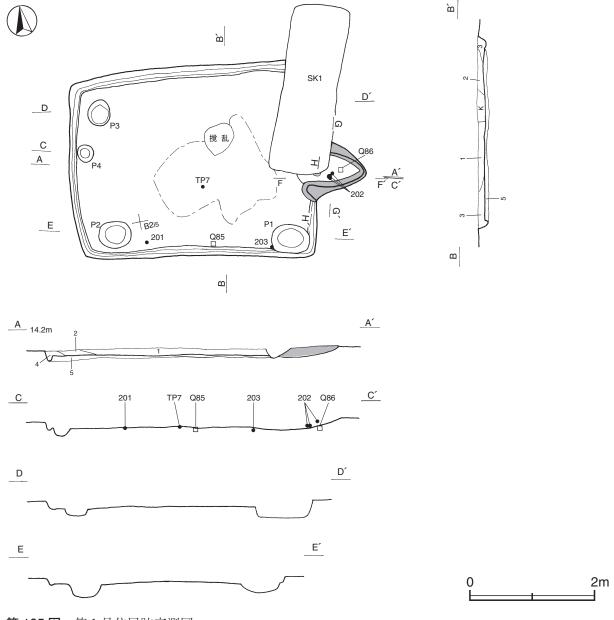
第1号住居跡 (第105~107 図)

位置 調査区中央部のB2h5区. 標高13.9 mの平坦な台地上に位置している。

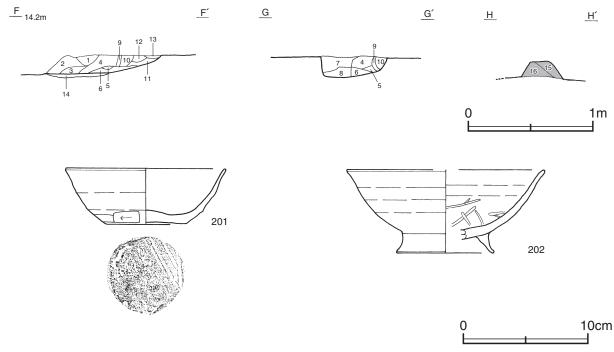
重複関係 第1号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東コーナー部が第 1 号土坑に掘り込まれているため,長軸は 3.88 mで,短軸は 3.11 mしか確認できなかった。長方形と推測でき,主軸方向はN-84 $^{\circ}-W$ である。壁高は 13cmで,外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、竈前の中央部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子を多く含んだ暗褐色土を 埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。



第105図 第1号住居跡実測図



第106 図 第1号住居跡·出土遺物実測図

電 東壁中央部に付設されている。第1号土坑に掘り込まれているため、焚口部と火床部の一部、左袖は確 認できなかった。確認できた規模は,焚口部から煙道部まで 110cmで,燃焼部幅は 44cmである。袖部は床面 から8cmほど皿状に掘りくぼめた部分に、ロームブロックを含む第14層を埋土して、ロームブロックを含む 第15・16層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙 道部は壁外に 78cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。石製の支脚が火床部の奥から立位で 出土した。

電十層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 9 黒 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 色 焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化粒子微量 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 10 褐 2 褐 11 褐 3 暗 褐 色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 12 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 4 裾 5 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 13 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 色 ロームブロック多量 6 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 14 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 15 暗 褐 色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 16 極 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 **ピット** 4 か所。 P 1 ~ P 3 は深さ 10 ~ 21cmで,配置から主柱穴である。 P 4 は深さ 14cmで,位置から出

入口施設に伴うピットと考えられる。

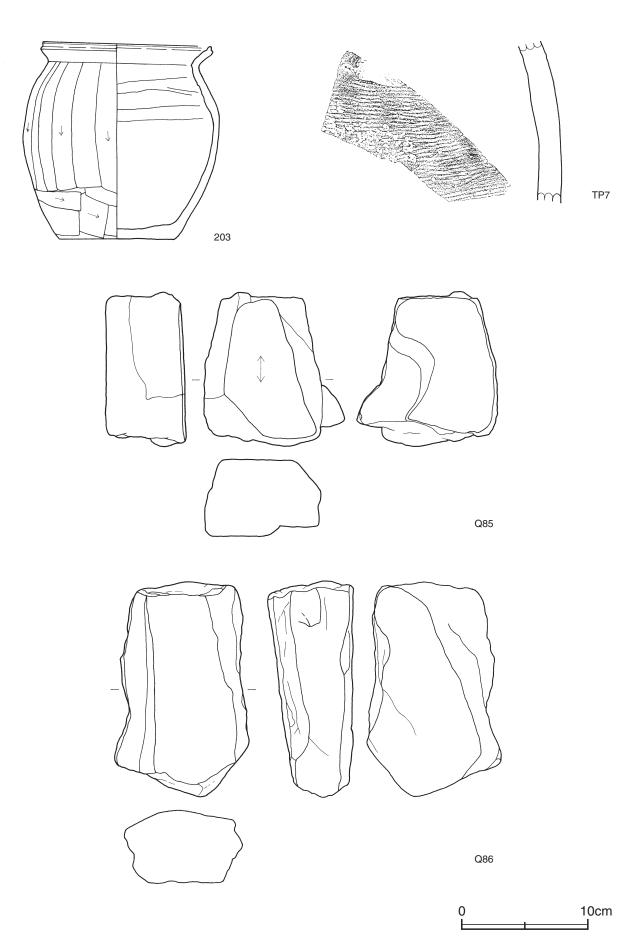
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含みブロック状の堆積状況であることから,埋め戻されている。 第5層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量 4 暗 褐 色 ローム粒子少量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 5 暗 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 66 点(坏 21, 高台付椀 2, 甕類 36, 甑 7), 須恵器片 2 (坏, 甕), 石器 2 点(砥石, 支脚)が出土している。201·Q 85 は南壁際, 203 は南東コーナー部, TP 7 は中央部の床面から出土している。 202 · Q 86 は竈内から, 202 は破片の状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第107 図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第106・107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
201	須恵器	坏	12.6	4.5	6.4	長石·石英·雲母· 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	95% PL20
202	土師器	高台付 椀	[15.6]	6.6	[7.6]	長石・石英	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部整形後高台貼り付け	竈火床部	30%
203	土師器	甕	13.3	15.4	9.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面上位縦位のヘラ削り 下位斜位のヘラ削り 内面 ヘラナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次被熱痕 煤付着	床面	90% PL22

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP7	須恵器	甕	長石	灰黄	体部外面平行叩き	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	出土位置	備考
Q85	砥石	12.3	11.2	6.1	1180	雲母片岩	砥面1面	床面	
Q86	支脚	17.0	10.8	6.9	1680	雲母片岩	全面に被熱痕	竈火床部	

4 中世の遺構と遺物

中世の遺構は、土坑1基、溝1条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 土坑

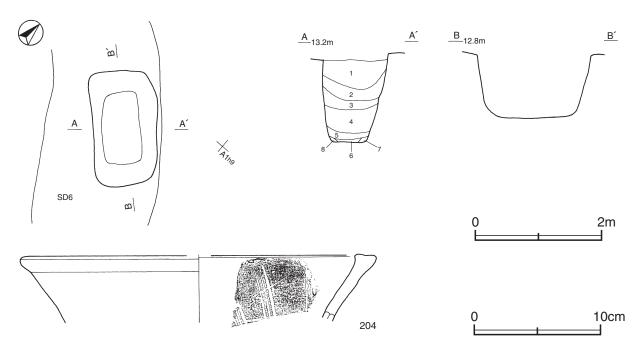
第 135 号土坑 (第 108 図)

位置 調査区西部のA1h8区,標高13.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 $1.84\,\mathrm{m}$, 短軸 $1.00\,\mathrm{m}$ の隅丸長方形で,長軸方向は $\mathrm{N}-41\,^{\circ}-\mathrm{W}$ である。深さは $138\mathrm{cm}$ で,底面は平坦であり,壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であるが、ロームブロックや粘土ブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第108 図 第135 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 暗 褐 色 黄褐色粘土ブロック中量, ロームブロック・細礫 少量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 黄褐色粘土粒子・細礫微量

3 黒 褐 色 ロームブロック・細礫少量, 黄褐色粘土ブロック 微量

4 暗 褐 色 黄褐色粘土粒子中量, ロームブロック・細礫少量

5 暗 褐 色 黄褐色粘土ブロック中量, ローム粒子・細礫微量

6 灰黄褐色 青灰色粘土粒子少量, ロームブロック微量

7 にぶい黄褐色 灰白色粘土粒子多量

8 灰 黄 色 青灰色粘土粒子極多量

遺物出土状況 土師質土器片 2 点(擂鉢・内耳鍋)が出土している。204 は,覆土中から出土している **所見** 時期は、出土土器から中世と推定できる。

第135号土坑出土遺物観察表(第108図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	材 質	色 調	焼成	特 徵	出土位置	備考
204	土師質土器	擂鉢	[25.6]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	3条1単位の擂り目 外・内面横ナデ	覆土中	5%

(2) 溝跡

今回の調査で確認した中世の溝跡については、平面図は遺構全体図(第4図)に掲載する。

第6号溝跡 (第109図)

位置 調査区西部のA1f7区からB1c9区にかけて、標高 13.0 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第29号住居跡を掘り込み、第135号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側と北側が調査区域外へ延びているため、長さは 31.00 m しか確認できなかった。 A 1 f7 区から南東方向に直線的 18.96 m 延び、 A 1 j0 区でほぼ 90° 南西方向に屈曲した後、やや東側に屈曲して 12.04 m 延びている。上幅 $1.05\sim 2.00$ m、下幅 $0.29\sim 0.57$ m、深さ $12\sim 39$ cm である。断面形は逆台形で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積である。

土層解説 (A, Bライン共通)

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子極微量

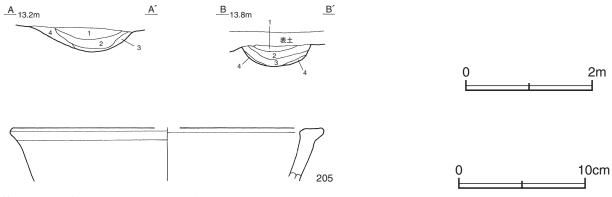
3 褐 色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック微量, 焼土粒子極微量

4 褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点(内耳鍋)の他,混入した土師器片 15 点(坏3,甕類 12)が出土している。 205 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係から中世前半の溝跡と推定できる。



第109 図 第6号溝跡·出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表(第109図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	材 質	色 調	焼成	特 徵	出土位置	備考
205	土師質土器	内耳鍋	[24.5]	(4.2)	-	長石·石英·細礫· 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面横ナデ	覆土中	5%

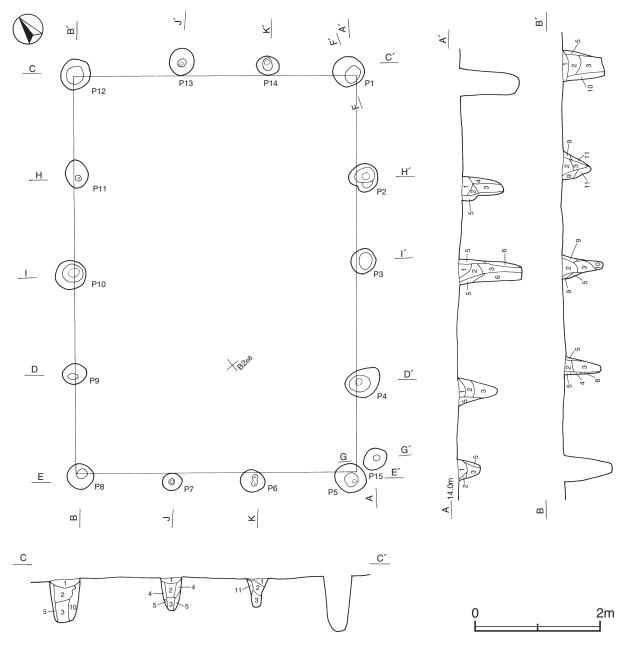
5 その他の遺構と遺物

出土遺物がなく,時期を決定できない掘立柱建物跡1棟,井戸跡1基,道路跡3条,柵跡2か所,土坑127基,溝跡10条,ピット群1か所,埋没谷1か所と遺構外出土遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第110·111 図)

位置 調査区中央部のB2c8~B2e8区,標高13.8mの平坦な台地上に位置している。



第110図 第1号掘立柱建物跡実測図(1)

規模と構造 桁行 4 間, 梁行 3 間の側柱建物跡で、桁行方向N - 40° - Eの南北棟である。規模は桁行 6.25 m, 梁行 4.45 mで、面積は 27.81㎡である。柱間寸法は、西桁行が南妻から 1.55 m・1.65 m・1.50 m・1.55 m, 東桁行が南妻から 1.40 m・1.90 m・1.35 m・1.60 mで柱筋はほぼ整っている。南梁行は西平から 1.50 m・1.35 m・1.60 m, 北梁行は 1.70 m・1.35 m・1.40 mで、P 13 がやや外側に出ているが、柱筋はほぼ整っている。

柱穴 15 か所。平面形は円形もしくは不整円形で,長径 $31\sim52$ cm,短径 $27\sim48$ cmである。深さは $45\sim90$ cmで,掘方の断面形は,逆台形である。第 $2\cdot3$ 層は柱抜き取り後の覆土で,第 $4\sim11$ 層は掘方への埋土である。 P 15 は, P 5 の補助柱穴として機能していたと考えられる。

土層解説 (各柱穴共通)

 1 灰 褐 色 ローム粒子少量
 7 褐 色 ロームブロック少量

 2 黒 褐 色 ロームブロック中量
 8 灰 褐 色 ロームブロック少量

 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
 9 暗 褐 色 ロームブロック少量

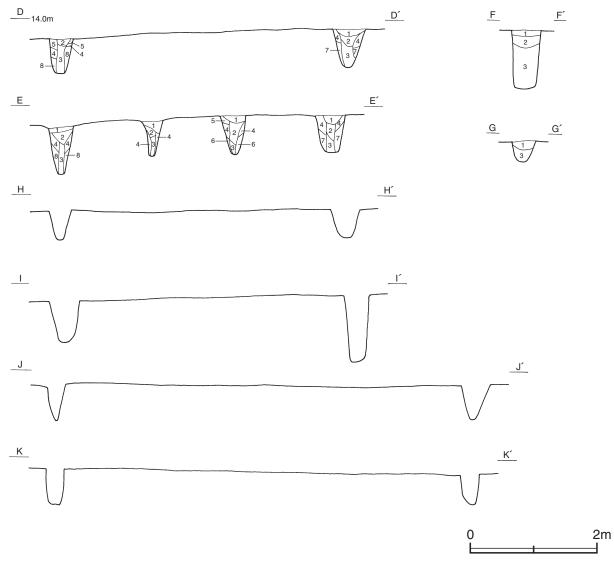
 4 灰 褐 色 ロームブロック微量
 10 灰 褐 色 ロームブロック中量

 5 褐 色 ロームガロック中量
 11 暗 褐 色 ロームブロック中量

 6 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器 5 点(坏 1 , 甕類 4) が P 2 · 10 · 12 · 13 の覆土中から出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 遺構に伴う遺物がないことから、時期・性格ともに不明である。



第111 図 第1号掘立柱建物跡実測図(2)

(2) 井戸跡

第1号井戸跡(第112図)

位置 調査区中央部のB4e9区,標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 $2.17 \,\mathrm{m}$, 短径 $2.00 \,\mathrm{m}$ の円形で, 断面形は漏斗状をしている。深さ $1.8 \,\mathrm{m}$ ほど掘り込んだ時点で, 崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

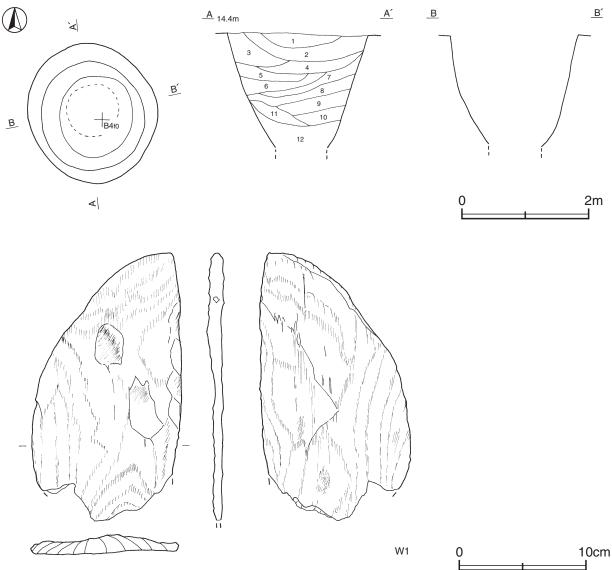
覆土 12層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックの混入が認められることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 浅黄橙色粘土ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・浅黄橙色粘土ブロック少量, 焼 土粒子・炭化粒子極微量
- 3 黒 褐 色 浅黄橙色粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 4 黒 褐 色 浅黄橙色粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子 極微量
- 5 暗 褐 色 焼土ブロック・浅黄橙色粘土ブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック・青灰色粘土ブロック中量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック中量, 青灰色粘土ブロック少量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック・青灰色粘土ブロック中量
- 9 暗 褐 色 青灰色粘土ブロック中量, ロームブロック微量
- 10 灰 褐 色 ロームブロック・青灰色粘土ブロック中量
- 11 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 12 オリーブ灰色 粘土ブロック極多量

遺物出土状況 木製品 1 点(曲物)が出土している。竹片も出土したが、腐食のため取り上げられなかった。W1 は覆土中から出土している。

所見 時代を特定できる遺物がないことから、時期不明である。



第112 図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表(第112図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質	特	出土位置	備考
W1	曲物	(21.3)	11.7	(1.6)	(232.3)	木		底部カ	覆土中	PL30

(3) 道路跡

今回の調査で確認した時期・性格不明の道路跡3条の規模については一覧表で、土層断面図(第113図) と土層解説は遺構順に掲載し、平面図については遺構全体図(第4図)で掲載する。

第1・2・3号道路跡土層解説(A ライン)

1 灰 褐 色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第1・2・3号道路跡土層解説(Bライン)

色 ローム粒子少量,炭化粒子微量,焼土粒子極微量 1 裾

5 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子極微量 6 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子極微量

色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

色 ロームブロック少量, 焼土粒子極微量

3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 細礫極微量

7 褐 褐 色 ローム粒子少量

4 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子極微量

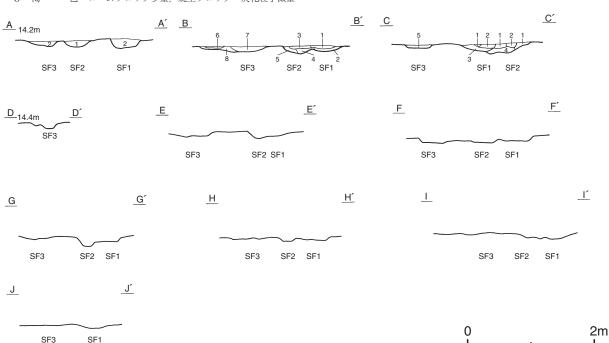
第1・2・3号道路跡土層解説(Cライン)

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 5 褐 色 ロームブロック少量

色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 3 褐



第113 図 第1·2·3号道路跡実測図

表6 その他の道路跡一覧表

番号	位置	方 向	形状		規 模(:	m,深さはcn	1)	断面形	壁面	底面	覆土.	主な出土遺物	備考
留万		万间	11万 1人	長さ	上幅	下幅	深さ	的旧形	* 単田		復工.	土な田工退物	新旧関係(古→新)
1	B 1d6∼ B 3 i1	N − 70° − W	直線状	(64.20)	0.40~0.75	0.24~0.44	8	浅いU字状	緩斜	凹凸	自然	土師器	本跡→SF2
2	B 2 el∼ B 3 il	N – 75° – W	直線状	(44.76)	0.18~0.42	0.10~0.20	10	浅いU字状	緩斜	凹凸	自然	土師器	SF1→本跡
3	B 1d5∼ B 3 j3	N - 83° - W	直線状	(74.60)	0.32~0.96	0.19~0.30	8	浅いU字状	緩斜	凹凸	自然	土師器	SF1・2との新旧不明

(4) 柵跡

第1号柵跡 (第114図)

位置 調査区中央部のA3j9~B3a8区,標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北東・南西方向に柱穴 5 か所が並び、軸方向は $N-52^\circ-E$ である。柱間寸法は $0.95\sim1.80$ m と一定せず、 P 5 はやや南にずれるが、柱筋はほぼ整っている。

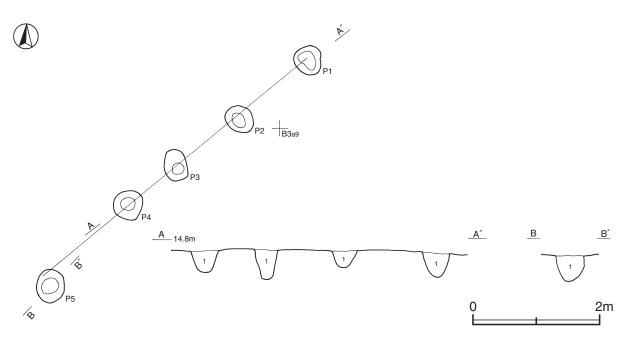
柱穴 平面形は円形または楕円形で,長径 $47\sim50$ cm,短径 $37\sim41$ cmである。掘方の断面形は,逆台形またはU字形で,覆土は単一層である。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)がP1覆土中から出土している。細片のため図化できない。

所見 遺構に伴う遺物がないことから、時期・性格ともに不明である。



第114 図 第1号柵跡実測図

第3号柵跡 (第115図)

位置 調査区中央部のB3b2~B3b1区,標高14.2mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第72号土坑との新旧関係は不明である。

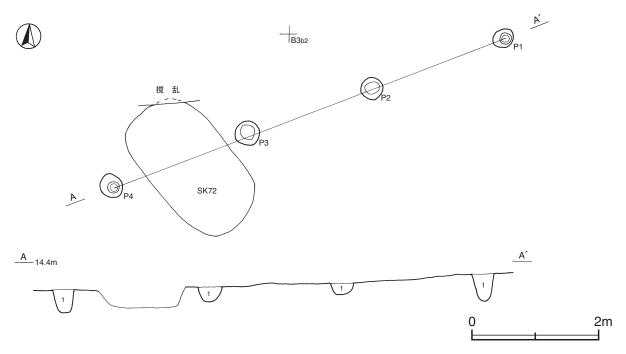
規模と形状 東西方向に柱穴 4 か所が並び、軸方向は N -70° - E である。柱間寸法は $2.12\sim2.30$ mと一定していないが、柱筋は整っている。

柱穴 平面形は円形または楕円形で,長径 33 \sim 40cm,短径 28 \sim 39cmである。掘方の断面形は,逆台形またはU字形で,覆土は単一層である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック粒子少量

所見 遺構に伴う遺物がないことから、時期・性格ともに不明である。



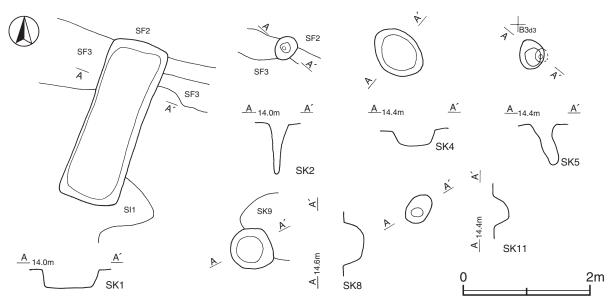
第115図 第3号柵跡実測図

表7 その他の柵跡一覧表

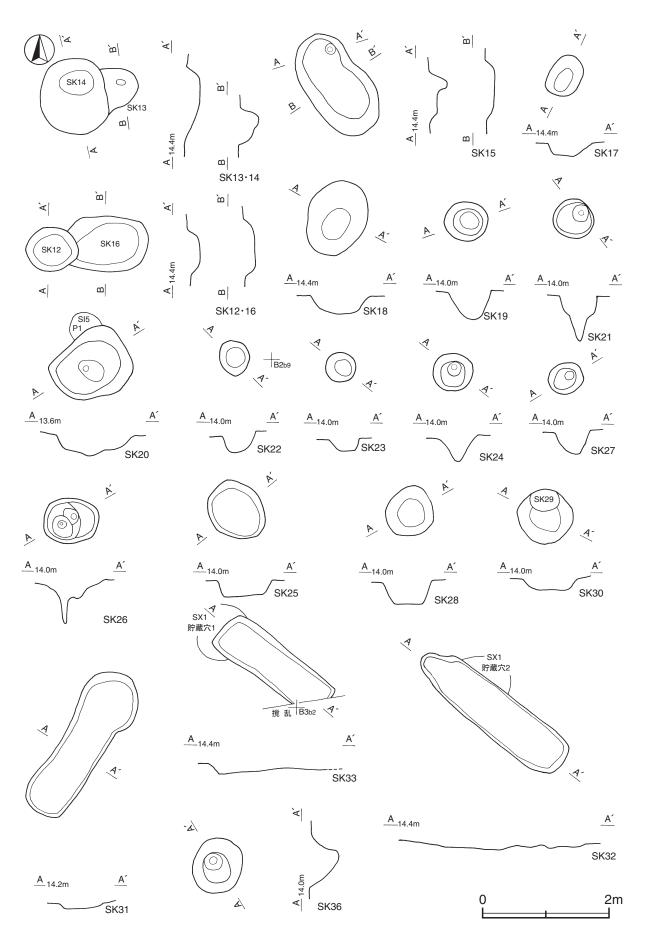
番号	位 置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)		;	柱 方	ζ		備考 (時期)
宙力	17. 巨	土粗刀円	KG (III)	生间(III)	柱穴本数	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	(時期)
1	A 3 j9~ B 3 a8	N – 52° – E	5.40	0.95~1.80	5	円形·楕円形	47~50	37~41	27~47	
3	B 3 b2~ B 3 b1	N – 70° – E	6.68	2.12~2.30	4	円形·楕円形	33~40	28~39	17~40	

(5) 土坑

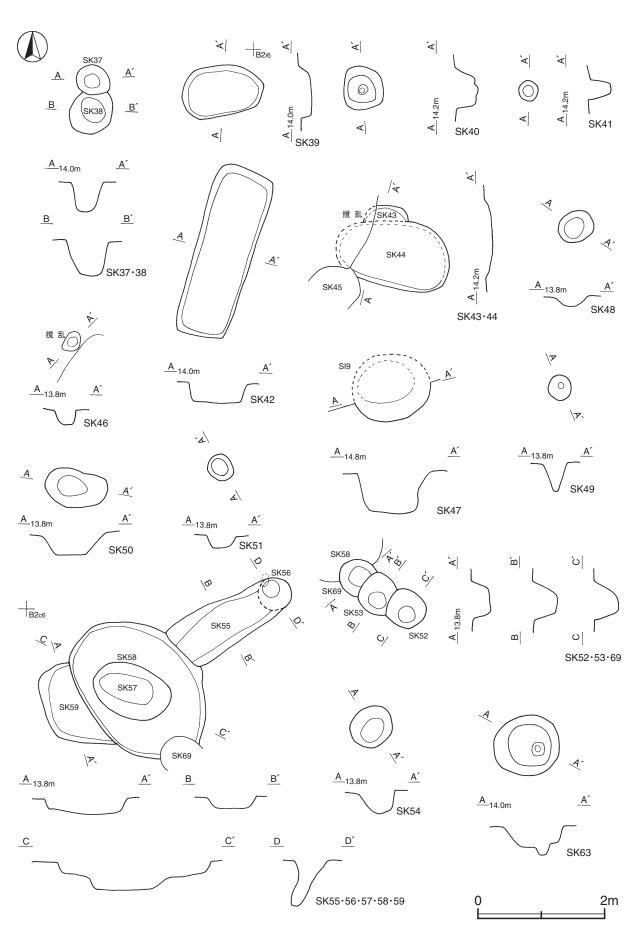
今回の調査で確認した時期・性格ともに不明の土坑 127 基は、規模、形状等について実測図(第 116 図 ~ 第 122 図)及び一覧表を掲載する。



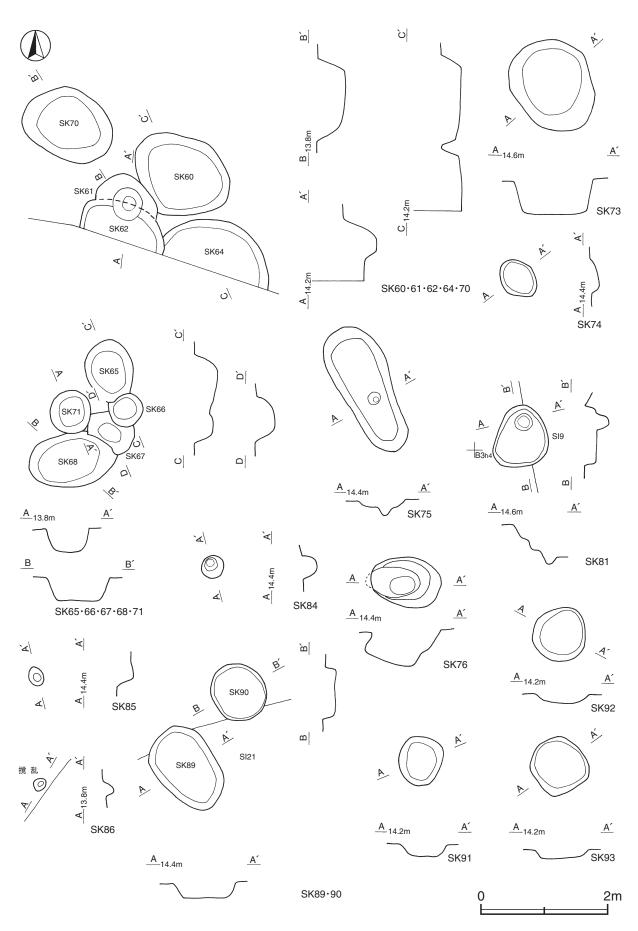
第116図 その他の土坑実測図(1)



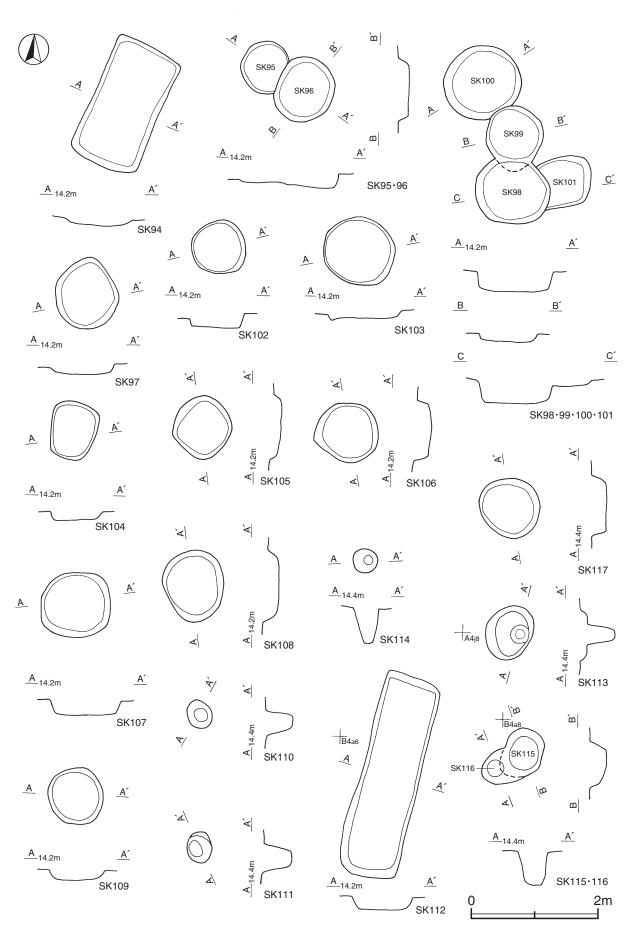
第117図 その他の土坑実測図 (2)



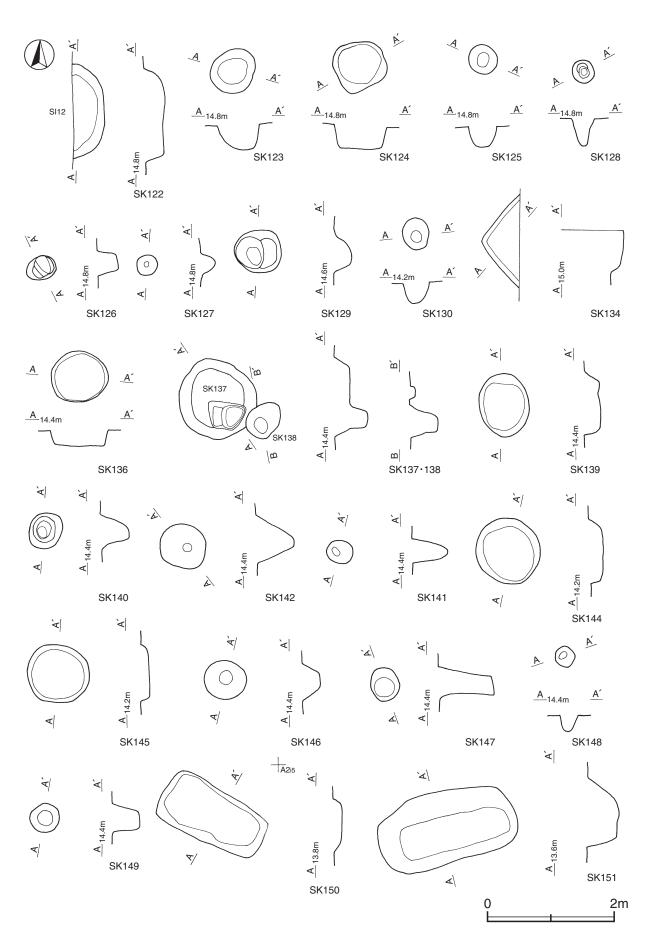
第118図 その他の土坑実測図(3)



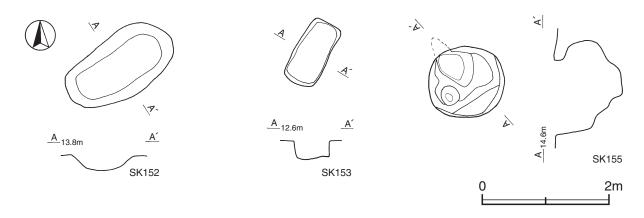
第119図 その他の土坑実測図(4)



第120図 その他の土坑実測図(5)



第121図 その他の土坑実測図(6)



第122 図 その他の土坑実測図 (7)

表8 その他の土坑一覧表

	(-)- 100A	巨汉士卢	77 ZZ TV	規	模	100% 1	nte sta	Ph TC	今天 II I. 郑 No	備考
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
1	B 2 h5	N-20°-E	長方形	2.71 × 0.88	25	人為	平坦	外傾	土師器	SF2·3, SI 1 →本跡
2	B 2 g5	N-43°-E	楕円形	0.40 × 0.32	76	人為	U字状	外傾		SF2·3→本跡
4	B 3 el	N – 49° – W	楕円形	0.90 × 0.67	24	人為	平坦	外傾		
5	B 3 d3	N – 16° – W	楕円形	0.48 × 0.40	64	人為	U字状	外傾	土師器	
8	B 3 d3	-	円形	0.72×0.68	32	人為	平坦	外傾	土師器	SK9→本跡
11	B 3 d2	N-52°-E	楕円形	0.50 × 0.37	26	人為	皿状	緩斜		
12	B 3 d2	N-81°-E	楕円形	0.83×0.69	18	人為	平坦	緩斜	土師器	SK16→本跡
13	В 3 е2	N-8°-W	[楕円形]	0.65 × (0.53)	31	人為	皿状	緩斜		本跡→SK14
14	B 3 e2	N − 10° − W	楕円形	1.22×1.06	22	人為	皿状	緩斜	土師器,剥片	SK13→本跡
15	B 3 d2	N – 30° – W	楕円形	1.73×0.88	14	人為	平坦	緩斜	土師器	
16	B 3 d2	N-81°-E	[楕円形]	(1.13) × 0.87	18	人為	平坦	緩斜		本跡→SK12
17	B 3 d3	N-25°-E	楕円形	0.68 × 0.50	22	自然	平坦	外傾 緩斜		
18	B 3 d2	N-30°-E	楕円形	1.23×0.96	28	人為	皿状	緩斜	土師器	
19	A 2 j8	-	円形	0.70×0.64	45	人為	皿状	緩斜		
20	A 2 h8	N-53°-E	不定形	1.22×1.02	34	人為	凹凸	緩斜		SI5→本跡
21	B 2 b8	-	円形	0.66 × 0.62	70	人為	V字状 皿状	外傾	土師器	
22	B 2 b8	N − 20° − W	楕円形	0.56×0.48	30	人為	平坦	外傾	土師器	
23	B 2 a8	-	円形	0.48 × 0.49	19	自然	平坦	外傾 緩斜		
24	A 2 j8	-	円形	0.65 × 0.60	40	自然	U字状	緩斜		
25	B 2 a8	N – 43° – W	楕円形	1.01 × 0.85	26	人為	平坦	外傾		
26	B 2 a8	N-77°-E	楕円形	0.89×0.74	30	人為	凹凸	緩斜		
27	A 2 j8	N-73°-E	楕円形	0.57 × 0.49	37	自然	皿状	外傾 緩斜		
28	A 2 j8	N-30°-E	楕円形	0.84×0.75	36	自然	平坦	外傾	縄文土器, 土師器	
30	B 2 a9	-	円形	0.90 × 0.89	19	自然	平坦	緩斜		本跡→SK29
31	В 2 с9	N – 35° – E	不整楕円形	2.60 × 0.90	9	自然	平坦	緩斜		
32	B 3 al	N – 50° – W	長方形	2.80 × 0.72	10	自然	凹凸	緩斜	縄文土器, 土師器	SX1→本跡
33	B 3 al	N – 53° – W	長方形	2.03×0.64	17	自然	平坦	緩斜	縄文土器, 土師器	SX1→本跡
36	В 2 с9	N-15°-E	楕円形	0.88×0.75	43	人為	U字状	緩斜		
37	B 2 j5	N – 53° – W	楕円形	0.55 × 0.46	47	人為	皿状	外傾		SK38→本跡
38	B 2 j5	N – 49° – E	[楕円形]	(0.80) × 0.64	54	人為	平坦	外傾		本跡→SK37
39	B 2 i5	N - 82° - E	楕円形	1.30 × 0.81	18	人為	平坦	外傾 緩斜	土師器	

				規	 模					
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
40	B 2 i7	N-3°-W	楕円形	0.68 × 0.62	30	人為	凹凸	外傾		
41	B 2 i6	=	円形	0.32×0.32	35	人為	平坦	外傾		
42	B 2 i5	N – 12° – E	長方形	2.77×0.92	31	人為	平坦	外傾	土師器	
43	B 3 al	N – 80° – W	[楕円形]	[0.73] × [0.24]	10	人為	平坦	緩斜		本跡→SK44
44	B 3al	N – 76° – W	[楕円形]	[1.85] × 1.08	11	自然	平坦	緩斜		SK43→本跡→SK45
46	B 2 b0	N – 36° – E	[楕円形]	(0.34) × (0.26)	24	人為	皿状	外傾		
47	B 3 g5	N – 74° – E	[楕円形]	[1.25] × [1.07]	64	人為	平坦	外傾		SI9→本跡
48	B 2 b8	N-60°-E	楕円形	0.58 × 0.50	15	人為	平坦	緩斜		
49	B 2 c7	-	円形	0.38 × 0.36	45	人為	U字状	外傾		
50	B 2 c7	N – 80° – W	楕円形	1.01 × 0.61	33	人為	平坦	緩斜		
51	B 2 c6	N – 40° – W	楕円形	0.45×0.40	20	人為	平坦	外傾 緩斜		
52	B 2 c6	-	円形	0.63×0.63	38	人為	平坦	外傾 緩斜		SK53→本跡
53	B 2 c6	N-1°-W	[楕円形]	0.69 × (0.62)	38	人為	平坦	外傾		SK69→本跡→SK52
54	B 2 d6	N-58°-E	楕円形	0.70×0.61	35	人為	皿状	外傾 緩斜		
55	B 2 c6	N-58°-E	不定形	(1.78) × 0.81	20	人為	平坦	緩斜		SK56→本跡→SK58
56	B 2 d6	=	[円形]	0.53 × [0.52]	72	不明	U字状	外傾 緩斜		本跡→SK55
57	B 2 c6	$N-68^{\circ}-W$	楕円形	1.26 × 0.83	46	人為	平坦	緩斜	土師器	SK59→SK58→本跡
58	B 2 c6	N-41°-W	楕円形	2.46 × [1.80]	25	人為	平坦	緩斜		SK55·59→本跡→SK57·69
59	B 2 c6	N – 48° – W	不定形	1.63×(0.71)	25	人為	平坦	外傾	縄文土器	本跡→SK58→SK57
60	B 2 d6	N – 58° – W	不定形	1.64 × (1.32)	30	人為	平坦	外傾		本跡→SK61
61	B 2 d6	$N-72^{\circ}-E$	[楕円形]	$(1.00) \times (0.37)$	56	人為	平坦	緩斜	土師器	SK60→本跡→SK62
62	B 2 d6	N – 70° – W	[楕円形]	(1.40) × (0.60)	11	自然	皿状	外傾	土師器	SK61·64→本跡
63	B 2 d6	N – 76° – E	楕円形	1.07 × 0.96	34	人為	平坦	緩斜		
64	B 2 d6	N – 71° – W	[楕円形]	$(1.88) \times (0.80)$	31	人為	平坦	外傾		本跡→SK62
65	B 2 c6	N− 1°−E	楕円形	(1.02) × 0.79	37	人為	平坦	外傾		SK66→本跡
66	B 2 d6	=	円形	0.56 × 0.56	31	不明	平坦	外傾		SK67→本跡→SK65
67	B 2 d6	N – 50° – W	[楕円形]	(0.82) × (0.34)	31	人為	平坦	緩斜		本跡→SK66·68·71
68	B 2 d6	N-84°-E	楕円形	(1.41) × 0.86	38	人為	平坦	外傾		SK67→本跡→SK71
69	B 2 c6	N − 40° − E	[楕円形]	0.59 × (0.44)	30	人為	平坦	外傾		SK58→本跡→SK53
70	B 2 d5	N-61°-W	楕円形	1.46×1.08	45	人為	平坦	外傾		
71	B 2 d6	-	円形	0.68×0.64	39	自然	平坦	外傾		SK67→本跡
73	A 3 j2	N – 31° – W	楕円形	1.55 × 1.28	56	人為	平坦	外傾		
74	В 3 а3	N – 42° – W	楕円形	0.68×0.54	11	自然	平坦	外傾		
75	B 3 b3	N – 45° – W	隅丸長方形	2.10 × 0.82	10	自然	平坦	緩斜		
76	В 3 а2	N – 82° – W	楕円形	1.12×0.81	54	人為	平坦	緩斜	土師器	
81	B 3 h4	N-7°-E	不整形	0.96 × (0.90)	18	自然	平坦	外傾		SI9→本跡
84	B 3 b1	_	円形	0.37 × 0.35	22	自然	平坦	外傾		
85	B 2 a0	N – 15° – W	楕円形	0.32 × 0.23	20	自然	皿状	外傾		
86	B 2 b0	N-36°-E	[楕円形]	(0.24) × (0.20)	15	自然	皿状	外傾		
89	A 5 h2	N – 30° – W	隅丸長方形	1.42×0.98	27	人為	平坦	外傾	縄文土器, 土師器	SI21→本跡
90	A 5 h2	N – 21° – W	楕円形	0.96 × 0.82	18	人為	平坦	外傾		SI21→本跡
91	A 4 h7	-	円形	0.79×0.74	19	人為	平坦	緩斜	土師器	
92	A 4 g7	-	円形	0.90 × 0.87	14	人為	平坦	緩斜	土師器	
93	A 4 f7	N – 37° – W	方形	0.88 × 0.85	12	人為	平坦	外傾	土師器	
94	A 4 e7	N-23°-E	長方形	2.05 × 1.08	10	人為	平坦	緩斜	土師器	
95	A 4 f8	-	円形	0.82 × (0.78)	2	人為	平坦	緩斜	土師器	本跡→SK96
96	A 4 f8	N – 35° – E	楕円形	1.04 × 0.70	17	人為	平坦	緩斜		SK95→本跡
97	A 4 f8	N − 12° − E	楕円形	1.14×1.02	13	人為	平坦	外傾 緩斜		

_				規	模					
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
98	A 4 e8	N - 66° - W	[楕円形]	1.20 × (1.07)	32	人為	平坦	外傾	土師器	SK101→本跡→SK99
99	A 4 e8	N - 8° - W	楕円形	1.08 × 0.92	11	人為	平坦	外傾	土師器	SK98·100→本跡
100	A 4 e8	-	円形	1.20×1.14	31	人為	平坦	外傾		本跡→SK99
101	A 4 e8	N-78°-E	長方形	0.80 × (0.66)	7	人為	平坦	緩斜	土師器, 土製品, 鉄滓	本跡→SK98
102	A 4 e8	-	円形	0.86 × 0.84	21	人為	平坦	外傾	土師器	
103	A 4 f8	N - 80° - W	楕円形	1.14×1.09	7	人為	平坦	外傾		
104	A 4 e8	N-12°-E	長方形	0.93 × 0.72	13	人為	平坦	外傾	土師器	
105	A 4 e9	N – 14° – W	楕円形	1.00 × 0.94	14	人為	凹凸	外傾	土師器	
106	A 4 e9	N-73°-E	楕円形	1.02×0.96	24	人為	平坦	外傾	土師器	
107	A 4 e9	-	円形	1.10×1.02	25	人為	平坦	外傾	土師器	
108	A 4 f9	N – 10° – W	楕円形	1.13×0.90	21	人為	平坦	外傾	土師器	
109	A 4 h6	-	円形	0.93 × 0.86	16	人為	平坦	緩斜	土師器	
110	A 4 i6	N – 23° – W	楕円形	0.48 × 0.39	43	人為	平坦	外傾		
111	A 4 j5	N – 27° – W	楕円形	0.49 × 0.40	47	人為	平坦	外傾	土師器	
112	A 4 j6	N-16°-E	長方形	3.26 × 0.93	20	人為	平坦	外傾	土師器	
113	A 4 j8	N-33°-E	楕円形	0.91 × 0.73	10	自然	平坦	緩斜		
114	A 4 j8	-	円形	0.40×0.38	56	自然	平坦	緩斜		
115	B 4 a8	N-9°-W	不整形	$(0.76) \times (0.60)$	25	人為	傾斜	緩斜		SK116→本跡
116	B 4 a7	-	円形	0.58 × (0.50)	52	人為	U字状	外傾		本跡→SK115
117	B 4 a8	-	円形	0.98 × 0.92	26	人為	平坦	緩斜		
122	B 3 f0	N-1°-W	[楕円形]	1.50 × (0.50)	33	人為	平坦	緩斜		本跡→SI12
123	B 3 g6	N-11°-E	楕円形	0.75 × 0.66	42	人為	皿状	緩斜		
124	B 4 d2	N-62°-E	方形	0.98 × 0.75	39	自然	平坦	外傾		
125	B 4 e3	-	円形	0.48×0.45	35	人為	平坦	外傾		
126	B 4 f4	N-71°-E	楕円形	0.48 × 0.38	32	人為	平坦	外傾		
127	В Зе9	-	円形	0.34 × 0.32	22	自然	皿状	緩斜		
128	B 3 d0	N-21°-W	楕円形	0.38×0.34	42	自然	U字状	外傾		
129	B 4 d5	N – 86° – W	楕円形	0.75 × 0.69	28	自然	皿状	緩斜		
130	A 4 f3	N-6°-W	楕円形	0.51 × 0.42	34	人為	皿状	外傾	土師器	
134	B 5 f0	N-37°-E	[方形]	$(1.00) \times (1.00)$	20	人為	平坦	外傾	土師器	
136	A 4 j9	N-88°-E	楕円形	0.92×0.81	27	人為	平坦	外傾	土師器	
137	B 4 a9	-	円形	1.29×1.22	26	人為	平坦	緩斜	土師器	本跡→SK138
138	B 4 a9	N-55°-E	楕円形	0.59 × 0.50	44	人為	平坦	外傾		SK137→本跡
139	A 4 j9	N - 8° - W	楕円形	1.01 × 0.79	26	人為	平坦	外傾 緩斜	土師器	
140	B 4 a9	N-47°-E	楕円形	0.61 × 0.51	45	自然	平坦	外傾 緩斜		
141	A 4 j8	N - 63° - W	楕円形	0.42×0.37	56	自然	U字状	外傾	土師器	
142	A 4 j8	N – 44° – W	楕円形	0.78×0.70	60	人為	U字状	緩斜		
144	A 5 fl	-	円形	1.06×1.00	22	人為	平坦	外傾		
145	A 5 fl	-	円形	0.96 × 0.92	14	人為	平坦	外傾		
146	B 4 a0	N-70°-E	楕円形	0.68 × 0.60	28	人為	平坦	緩斜		
147	A 4 j0	N – 20° – W	楕円形	0.54 × 0.46	86	自然	平坦	垂直	土師器	
148	A 5 il	-	円形	0.34 × 0.32	26	人為	平坦	外傾		
149	A 4 j0	-	円形	0.46 × 0.45	44	自然	平坦	外傾		
150	A 2 i4	N – 58° – W	長方形	1.76×0.85	14	人為	平坦	外傾		
151	A 5 c0	N-78°-E	隅丸長方形	2.20×1.13	48	不明	凹凸	外傾		
152	A 5 f6	N – 56° – E	楕円形	1.86 × 0.95	24	人為	平坦	緩斜		
153	B 1 a4	N – 35° – E	長方形	1.09 × 0.58	32	人為	平坦	垂直		
155	A 3 i4	-	円形	1.24 × 1.22	108	人為	段状	緩斜	土師器	

(6) 溝跡

今回の調査で確認した時期・性格不明の溝跡 10 条については、土層断面図 (第123 図~第125 図) と土 層解説は遺構順に掲載し、平面図については遺構全体図(第4図)に掲載する。

第1号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック微量,炭化粒子極微量

2 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

第2号溝跡土層解説

色 ローム粒子少量,炭化粒子微量 1 裾

2 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極 微量

4 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

5 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

6 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

7 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子極微量

8 黒 褐 色 ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量

第3号溝跡土層解説

色 ロームブロック少量,炭化粒子・細礫極微量 1 裾

色 ロームブロック中量,炭化粒子少量

色 ロームブロック中量 3 褐

4 灰 褐 色 ローム粒子少量

5 褐 色 ロームブロック少量

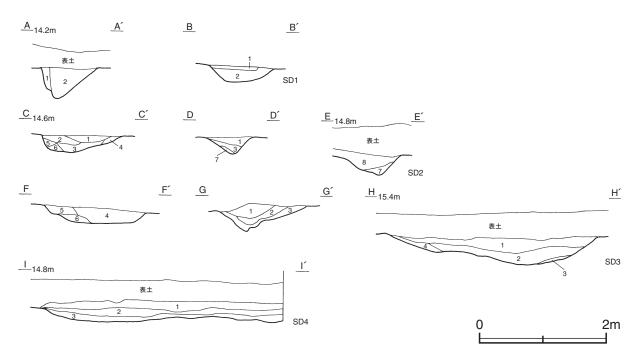
色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 6 裾

第4号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量

2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子極微量

3 黒 褐 色 ローム粒子微量



第123 図 第1~4号溝跡実測図

第5・8・11 号溝跡土層解説 (A・B・D・E ライン)

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

4 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量

5 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量

6 暗 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量

極 暗 褐 色 ローム粒子中量

8 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第5・7・8・9号溝跡土層解説(C・F・G・H ライン)

1 暗 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量

2 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量

3 にぶい褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 4 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

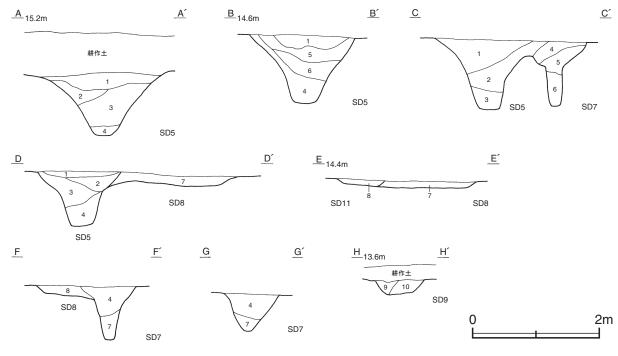
6 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化 粒子微量

7 裾 色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量

8 極暗褐色 ローム粒子中量

9 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量

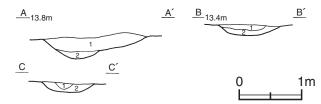
10 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量



第 10 号溝跡土層解説

極 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子極微量
 暗 褐 色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子極微量

第124 図 第5·7~9·11 号溝跡実測図



第 125 図 第 10 号溝跡実測図

表9 その他の溝跡一覧表

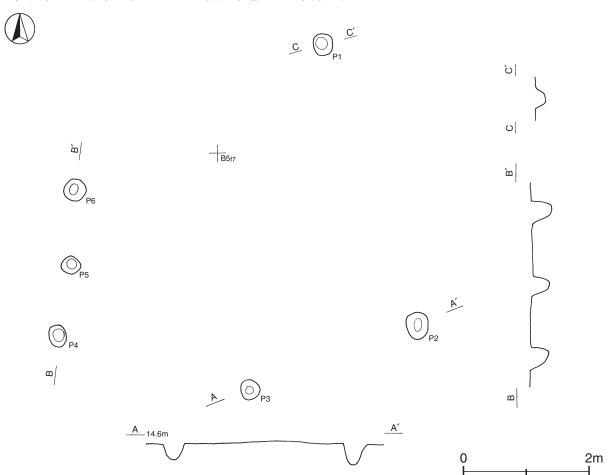
番号	位置	方 向	形状		規 模(m,深さはcm	1)	断面形	壁面	底面	覆土.	主な出土遺物	備考
留 万	177. 匡	刀叫	形 4人	長さ	上幅	下幅	深さ	断曲形	生田	 	復工.	土な田工遺物	備 考 新旧関係(古→新)
1	A 2 g7~ A 2 i8	N − 40° − W	直線状	(10.78)	0.40~0.80	0.14~0.38	20~46	逆台形	外傾 緩斜	平坦 U字状	自然	土師質土器	SI5→本跡
2	A 3 gl~ B 3 a4	N – 25° – W	直線状	(20.88)	0.42~1.24	0.07~0.52	25~30	逆台形	緩斜	皿状 V字状	人為	土師器	SI8·16, SK6→本跡
3	B 3 h8∼ B 4 g3	N – 50° – E N – 120° – E	L字状	(15.03)	0.65~1.89	0.14~1.20	22~43	逆台形	緩斜	平坦 凹凸	自然	土師器,土師質土器 石器	SI13·14→本跡
4	A 4 e1~ A 4 e2	N-80°-E	直線状	(3.84)	0.64~1.00	0.24~0.66	14~33	浅いU字状	緩斜	平坦	自然	土師器	SI17→本跡
5	B 5 b5∼ B 5 g9	N - 60° - W N - 25° - E	L字状	(33.50)	0.90~1.59	0.22~0.50	85~106	U字状	緩斜	平坦	自然 人為	土師器, 土師質土器 鉄製品	SD7·8→本跡
7	A 6 f2~ B 5 c7	N-30°-E N-63°-E	L字状	(37.60)	0.58~1.35	0.12~0.35	58~100	U字状	外傾 緩斜	平坦	自然 人為	土師器,土師質土器 土製品	SD8·9·11→本跡 →SD5
8	A 5 j8~ B 5 c6	N-45°-E	直線状	(14.16)	1.00~1.30	0.75~1.08	10~14	逆台形	緩斜	平坦	自然	土師器	本跡→SD5·7·11
9	A 5 c0~ A 6 f2	N – 22° – W	直線状	(14.60)	0.77~1.20	0.27~0.41	21	逆台形	緩斜	平坦	自然	土師器,土師質土器 陶器片	本跡→SD7
1 0	A 2 h3~ A 2 g6	N - 70° - E	直線状	(13.32)	0.61~1.08	0.20~0.68	13~29	逆台形	緩斜	平坦	自然	土師器	
1 1	B 5 a5∼ B 5 b7	N – 65° – W	直線状	(7.90)	0.35~0.53	0.18~0.38	9	逆台形	緩斜	平坦	自然	土師器	SD8→本跡→SD7

(7) ピット群

今回の調査で、調査区東部でピット群1か所を確認した。以下、ピット計測表と平面図を掲載する。

第1号ピット群 (第126図)

位置 調査区東部の標高 14.4 mの B 5 f 7 区を中心とした南北 6 m, 東西 6.4 mの範囲からピット 6 か所を確認した。平面形は長径 28 ~ 44cmの円形または楕円形で,深さが $17 \sim 36$ cmである。 P $3 \sim$ P 5 の分布状況から,柵跡に類似しているが掘り込みが浅いことから,ピット群とした。覆土中から 1 点の土師器片が出土したが,細片のため図示できなかった。時期・性格ともに不明である。



第126図 第1号ピット群実測図

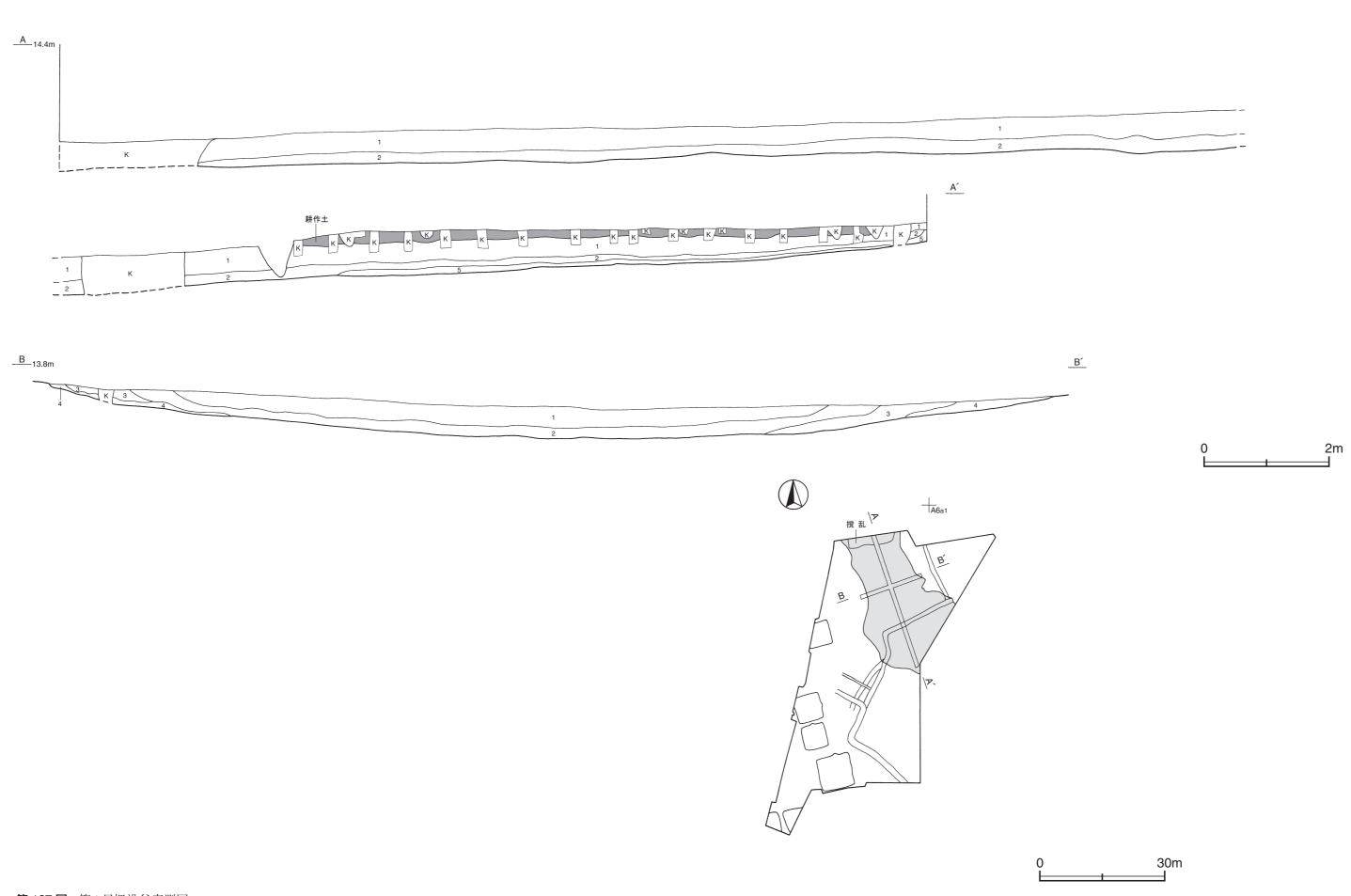
表10 第1号ピット群計測表

ピット 番号	位 置	形状		規	模 (cm)		ピット	位 置	形状		規	模 (cm)	
番号	1元 匡	形 4人	長径	×	短径	深さ	ピット 番号	177 匡	形机	長径	×	短径	深さ
1	B 5 e7	楕円形	37	×	32	17	4	B 5 f6	楕円形	38	×	29	25
2	B 5 f7	楕円形	44	×	38	36	5	B 5 f6	円形	28	×	27	26
3	B 5 f7	円形	33	×	32	28	6	B 5 f6	円形	36	×	34	34

(8) 埋没谷

第1号埋没谷(第127図)

位置 調査区東部のA5c6~A5j0区,標高12.9~13.9mの緩斜面に位置している。



確認状況 表土除去時に北に向かい緩やかに傾斜した面で、広範囲に黒色土を確認した。本跡の上面では、 第7号溝跡を確認し、その確認面で土師器細片が出土したので、集落の調査終了後にトレンチを入れ土層の 確認を行った。

規模 北部及び南東部が調査区域外に延びているため、南北軸 33.2 m、東西軸 27.8 mしか確認できなかった。 東西軸の断面形は浅いU字状で、深さは 66cmを確認した。

覆土 5層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であり、黒色土や暗褐色土が主体であることから、傾斜地に流れ込んだ自然堆積である。

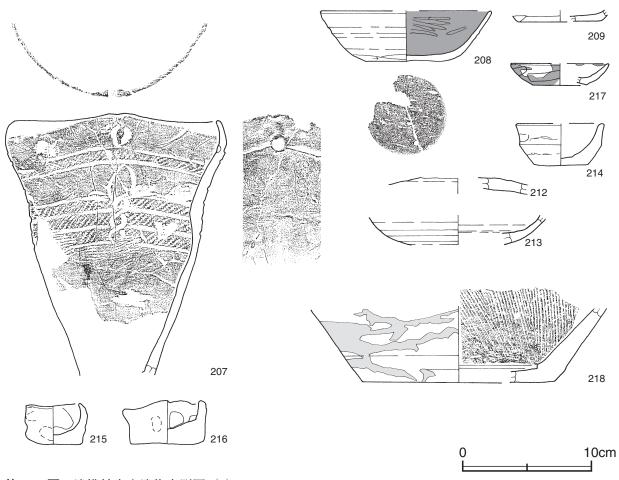
土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量,砂質粘土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 にい 赤褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

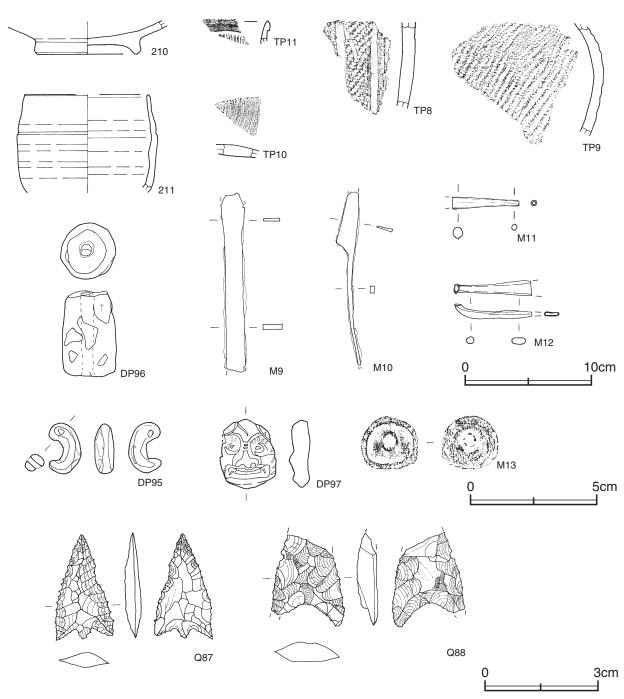
所見 現代の土地区画と重複し、中世以降の遺構と考えられる第7号溝跡が本跡の上面で確認できたことから、中世以前には埋没していたと考えられる。出土遺物は細片のため図化できなかったが、一部を写真図版に掲載した。

(9) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した、遺構に伴わない主な遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第128図 遺構外出土遺物実測図(1)



第129図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第 128・129 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
207	縄文土器	深鉢	15.8	(20.3)	=	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面棒状工具による円形の沈線文 胴部外面 6 条 の沈線文 各沈線間は無文もしくは単節斜縄文LR 縦 位の 2 条の蛇行沈線文による区切り	表土	70% PL2
208	土師器	坏	[13.2]	4.0	6.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ロクロナデ 下端ヘラ削り 内面ヘラ磨き 切り離し後一方向へのヘラ削り	第6号住居 跡覆土中	30%
209	須恵器	坏	-	(0.9)	[6.4]	長石・雲母	黄灰	普通	外面下端へラ削り 内面ロクロナデ	表土	5%
210	須恵器	高台付 坏	-	(2.6)	[7.6]	長石·石英	灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	第4号住居 跡覆土中	20%
211	須恵器	台付椀	[9.8]	(7.8)	-	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	体部外・内面ロクロナデ	第8号住居 跡覆土中	10%
212	須恵器	蓋	-	(1.3)	-	長石・石英	橙	不良	外面ロクロナデ	第 19 号住居 跡覆土中	5%
213	須恵器	璲	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面回転へラ削り	第8号住居 跡覆土中	5%

				T				i					
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備	考
214	土師器	ミニチュア 土器	6.6	3.3	4.2	長石・石	5英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面横ナデ	第 10 号溝跡 覆土中	30%	
215	土師器	手捏土器	4.2	3.2	4.3	長石・石		にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 指頭圧痕	表土	90%	
216	土師器	手捏土器	6.0	3.4	5.8	長石·石 細礫	5英・雲母・	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 指頭圧痕	表土	100%	
217	土師質土器	小皿	[7.6]	1.7	[4.2]	石英		にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 底部ナデ 外・内面油煙	表土	30%	
218	陶器	擂鉢	-	(5.8)	[15.0]	長石・7 粒子	5英・黒色	赤褐	普通	瀬戸・美濃系 15条1単位の擂目 外面横ナデ 錆釉 底部回転糸切り	表土	5%	
番号	種 別	器種		胎土		É	 色調			手法の特徴ほか	出土位置	備	考
TP8	縄文土器	深鉢	長石・	石英			橙	棒状工具	こよる[区画沈線文内に単節斜縄文L R	表土		
TP9	縄文土器	深鉢	長石				橙	単節斜縄	文LR		表土		
TP10	須恵器	蓋	長石・カ	石英・雲台	〕		灰	ロクロナ	デ		第7号住居跡 覆土中		
TP11	須恵器	長頸瓶	長石			責	責灰	頸部外面網	従位の注		第 14 号住居 跡覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材	質		特 徵	出土位置	備	考
DP95	勾玉	2.0	1.3	0.8	0.2	1.7	土 (石英)		明褐色	- 一方向からの穿孔 ナデ	表土	PL27	<u> </u>
				ļ									
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材	質				出土位置	£#:	考
DP96	管状土錘	4.4	6,8	1.2	149.2		日 ・石英・ 子)	たどい芸	恐名 _	H	第13号住居跡 床下撹乱内	7/18	15
D1 90	日小工姓	4.4	0,8	1.2	143.2	赤色粒	子)	(この)(・页)	5 E	/Jimprovo分tu / /	床下撹乱内		
								İ			1		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特徵	出土位置	備	考
DP97	泥面子	2.6	2.2	0.8	4.0	土(石芽	英)	橙色 芥-	子面 多	長面人面 裏面ナデ	表土	PL28	
				,									
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特	出土位置	備	考
Q87	鏃	2.8	1.5	0.4	1.1	チャー		両面剥離	凋整		第1号住居跡 覆土中	PL28	
Q88	鏃	(2.4)	1.9	0.6	(2.0)	黒曜石		両面剥離	凋整		表土	PL28	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特	出土位置	備	考
M9	不明鉄製品	(14.3)	2.0	0.4	(64.3)	鉄		両端欠損			第5号溝跡 覆土中	PL30	
M10	鋏ヵ	(13.9)	1.9	0.6	(17.0)	鉄		両端欠損			第5号溝跡 覆土中	PL30	
M11	煙管	(5.3)	1.0	0.9	(2.7)	銅		外面緑青	吸口部	Bのみ	第1号道路跡 覆土中	PL30	
M12	煙管	(6.3)	1.2	1.2	(5.0)	銅		外面緑青	火皿ク	ス損 雁首部のみ	表土	PL30	
番号	器種	銭 名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質			 特	出土位置	備	考
M13	古銭ヵ	不明	2.31	0.4	4.0	1/2/8/4] - 1/2	銅	表面经書	最同年	17 B 2.2mm 加圧のため不整円形	表土	PL30	.2
10113	口蚁。	71199	2.01	0.4	4.0		277	3人川水 円	以序下	b 2.2mm カルエッフ/こめフ/1.3E1 1カラ	15.1.	1 1200	

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査では、主に古墳時代の住居跡や鍛冶工房跡、平安時代の住居跡、中世の溝跡などが確認され、 当遺跡は複合遺跡であることが判明した。遺物は、各遺構に関わる土師器類とともに、少数の須恵器片や土 製模造品が出土している。

ここでは、当遺跡において住居数が最も多い古墳時代後期の主な坏と甕の土器編年と集落の変遷について述べるとともに、土製模造鏡を始めとする祭祀遺物と当地域との関わりについて若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 古墳時代後期の様相(第130~132図)

当遺跡では古墳時代後期の竪穴住居跡 28 軒と鍛冶工房跡 1 基,土坑 12 基,不明遺構 2 基などを確認した。ここでは、「出土土器の編年」と「集落の変遷」について考察を進めていきたい。また、考察を進めるにあたり、その基準となる事項や特例などを、以下に掲載しておく。

時期区分:第Ⅰ期(6世紀前葉),第Ⅱ期(6世紀中葉),第Ⅲ期(6世紀後葉),第Ⅳ期(7世紀前葉)としたが,時期を特定できる須恵器の出土が乏しく,いずれも覆土中からの出土であったため,現在までの研究論文や報告書¹⁾などをもとに土師器で時期を決定した。良好な資料の須恵器としては,第6号住居跡出土の高坏(TK209式期)があるが,埋め戻しの際に投棄されたものと判断したため,第6号住居跡は出土した土師器をもとに第Ⅰ期(6世紀前葉)と判断し,第Ⅱ期はTK10式併行期とした。同様に,第4号住居跡からは坏(TK209式期)が出土しているが,覆土上層からの出土であったことや,他の住居跡から出土した破片と接合したものであることから,投棄されたものと判断した。したがって,第4号住居跡は出土した土師器をもとに第Ⅱ期(6世紀中葉)と判断し,第Ⅲ期はTK209式併行期とした。

住居の規模:面積が20㎡未満を小形住居,20㎡~50㎡未満を中形住居,50㎡~80㎡未満を大形住居,80㎡以上を超大形住居とした。また、規模の算出にあたっては、長軸×短軸を基本としたが、調査区域外に延びているために片方の軸しか確定できなかった場合は、確認できた軸の平方とした。なお、両軸ともに確定できなかった第10・21~23号住居跡は規模の考察から除外した。

住居の主軸:原則として竈・炉を通る軸線としたが,竈や炉を確認できない住居跡は,出入口とその対壁を通る軸線とした。

なお, 第30·31 号住居跡は, 第8·19 号住居跡の拡張前の住居跡と判断したため, 帰属する遺物が少なく時期は推測したのみであるため,全ての考察から除外した。

第 I 期(6世紀前葉)

当期は、住居跡6軒(第2・5・6・8・11・13号住居跡)が該当する。

(1) 出土遺物の様相

坏:口縁部と体部の境目に明確な稜をもつものはA類・B類に大別でき、須恵器坏蓋模倣で口縁部が直立 するものをA類、須恵器坏身模倣で口縁部が内傾するものをB類とした。また、口縁部と体部の境目 に明確な稜が見られないC類がある。椀状坏は、器高が高く肉厚で、内面に放射状のヘラ磨きが施されたものをD類とし、器高が低く肉薄のものをE類とした。口縁部が大きく外反して立ち上がるF類と平底のG類は今期で消滅する。比較的に赤彩されているものが多いが、黒色処理されているものが若干見受けられる。

甕:体部が球形に近いものをA類とし、頸部の断面が「コ」の字を呈しているものをB類とした。小型甕のC類には頸部が明確に括れ口径と体部の最大径がほぼ等しいC1類と、頸部の括れが弱く口径とよりも体部の最大径が大きいC2類がある。(頸部から口縁部までが全高の3分の1を占める壺であるD類は参考資料として掲載したが、当期で消滅する。)

(2) 集落の様相

当期の住居跡は調査区域の中央部からやや西部に分布し、主軸方向はW-17~55°-Nであり、各期の中では最も西に振れている。規模は、中形住居4軒(第2・5・11・13号住居跡)、超大形住居2軒(第6・8号住居跡)である。注目できる住居跡としては、出入口に張り出しをもつ第8号住居跡が挙げられる。第8号住居跡は、第30号住居跡を拡張した超大形住居で、8条の間仕切り溝や5条の根太跡などがあるばかりでなく、竈の両脇に竈を覆う構築物に関わると考えられるピットも存在し、当期の他の住居跡とは形態を異にしている。出土遺物に関しても、土師器片が3000点以上出土したばかりでなく、土製品(勾玉3、土玉16、臼玉3)や石製品(臼玉2、棗玉1)などの祭祀遺物が出土している。

第 Ⅱ 期 (6世紀中葉・TK10 式併行期)

当期は、住居跡 6 軒(第4・7・15・19・23・26 号住居跡)と鍛冶工房跡 1 基(第1号鍛冶工房跡)が該当する。

(1) 出土遺物の様相

坏: A類は第 I 期より須恵器坏蓋を意識した形状となり、口縁部がやや外反して立ち上がる A 1 類と、須恵器坏蓋をより忠実に模倣した A 2 類に分化している。B 類は稜がより明瞭になり、口縁部の内傾が顕著になるとともに大型化する。C 類は稜がやや明確になるが、今期で消滅する。D 類は、器高が増し深くなるが今期で消滅する。E 類は、体部外面がヘラ削りなどが施されるようになり、口縁部がやや内傾するようになる。赤彩されているものの割合が急激に減少し、黒色処理されているものの割合が増えるようになる。

甕: A類は体部のヘラ削りが顕著になり、底部の突出が弱くなるものも出現する。B類はより肩が張り、「コ」の字がより顕著になるが今期で消滅する。C 1類は、頸部の括れが目立ち球形に近づくがC 2類は確認できない。また、当期になると口縁端部を上方もしくは横に摘み出す手法が取り入れられ、いわゆる常総型甕の素形になるもの(E類)が散見し始める。

(2) 集落の様相

当期の住居跡及び鍛冶工房跡は、調査区中央部からやや西部(A群:第 $4\cdot7$ 号住居跡)と、やや東部(B群:第 $15\cdot19\cdot23\cdot26$ 号住居跡、第1号鍛冶工房跡)に分かれて分布し、主軸方向はW $-16\sim52^\circ-N$ であり、第1期よりも西への振れが若干弱い。規模は、中形住居3軒(第 $7\cdot15\cdot26$ 号住居跡)、大形住居 1軒(第4号住居跡)、超大形住居(第19号住居跡)である。

A群で注目できる住居跡としては、第4号住居跡が挙げられる。第4号住居跡は、第 I 期の中心的住居 跡と推測できる第8号住居跡から約30m西に位置している。第7号住居跡とともに、出入口に張り出し をもつ点で第8号住居跡と共通している。

一方, B群で注目できる住居跡としては, 第19号住居跡が挙げられる。第19号住居跡は, 第31号住居跡を拡張した超大形住居で, 主柱穴と補助柱穴が合計7か所あり, ベッド状の高まりがある。また, 約1500点の土師器片のほか, 土製勾玉・土玉なども出土している。

第Ⅲ期(6世紀後葉・TK209 式併行期)

当期は、住居跡 12 軒(第3・9・10・12・14・16・18・20・22・25・27・28 号住居跡)が該当する。

(1) 出土遺物の様相

坏:A1類は口縁部が一度括れてから立ち上がるようになる。A2類は稜が滑らかになり立ち上がるようになる。また、A2類の中でも、器高が低くなり稜が器高の中央に近づくようになるもの(A3類)が見受けられるようになる。B類は小型化し、より須恵器坏身を模倣するもの(B1類)と、口縁部の立ち上がりの内傾が顕著でなくなるもの(B2類)が出現する。E類は、口縁部の内傾が目立たなくなるE1類、口径が約1.5倍になるE2類と、口径に対する深さの比率が増大するE3類に細分化される。当期は、黒色処理を施されているものの割合が飛躍的に増え、赤彩されているものは見られなくなる。

甕: A類はより長胴化するが、当期をもって出土量が極端に減る。それに代わり、口縁端部を摘み上げ、体部下位にへラ磨きを施す、常総型甕の形態を呈するE類が主流を占めるようになる。C類ではC2類は口径と胴部の最大径がほぼ等しくなる一方で、やや長胴化したC3類も出現するが、C2・3類とも当期で消滅する。

(2) 集落の様相

当期の住居跡は調査区中央部の南端から東部にかけて広い範囲に分布し、第 27 号住居跡を除き、主軸方向はW -30° - NからE -2° - Nの範囲となり、第 II 期以上に西への振れ幅が小さくなり、真北方向を向くようになる。第 27 号住居跡は本遺跡唯一の東竈の住居で、その主軸はE -76° - Nとなっている。規模は中形住居 4 軒(第 $3\cdot 20\cdot 27\cdot 28$ 号住居跡)、大形住居 5 軒(第 $9\cdot 12\cdot 16\cdot 18\cdot 25$ 号住居跡)、超大形住居 1 軒(第 14 号住居跡)である。当期最大の住居は第 14 号住居跡で面積は 87.4㎡と推定できるが、南半分が調査区域外に延びているため、その全貌は不明である。

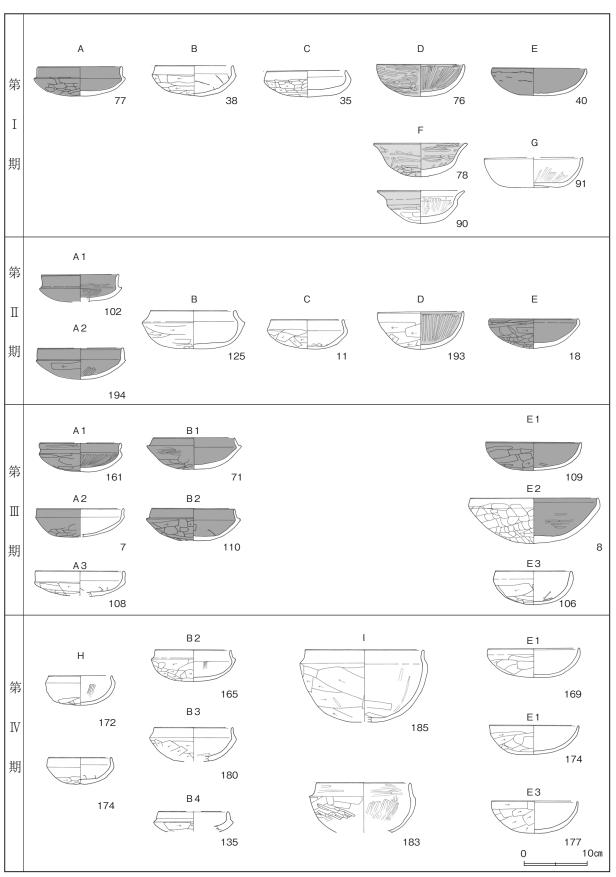
当期で注目できる住居は、第 $I \cdot II$ 期の中心的な住居と考えられる第 $8 \cdot 19$ 号住居跡のほぼ中間に位置している第 18 号住居跡で、当期では第 2 の規模である。形態は第 I 期の第 8 号住居跡に類似しており、主柱穴が 9 か所、間仕切り溝は 6 条、竈を仕切ると考えられるピットも存在している。また、土師器片が約 1400 点出土したばかりでなく、土製品 13 点(勾玉 10、土玉 3)や石製品(臼玉)も出土している。

第Ⅳ期(7世紀前葉)

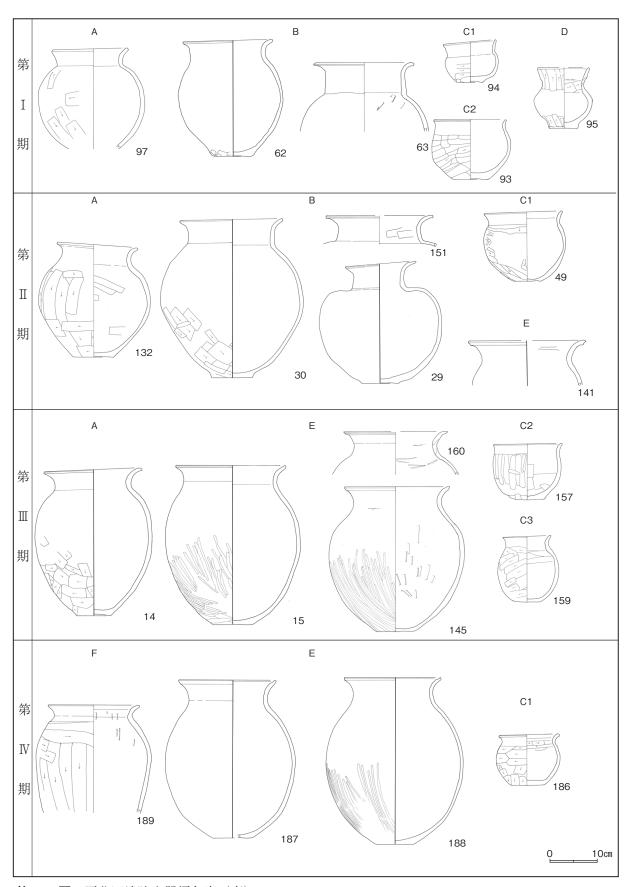
当期は、住居跡2軒(第21・29号住居跡)が該当する。

(1) 出土遺物の様相

坏: A類の出土は消滅し確認できない。B類では、B1類は確認できないが新たに肉厚で器高が高いB3類と、肉厚で器高が低いB4類が出現する。E類では大形のE2類は確認できなかったが、E1類・E2類は引き続き存在する。当期からは、第Ⅲ期の坏類よりも小型で肉厚のもの(H類)が確認できる。また、口径・器高とも大型化したもの(Ⅰ類)が出現する。(183・185 は大型の椀と判断し、参



第130図 平北田遺跡土器編年案(坏) 赤彩 黒色処理



第131図 平北田遺跡土器編年案(甕)

考資料として掲載した。) 当期では、黒色処理の施された遺物はほとんど出土しなくなる。

甕:確認できた甕の出土が少なかったため良好な資料は少なかったがE類の常総型甕が主流を占めている。当期になると体部から直線的に底部に向かう器形を呈するもの(F類)が出土するようになる。 C1類は傾向を引き継いでいるが、小型甕であるC類の出土は減少する。

(2) 集落の様相

当期の住居は、調査区西端と東部に1軒ずつ分布し、主軸方向はW-22・24°-Nである。第Ⅲ期よりは若干西への振れ幅が大きくなる。規模は大形住居が1軒(第29号住居跡)である。2軒のみの確認で、第21号住居跡は規模の確定が困難で出土遺物も少なかったので、第29号住居跡が良好な資料となる。第29号住居跡は、最も標高が低い面に位置し、面積が51.1㎡で、第Ⅲ期までの中心的な住居跡より規模は小さくなるが、間仕切り溝を7条確認した。さらに、出入口施設付近で、性格は不明であるが床上に自然石が円を描くように出土した。出土土器では、大型の坏・椀の他に、平底に近い甕の底部に19孔以上の穿孔を施した甑(P190)が出土している。この甑の同型のものは、他の住居跡から出土していないが、島名前野東遺跡の第13号住居跡から出土した甑に形状が類似している。

以上のことをもとに、当遺跡の集落変遷について各期ごとに概観を述べる。

第 I 期 小集落期

祭祀に関わり、集落の有力者が居住していた第8号住居跡があり、それを囲むように他の住居が位置する小規模な集落が存在していた時期である。

第Ⅱ期 集落の拡散期

第 I 期の中心的な住居である第 8 号住居跡と形態の似ている第 4 号住居跡が西に、土製勾玉などが出土した超大形住居の第 19 号住居跡が東に位置している。第 I 期の集落が、住居形態や祭祀的行為などを維持・継承したまま、標高 14.5 m以上の微高地を広場として、東西方向に広がっていった時期である。

また、次の二つの観点から、集落の拡散の過程を推測できる。

(ア) 住居形態の観点から

A群の第4・7号住居跡は出入口に張り出しをもつ構造が、第 I 期の第8号住居跡と似ている。したがって第8号住居跡に住んでいた集団が第4・7号住居跡に移り住んだ。その集団の長は、出土遺物から推測すると第4号住居跡に居住していたと考えることができる。

(イ) 集団構成の観点から

大形住居とそれに伴う数軒の小形住居という観点では, 第 I 期の第 8 号住居跡を中心とした集団が, その構成を保ったまま西に移り住み, 集落を形成したと考えることができる。

第Ⅲ期 集落の拡大期

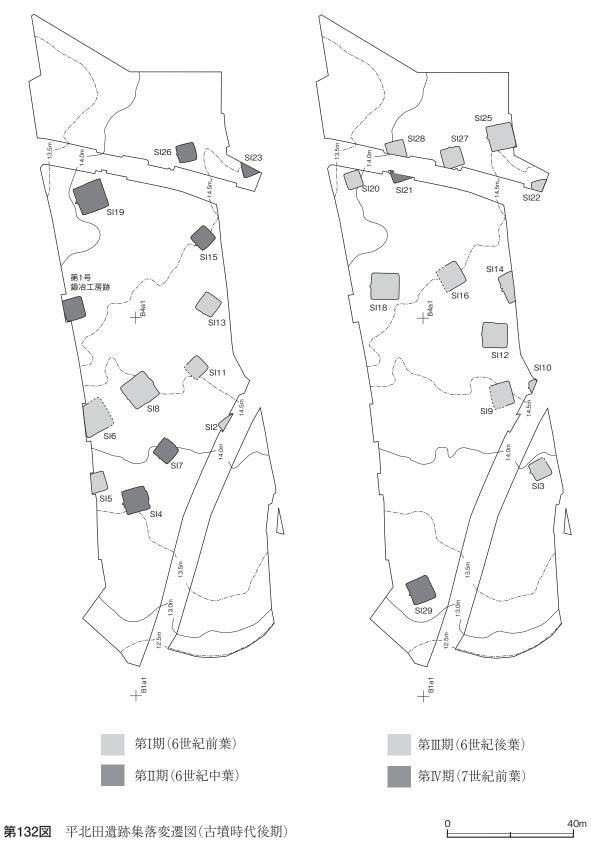
第Ⅲ期までの有力者の住居形態を継承した第 18 号住居跡の南方に、他の住居がほぼ等間隔で囲んで集落を形成し、集落が広まった時期である。

第Ⅳ期 集落の変革・終焉期

東谷田川沿いには、7世紀になると集落が消滅してしまう遺跡があり、当遺跡も同様である。第Ⅲ期に住居数が一気に増えた後に、急激に終焉を迎える時期であると同時に、第Ⅲ期までにはなかった新しい甑の製作技法が取り入れられるなど、変革を迎えた時期である。

なお、出入口に張り出しをもつ住居跡の類例は、本県つくば市島名熊の山遺跡、稲敷市堂ノ上遺跡、桜





川市辰海道遺跡, ひたちなか市三反田下高井遺跡, 牛久市・阿見町ナギ山遺跡や東京都八王子市中田遺跡, 栃木県宇都宮市中島笹塚遺跡などがある。特に島名熊の山遺跡の第1110号住居跡 (7世紀前半)や堂ノ上遺跡の第45号住居跡 (6世紀後葉), 第100号住居跡 (6世紀前葉), 第121号住居跡 (6世紀中葉), 132号住居跡 (6世紀後葉)に張り出しがあり,張り出し部には貯蔵穴かその可能性がある掘り込みがある。当遺跡の第8・12・13・15・16号住居跡と第1号鍛冶工房跡も出入口付近に貯蔵穴があり, 特に第8号住居跡には張り出しもある。したがって, 出入口に貯蔵穴が位置し外に張り出している住居形態は広い範囲で普及していたと考えられるとともに, 貯蔵穴のみ住居内に位置し,張り出しが階段状に残り使用されていた形態が,当遺跡の第8号住居跡と考えることができる。

3 祭祀遺物について

今回の調査では祭祀遺物が出土しており、それについての考察をする。

当遺跡の祭祀遺物の出土状況は、同期の他の住居跡に比べ、大形の住居跡から比較的に多く出土している 点や、土製の祭祀遺物に対し石製模造品の割合が少なく人為堆積の住居跡からの出土が多い点が共通してい る。このようなことから、集落の中心的な住居では祭祀的行為が行われ、祭祀的行為と生活が密接に関係し ていたことがうかがえる。

祭祀には、「日常的に行われていた行為」と「節目に行われていた行為」の二つが推定できる。「日常的に行われていた行為」として考えられるのは農耕に関する祭祀的行為で、広義には豊かな暮らしを追求した行為である。「節目に行われていた行為」とは住居廃絶時に伴った行為である。両者ともその形態や方法は推測することしかできないが、当時の生活は自然と直結していることから、自然に対する崇拝行為として祭祀的行為があったと推測できる。²⁾

以上の観点から,第2章第2節で述べた島名熊の山遺跡を補完する島名前野東遺跡の祭祀遺物の出土状況 と当遺跡の祭祀遺物の出土状況を比較検討し,当遺跡の祭祀的行為についてさらに考察する。(なお,島名 前野東遺跡の時期区分については調査報告³⁾を参考にし,当遺跡の土器編年案をもとに時期決定をしてい る。)

第I期

両遺跡とも、土製品の出土量が多く、石製品は当遺跡で若干出土しているのみである。特に当遺跡の第8号住居跡からは、土製臼玉3点・土製勾玉3点・土玉16点などが出土し、島名前野東遺跡の総数を超える量の祭祀遺物が出土している。第8号住居跡は前述のとおり集落で中心的な人物が住んでいたと推測できるが、人為堆積で多くの土製品が覆土中層から覆土下層にかけて撒かれたように出土しており、住居廃絶の「節目」に祭祀的行為が行われたことを示唆している。また、第5号住居跡の覆土中から土製模造鏡が出土しているが、自然堆積の過程で投棄されたものと判断した。

第Ⅱ期

当遺跡では祭祀関連遺物の出土量が減少し、島名前野東遺跡では出土量が増える時期である。島名前野東遺跡の第82号住居跡からは、土玉23点・石製臼玉30点が出土している。当遺跡は当期になると、住居が東西に二分される時期で、東部に位置する第4号住居跡からは土製模造鏡が出土している。また、西部の中心的な住居と考えられる第19号住居跡も祭祀遺物の出土量は少ないが、床面もしくは覆土下層からの出土

であるばかりでなく焼失住居であることから、「節目」の祭祀的行為が行われたと考えることができる。

また当遺跡周辺では、南方約5.2kmのつくば市根崎遺跡の第29号住居跡(5世紀中葉)から、全国で14例しか確認されていない五鈴鏡の土製模造品が出土している4。時期差はあるが、これらの模造鏡が出土していることからも、当遺跡を含む当地域では祭祀的行為が盛んに行われていたことの裏付けとなる。

表 11 平北田遺跡・島名前野東遺跡出土祭祀遺物集計表

期	住	居		土葬	製品		手捏・			石製品		
别	番号	堆積	白玉	勾玉	土玉	模造鏡	ミニチュア	臼玉	勾玉	棗玉	双孔円板	剣形模造品
	5	自然				1	1					
笙	8	人為	3	3	16		2	2		1		
第 I 期	11	人為			6							
别	平北田	遺跡 計	3	3	22	1	3	2		1		
	島名前野	予東遺跡	1	7	4							
	4	自然	1		3	2	2					
	7	自然						1				
第	15	人為						1				
第 Ⅱ 期	19	自・人		1	1		1	1				
别	26	自然			2							
	平北田	遺跡 計	1	1	6	2	3	3				
	島名前野	予東遺跡	3	4	26		20	34				
	9	人為		1	3							
	12	人為			4		4	1				
	16	人為			4							
第 Ⅲ 期	18	人為		10	3		2	1				
期	22	自然		1	3							
	25	人為		2			1					
	平北田	遺跡 計		14	17		7	2				
	島名前野	予東遺跡	11	3			3	5	1		2	2
	21	人為			1							
第 IV 期	29	人為		2								
期	平北田	遺跡計		2	1							
	島名前野	丹東遺跡	4	3	2							

第Ⅲ期

当遺跡では祭祀遺物の出土量が増え、島名前野東遺跡では祭祀関連遺物が多様化する時期である。当遺跡では、当期の中心的な住居と考えられる第18号住居跡から土製勾玉10点・土玉3点などが出土し、島名前野東遺跡の土製品の総数に迫っている。祭祀遺物のほとんどが土製勾玉であることや、床面からの出土であることから、当遺跡の他の住居の祭祀的行為と形態が異なり、「日常的」な祭祀的行為が行われていた可能性がある。

また、島名前野東遺跡では石製の祭祀遺物の出土が目立つようになる。当期は、当地区において再び祭祀的行為が活発化した時期と考えることができる。

第Ⅳ期

当期は遺構の確認数が少ないため、祭祀的行為が衰退したとは言い切れないが、祭祀遺物の出土量が一気に減少する時期である。当遺跡においては、当期の住居跡は2軒しか確認していないが、両方の住居跡から祭祀関連遺物が出土している。しかし、その量は非常に少ないので、その実態は不明であるが、何らかの祭祀的行為が行われていたと推測できる。

3 おわりに

以上、当遺跡の土器編年と集落の変遷、祭祀関連遺物について若干の考察を記載し、当遺跡の概要の把握に努めた。しかし、今回の調査区域は遺跡のごく一部でしかないため、集落の中心まで調査が及んでいない可能性がある。したがって、平北田遺跡の全容解明については今後の調査に期待したい。

註

- 1) a 樫村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』第2号 茨城県教育財団 1993年7月
 - b 稲田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 190 集 2002 年 3 月
- 2) 飯泉達司「島名前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書IX」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第 215 集 2004 年 3 月
- 3) a 寺門千勝 田原康司 梅澤貴司「島名前野東遺跡,島名境松遺跡,谷田部漆遺跡 島名·福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書〒」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月

b註2に同じ

- c 小松崎和治「鳥名境松遺跡、鳥名前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書 X Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 281 集 2007 年 3 月
- 4) 根崎遺跡を含め、栃木県上長井遺跡・田島持舟遺跡・清六Ⅲ遺跡、千葉県沼つとるば遺跡・東田遺跡、静岡県日詰遺跡、長野県 竹花 遺跡、福岡県大又遺跡の9遺跡14点しか確認されていない。

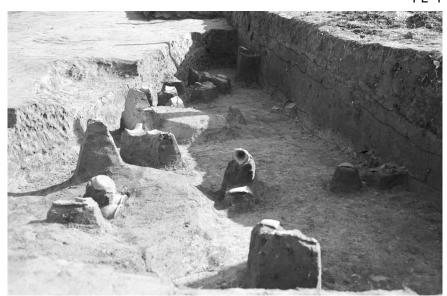
参考文献

- ・篠川賢『物部氏の研究』日本古代氏族研究叢書① 雄山閣 2009年8月
- ·秋本吉徳『常陸国風土記』講談社 2001年10月
- ・第2回東日本埋蔵文化財研究会『古墳時代の祭祀-祭祀関係の遺跡と遺物-』東日本埋蔵文化財研究会 1993年3月
- ・谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- ・桐生直彦「竪穴建物の構造から中田遺跡を考える」『八王子中田遺跡の再検討』東京考古談話会 2010年3月
- ・栃木県立しもつけ風土記の丘資料館『ムラから見た古墳時代Ⅱ』栃木県教育委員会 2010年9月
- ·河野辰男 高木国男 河野通義『羽成1号墳発掘調査報告書』谷田部町羽成1号墳発掘調査会 1985年1月

写 真 図 版



遺跡全景(東から)



第2号住居跡遺物出土状況



第 3 号 住 居 跡 遺 物 出 土 状 況



第 3 号 住 居 跡完 掘 状 況

PL 2



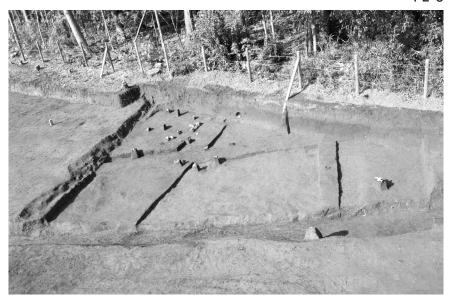
第 4 号 住 居 跡 遺 物 出 土 状 況



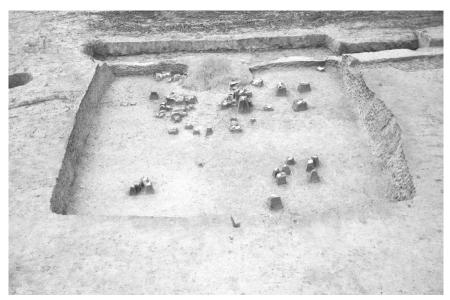
第 4 号 住 居 跡 完 掘 状 況



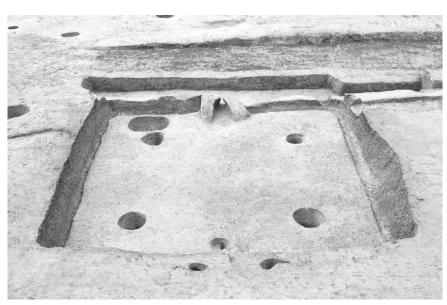
第 5 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第6号住居跡遺物出土状況



第7号住居跡遺物出土状況



第 7 号 住 居 跡完 掘 状 況

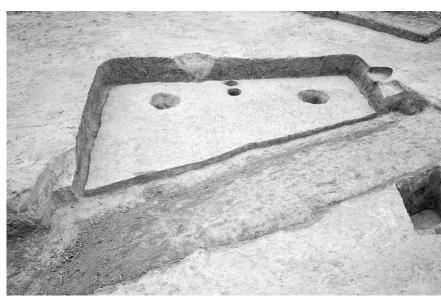
PL 4



第 8 号 住 居 跡 遺 物 出 土 状 況



第 8 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第 9 号 住 居 跡完 掘 状 況



第 10 号 住 居 跡 完 掘 状 況

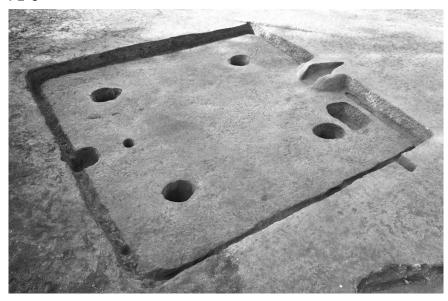


第 11 号 住 居 跡 遺 物 出 土 状 況



第 11 号 住 居 跡完 掘 状 況

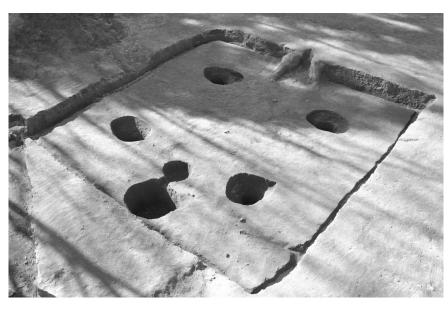
PL 6



第 12 号 住 居 跡 完 掘 状 況



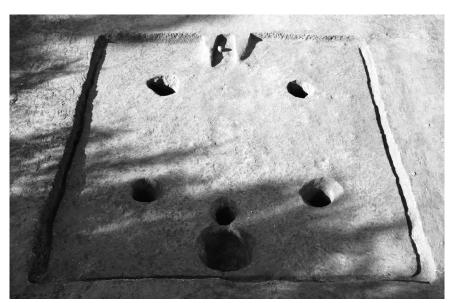
第13号住居跡遺物出土状況



第 13 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第 14 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第 15 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第16号住居跡遺物出土状況

PL 8



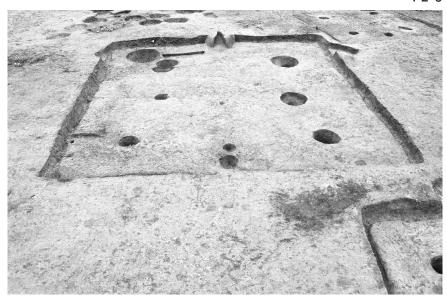
第18号住居跡遺物出土状況



第 18 号 住 居 跡 完 掘 状 況



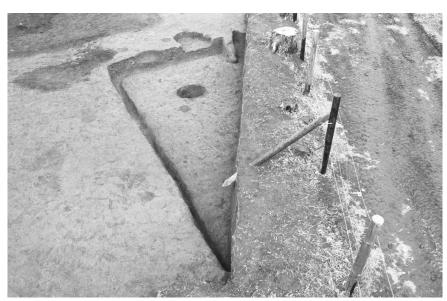
第19号住居跡遺物出土状況



第 19 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第 20 号 住 居 跡 完 掘 状 況

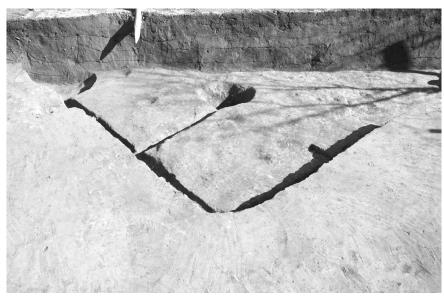


第 21 号 住 居 跡 完 掘 状 況

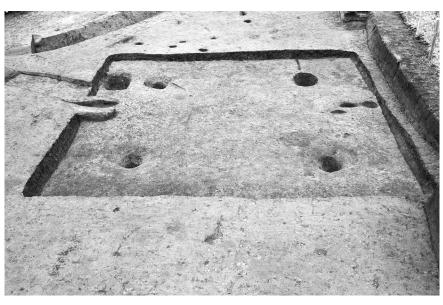
PL 10



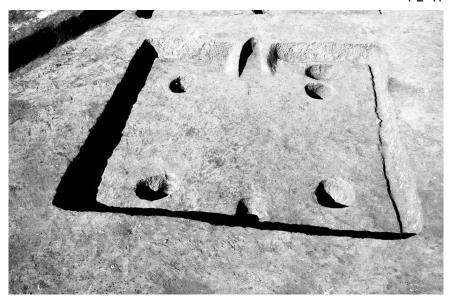
第 22 号 住 居 跡 完 掘 状 況



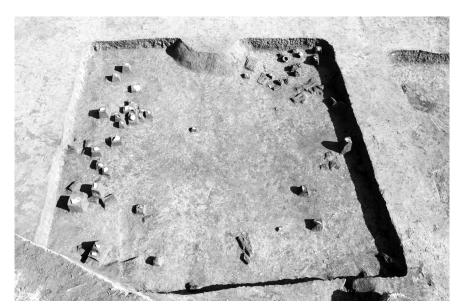
第 23 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第 25 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第 26 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第27号住居跡遺物出土状況

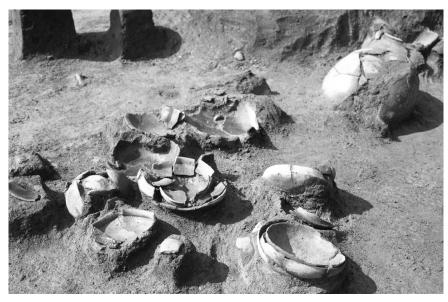


第 27 号 住 居 跡 完 掘 状 況

PL 12



第 28 号 住 居 跡 完 掘 状 況



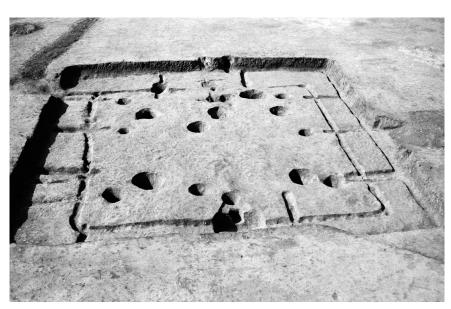
第29号住居跡遺物出土状況



第29号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況



第 29 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第 30 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第 31 号 住 居 跡 完 掘 状 況

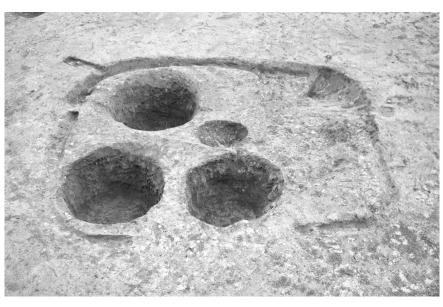
PL 14



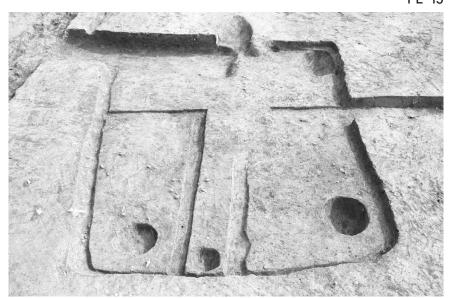
第1号鍛冶工房跡完 掘 状 況



第 1 号 不 明 遺 構完 掘 状 況



第2号不明遺構完 掘 状 況



第 1 号 住 居 跡 完 掘 状 況



第1号掘立柱建物跡完 掘 状 況



第 1 号 井 戸 跡 完 掘 状 況



第3・4・5号住居跡出土遺物



第6・7・8・11・12号住居跡出土遺物



第13 · 14 · 18 · 19 · 25 · 26号住居跡出土遺物



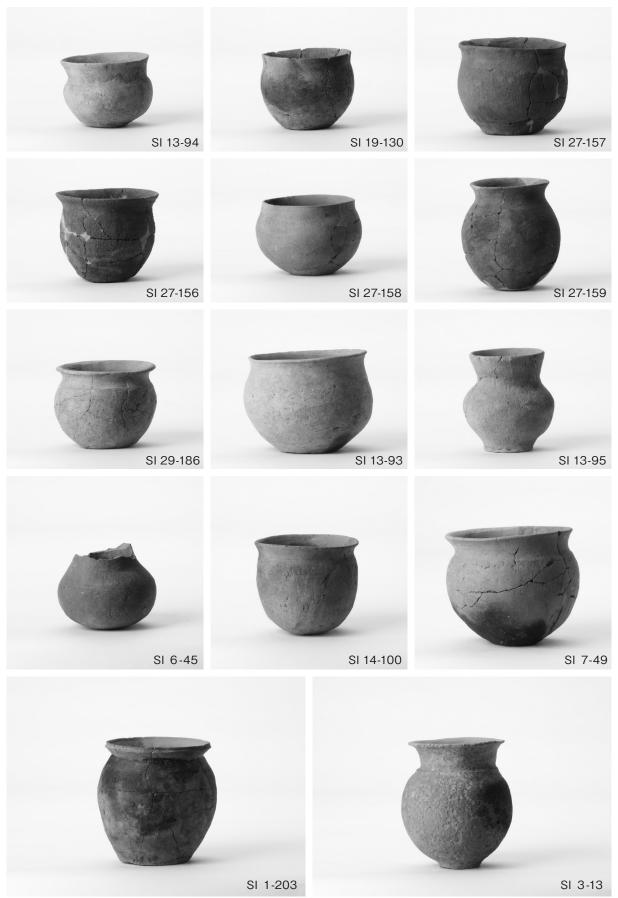
第29号住居跡出土遺物



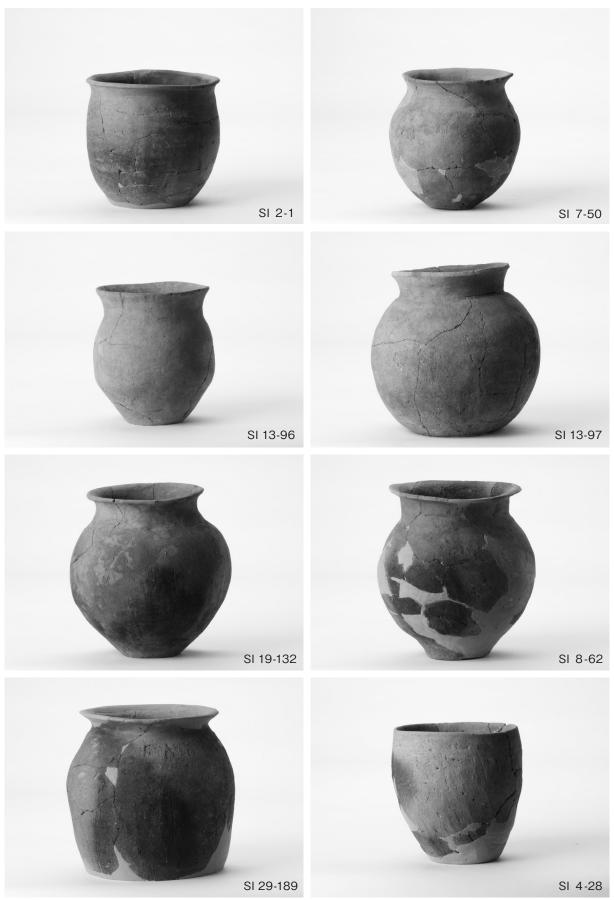
第1・3・4・8・11・19・25・29号住居跡, 第1号鍛冶工房跡出土遺物



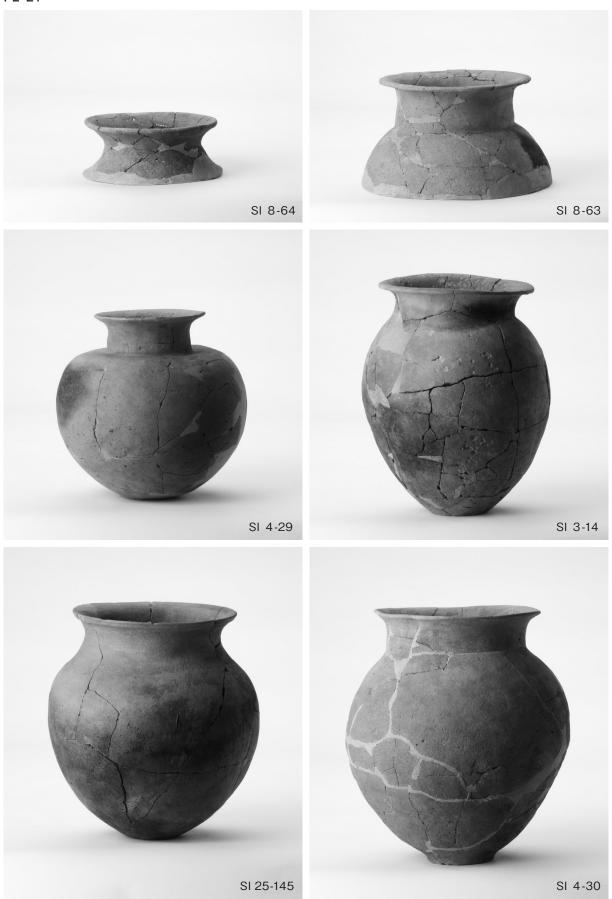
第3・4・6・8・10号住居跡出土遺物



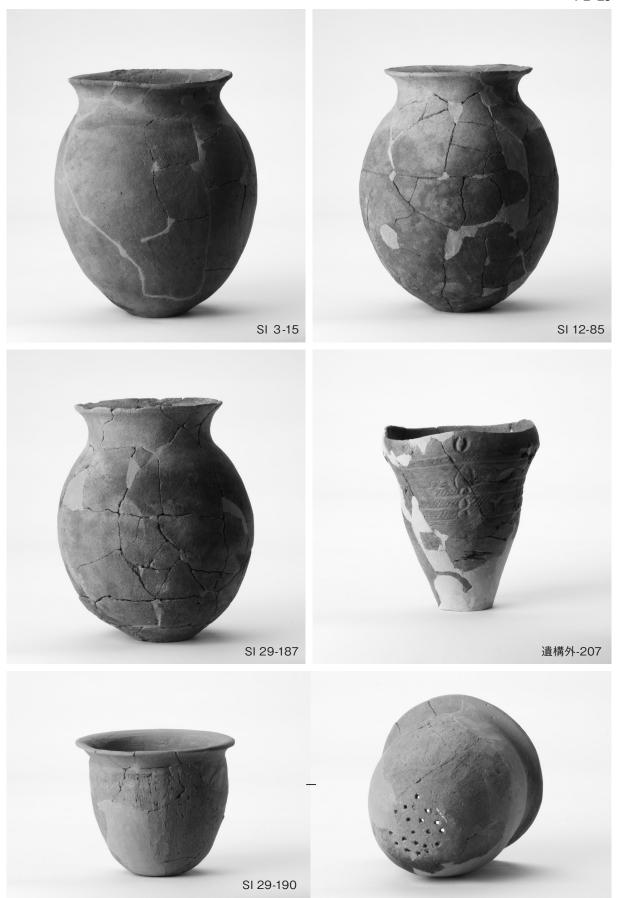
第1・3・6・7・13・14・19・27・29号住居跡出土遺物



第2・4・7・8・13・19・29号住居跡出土遺物



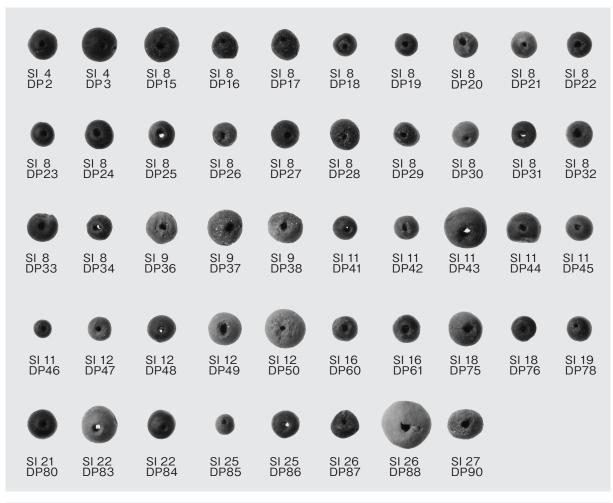
第3・4・8・25号住居跡出土遺物

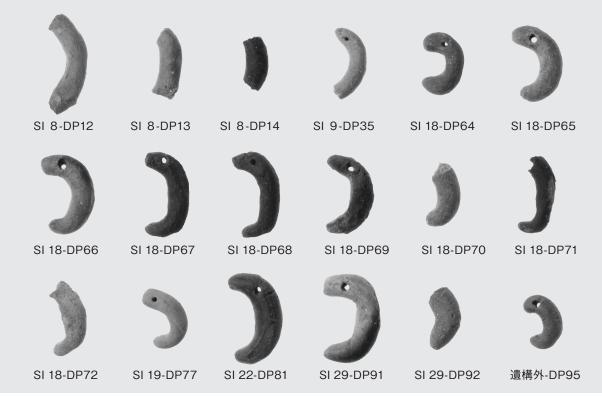


第3・12・29号住居跡,遺構外出土遺物



第3・4・8・14・18・22号住居跡出土遺物





出土土製品

PL 28

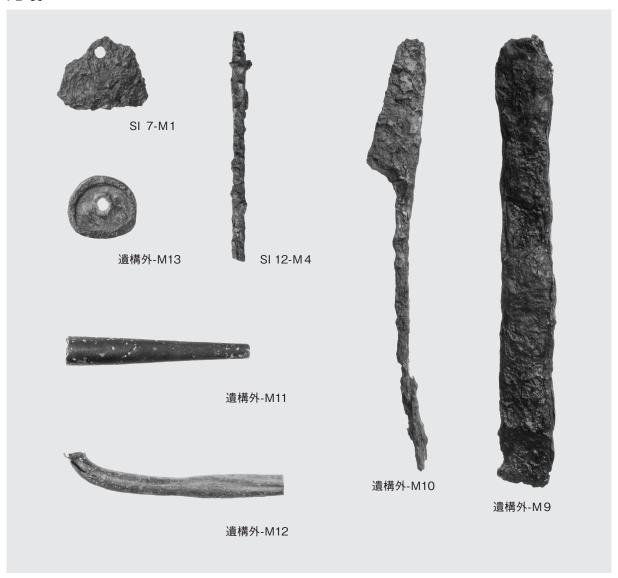


出土土製品・石器



出土石製品·石器, 埋没谷出土遺物

PL 30





出土金属製品, 木製品, 炭化米

抄 録

ふりがな	たいらきただいせき								
, , , -									
書名	平北田遺跡 - 般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書								
巻次	一								
シリーズ名									
シリーズ番号	第336集								
著者名	舟橋 理								
編集機関	財団法人茨城県教育財団								
所 在 地	〒 310 − 0911 茨城県水戸市見和 1 丁目 356 番地の 2 TEL 029 − 225 − 6587								
発行日	2011 (平成 23) 年 3 月 23 日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな所在地		コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査	調査原因
平北田遺跡	五龙马九 村	紫城県つくば市平 学北田143番地ほか		36度	140度	12	20091001	11,259m²	
	字北田143名			3分 23秒	4分 10秒	~ 15 m	20100331		首都圈中央連絡自動車道新
			420	20 1/2	10 10	10 111	20100001		設事業に伴う
									事前調査
所収遺跡名	種別主	な時代	主	 な 遺	 ; 構	主	L な 遣	L t 物	特記事項
平北田遺跡		墳時代	竪穴住	居跡	28 軒	土師器	(坏・高坏		古墳時代後
			鍛冶工房跡1基柵跡1か所			須恵器(坏・高坏) 土製品(土玉・臼玉・勾玉・			期の住居跡か らは土製模造
			土 坑不明遺構		12 基 2 基	模造鏡・紡錘車) 石器(砥石) 石製品(臼玉・棗玉) 金属製品(刀子・鏃)			鏡や土玉、土製 勾玉などが出 土した。
					2 坐				
									また、間仕切
									り溝をもつ大
	平	安時代	竪穴住居跡		1軒	土師器(高台付椀・甕) 須恵器(坏)			形の住居跡が 多く存在し、当 時の集落の様
	 	1 世	 土坑		1基	上師好	 土師質土器(擂鉢・内耳鍋)		相を推測する
		, Щ	溝跡		1条	上剛貝	上旬 (1田平	171十期)	ことができる。
					214				
	7 0 114 111	- #u nn	hp 11	7-11-		·		/ -	
	その他 時	詳期不明	据立柱建物跡 井戸跡 道路跡 柵跡		1 棟 1 基	縄文土器, 土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 磁器,			
					3条		上剛貝工命, 陶命, ໝ命, 上製品, 金属製品		
					2 か所		-, •		
			土坑		127 基				
			溝跡 ピット		10条 1か所				
			埋没谷		1 か所 1 か所				
要 約	当遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡で、古墳時代後期を中心に集落が営まれ								
~ ~~	ていたことを確認した。また、土玉・勾玉・臼玉などが出土し、当遺跡で祭祀が行われてい								
	たことが判明した。								

印刷仕様

編 集 OS Microsoft Windows XP

Professional Version2002.ServicePack3

編集 Adobe Indesign CS4

図版作成 Adobe Illustorator CS4

写真調整 Adobe Photoshop CS4

Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000

図面類 EPSON GT-X750

使用Font OpenType リュウミンPro・L

写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上

印 刷 印刷所へは、Adobe Indesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第336集

平 北 田 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23 (2011) 年 3月17日 印刷 平成23 (2011) 年 3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2 茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP http://www.ibaraki-maibun.org

印刷 いばらき印刷株式会社

〒319-1112 那珂郡東海村村松3115-3

 $TEL \quad 029 - 282 - 0370$